

公益財団法人鹿児島県文化振興財団  
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（48）

東九州自動車道建設（志布志 IC～鹿屋串良 JCT 間）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

かす　　が　　ぱり　　い　　せき  
**春 日 堀 遺 跡 2**

～縄文時代早期編～

(志布志市有明町)

第2分冊

2022年3月

鹿児島県教育委員会  
公益財団法人鹿児島県文化振興財団  
埋蔵文化財調査センター

## 第2分冊 本文目次

第Ⅲ章 調査の成果 .....	1	6 重複道構 .....	180
第1節 道構 .....	1	7 その他の道構 .....	285
5 集石 .....	1		

## 第2分冊

## 挿図目次

第1図 28号集石・出土遺物 .....	2	第32図 388, 401, 408号集石・出土遺物 .....	33
第2図 40号集石 .....	3	第33図 411, 417, 421号集石・417, 421号集石出土遺物 .....	34
第3図 60号集石・出土遺物 .....	4	第34図 428, 430号集石・428号集石出土遺物 .....	35
第4図 69, 70, 74号集石 .....	5	第35図 1号集石 .....	36
第5図 85号集石・出土遺物 .....	6	第36図 2, 3, 5, 6号集石 .....	37
第6図 102号集石① .....	7	第37図 7, 8号集石 .....	38
第7図 102号集石② .....	8	第38図 10, 11, 12, 13号集石 .....	39
第8図 102号集石③ .....	9	第39図 14号集石 .....	40
第9図 102号集石④・出土遺物 .....	10	第40図 16, 17, 18, 19, 20号集石 .....	41
第10図 105, 116, 119号集石 .....	11	第41図 21, 22号集石・出土遺物 .....	42
第11図 144号集石 .....	12	第42図 23号集石①・出土遺物 .....	43
第12図 144号集石出土遺物 .....	13	第43図 23号集石② .....	44
第13図 146号集石 .....	14	第44図 23号集石③ .....	45
第14図 146号集石出土遺物 .....	15	第45図 24, 25, 26号集石・26号集石出土遺物 .....	46
第15図 147号集石①・出土遺物 .....	16	第46図 27号集石 .....	47
第16図 147号集石② .....	17	第47図 29号集石・出土遺物 .....	48
第17図 147号集石③ .....	18	第48図 30, 31号集石・31号集石出土遺物 .....	49
第18図 150, 176号集石 .....	19	第49図 32号集石・出土遺物 .....	50
第19図 168号集石・出土遺物 .....	20	第50図 34号集石・出土遺物 .....	51
第20図 182, 184号集石 .....	21	第51図 35, 36号集石・36号集石出土遺物 .....	52
第21図 194, 203号集石・194号集石出土遺物 .....	22	第52図 37号集石 .....	53
第22図 215号集石 .....	23	第53図 38号集石 .....	54
第23図 215号集石出土遺物 .....	24	第54図 39, 42号集石 .....	55
第24図 231号集石 .....	25	第55図 41号集石 .....	56
第25図 235, 238号集石・238号集石出土遺物 .....	26	第56図 43号集石 .....	57
第26図 248, 259, 264号集石・248, 264号集石出土遺物 .....	27	第57図 47号集石 .....	58
第27図 268, 273, 274, 279号集石 .....	28	第58図 44, 45, 46, 48, 49号集石・48号集石出土遺物 .....	59
273, 279号集石出土遺物 .....	28	第59図 50, 51, 52号集石・51号集石出土遺物 .....	60
第28図 283, 286, 291, 292, 293, 295号集石 .....	29	第60図 55, 56号集石・出土遺物 .....	61
295号集石出土遺物 .....	29	第61図 57, 58号集石・58号集石出土遺物 .....	62
第29図 299, 311, 335, 339, 344号集石 .....	30	第62図 61号集石 .....	63
344号集石出土遺物 .....	30	第63図 64, 65号集石・65号集石出土遺物 .....	64
第30図 345, 352, 356, 357, 361号集石 .....	31	第64図 66, 67, 68, 72, 73, 76号集石 .....	65
352, 356, 361号集石出土遺物 .....	31	第65図 77, 79号集石・79号集石出土遺物 .....	66
第31図 363, 376, 379号集石・363, 379号集石出土遺物 .....	32	第66図 83, 84, 86号集石・84, 86号集石出土遺物 .....	67

第67图	88, 89, 90, 91, 92号集石·91号集石出土遗物	68	第103图	227, 228号集石·出土遗物	104
第68图	93, 94, 95, 96, 97号集石· 94, 96, 97号集石出土遗物	69	第104图	229号集石·出土遗物	105
第69图	98, 100, 101号集石·100, 101号集石出土遗物	70	第105图	230号集石·出土遗物	106
第70图	106号集石	71	第106图	232, 233, 234号集石	107
第71图	104, 107号集石	72	第107图	236号集石	108
第72图	108号集石·出土遗物	73	第108图	236号集石出土遗物①	109
第73图	109, 110, 113, 114, 115号集石· 114号集石出土遗物	74	第109图	236号集石出土遗物②	110
第74图	117, 118, 120, 121, 122号集石· 118, 120号集石出土遗物	75	第110图	237号集石·出土遗物	111
第75图	123, 124, 126, 127, 128, 129号集石· 124号集石出土遗物	76	第111图	239, 240号集石	112
第76图	133, 134号集石	77	第112图	242, 244号集石·244号集石出土遗物	113
第77图	139号集石	78	第113图	246号集石	114
第78图	135号集石·139号集石出土遗物	79	第114图	246号集石出土遗物①	115
第79图	138, 140, 141号集石·141号集石出土遗物	80	第115图	246号集石出土遗物②	116
第80图	142号集石·出土遗物	81	第116图	246号集石出土遗物③	117
第81图	143号集石·出土遗物	82	第117图	247, 249号集石·247号集石出土遗物	118
第82图	145号集石·出土遗物	83	第118图	250, 251, 252, 253, 254号集石· 253号集石出土遗物	119
第83图	149, 151, 152, 156号集石	84	第119图	255, 256, 258, 260, 261号集石· 261号集石出土遗物	120
第84图	157, 158号集石	85	第120图	265, 266, 267, 270, 271号集石· 267, 270号集石出土遗物	121
第85图	159, 160号集石·160号集石出土遗物	86	第121图	272, 275, 276, 277, 278号集石· 272号集石出土遗物	122
第86图	163, 165号集石·出土遗物	87	第122图	281, 282, 284, 285, 287, 288号集石· 281号集石出土遗物	123
第87图	166号集石·出土遗物	88	第123图	289, 290, 294, 296, 297, 298号集石	124
第88图	167, 171, 172, 173号集石	89	第124图	300, 302, 303, 304, 305号集石· 304号集石出土遗物	125
第89图	174, 175, 178号集石	90	第125图	306, 307, 308, 309号集石· 307, 309号集石出土遗物	126
第90图	179, 180, 183, 185, 188号集石· 183号集石出土遗物	91	第126图	310, 313, 314, 315, 316, 317, 320号集石· 310, 313, 315号集石出土遗物	127
第91图	189, 190号集石	92	第127图	319, 321, 322, 324号集石·出土遗物	128
第92图	195, 197号集石·195号集石出土遗物	93	第128图	325, 326, 327, 328, 329号集石· 329号集石出土遗物	129
第93图	198, 200, 202号集石·200号集石出土遗物	94	第129图	331, 332, 334号集石·331号集石出土遗物	130
第94图	206号集石·出土遗物	95	第130图	336, 337, 338号集石·出土遗物	131
第95图	208, 209, 210号集石·208, 210号集石出土遗物	96	第131图	340, 341, 342, 343号集石· 340, 341, 343号集石出土遗物	132
第96图	211, 212, 213号集石·212号集石出土遗物	97	第132图	346, 347, 348, 350, 351, 353号集石· 348号集石出土遗物	133
第97图	214号集石	98			
第98图	216号集石·出土遗物	99			
第99图	217, 219号集石	100			
第100图	220, 222, 225号集石	101			
第101图	223号集石	102			
第102图	224号集石	103			

第133回	355, 358, 360, 364号集石・364号集石出土遺物	134
第134回	365, 366, 367, 368, 369号集石・ 365, 366号集石出土遺物	135
第135回	370, 371, 372, 373号集石・ 370, 373号集石出土遺物	136
第136回	374, 375, 378, 380, 381, 382, 383号集石・ 375号集石出土遺物	137
第137回	384, 385, 386, 387, 389, 390, 391, 392号集石・ 384, 392号集石出土遺物	138
第138回	393, 394, 395, 396, 397, 398号集石・ 393号集石出土遺物	139
第139回	399, 400, 402, 403, 404, 405, 406号集石・ 399, 402号集石出土遺物	140
第140回	407, 409, 410, 412, 413, 416号集石・ 407号集石出土遺物	141
第141回	418, 419, 420, 423, 424, 425号集石・ 419号集石出土遺物	142
第142回	426, 427, 429, 431, 432, 434号集石・ 426, 429号集石出土遺物	143
第143回	177, 187号集石・187号集石出土遺物	144
第144回	196号集石・出土遺物	145
第145回	199, 333号集石・出土遺物	146
第146回	354, 362, 414号集石・414号集石出土遺物	147
第147回	4号集石・	148
第148回	9号集石・出土遺物	149
第149回	15, 33, 53号集石	150
第150回	54, 59, 62号集石	151
第151回	63, 71, 75, 78, 80, 81号集石・ 81号集石出土遺物	152
第152回	82, 87, 99, 103, 111号集石・ 103, 111号集石出土遺物	153
第153回	112, 125号集石	154
第154回	130, 131号集石・出土遺物	155
第155回	132号集石・出土遺物	156
第156回	136号集石・出土遺物	157
第157回	137, 148, 153, 154号集石・148号集石出土遺物	158
第158回	155, 161, 162号集石・155, 161号集石出土遺物	159
第159回	164号集石・出土遺物	160
第160回	169, 170, 181, 186号集石・186号集石出土遺物	161
第161回	191, 192, 193号集石・192号集石出土遺物	162
第162回	201, 204, 205, 207, 218号集石	163
第163回	221, 226号集石・226号集石出土遺物	164
第164回	241, 243, 245, 257, 262, 263号集石・ 241, 245, 262号集石出土遺物	165
第165回	269, 280, 301, 312, 318, 323号集石・ 318, 323号集石出土遺物	166
第166回	330, 349, 359, 377, 415, 422, 433号集石・ 349, 433号集石出土遺物	167
第167回	重視道構1	181
第168回	重視道構1出土遺物	182
第169回	重視道構2	183
第170回	重視道構3・出土遺物	184
第171回	重視道構4・周辺ピット	185
第172回	重視道構4(5号竪穴建物跡)遺物出土状況・ 周辺ピット断面図	186
第173回	重視道構4出土遺物①	187
第174回	重視道構4出土遺物②	188
第175回	重視道構4出土遺物③	189
第176回	重視道構5	190
第177回	重視道構5出土遺物	191
第178回	重視道構6	192
第179回	重視道構7	193
第180回	重視道構7出土遺物①	194
第181回	重視道構7出土遺物②	195
第182回	重視道構8・出土遺物	196
第183回	重視道構9・出土遺物	197
第184回	重視道構10・出土遺物①	198
第185回	重視道構10出土遺物②	199
第186回	重視道構11	200
第187回	重視道構11出土遺物	201
第188回	重視道構12・出土遺物	202
第189回	重視道構13・出土遺物	203
第190回	重視道構14・15・出土遺物	204
第191回	重視道構16・出土遺物	205
第192回	重視道構17	206
第193回	重視道構17出土遺物	207
第194回	重視道構18・出土遺物	208
第195回	重視道構19・出土遺物	209
第196回	重視道構20	210
第197回	重視道構20出土遺物	211
第198回	重視道構21・出土遺物	212
第199回	重視道構22	213

第200図	重複道構23・出土遺物	214
第201図	重複道構24・出土遺物	215
第202図	重複道構25・出土遺物	216
第203図	重複道構26、27・重複道構27出土遺物	217
第204図	重複道構28、29、30・重複道構30出土遺物	218
第205図	重複道構31、32・重複道構31出土遺物	219
第206図	重複道構33	220
第207図	重複道構34	221
第208図	重複道構35	222
第209図	重複道構37・重複道構35、37出土遺物	223
第210図	重複道構36・出土遺物	224
第211図	重複道構38、40	225
第212図	重複道構39	226
第213図	重複道構41	227
第214図	重複道構41出土遺物①	228
第215図	重複道構41出土遺物②	229
第216図	重複道構41出土遺物③・重複道構42	230
第217図	重複道構43	231
第218図	重複道構44・出土遺物	233
第219図	重複道構45・出土遺物	234
第220図	重複道構46、47・重複道構47出土遺物	235
第221図	重複道構48、49・出土遺物	236
第222図	重複道構50、52・出土遺物	237
第223図	重複道構51・出土遺物	238
第224図	重複道構53、54・重複道構54出土遺物	239
第225図	重複道構55	240
第226図	重複道構56・出土遺物	241
第227図	重複道構57、58・重複道構58出土遺物	242
第228図	重複道構59・出土遺物	243
第229図	重複道構60、61・重複道構61出土遺物	244
第230図	重複道構62・出土遺物	245
第231図	重複道構63、64・重複道構64出土遺物	246
第232図	重複道構65・出土遺物	247
第233図	重複道構66、67・重複道構66出土遺物	248
第234図	重複道構68・出土遺物	249
第235図	重複道構69・出土遺物	250
第236図	重複道構70・出土遺物	251
第237図	重複道構71・出土遺物	252
第238図	重複道構72・出土遺物	253
第239図	重複道構73、74・重複道構73出土遺物	254
第240図	重複道構75	255
第241図	重複道構75出土遺物	256
第242図	重複道構76・出土遺物	257
第243図	重複道構78	258
第244図	重複道構78出土遺物	259
第245図	重複道構77・280号土坑遺物出土狀況	260
第246図	重複道構79・重複道構77、79出土遺物	261
第247図	重複道構81	262
第248図	重複道構80・重複道構81出土遺物	263
第249図	重複道構82、83・重複道構83出土遺物	264
第250図	重複道構84、85・重複道構85出土遺物	265
第251図	重複道構86	266
第252図	重複道構87・出土遺物	267
第253図	重複道構88、89・重複道構88出土遺物	268
第254図	重複道構90、91・重複道構91出土遺物	269
第255図	重複道構93・出土遺物	270
第256図	重複道構92	271
第257図	重複道構94・重複道構92出土遺物	272
第258図	重複道構95・出土遺物	273
第259図	重複道構96・出土遺物	274
第260図	重複道構97・出土遺物	275
第261図	重複道構98、99・出土遺物	276
第262図	重複道構100・出土遺物	277
第263図	重複道構101・出土遺物	278
第264図	重複道構102・出土遺物	279
第265図	重複道構103・出土遺物	280
第266図	重複道構104	281
第267図	重複道構104出土遺物①	282
第268図	重複道構104出土遺物②	283
第269図	集積、1号ピット・集積出土遺物	285
第270図	41号、50号ピット	286

## 第Ⅲ章 調査の成果

### 第1節 遺構

#### 5 集石

集石は、434基が検出された。発掘調査時点において、密接する複数のまとまりを1つとして認識したものや、隣接する土坑を集石の一部として作図するなど周辺の状況に応じて記録している。整理作業では、これらの現場判断を尊重して可能な限り分解せずに掲載した。また、単独の土坑として記録されているが、ポイント等で照合した結果集石の下部に位置する土坑類は、集石と一緒になすものと見なし整理作業で合せて掲載している。

一方、発掘調査時点では集石下部土坑として実測した土坑で、上面の状況などを検討し、その結果疊を含まないと判断できたものについては土坑で掲載することとした。このような作業を経て、形態と疊の密集度合いで細分を行った。

1類は、掘り込みがあるものである。疊が密集するもの（1a類）と散在するもの（1b類）とに細分した。掘り込みは、形状が円形や楕円形状を呈し、壁面立ち上がりが急なものや、緩やかで断面形状がすり鉢状を呈するものなど幅広い形状が認められた。

2類は、掘り込みが確認できなかったものである。疊が比較的密集するもの（2a類）と散在するもの（2b類）とに細分した。

集石を構成する疊は、石材や重量、円周度分析を実施し、その結果を基に観察表をまとめた。これを総重量と総数で比較すると、全体的な傾向として50g以下の小疊を多用していることが見える。その一方で、300gを超える疊の使用が顕著な一群も見られた。この両者が帰属時期による差なのか、用途や集石のライフサイクルの差なのかは明確に出来なかった。集石を構成する石材には凝灰岩と砂岩を用い、わずかに花崗岩を有するものがある。凝灰岩と砂岩がほぼ同じ割合で構成されるものや、凝灰岩優位なもの、砂岩優位なものとに分類できた。これは、この地域の河床疊に両者が混在していることを表していると思われる。集石疊の石材採集が近隣の河床に求められていたことを示すものと思われる。

集石内遺物について述べたい。当遺跡では、土器などの遺物と共に多数の疊が出土した。これらは、密集するものの他に散在しつつもある程度のまとまりとして認識可能な状況もあった。このため、発掘調査では、散在しているものについても集石として括り、記録類の作成を行っている。報告書作成においては、これを踏まえつつ作業を進めたが、遺物について掲載するにあたり、改めて検討を行った。すなわち、写真と図面類などから、集石として認定した後、疊に密接して出土した遺物や、集石下部の土坑内から出土したことが確認できた遺物を集

石内遺物とし、集石周辺で出土している集石内遺物とされたものは、包含層遺物として掲載することとした。この結果、各遺構図面内に土器や石器等が記録されているものでも図化していないものもある。

#### （1）集石1a類

##### 28号集石（第1図）

C-26区Ⅷb層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×95cmの略円形プランで、疊は、土坑内を中心に4m×4mの範囲に広がる。構成疊は、土坑底面には見られず、底面より10cm程度上に収まる。総数は175点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。石器は1点が出土し、これを図化した。面中央部に敲打等による明確な凹みが形成されている。

##### 40号集石（第2図）

D-27区Ⅷb層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×90cmの円形プランで、構成疊は、総数222点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

##### 60号集石（第3図）

F-28区Ⅷb層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、330cm×270cmの大型円形プランで、中央が深く、外周部分では緩やかになる。疊は、この比較的浅い部分に多い傾向が見られ、土坑の底面に疊は確認されなかった。構成疊は、総数502点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点で、このうち土器3点を図化した。いざれも小破片である。9号堅穴建物跡と8号堅穴建物跡の上面に重なる。掘り込み等が不明なため、単体で存在していたのか堅穴建物跡埋土中の疊であるのかはっきりしない。

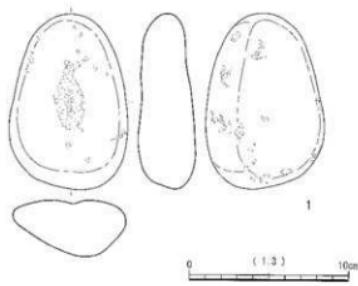
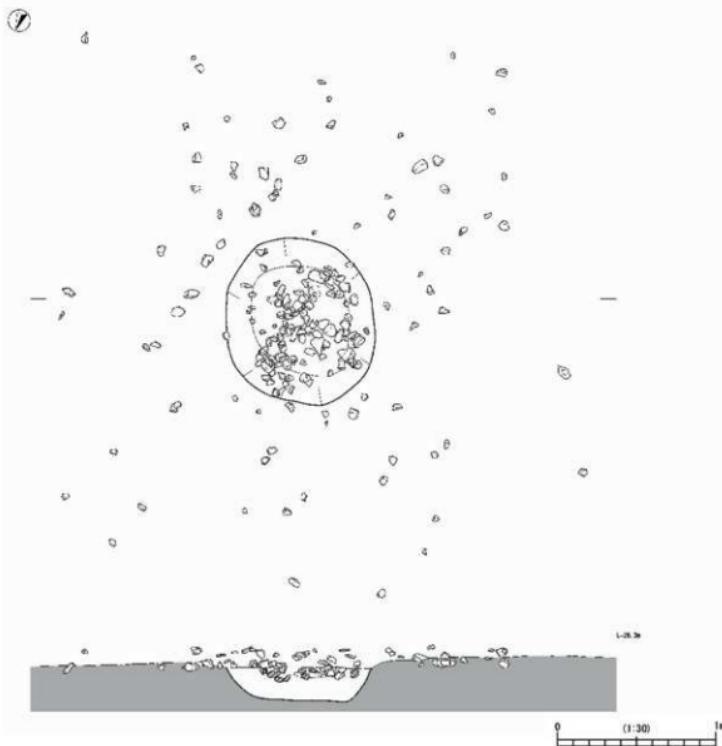
##### 69号集石（第4図）

B-30区Ⅷb層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×85cmの楕円形プランで、疊は、土坑内を中心に14m×1.2mの範囲に広がる。構成疊は、総数172点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

##### 70号集石（第4図）

B-30区Ⅷb層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×105cmの楕円形プランで、疊は、土坑内には収まる。構成疊は、総数221点で、

28号集石



第1図 28号集石・出土遺物

石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

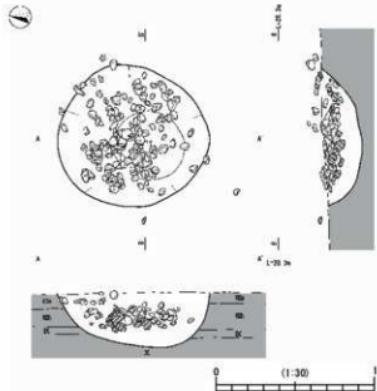
74号集石（第4図）

C-30・31区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×65cmの略円形プランで、大型の礫が集中する部分は、35cm程度の2段掘り状を呈する。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

85号集石（第5図）

F-30・31区Ⅴb層で検出した。礫の検出の後に土坑

#### 40号集石



第2図 40号集石

を確認した。土坑は、130cm×110cmの楕円形プランを呈する。礫は、長軸4m、短軸3mの範囲に広がる。構成礫は、総数433点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点と石器1点で、このうち土器3点、石器1点を図化した。6は口縁部がやや内湾し、瘤状の突起が縦位と横位に添付される。文様は貝殻刺突文を全面に施すことから、11類に該当する。8は石鏃で脚部を欠損する。

#### 102号集石（第6～9図）

E-32・33区Ⅷ層で検出した。礫の検出と同時に複数の土坑も確認された。礫の集中域は2箇所あり、各々独立している可能性もあったが、現場段階で一連のものとして調査し図化していく。土坑は、5基あり、土坑①は略円形プランで135cm×120cm、土坑②は円形プランで65cm×65cm、土坑③は円形プランで110cm×110cm、土坑④は円形プランで75cm×55cm、土坑⑤は大型の円形プランで、内部に楕円形の2段掘りを呈し、検出面で345cm×325cmを測る。礫は、これらの掘り込み以外に、土坑②と③の間に集中域①として150cm程度のまとまりが、土坑⑤の東側に300cm程度のまとまりがある。土坑③は検出面から50cm程度の深さがあり特徴的である。構成礫は、総数1082点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器15点、石器3点で、石器は、磨製石斧1点、磨石片1点、石皿片1点で、このうち土器4点を図化した。いずれも小破片である。

#### 105号集石（第10図）

G-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、検出面での直径が100cmの円形プランで、部分的にわずかであるが2段掘り状を呈する場所がある。礫は、2m×1mの範囲に広がり、土坑外も認められるが、比較的の土坑内に集中する。構成礫は、総数104点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 116号集石（第10図）

F-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×65cmの円形プランで、礫は、この土坑内に密集して検出され、周辺1.5mの範囲にも広がりが見られた。構成礫は、総数69点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は石皿片2点が出土している。

#### 119号集石（第10図）

B-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×45cmの略円形プランで、礫は、土坑底面まで密な状態で、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数58点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは石器2点で、いずれも小破片である。石器は、磨石片1点と石皿片1点が出土している。

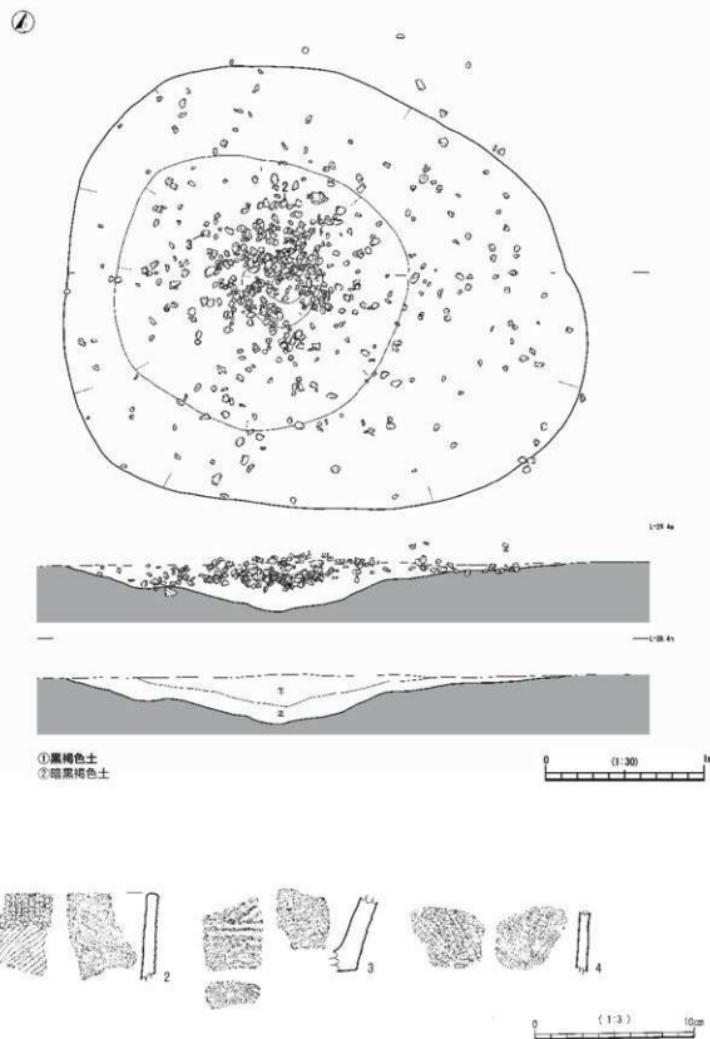
#### 144号集石（第11・12図）

F-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、4mの範囲に広がる。構成礫は、総数263点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器12点で、このうち土器8点を図化した。

#### 146号集石（第13・14図）

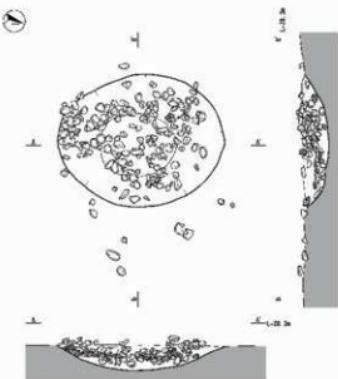
F-34・35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは、礫を取り上げた後に確認することが出来た。礫は、5m×5mの範囲に広がっているが、60cm四方の狭い範囲に礫の集中があり、この中には大型の礫が伴う。ここから東側へ土坑が延びており、150cm×75cmの楕円形プランを呈する。構成礫は、総数217点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点、石器8点で、このうち石器3点を図化した。石器8点の内訳は、剥片2点、磨製石斧片1点、磨石片3点、石皿片2点である。21が磨製石斧の基部片で、22は不定形礫の側面に明瞭な磨りや敲きにより面が形成される。23は石皿類で形状から2B類に分類した。

60号集石

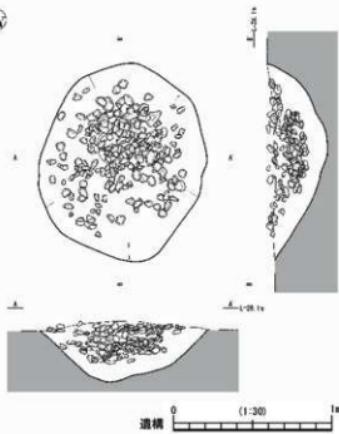


第3図 60号集石・出土遺物

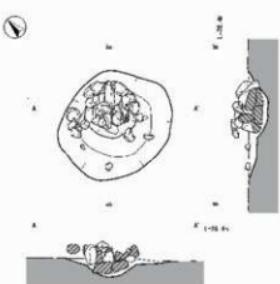
69号集石



70号集石



74号集石



第4図 69, 70, 74号集石

147号集石 (第15~17図)

F - 35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に複数の土坑も確認された。土坑は、いずれも円形で6基確認された。現場では、これらを一連のものとして捉え、調査し図化していった。土坑①は70cm×50cm、土坑②は55cm×50cm、土坑③は70cm×70cm、土坑④は60cm×55cm、土坑⑤は5cm×50cm、土坑⑥は70cm×65cmであった。礫は、これら土坑周辺の5mの範囲に広がる。構成礫は、総数204点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は1点が出土し、これを図化した。24は磨石類3種に属する。

150号集石 (第18図)

E - F - 35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、この土坑内に収まる。構成礫は、総数111点で、石材は圧倒的に砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

176号集石 (第18図)

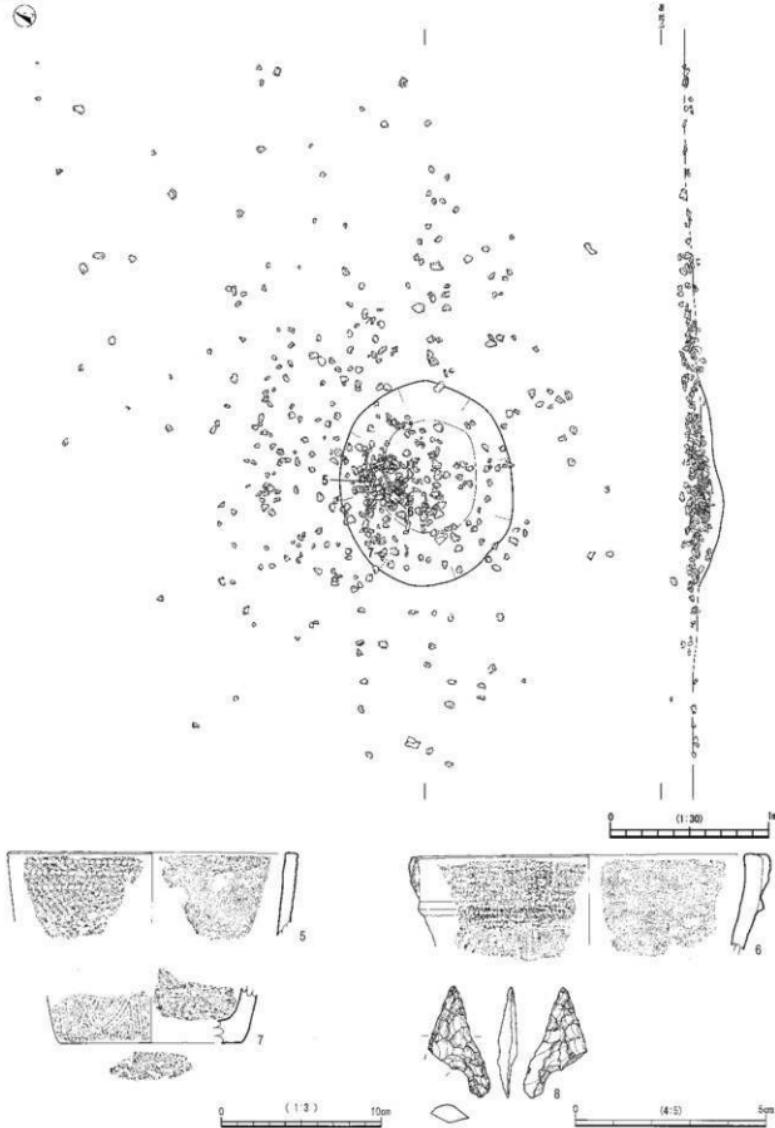
B - 36区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、土坑内にはば取まる。構成礫は、総数239点で、大きさが揃っている。円形に敷き詰められた状態で床面近くまで礫の出土が見られた。石材はわずかに凝灰岩が多い傾向にある。集石内遺物は確認できなかった。

168号集石 (第19図)

E - 35 - 36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cmの円形プランで、礫は、28mの範囲に広がる。構成礫は、総数189点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点と石器3点で、石器は使用痕剥片1点、磨製石斧片1点、石皿片1点である。このうち土器1点、石器1点を図化した。26は使用痕のある剥片である。

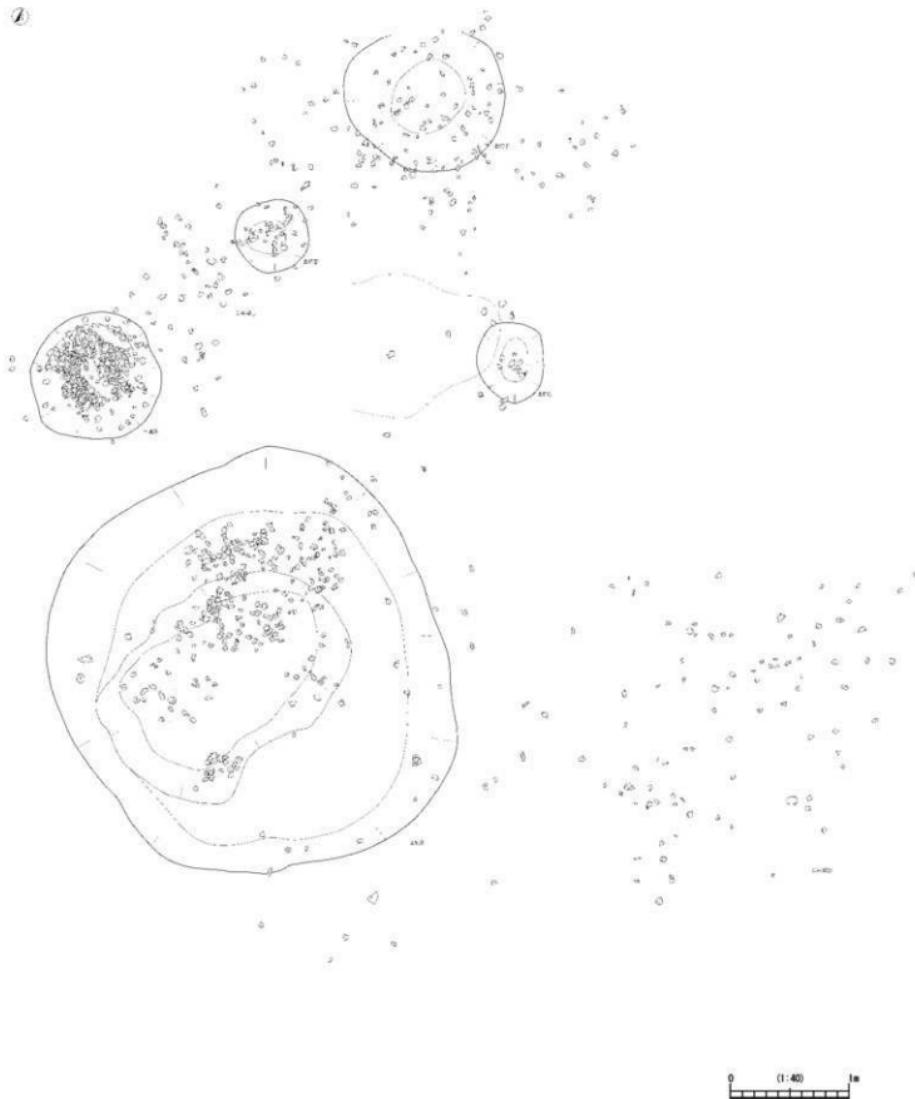
182号集石 (第20図)

C - 36 - 37区Ⅷa層上位で検出されており、他の集石



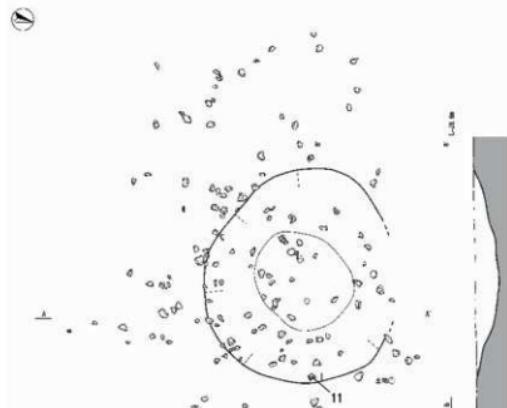
第5図 85号集石・出土遺物

102号集石

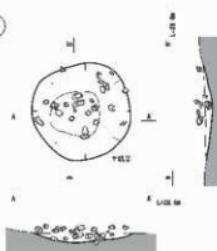


第6図 102号集石①

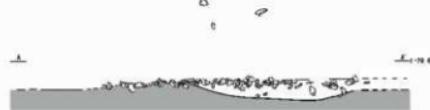
102号集石 土坑①



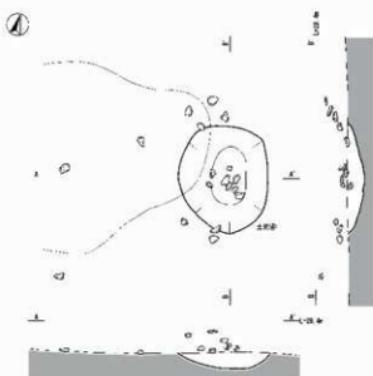
102号集石 土坑②



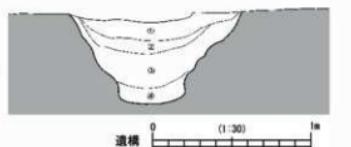
102号集石 土坑③



102号集石 土坑④

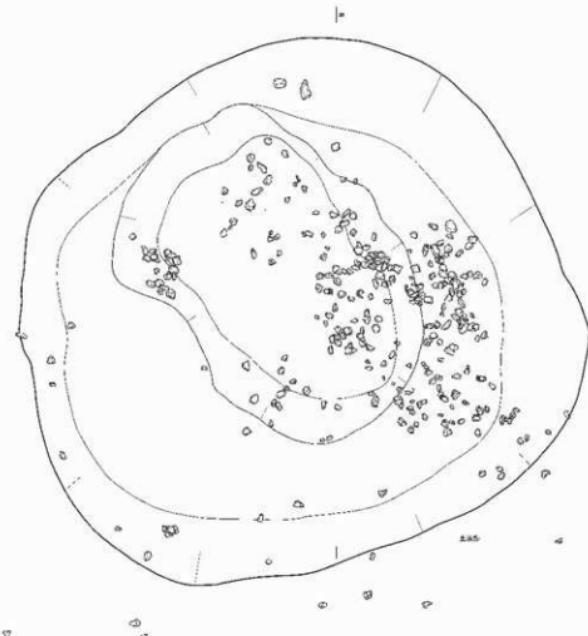


土坑3埋土  
①黒褐色土  
②黒褐色土  
炭化物含む  
③黒色土  
④黒褐色土

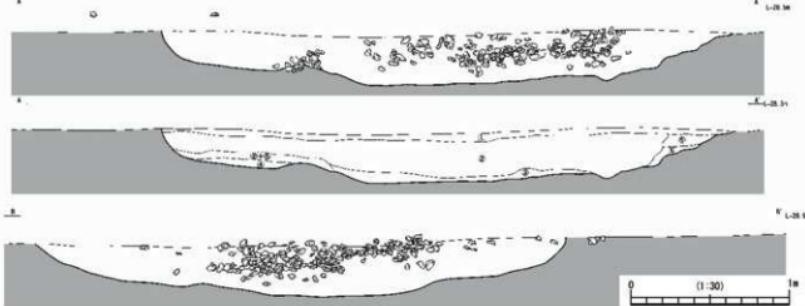


第7図 102号集石②

102号集石 土坑③

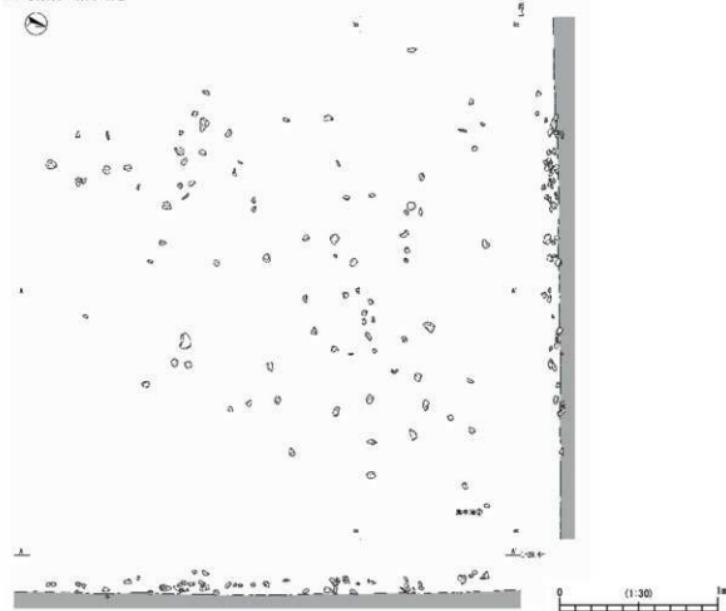


- ①黒褐色土
- ②黒褐色土 炭化物多く含む
- ③黒褐色土と黄褐色土ブロック
- ④黒褐色土
- ⑤黒褐色土 橙色バニス含む
- ⑥黒褐色土

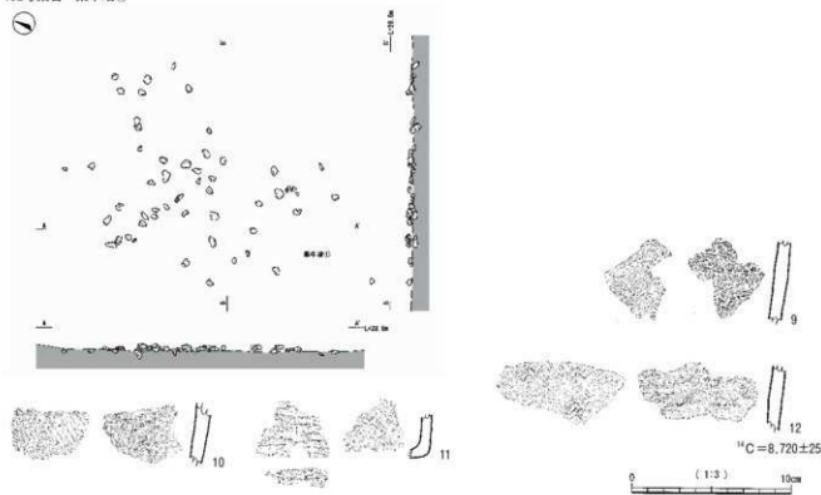


第8図 102号集石③

102号集石 集中域②

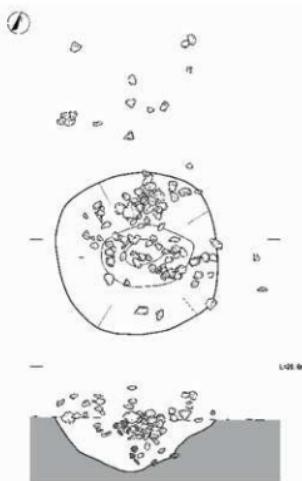


102号集石 集中域①

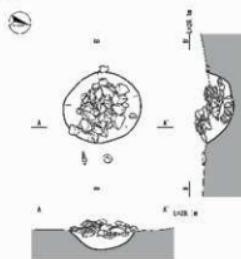


第9図 102号集石④・出土遺物

105号集石

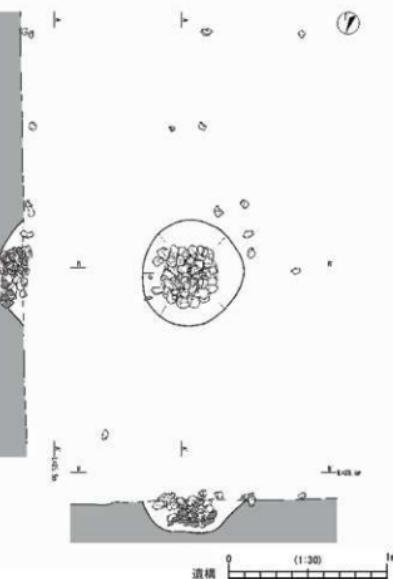


116号集石



第10図 105, 116, 119号集石

116号集石



は確認できなかった。

#### 184号集石（第20図）

C-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×105cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数351点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 194号集石（第21図）

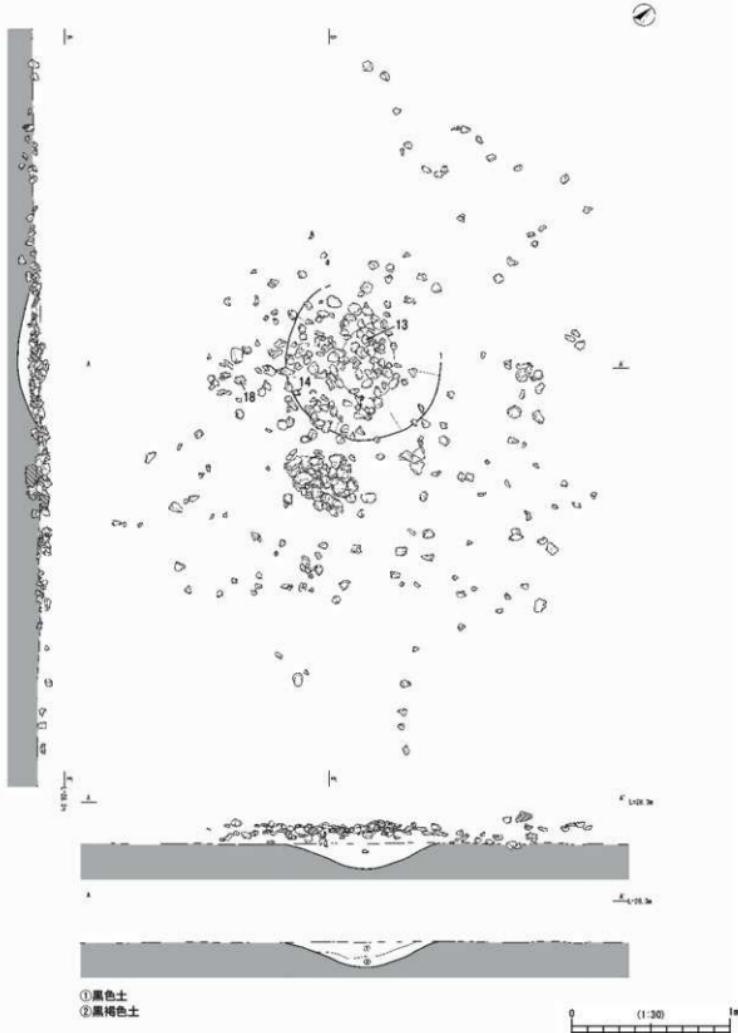
E-36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×95cmの円形プランで、礫は、この土坑周辺の4m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数148点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点、石器2点で、このうち土器1点を陶化した。いずれも小破片である。石器は磨石片2点が出土している。

#### 203号集石（第21図）

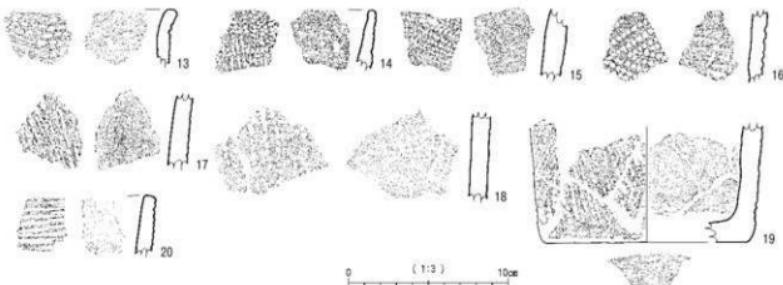
F-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm程度の円形プランで、南側は

より確実に時期が新しい。Ⅷa層上面を数cm掘り下げた時点での直径約1mの円形プランを検出した。検出時は礫は見えておらず、土坑か集石か判別できない状況であったが、確認のため埋土をわずかに掘り下げたところ多数の礫が出土したため、集石と認定した。礫が多かった為、埋土の半掘は不可能と判断し、堀り込み内の礫検出を優先した。埋土はⅧa上位層であった。構成礫は直径約10cm前後の砂岩円礫である。基本的に全て同類の礫であり、選別して使用している可能性がある。堀り込みは深く、底面に近づくにつれ多量の炭化物がみられた。構成礫は、総数300点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物

144号集石



第11図 144号集石



第12図 144号集石出土遺物

十分に検出できなかった。礫は、1.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数42点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 215号集石（第22・23図）

F・G・36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、4基確認され、これらは一連のものとして調査し図化していった。土坑①は80cm×80cmの円形プランで、土坑②は140cm×95cmの楕円形プランである。土坑③は検出面から40cm程度の深さがある。土坑④は100cmの円形プランで、土坑⑤は85cm×75cmの略円形プランである。礫は、これら土坑周辺の5m四方の範囲に広がる。構成礫は、総数344点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点でこのうち2点を図化した。206号集石と接合関係にある。石器は1点が出土し、1点を図化した。欠損のため全体の形状が不明のため、5類として掲載している。

#### 231号集石（第24図）

F・36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、隣接して2基が確認され、当初は別の集石として認識していたが、近接している点や周辺の礫の検出状況などから一連の集石として記録を作成した。南側の土坑①は130cm×120cm、北側の土坑③は、105cm×100cmで、いずれも略円形である。土坑③は楕円形の土坑②を切っている。土坑①・②の断面形状がすり鉢状を呈する。礫は、4m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数329点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、いずれも小破片で図化できなかった。

#### 235号集石（第25図）

F・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、礫は、3m×2mの範囲に散在するが、土坑内に比較的多くが密集している。構成礫は、総数83点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

#### 238号集石（第25図）

F・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×110cmの円形プランで、礫は、4.0m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数505点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器9点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は石皿片1点が出土している。

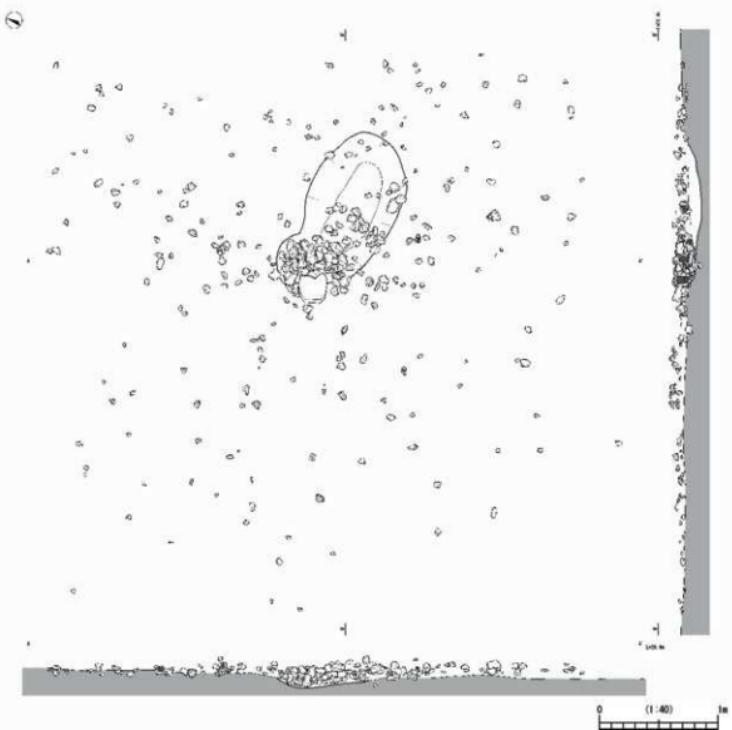
#### 248号集石（第26図）

E・37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、この土坑検出時点では東西方向に比較的集中し、中央部分が疎な状態であった。周辺まで捉えると、礫は約3m四方に広がる。構成礫は、総数180点で、石材は凝灰岩と砂岩が同一量である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は石皿片1点が出土し、このうち1点を図化した。32は石皿類の欠損で2B類に属する。

#### 259号集石（第26図）

A・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×50cmの円形プランで、礫は、

146号集石



第13図 146号集石

土坑とその周辺に比較的大型礫が集まる。構成礫は、総数12点で、すべてが砂岩であった。集石内遺物は確認できなかった。

#### 264号集石（第26図）

B-38区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×70cmの楕円形プランで、礫は、土坑中央部分により集中する。構成礫は、総数98点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は石器が1点が出土し、これを図化した。石皿類2B類に属する。

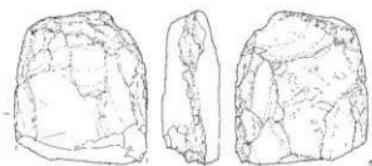
#### 268号集石（第27図）

D-38区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

確認された。土坑は、145cm×110cmの楕円形プランで、2段掘りとなる。礫は、土坑内にはばくまると。構成礫は、総数248点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

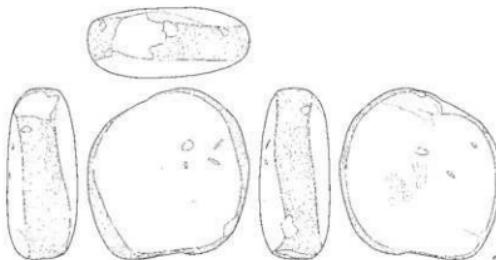
#### 273号集石（第27図）

E-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×75cmの略円形プランで、礫は、土坑内に密集して収まる。構成礫は、総数109点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは石器1点で、これを図化した。不定型な礫を素材とした磨石で磨石類E類として掲載した。384号土坑を切る。



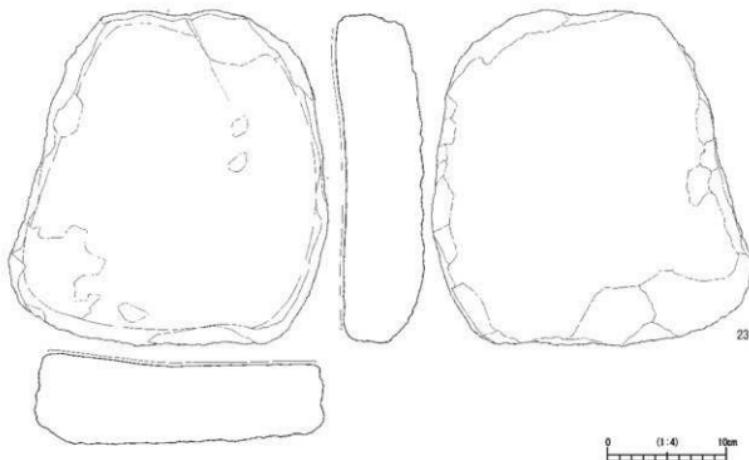
21

0 (1:2) 5cm



22

0 (1:3) 10cm

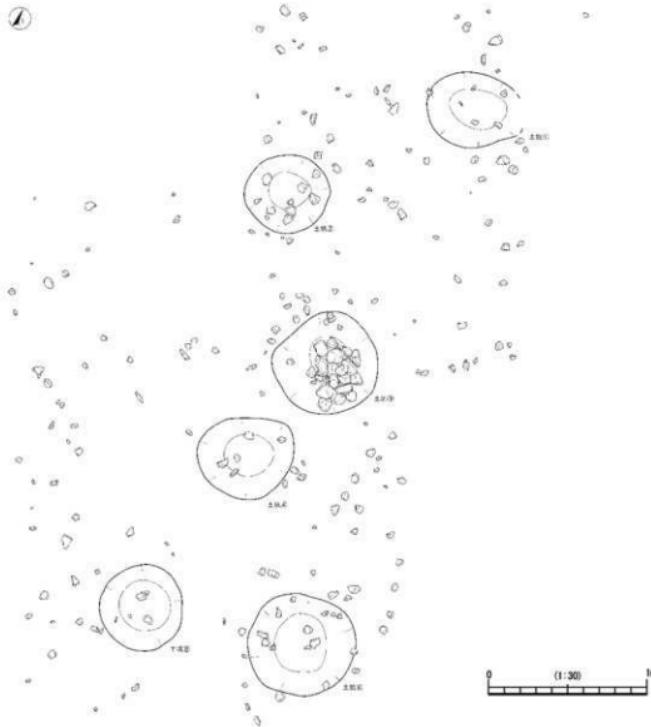


23

0 (1:4) 10cm

第14図 146号集石出土遺物

147号集石

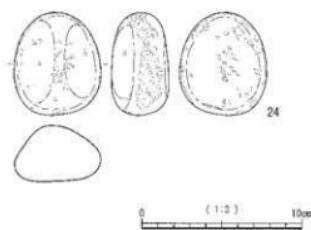


274号集石（第27図）

E-38区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×110cmの略円形プランで、底面付近には1cm大の炭化物が多く認められた。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数251点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが小破片のため図化は困難であった。

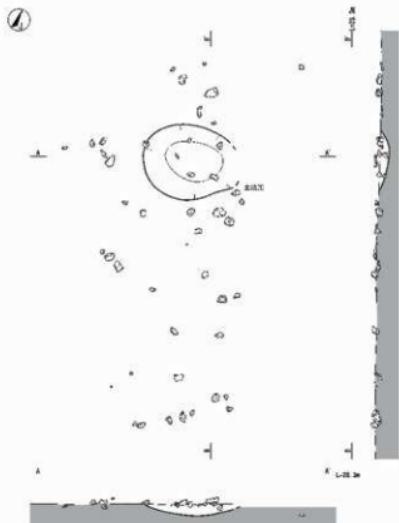
279号集石（第27図）

E・F-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×125cmの円形プランで、礫は、土坑内に比較的密集してまとまる。構成礫は、総数201点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。

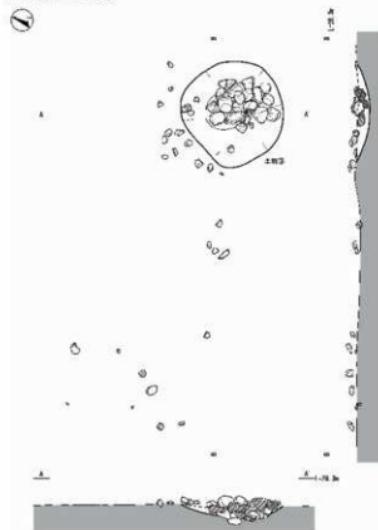


第15図 147号集石①・出土遺物

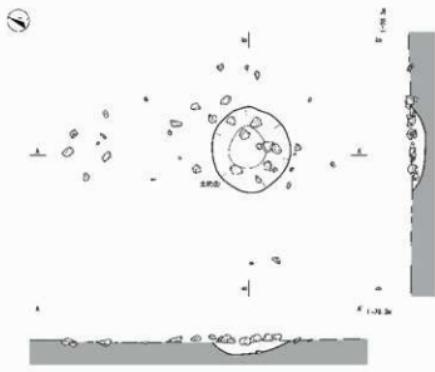
147号集石 土坑①



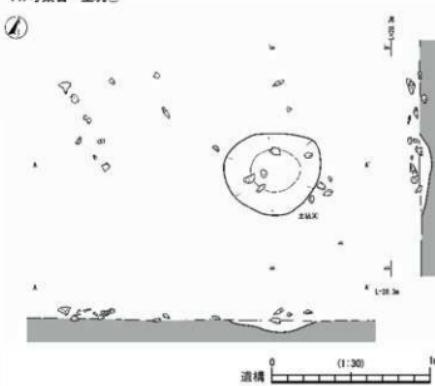
147号集石 土坑③



147号集石 土坑②



147号集石 土坑④

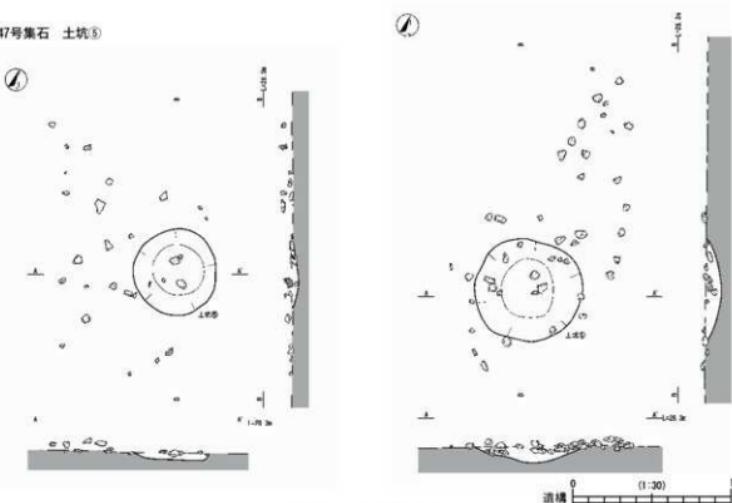


283号集石 (第28図)

F-38区匱b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×95cmの略円形プランで、検出面から底面までが45cmと深い。礫は、土坑内に密集してまとまっている。構成礫は、総数230点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。底面から上位20cm程度の範囲に炭化物の集中が見られた。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため同化は困難であった。299号集石・300号集石と切り合い関係にあり、これらの中でも最も深い。

第16図 147号集石②

147号集石 土坑③



第17図 147号集石③

## 286号集石（第28図）

F - 38区Ⅷ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの略円形プランで、礫は、土坑内に比較的密集してまとまっており、底面付近には見られない。構成礫は、総数110点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。195号土坑を切る。

## 291号集石（第28図）

G - 39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へと延びているため全体形状は不明であるが、長軸105cmの楕円形プランが想定される。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数213点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

## 292号集石（第28図）

F - G - 39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×110cmの楕円形プランで、断面が浅いすり鉢状を呈し、礫は、この土坑内に密集して出土し、総数150点で石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 293号集石（第28図）

F - G - 39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑とその周辺0.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数154点で、土坑中心部に集中する。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 295号集石（第28図）

F - 39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×110cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に收まる。構成礫は、総数92点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点でこれを図化した。

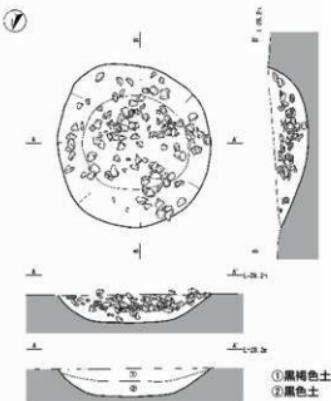
## 299号集石（第29図）

F - 38 - 39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に收まる。構成礫は、総数123点で、石材は砂岩が優位である。土坑底面からの出土は見られなかった。集石内遺物は確認できなかった。

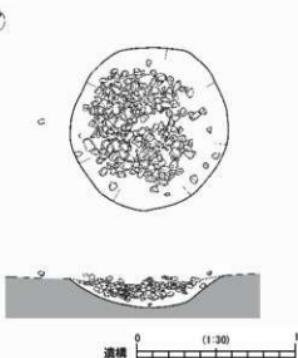
## 311号集石（第29図）

E - 39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

150号集石



176号集石



第18図 150, 176号集石

確認された。土坑は、 $100\text{cm} \times 75\text{cm}$ の楕円形プランで、礫は、土坑内にはば収まる。礫は、土坑内にはば収まる。構成礫は、総数86点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、磨石片1点が出土している。下部で219号土坑が検出された。

#### 335号集石（第29図）

D-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $100\text{cm} \times 80\text{cm}$ の楕円形プランで、礫は、この土坑内にはば収まる。構成礫は、総数176点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 339号集石（第29図）

C-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $85\text{cm} \times 80\text{cm}$ の略円形プランで、礫は、土坑内にはば収まる。構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。集石底面より20cm下位で113号連穴土坑が検出されている。

#### 344号集石（第29図）

B-39区Ⅷa層で検出した。検出時点では、当初土坑プランが先に確認され、その後に礫を確認し集石とした。土坑は、 $115\text{cm} \times 115\text{cm}$ の円形プランで、検出面から底面まで40cmと深い。礫は、土坑内にはば収まる。構成礫は、

総数354点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器3点で、このうち土器1点を図化した。

#### 345号集石（第30図）

B-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $105\text{cm} \times 95\text{cm}$ の略円形プランで、礫は、この土坑内にはば収まる。構成礫は、土坑内に密接して総数232点確認できた。石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

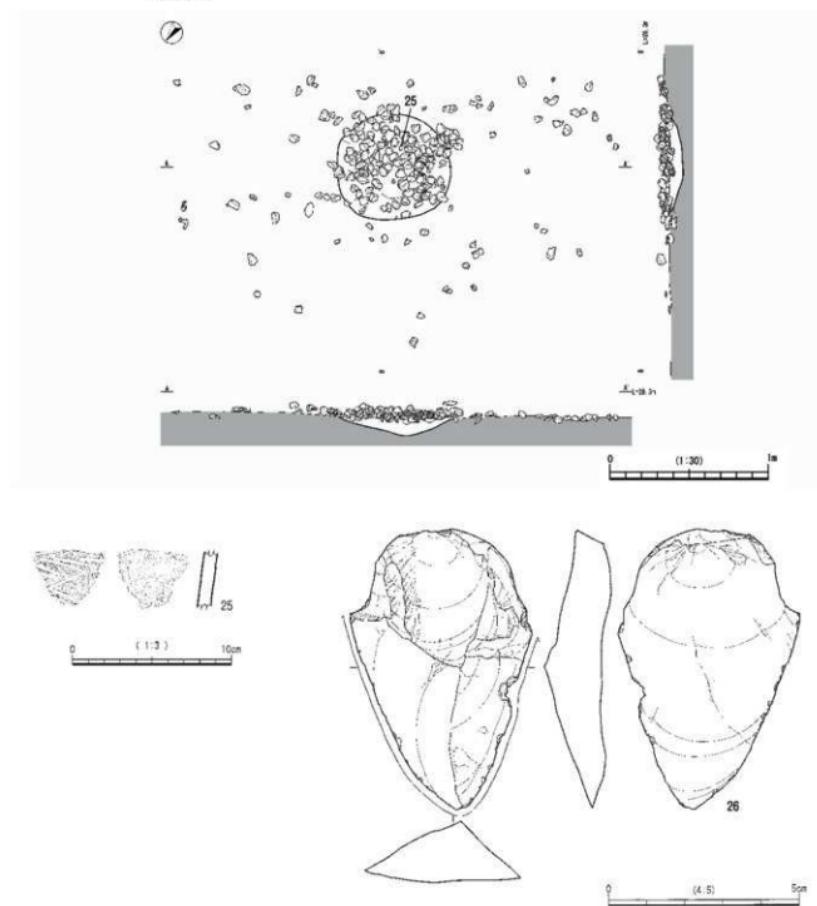
#### 352号集石（第30図）

B-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $75\text{cm} \times 75\text{cm}$ の円形プランで、礫は、土坑内にはば収まる。構成礫は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。床面完掘後15cm下で287号土坑を検出した。

#### 356号集石（第30図）

B-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $95\text{cm} \times 90\text{cm}$ の略円形プランで、検出面から底面までが35cmとやや深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数150点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土

168号集石



第19図 168号集石・出土遺物

器1点を図化した。いずれも小破片である。

岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 357号集石（第30図）

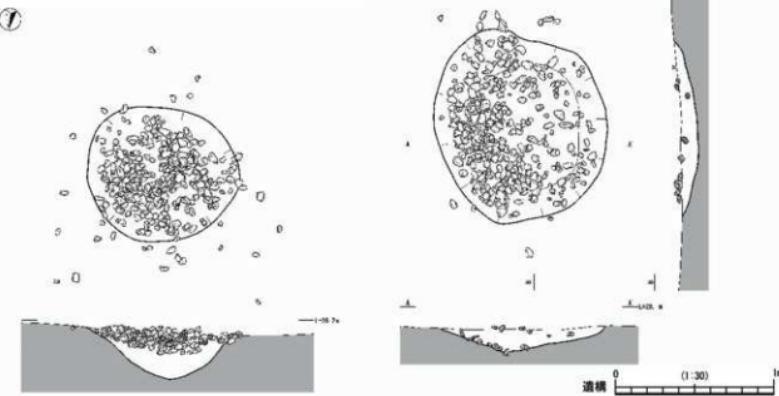
B-40区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、45cm×40cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数10点で、石材は砂

#### 361号集石（第30図）

C-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×85cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まり、底面には長辺30cmの大型礫が検出

### 184号集石

182号集石



第20図 182, 184号集石

され、構成疊は、総数131点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは石器2点で、いずれも磨石で、このうちの1点を図化した。41は磨・敲石類3類に属する。408号集石との位置関係などから、408号集石と一緒に連の可能性もあり、検出不足の可能性も否定できない。305号土坑を切る。

### 363号集石（第31図）

C-40区Ⅷb層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×95cmの円形プランで、疊は、土坑内にはばくまる。構成疊は、総数181点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器2点で、石器の内訳は磨石1点と石皿片1点で、このうち1点を図化した。42は磨・敲石類3類に属する。面中央部に敲打等による凹みが形成されている。

### 376号集石（第31図）

D-40区Ⅷa層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、155cm×85cmの楕円形プランで、疊は、土坑内にはばくまる。構成疊は、総数195点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。下部で328号土坑が検出された。

### 379号集石（第31図）

D-40区Ⅷb層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×105cmの楕円形プランで、検出面から底面まで35cmとやや深い。疊は、土坑内にはばくまる。構成疊は、総数91点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。426号集石と接合関係にある。

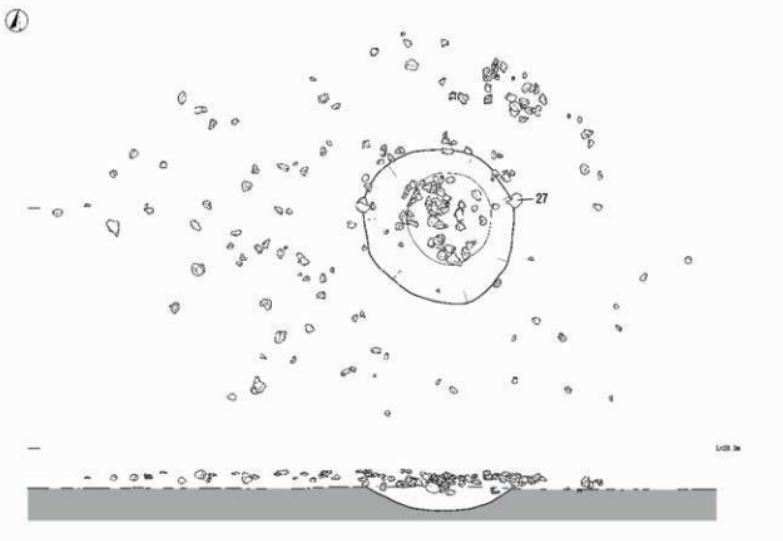
### 388号集石（第32図）

E-40区Ⅷa層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×65cmの略円形プランで、疊は、土坑検出面に比較的集中して底面からの出土は少なく、土坑内にはばくまる。構成疊は、総数74点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は、磨・敲石片1点が出土している。

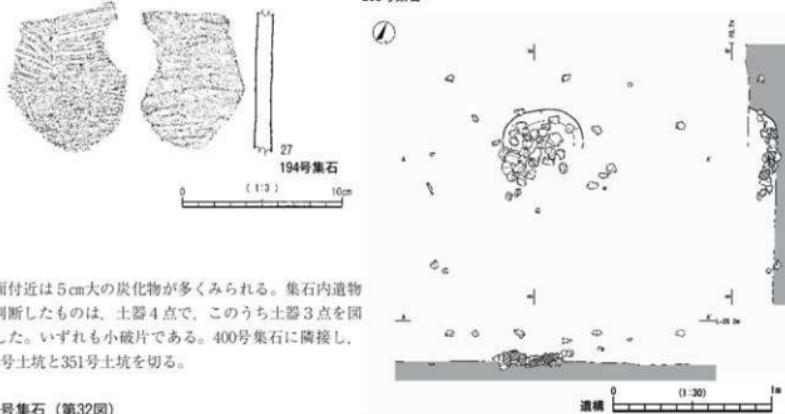
### 401号集石（第32図）

F-40区Ⅷb層で検出した。疊の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×115cmの円形プランで、検出面から底面までが50cmと深い。疊は、土坑内にはばくまる。構成疊は、総数241点で、石材は砂岩が優位である。

194号集石



203号集石



床面付近は5cm大の炭化物が多くみられる。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器3点を図化した。いずれも小破片である。400号集石に隣接し、348号土坑と351号土坑を切る。

408号集石（第32図）

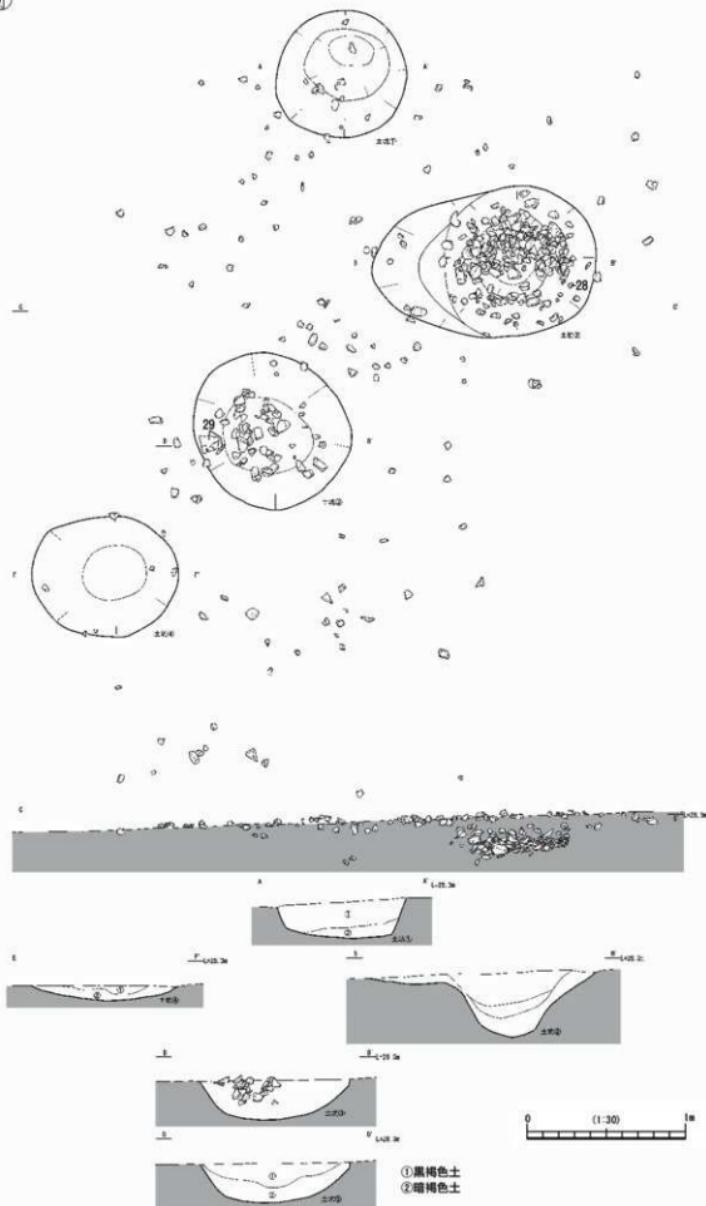
F-40区Ⅷb層で検出した。縄の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×125cmの略円形プランで、縄は、土坑内にほぼ収まる。構成縄は、総数114点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器2点を図化した。下に409号集石が30cmのレベル差で検出される。

第21図 194, 203号集石・194号集石出土遺物

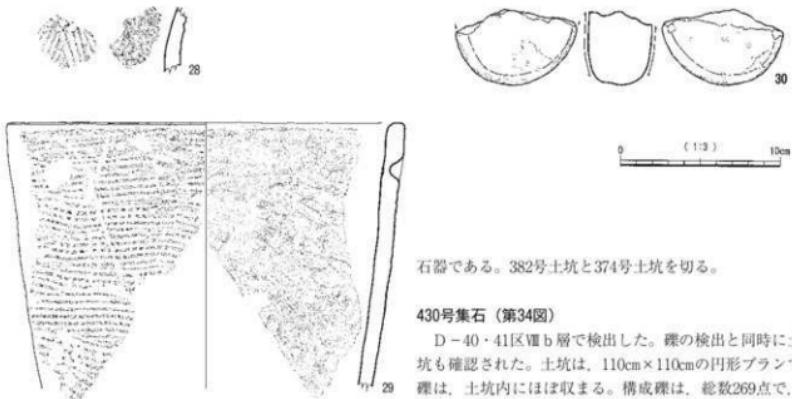
411号集石（第33図）

G-40区Ⅷb層で検出した。縄の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×65cmの楕円形プランで、縄

①



第22図 215号集石



第23図 215号集石出土遺物

は、土坑内に収まる。構成礫は、総数74点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 417号集石（第33図）

F - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。当初2基の集石の切り合いとしていたが、一連のものとして図化した。土坑①は、95cm×80cmの梢円形プランで、土坑②は土坑①に切られ、105cm×85cmの梢円形プランである。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数107点で、25cm大の凝灰岩が中心部に2点ある。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

#### 421号集石（第33図）

E - 41区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×95cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数95点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

#### 428号集石（第34図）

D - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、150cm×125cmの略円形プランで、検出面から底面まで45cmと深い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数513点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器13点、石器1点で、このうち土器3点、石器1点を図化した。55はトロトロ

石器である。382号土坑と374号土坑を切る。

#### 430号集石（第34図）

D - 40・41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×110cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数269点で、上部の礫と底面の礫との間に明確なレベルさが認められた。全体的には礫の形状等に差はなく石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、土器は小破片のため図化は困難であった。石器は石皿片1点が出土している。

#### (2) 集石 1b類

##### 1号集石（第35図）

E - 6区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2.2m×1.7mの梢円形プランで、底面からの立ち上がりは比較的強い。礫は、この土坑内に集中するほか、土坑外1.5mの範囲にまで広がる。構成礫は、総数56点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

##### 2号集石（第36図）

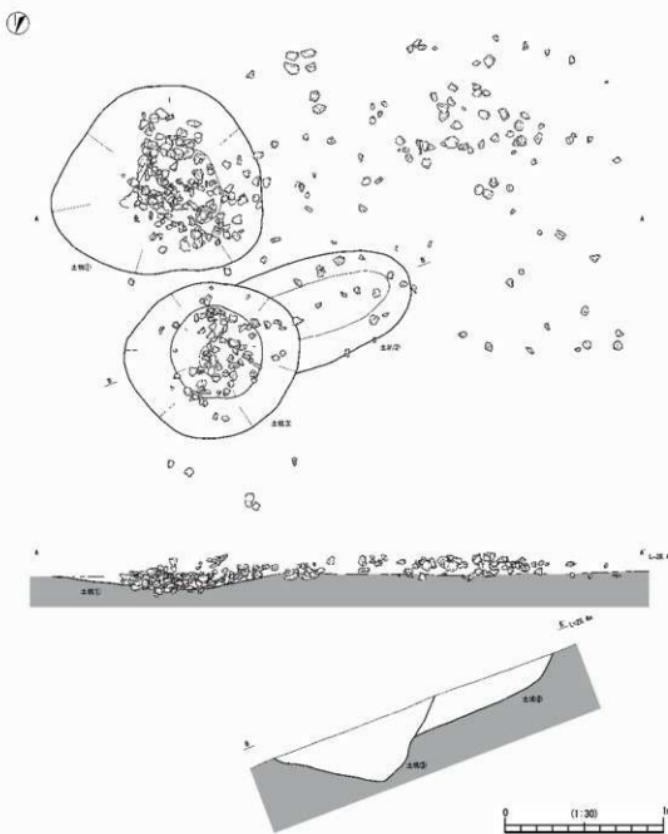
B - 12区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×105cmの梢円形プランで、断面形状がすり鉢状を呈する。礫は、土坑周辺の2m四方に散在する。構成礫は、総数25点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。

##### 3号集石（第36図）

E - 12区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×120cmの梢円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

##### 5号集石（第36図）

A・B - 13・14区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時



第24図 231号集石

に土坑も確認された。土坑は、先行トレンチにより一部検出できなかつたが残存長120cmで検出面から底面までが比較的浅い。礫は、土坑周辺に散在し、総数8点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 6号集石（第36図）

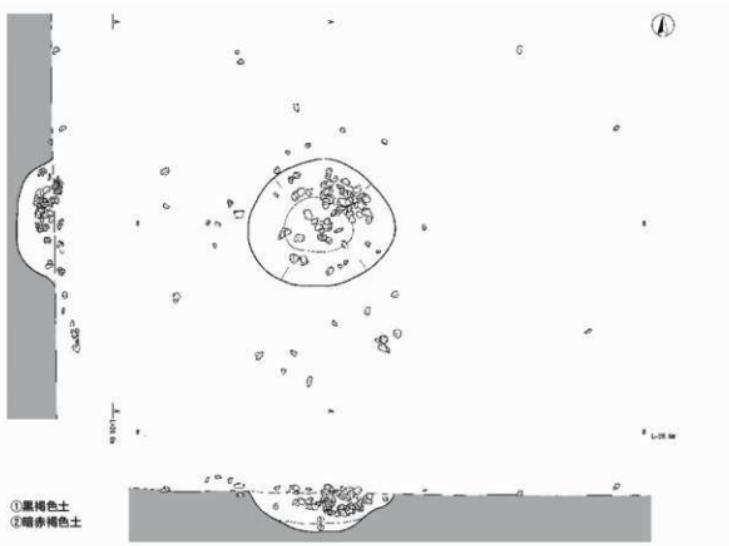
F-15区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

確認された。土坑は、形状の半分のみ確認することが出来た、円形プランを想定した。礫は、この土坑内及び周辺に散在している。構成礫は、総数18点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

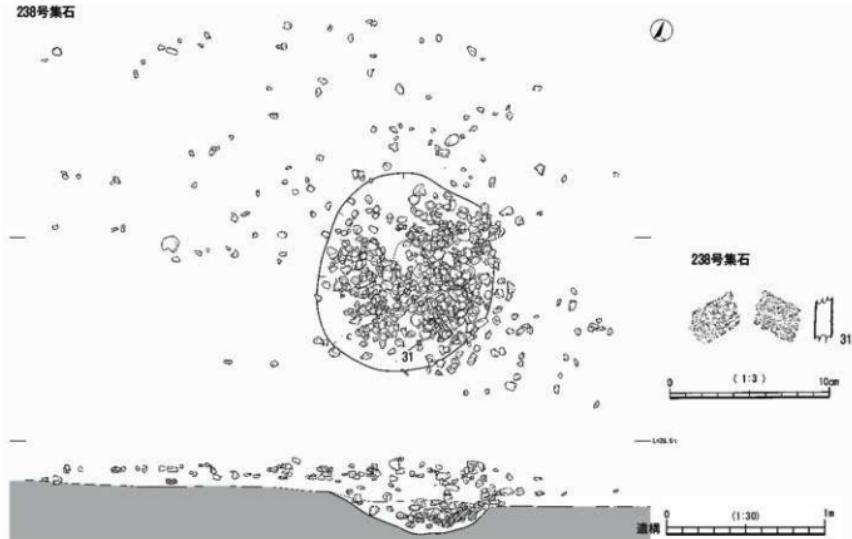
#### 7号集石（第37図）

E-15区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×60cmの略円形プランで、底

235号集石



238号集石

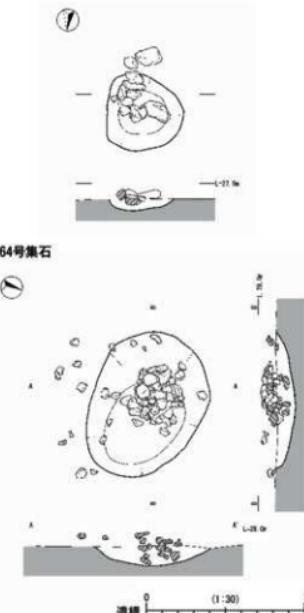


第25図 235, 238号集石・238号集石出土遺物

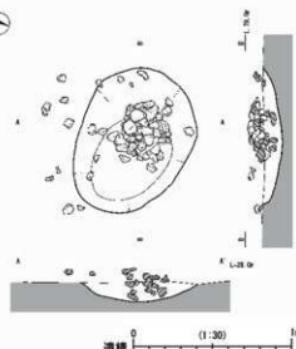
248号集石



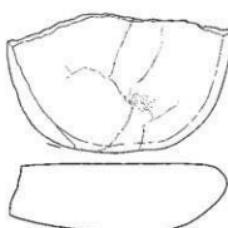
259号集石



264号集石



248号集石



264号集石

0 (1:3) 10cm

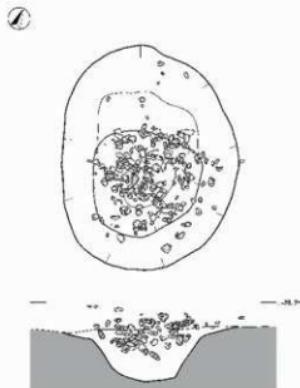
第26図 248, 259, 264号集石・248, 264号集石出土遺物

面がやや不安定である。疊は、土坑周辺3mの範囲に散在する。構成疊は、総数15点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

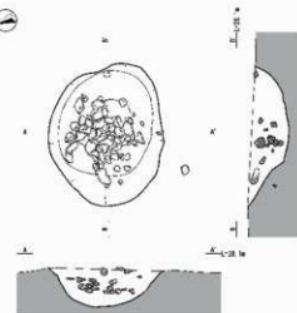
#### 8号集石（第37図）

A・B-15区Ⅴb層で検出した。疊の検出と同時に隣接して土坑が確認され、一連の集石として調査を実施した。土坑は、75cm×65cmの楕円形プランで、一部は先行トレンチにより検出できなかった。疊は、2m×2mの

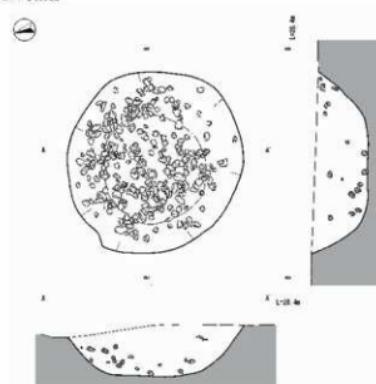
268号集石



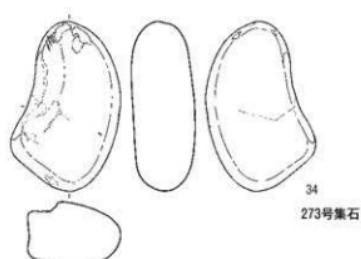
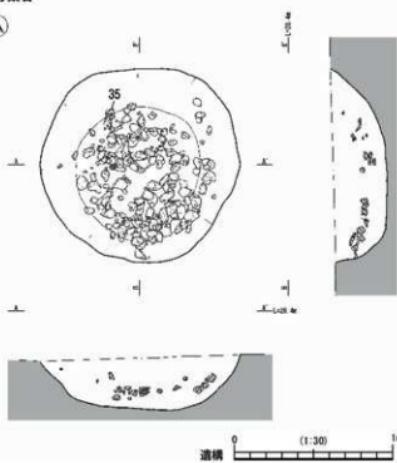
273号集石



274号集石

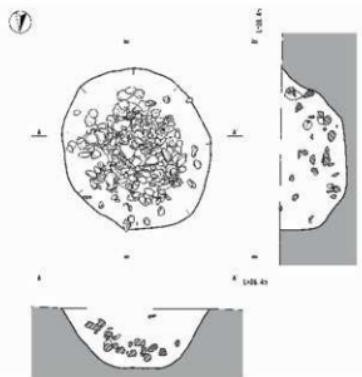


279号集石

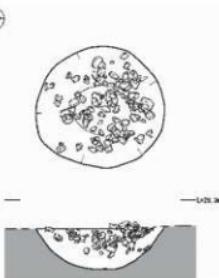


第27図 268, 273, 274, 279号集石・273, 279号集石出土遺物

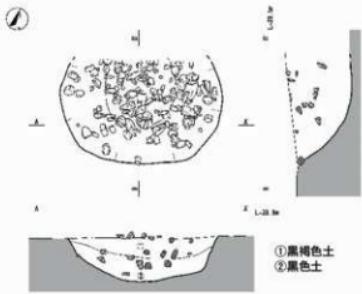
283号集石



286号集石

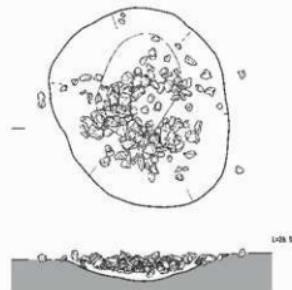


291号集石

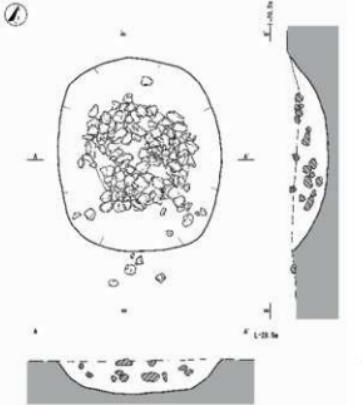


①黒褐色土  
②黒色土

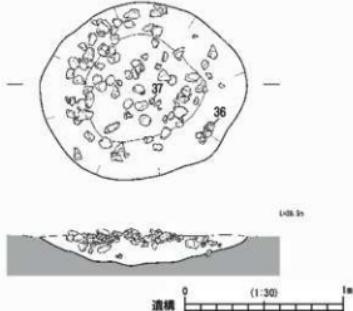
292号集石



293号集石



295号集石



遺構 0 (1:30) 1m



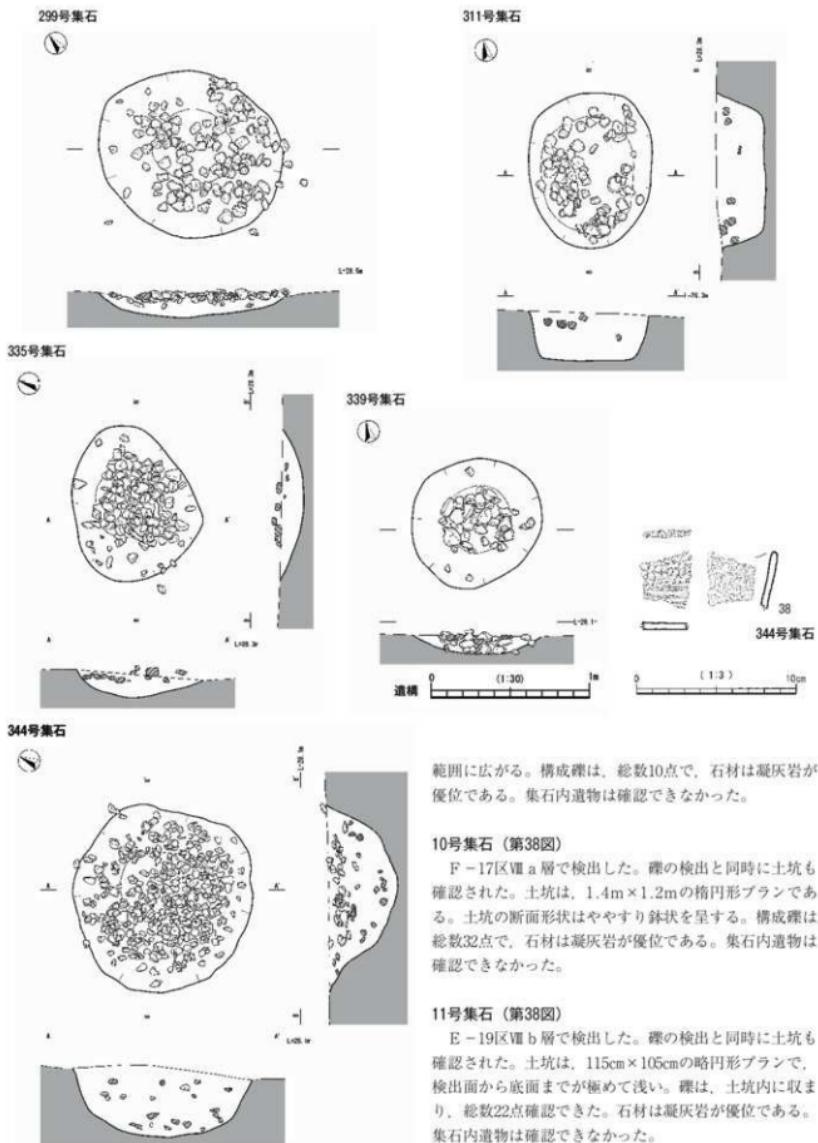
295号集石



295号集石

第28図 283, 286, 291, 292, 293, 295号集石・295号集石出土遺物

6 (1:3) 10cm



第29図 299, 311, 335, 339, 344号集石・344号集石出土遺物

範囲に広がる。構成礫は、総数10点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

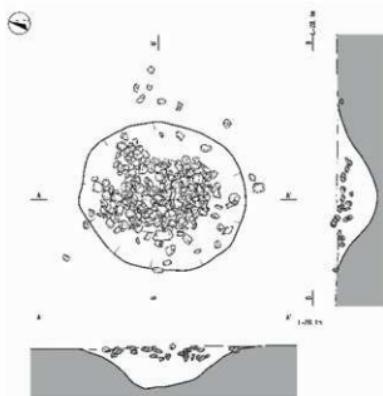
#### 10号集石（第38図）

F-17区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、1.4m×1.2mの梢円形プランである。土坑の断面形状はややすく鉢状を呈する。構成礫は、総数32点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

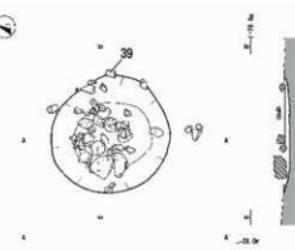
#### 11号集石（第38図）

E-19区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×105cmの略円形プランで、検出面から底面までが極めて浅い。礫は、土坑内に收まり、総数22点確認できた。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

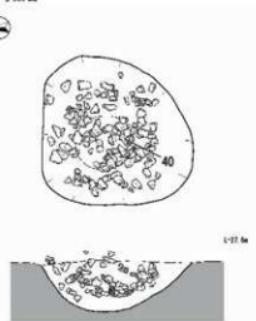
345号集石



352号集石



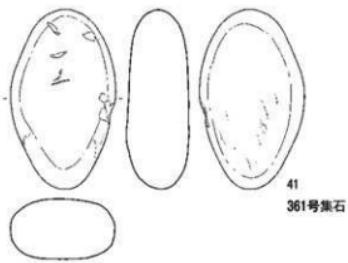
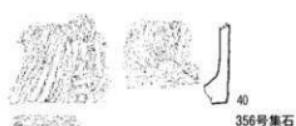
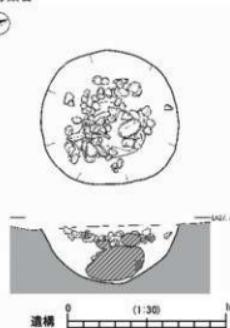
356号集石



357号集石

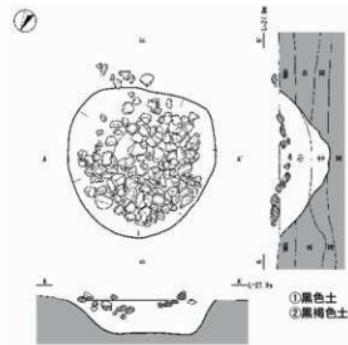


361号集石

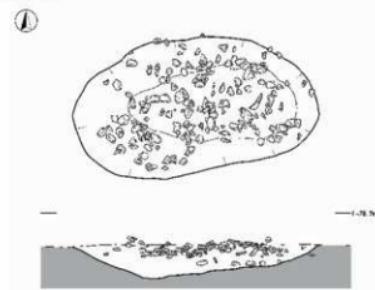


第30図 345, 352, 356, 357, 361号集石・352, 356, 361号集石出土遺物

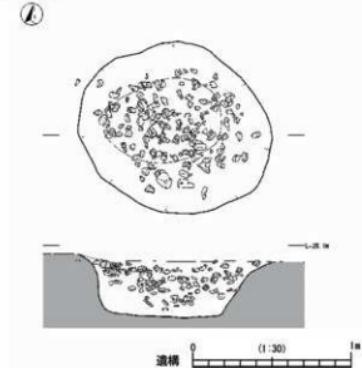
363号集石



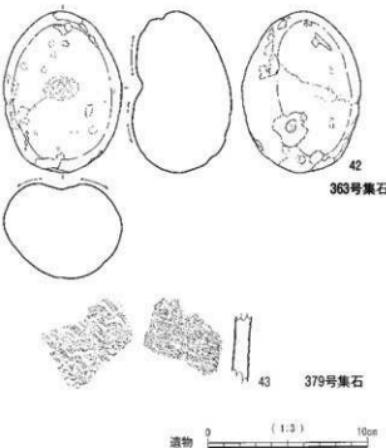
376号集石



379号集石



第31図 363, 376, 379号集石・363, 379号集石出土遺物

**12号集石（第38図）**

D-19区IX層で検出した。環の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランで、環は、この土坑内にほぼ収まる。構成環は、総数21点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

**13号集石（第38図）**

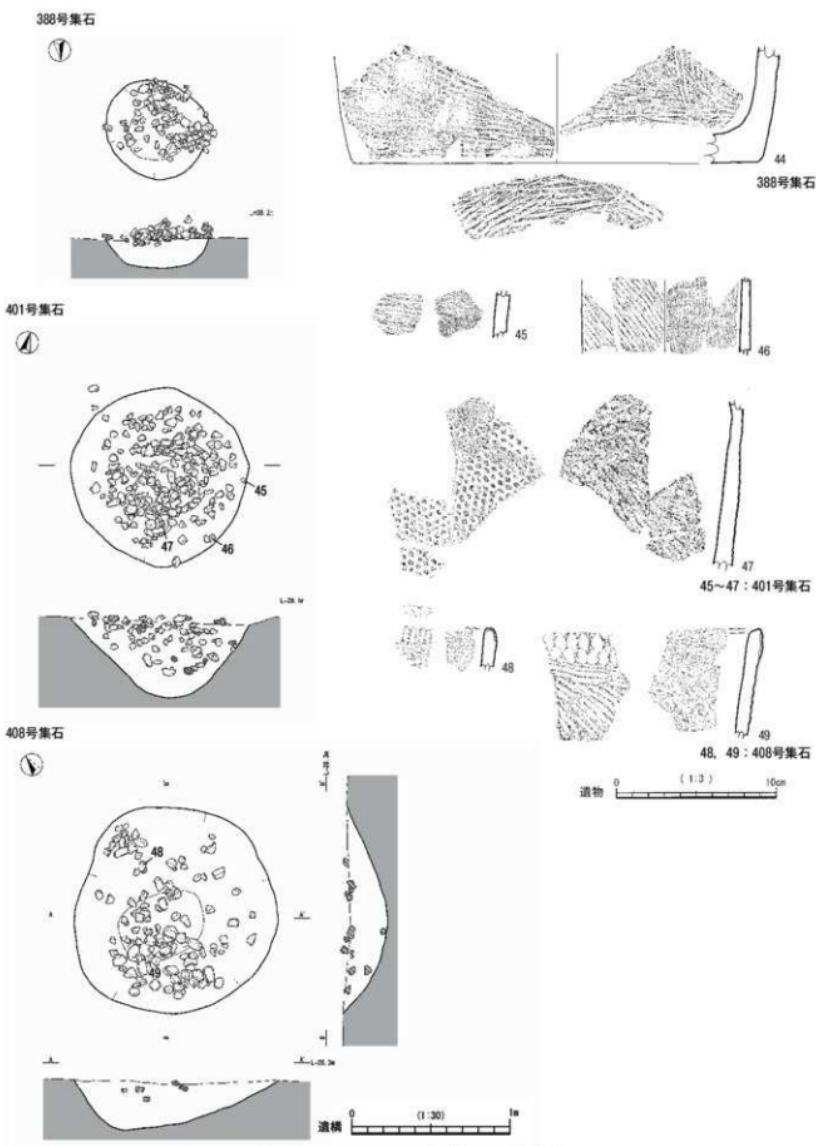
F-20区IX層で検出した。環の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×85cmの楕円形プランで、環は、土坑内に収まる。構成環は、総数15点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

**14号集石（第39図）**

G-20・21区IX層で検出した。環の検出の後に土坑を確認した。土坑は、1.4m程離れているが2基確認され、75cm×70cmの円形プランで2段掘りのもの（土坑①）とやや不定形な80cm×60cmの楕円形プラン（土坑②）である。環は、長軸6m、短軸4mの範囲に広がる。構成環は、総数354点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

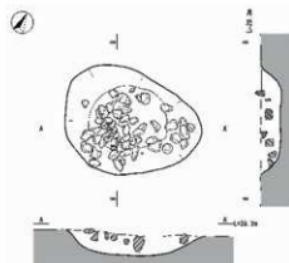
**16号集石（第40図）**

B-22区IX層で検出した。環の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、環は、

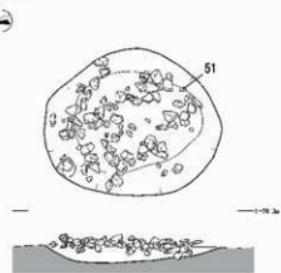


第32図 388, 401, 408号集石・出土遺物

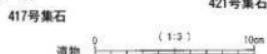
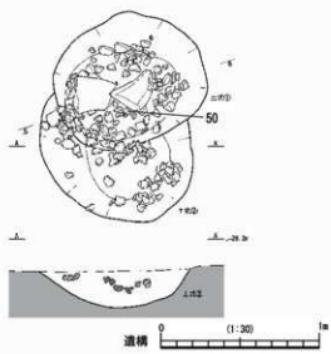
411号集石



421号集石



417号集石



第33図 411, 417, 421号集石・417, 421号集石出土遺物

ほぼ土坑内に收まるが、数点が周辺でも確認された。構成礫は、総数18点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 17号集石（第40図）

E・F-22区IX層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、140cm×80cmの楕円形プランで、土坑内の西北部分に50cm程度の円形プランの深掘り箇所がある。調査時点では、礫の掘り抜き痕の可能性も想定して調査を進めたが、詳細を明らかにすることは出来なかつた。礫は、土坑内に收まる。構成礫は、総数10点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 18号集石（第40図）

F-22区VIIb層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、プランの半分程度しか把握できなかつたが、70cm程度の円形を呈すると思われる。礫は、ほぼ

土坑内に收まる。構成礫は、総数14点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

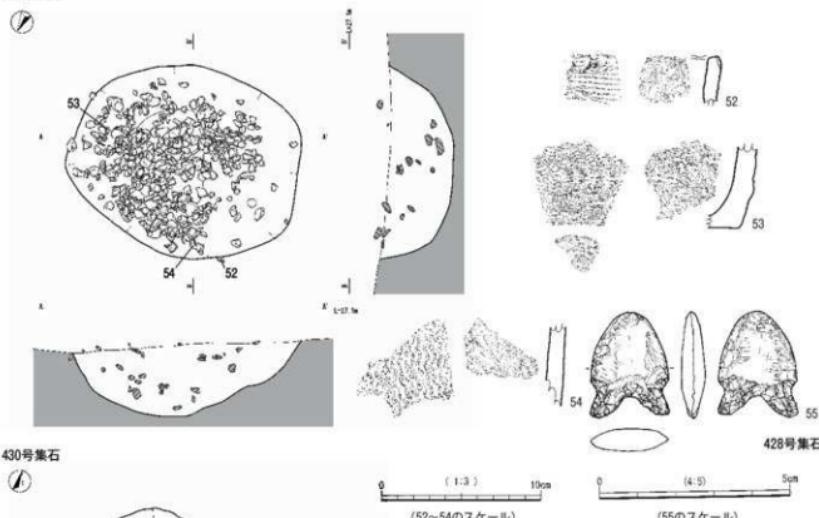
#### 19号集石（第40図）

B-23区VII層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×50cmの楕円形プランである。礫は、ほぼ土坑内に收まる。構成礫は、総数15点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

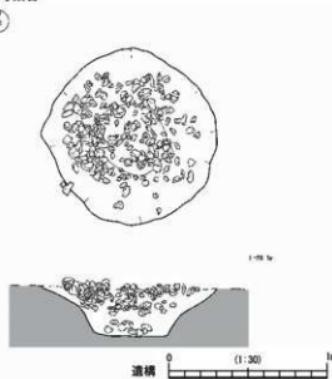
#### 20号集石（第40図）

B-24区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×100cmの略円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ收まる。構成礫は、総数25点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

428号集石



430号集石



第34図 428, 430号集石・428号集石出土遺物

21号集石（第41図）

C-24・25区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基確認され土坑①は105cm×95cmの円形プランで、土坑②は100cm×80cmの略円形プランである。本来は個別の遺構の可能性もあったが、現場で一連のものとして調査し図化していった。礫は、土坑内にはほくまる。構成礫は、総数16点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。231号集石と接合関係にある。

22号集石（第41図）

D-24区IX層で検出した。当初土坑として調査を進め、礫の状況から集石として掲載することとしたため、構成礫等のデータは作成していない。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。

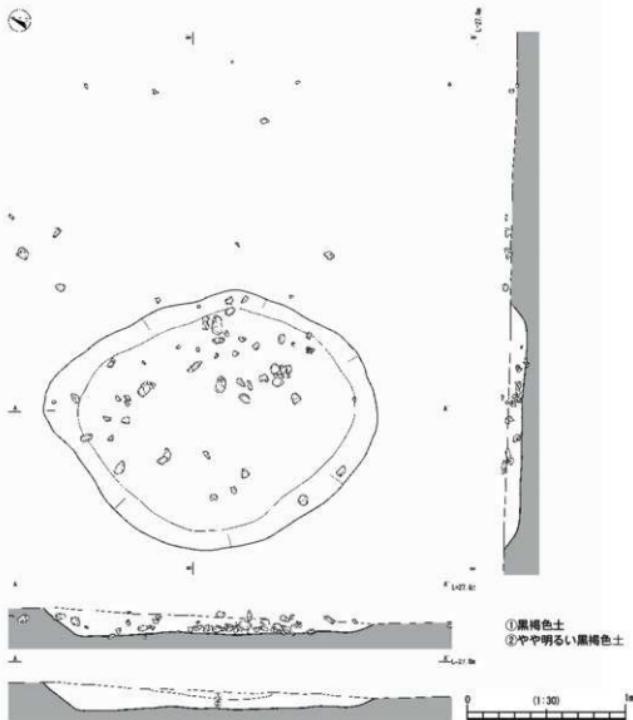
23号集石（第42~44図）

D-24・25区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に複数の土坑も確認された。土坑は、3基あり土坑①は90cm×85cmの略円形プランで、土坑②は125cm×110cmの梢円形、土坑③は135cm×130cmの円形プランである。土坑③の西には礫の集中域①がある。これらは、単独の集石とも考えたが、現場で一連のものと判断し、調査し図化していく。構成礫は、総数129点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点、石器1点で、石器は石皿片である。このうち土器1点を図化した。土坑の床面直下で12号土坑を検出している。可能性として、この集石と掘り込みは、12号土坑の上部構造である可能性も否定できない。

24号集石（第45図）

C-25区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

### 1号集石



第35図 1号集石

確認された。土坑は、80cm×75cmの略円形プランで、底面は平坦で立ち上がりが強い。礫は、土坑内の5点のみで、集石とするか判断に迷ったが、現場の判断を尊重した。石材は砂岩のみである。集石内遺物は確認できなかつた。

### 25号集石（第45図）

C-25・26区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cmの円形プランで、浅いすり鉢状の断面を呈する。礫は、3.5m×2.5mの範囲に広がる。土坑内底面に接する礫は見られなかった。構成礫は、総数92点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

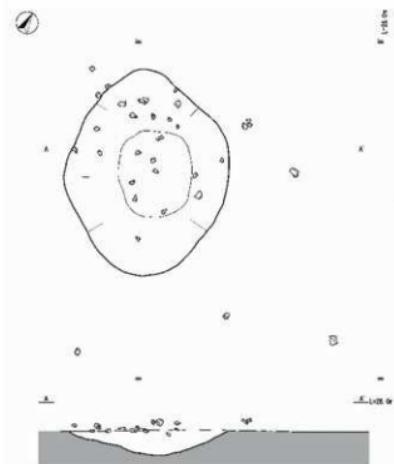
### 26号集石（第45図）

B-C-25・26区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認され、一連の集石として記録した。土坑は、長軸で85cmあり、検出面の状況から稍円形プランを呈すると思われた。礫は、この土坑周辺約2mに広がる。構成礫は、総数12点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器10点で、このうち土器2点を図化した。いずれも小破片である。

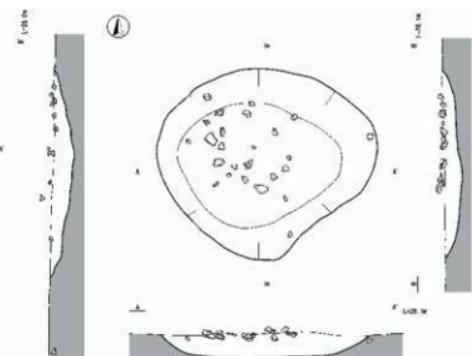
### 27号集石（第46図）

B-25区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×75cmの稍円形プランで、礫は、3m四方に広がる。構成礫は、総数31点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土

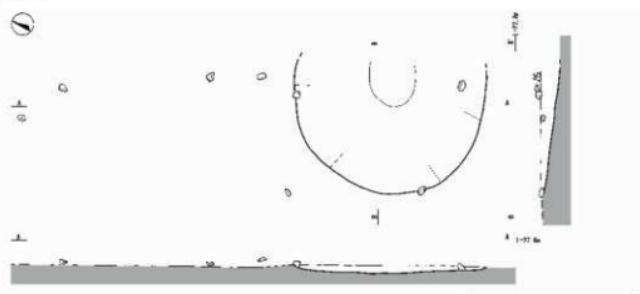
2号集石



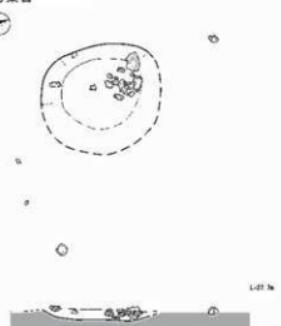
3号集石



5号集石



6号集石



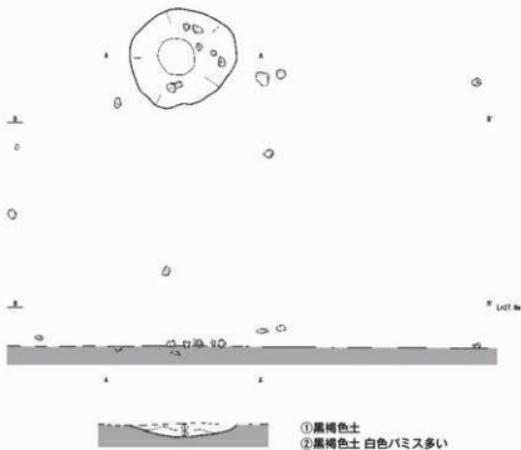
器3点であるが、小破片のため図化は困難であった。

#### 29号集石（第47図）

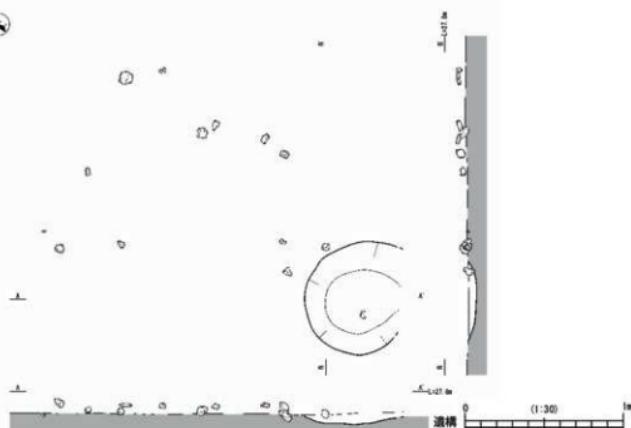
D-26区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は、5m×5mの範囲に広がる。構成礫は、総数70点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。

第36図 2, 3, 5, 6号集石

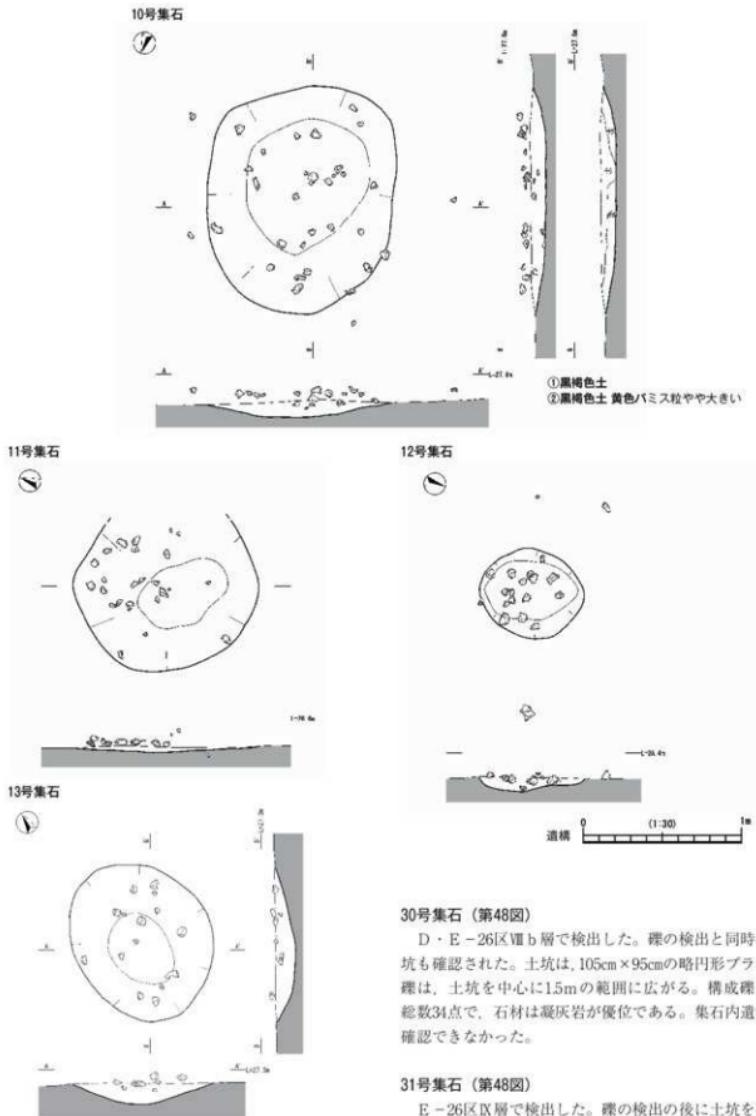
7号集石



8号集石



第37図 7, 8号集石



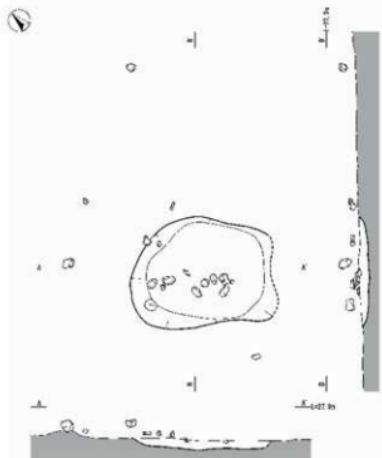
第38図 10, 11, 12, 13号集石

14号集石

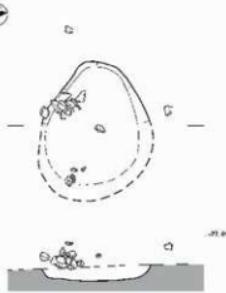


第39図 14号集石

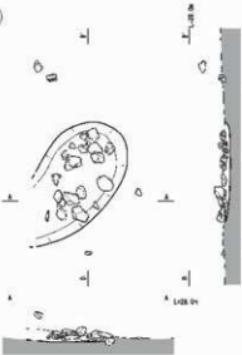
16号集石



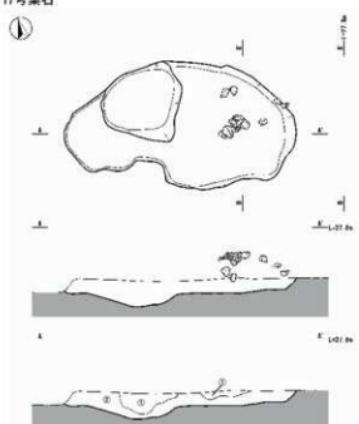
18号集石



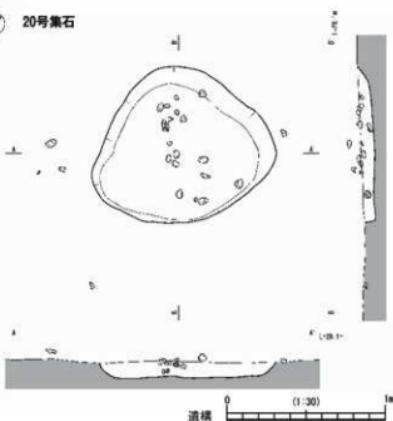
19号集石



17号集石



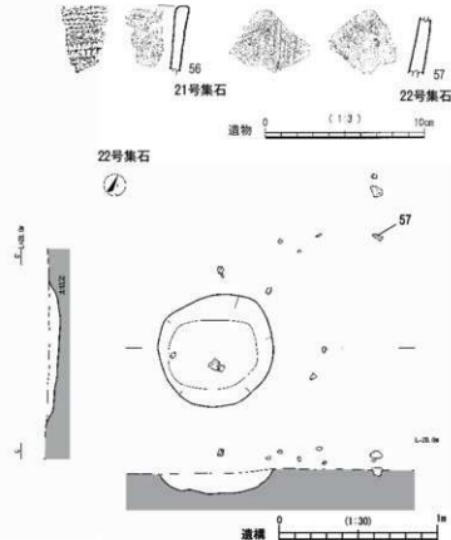
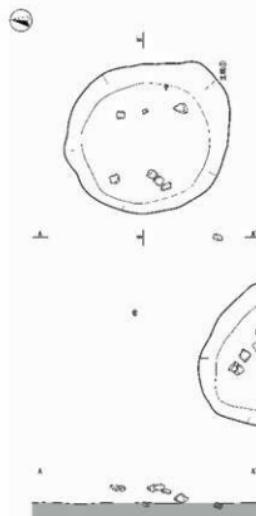
20号集石



①黒褐色土  
②褐色土

第40図 16, 17, 18, 19, 20号集石

### 21号集石



第41図 21, 22号集石・出土遺物

した。土坑は、先行トレーニングにより一部が検出できなかつたが、円形プランを呈すると思われ、残存する最大長は80cmある。礫は、土坑周辺を含め2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数21点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。

### 32号集石（第49図）

E・F-26・27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、集石周辺に11基確認され、一連のものとの認識で調査し図化した。土坑は、円形ないし梢円形プランで、礫は、45mの範囲に広がる。構成礫は、総数244点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。

### 34号集石（第50図）

F-25・26区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。これらを、一連の集石として現場で判断して調査図化していく。土坑は、礫の周辺で7基が確認され、円形ないし梢円形プランで、礫は、4mの範囲

に広がる。構成礫は、総数65点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。

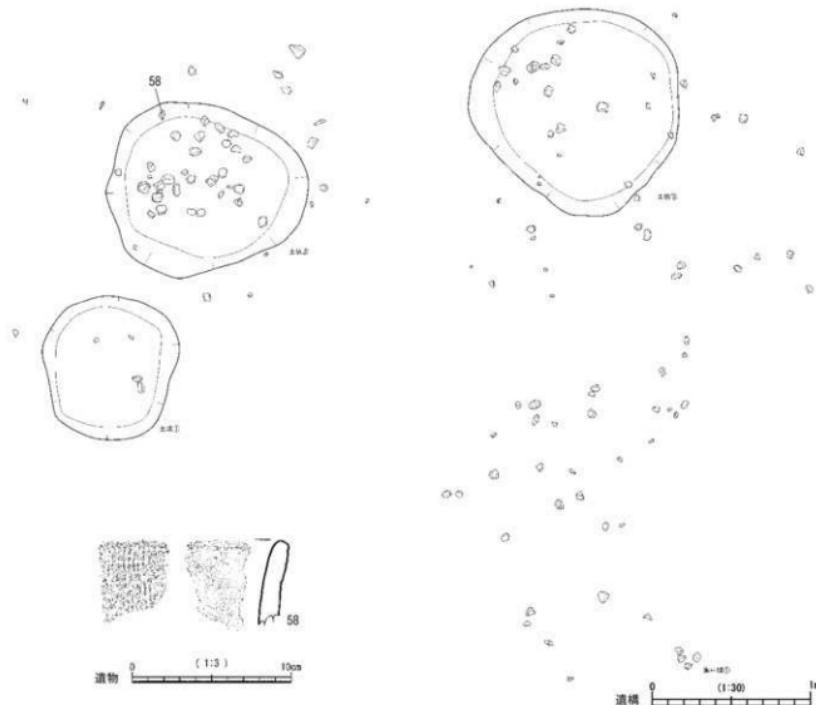
### 35号集石（第51図）

F-26区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、一部先行トレーニングで上面プランを把握できなかつたが、概ね85cm程度の円形プランが想定される。礫は、土坑の南側に散在し、総数33点確認された。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

### 36号集石（第51図）

E-27区IX層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。礫の散在状況から2基の土坑が関連すると想定して記録した。土坑は、いずれも梢円形プランで、140cm×95cmと100cm×85cmを測る。礫は、4m×2.5mの範囲に散在する。構成礫は、総数63点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

23号集石



第42図 23号集石①・出土遺物

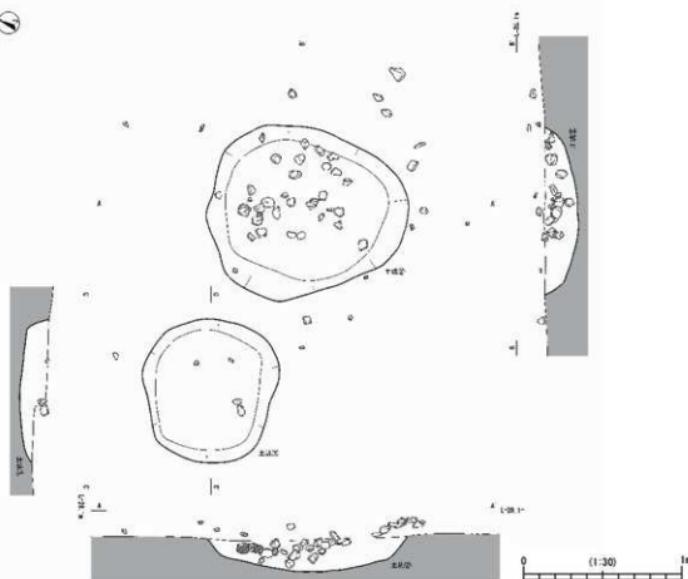
37号集石（第52図）

E-27区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、3基が隣接して検出され、いずれも円形プランである。礫はまばらで、比較的大きめの土坑上面にわずかに集中する。構成礫は、总数15点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

38号集石（第53図）

E-27区IX層で検出した。礫の検出と同時に7基の土坑も確認された。土坑は、円形ないし稍円形プランで、礫集中から2m離れている土坑⑦についても一連の遺構として認定しており、現場での判断を尊重してここに掲載した。土坑①は120cm、土坑②は70cmの長軸で、全体像は不明である。土坑③は95cm×75cmの稍円形プランで

23号集石 土坑②



第43図 23号集石②

上面に礫が比較的多く集まる。土坑④は60cm×50cmと小型の円形プランで、上面に礫がやや集中する。土坑⑤は100cm×90cmの略円形で、土坑上面に礫が集中する。土坑⑥は、集中域からやや離れてわずかに礫が出土する。85cm×75cmの略円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。土坑⑦は集中域から離れて検出され、75cm×75cmの円形プランを呈する。礫は、これら土坑周辺の4m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数143点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

39号集石（第54図）

E-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。関連すると現場で判断した土坑は3基あり、内1基は、先行トレレンチにより全体を把握できなかった。1基は円形プランで、80cm×75cmあり、もう1基は指円形プランで125cm×100cmを測る。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

42号集石（第54図）

D-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×85cmの略円形プランで、礫は、この土坑内に収まる。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

41号集石（第55図）

D-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、185cm×125cmの不定形プランで、礫は、土坑を中心に4.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数156点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、磨石片1点である。

43号集石（第56図）

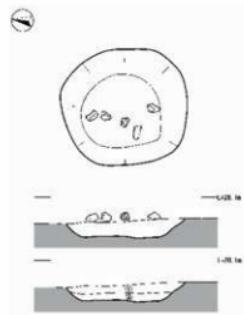
D-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの円形プランで、礫は、この土坑北側4mの範囲に広がる。構成礫は、総数642点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

23号集石 土坑③



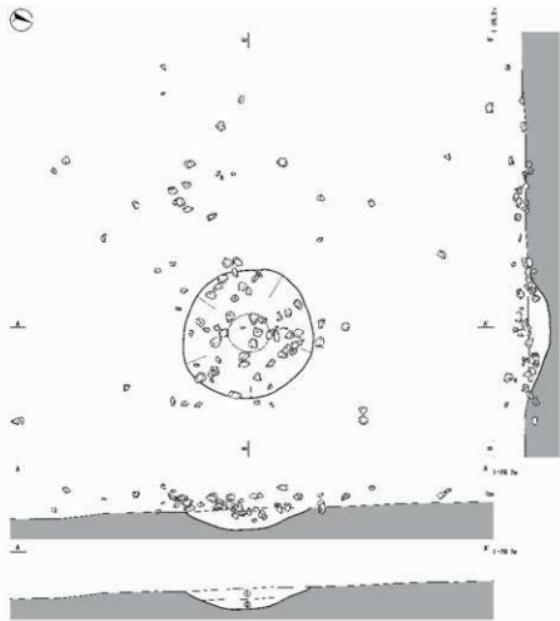
第44図 23号集石③

24号集石

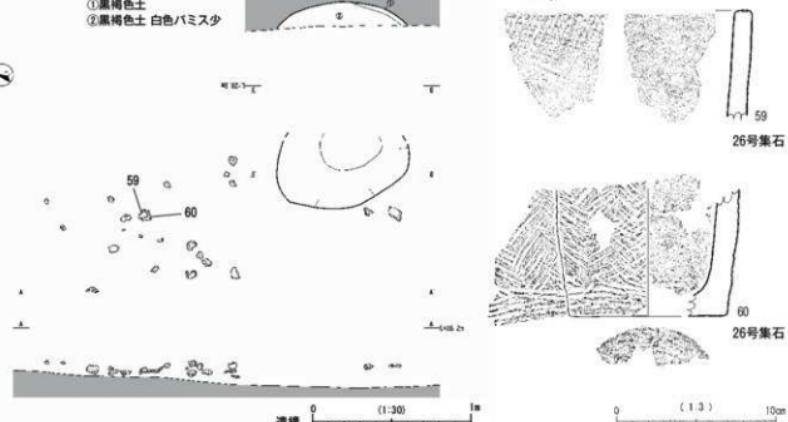


①黒褐色土  
②灰褐色土

25号集石

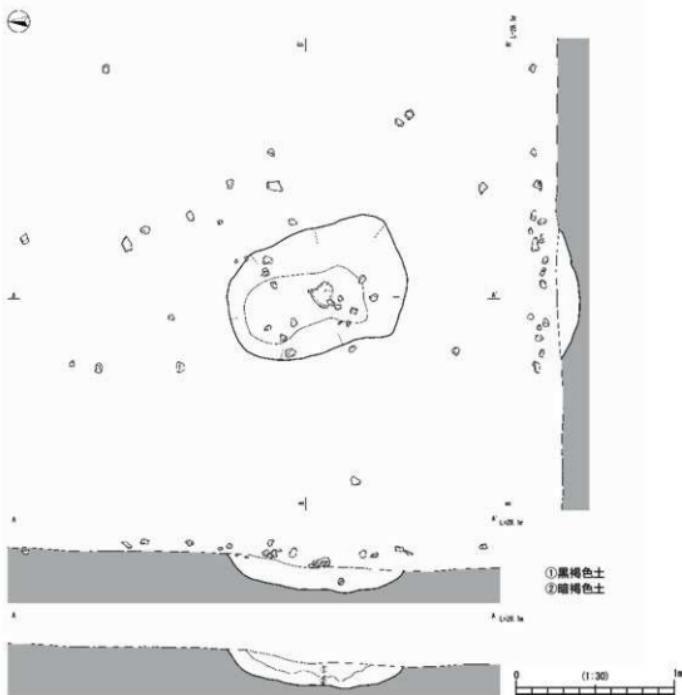


26号集石



第45図 24, 25, 26号集石・26号集石出土遺物

27号集石



第46図 27号集石

47号集石（第57図）

B - 27・28区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×110cmの楕円形プランで、礫は、この土坑西側に広がり、5.5m×4.5m程度の範囲を集石のまとまりとした。構成礫は、総数106点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

44号集石（第58図）

B・C - 27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、この土坑外30cm付近まで広がる。構成礫は、総数12点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

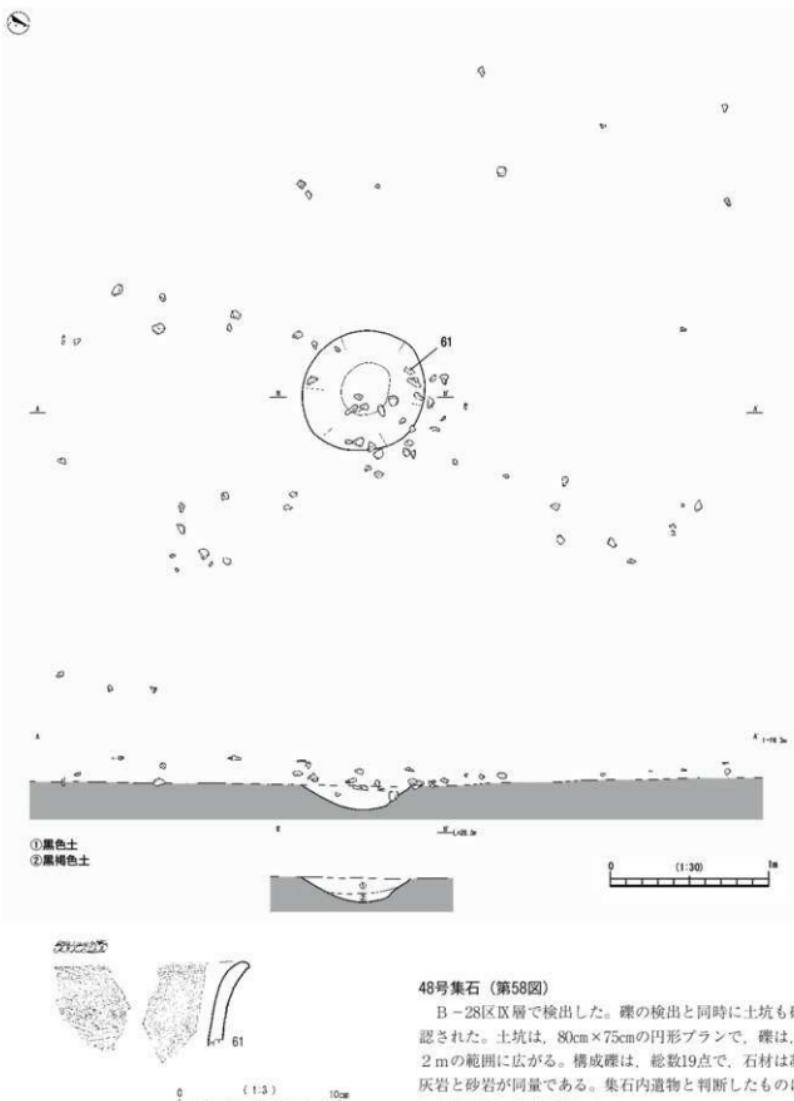
45号集石（第58図）

B - 27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの円形プランで、検出面から底面まで25cmとやや深い。礫は、1.2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数12点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

46号集石（第58図）

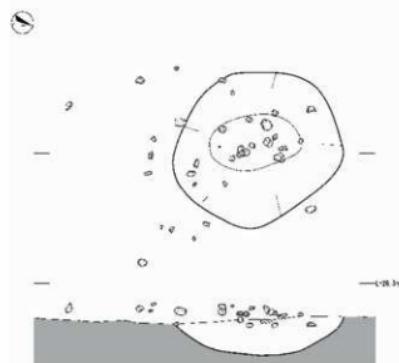
B - 27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数69点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。

29号集石

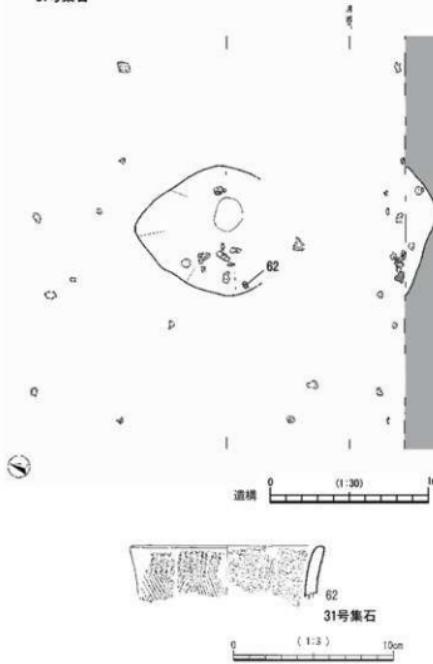


第47図 29号集石・出土遺物

30号集石



31号集石



49号集石 (第58図)

B-28区IX層で検出した。当初土坑として調査を進めたため、構成礫等のデータは作成していない。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、略円形プランで、集石内遺物は確認できなかった。

50号集石 (第59図)

B-28区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×85cmの楕円形プランで、構成礫は、総数9点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

51号集石 (第59図)

C-28区VIIb層で検出した。当初土坑として調査を進め、礫の状況から集石として掲載することとしたため、構成礫等のデータは作成していない。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×85cmの略円形プランで、集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。67は、口縁部が直行し、口唇部が平坦面を有する。内面は剥落が激しく、詳細ははっきりとしない。

52号集石 (第59図)

D-28区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、35cm×30cmの略円形で、その東側には1.5m×1.3mの範囲にシミ状の痕跡も確認できた。礫は、4m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数65点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

55号集石 (第60図)

E・F-28・29区IX層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、楕円形プランで、小型の円形プランが切り合うように確認されたが、詳細は把握できなかった。礫は、土坑外に広がっており、1.5m×1mの範囲に散在する。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。

56号集石 (第60図)

E・F-28区IX層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、3基が切り合うように確認され、90cm×80cm、80cm×75cm、100+a×75cmの円形プランを呈する。礫は、2m×1mの範囲に散在し、構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。

第48図 30, 31号集石・31号集石出土遺物

## 32号集石



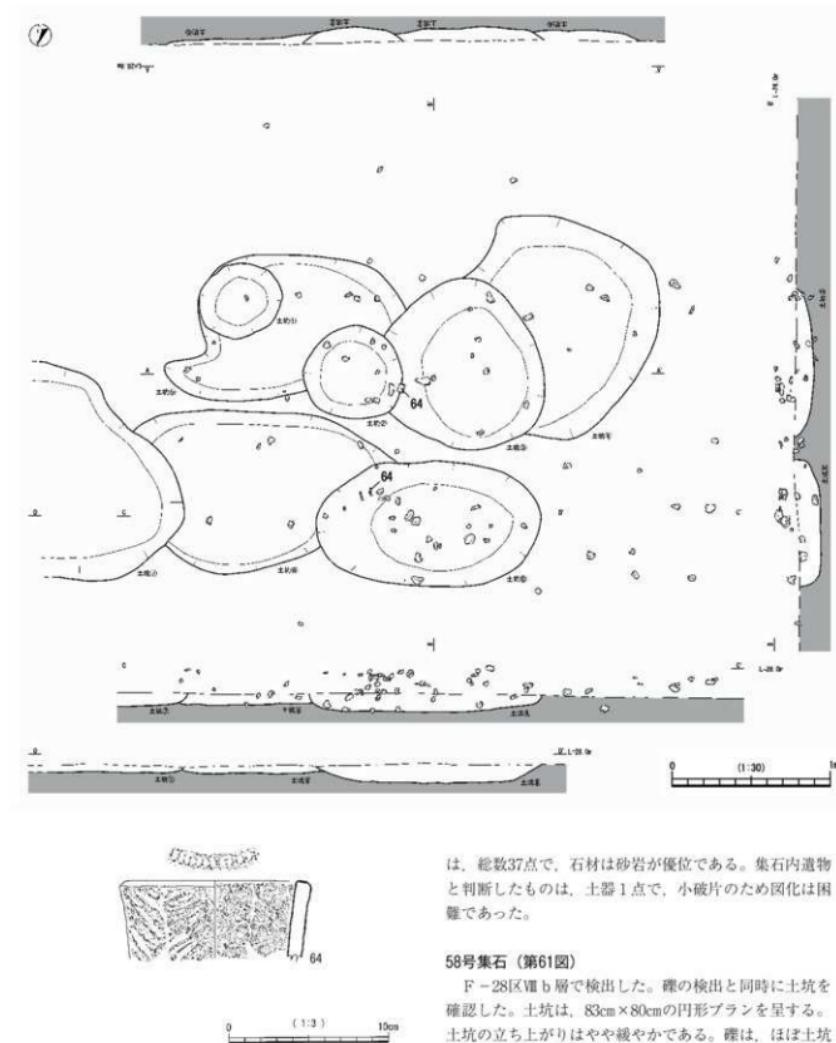
第49図 32号集石・出土遺物

## 57号集石（第61図）

F-28区B層で検出した。礫の検出と同時に複数の土坑も確認された。土坑は、楕円形と円形プランが切り合っ

ており、隣接して3基の円形土坑も確認された。現場では、これらを一連の集石として記録している。礫は、土坑群の北側2.5m×1.5mの範囲に散在している。構成礫

34号集石



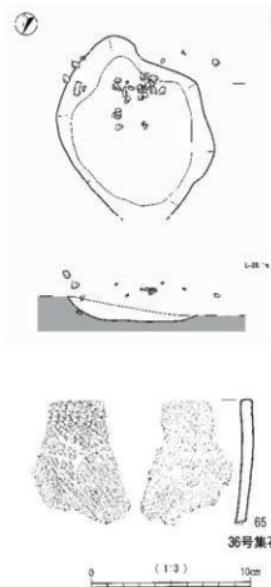
第50図 34号集石・出土遺物

は、总数37点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、小破片のため図化は困難であった。

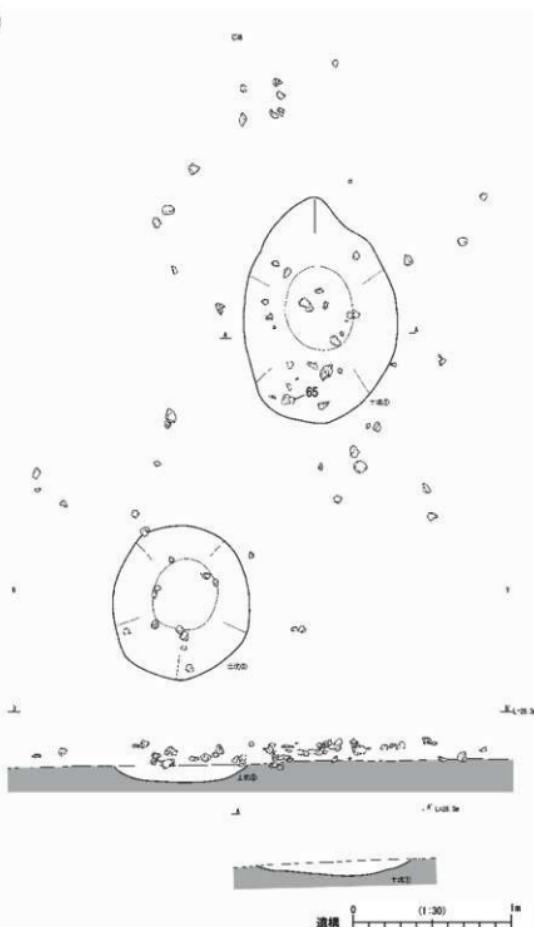
58号集石（第61図）

F-28区VII b 層で検出した。礫の検出と同時に土坑を確認した。土坑は、83cm×80cmの円形プランを呈する。土坑の立ち上がりはやや緩やかである。礫は、ほぼ土坑内に収まる。構成礫は、总数51点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。

35号集石



36号集石



第51図 35, 36号集石・36号集石出土遺物

## 61号集石（第62図）

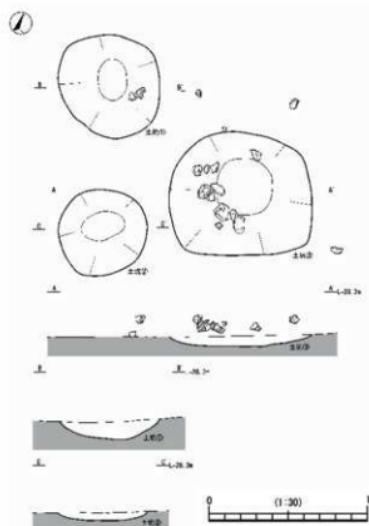
G-29区Ⅴ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、直径1mの円形プランで、底面から立ち上がりがしっかりとしている。礫は、この土坑の上面及び周辺に2.5m×2mの範囲に広がる。構成礫は、

総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 64号集石（第63図）

E-29区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確

### 37号集石



第52図 37号集石

認された。円形プランの土坑が2基切り合っている。礫は、2m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数39点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 65号集石（第63図）

E-29区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、楕円形プランで150cm×100cmを測り、検出面でわずかにくびれる形状が認められた。礫は、この土坑の上位10cm程度に集中する傾向があるが、土坑プランのおよそ70cm外まで広がっている。構成礫は、総数75点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点、石器1点で、これを図化した。72は磨製石鎌で正三角形状を呈し、縁辺の加工痕が残っている。

### 66号集石（第64図）

B-29区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで浅い。礫は、土坑周辺に広がる。構成礫は、総数98点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 67号集石（第64図）

A-B-29区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へと延びるため全体形状は不明である。礫は、この土坑内に収まる構成礫は、総数28点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 68号集石（第64図）

B-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数6点で、石材は全て砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。

### 72号集石（第64図）

C-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数14点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 73号集石（第64図）

C-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、わずかながら土坑外にも見られる。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 76号集石（第64図）

D-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、掘り込みは、検出面から底面まで5cm程度と浅い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数17点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

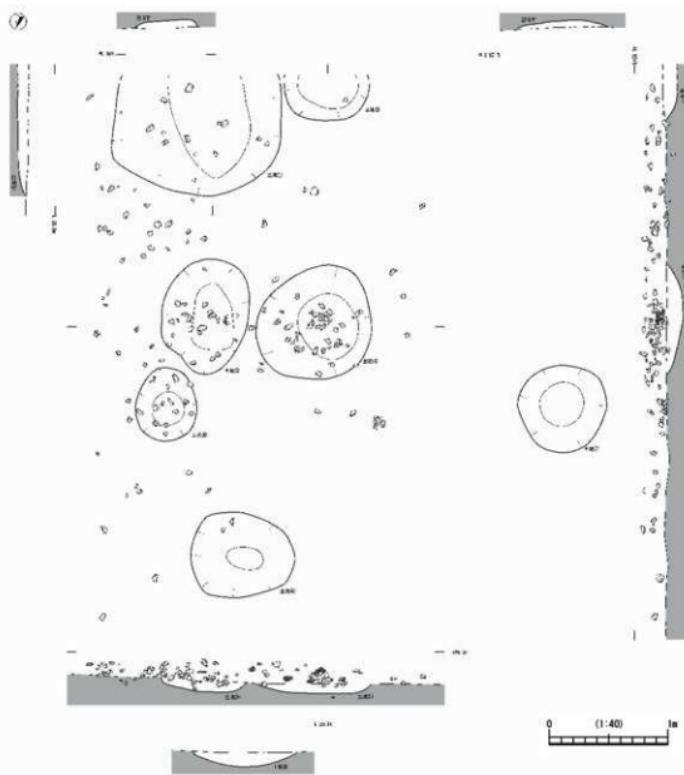
### 77号集石（第65図）

D-30・31区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×50cmの円形プランで、土坑外30cm程度まで広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 79号集石（第65図）

E-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×90cmの円形プランで、礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数147点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点、石器1点を図化した。74は磨製石斧の基部である。

38号集石



第53図 38号集石

83号集石（第66図）

G-31区Ⅷ層で検出した。当初土坑として調査を進め、礫の状況から集石として掲載することとしたため、構成礫等のデータは作成していない。土坑は、140cm×130cmの円形プランで、集石内遺物は確認できなかった。

84号集石（第66図）

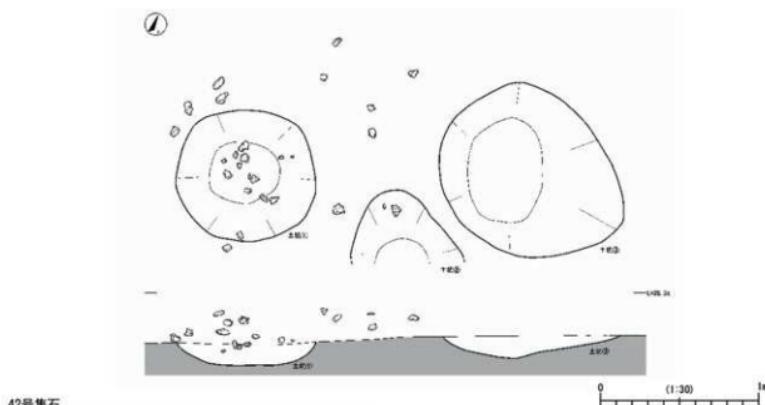
G-31区Ⅷ層で検出した。当初土坑として調査を進め、礫の状況から集石として掲載することとしたため、構成礫等のデータは作成していない。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×110cmの略円形プランで、

礫は土坑内に収まる。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。いずれも小破片である。

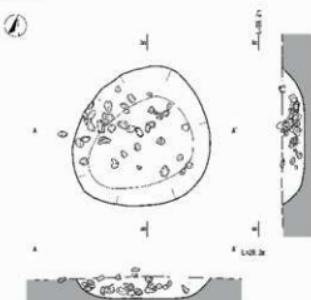
86号集石（第66図）

E-31区Ⅷb層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、90cm×75cmの円形プランで断面はやや不規則である。礫は、長軸3.3m、短軸3mの範囲に広がる。構成礫は、総数61点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

39号集石



42号集石



第54図 39, 42号集石

88号集石（第67図）

C-31区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの梢円形プランで、礫は、土坑内を中心に2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数56点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

89号集石（第67図）

C-31区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの梢円形プランで、礫は、ほぼこの土坑内に収まる。構成礫は、総数49点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

90号集石（第67図）

C-31区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×85cmの梢円形プランで、礫は、ほぼ土坑内に収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

91号集石（第67図）

C-31区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの梢円形プランで、礫の出土は、ほぼこの土坑内に収まる。構成礫は、総数29点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であり、これを掲載した。

92号集石（第67図）

C-31区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの梢円形プランで、礫は、ほぼこの土坑内に収まるが、1.2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数36点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

93号集石（第68図）

B・C-31区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×120cmの梢円形プランで、礫は、土坑外40cmまで広がる。構成礫は、総数86点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

41号集石



第55図 41号集石

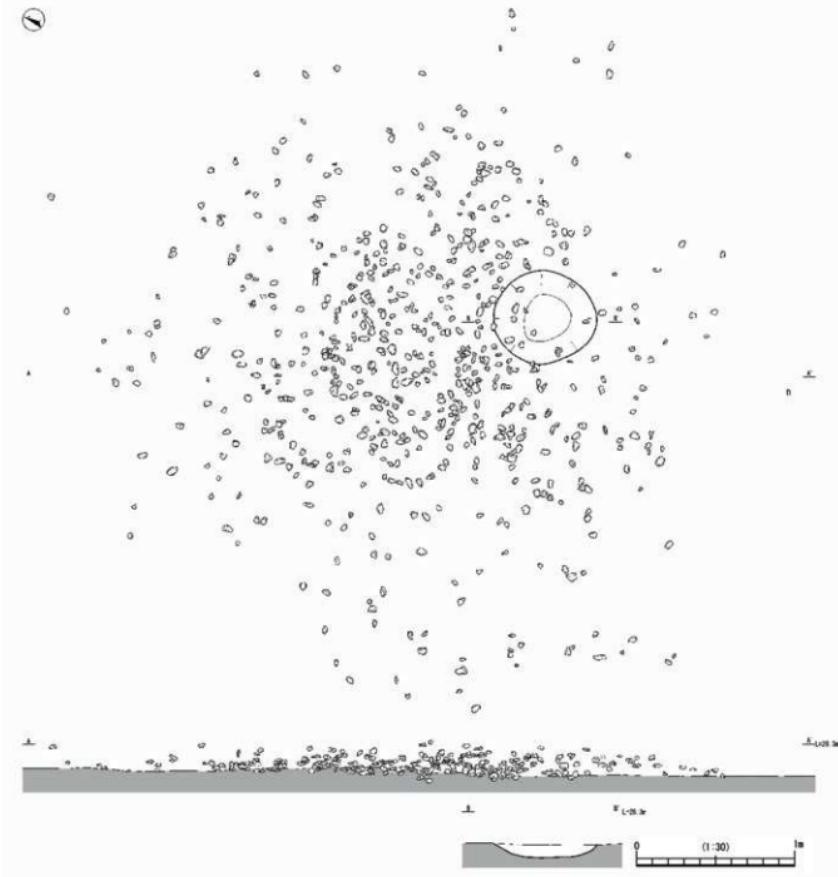
94号集石（第68図）

D - 32区VII 5層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×90cmの楕円形プランで、礫は、2.2m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数127点で、全体的に土坑検出面より5cm程度上位に集中する。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断した

ものは、土器1点でこれを同化した。

95号集石（第68図）

C・D - 32区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×110cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数148点で、



第56図 43号集石

石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 96号集石（第68図）

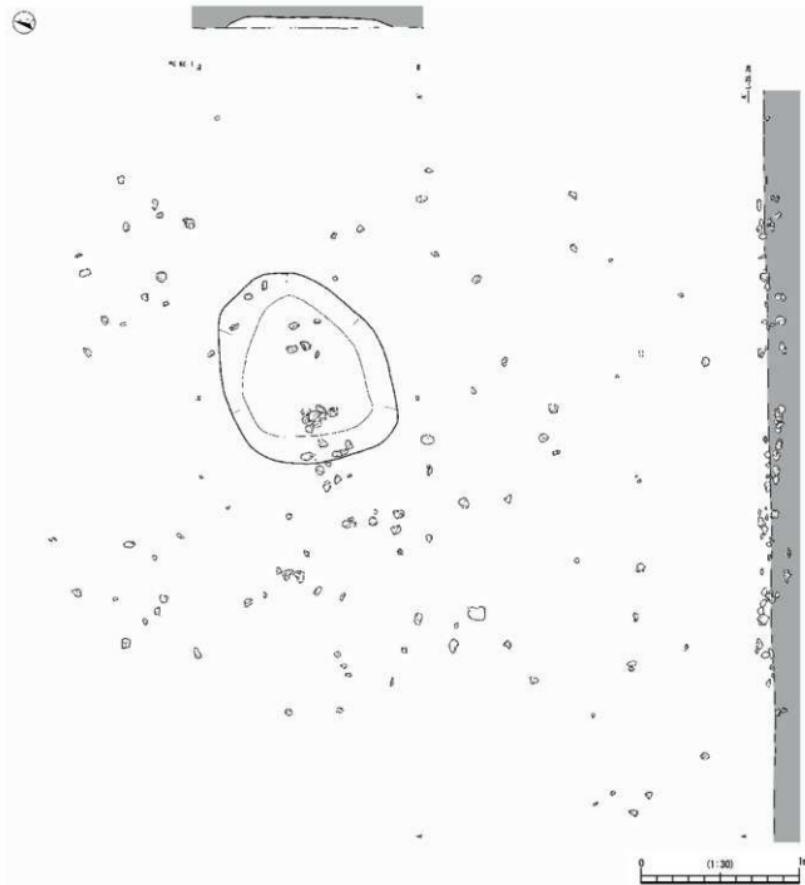
C-32区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×88cmの略円形プランで、断面は浅いすり鉢状を呈する。礫は、ほぼ土坑内に収ま

る。構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

#### 97号集石（第68図）

C-31・32区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×90cmの略円形プランで、

47号集石



第57図 47号集石

礫は、 $1.5m \times 0.8m$ の範囲に広がる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。石器は石皿片が1点出土している。

## 98号集石（第69図）

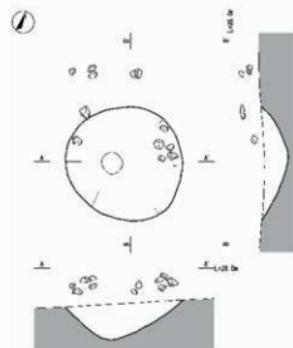
C・D-32区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土

坑も確認された。土坑は、 $95cm \times 85cm$ の略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数44点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

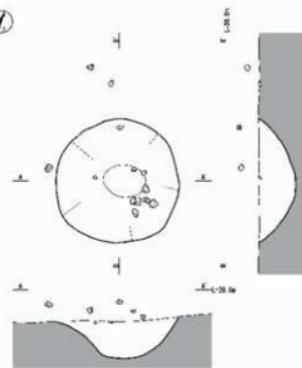
## 100号集石（第69図）

C-32区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

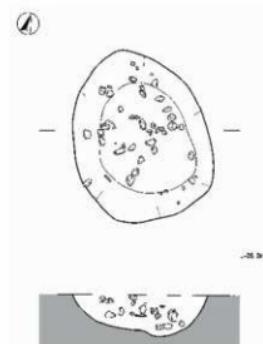
44号集石



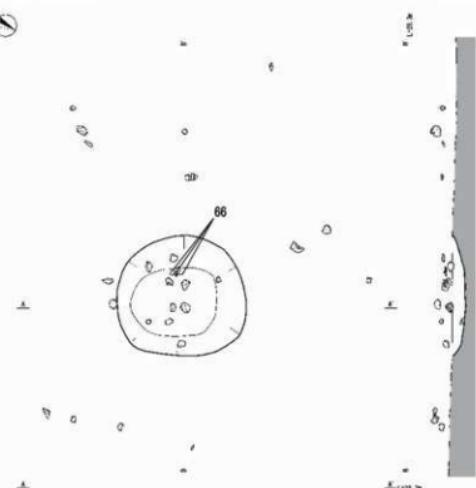
45号集石



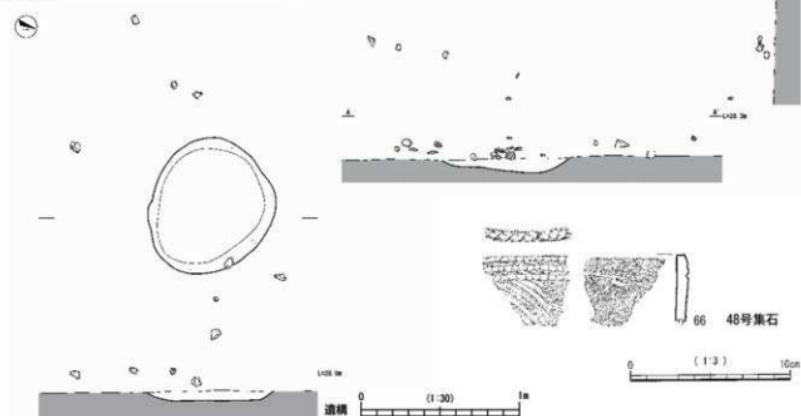
46号集石



48号集石

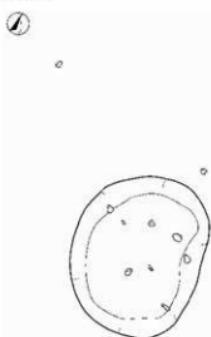


49号集石



第58図 44, 45, 46, 48, 49号集石・48号集石出土遺物

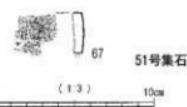
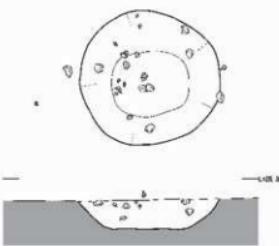
50号集石



52号集石

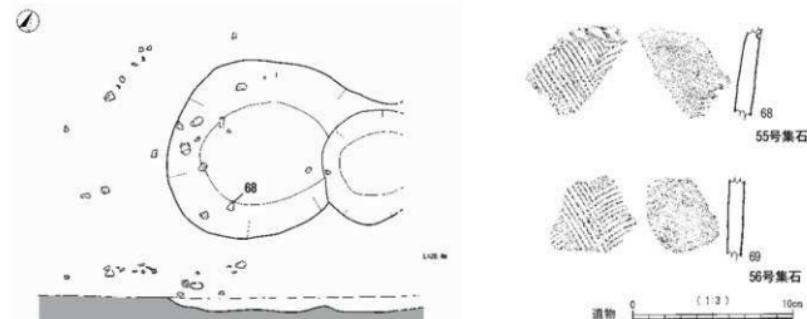


51号集石

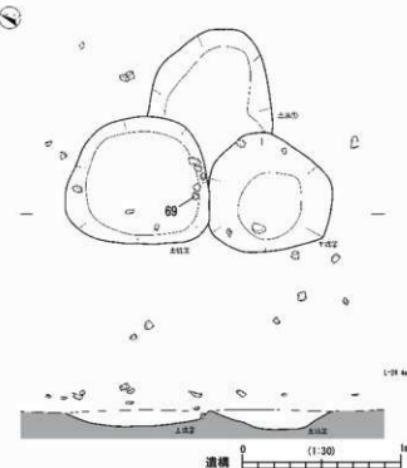


第59図 50, 51, 52号集石・51号集石出土遺物

55号集石



56号集石



第60図 55, 56号集石・出土遺物

確認された。土坑は、120cm×100cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内に収まる。構成礫は、総数69点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。

101号集石（第69図）

E-31・32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、160cm×140cmの略円形プラン

で、礫は、3.5m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数125点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

#### 106号集石（第70図）

G-31・32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cmの円形プランで、2段掘りに近い形状となり、底面はすり鉢状を呈する。礫は、5m×4mの範囲に広がる。構成礫は、総数218点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 104号集石（第71図）

G-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cmの円形プランで、構成礫は、総数2点で、石材は凝灰岩と砂岩とが1点ずつである。集石内遺物は確認できなかつた。

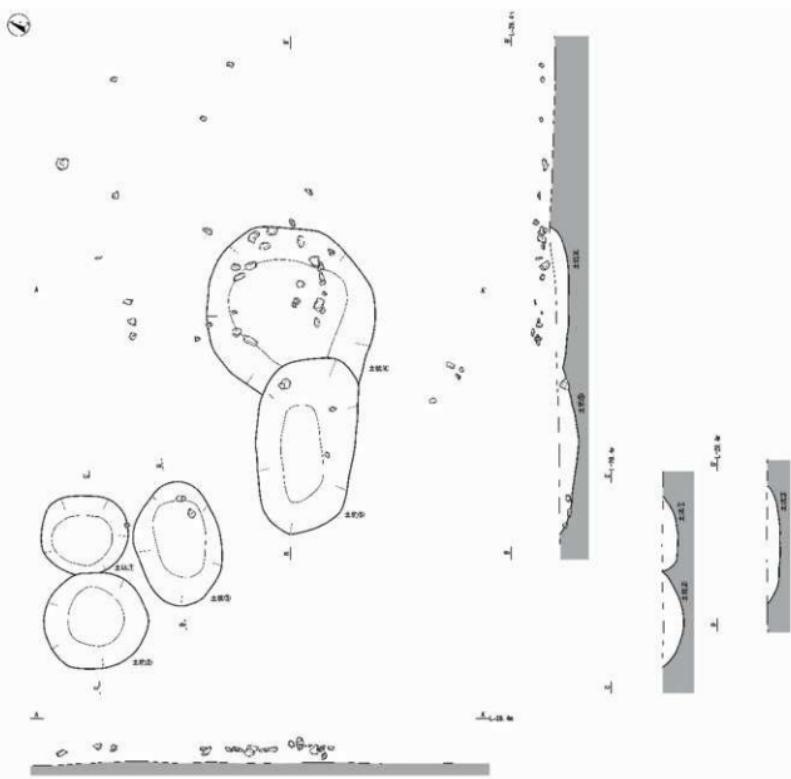
#### 107号集石（第71図）

G-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、2m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

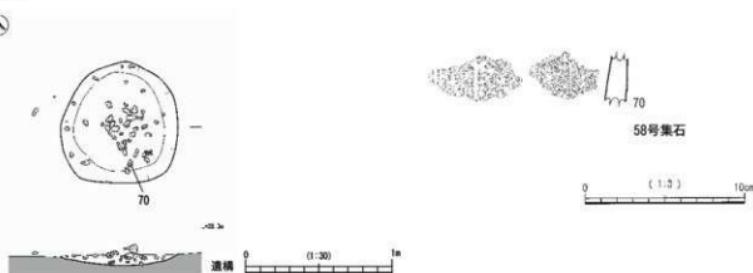
#### 108号集石（第72図）

G-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は2基確認され、現場段階で一連のものとして調査し図化していく。土坑①は円形プランで120cm×115cm、土坑②は楕円形プランで150cm×115cm、

57号集石

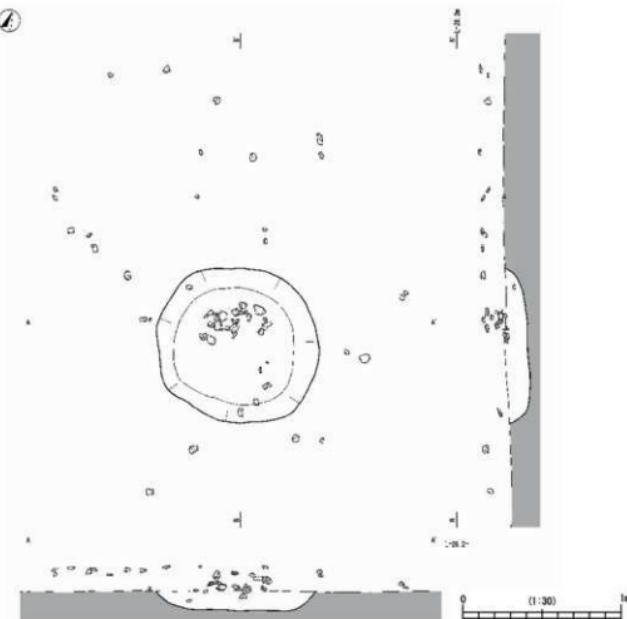


58号集石



第61図 57, 58号集石・58号集石出土遺物

## 61号集石



第62図 61号集石

礫は、6mの範囲に広がる。構成礫は、総数255点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点、石器1点で、石器は磨石片1点で、このうち土器1点を図化した。

## 109号集石（第73図）

G-33区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認されたが、主体は調査区外へと広がっているため全体の形状は不明である。礫は、1.2m×0.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数19点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 110号集石（第73図）

G-33区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、パイプラインにより搅乱を受けている。本来は楕円形プランを呈していたと思われる。礫は、1.5m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、

土器2点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。

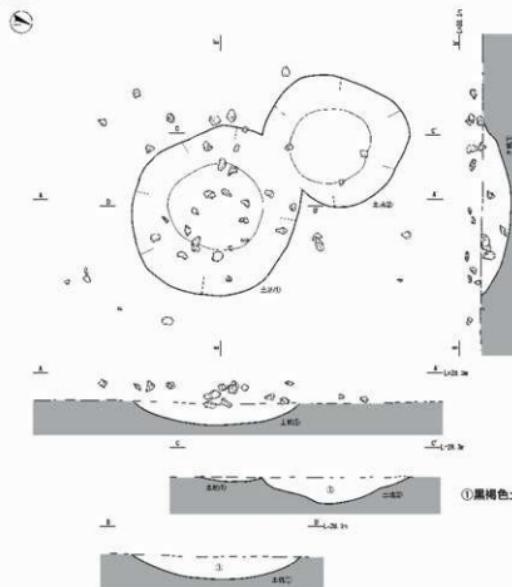
## 113号集石（第73図）

F-G-32-33区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×60cmの楕円形プランである。礫は、2.2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数20点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

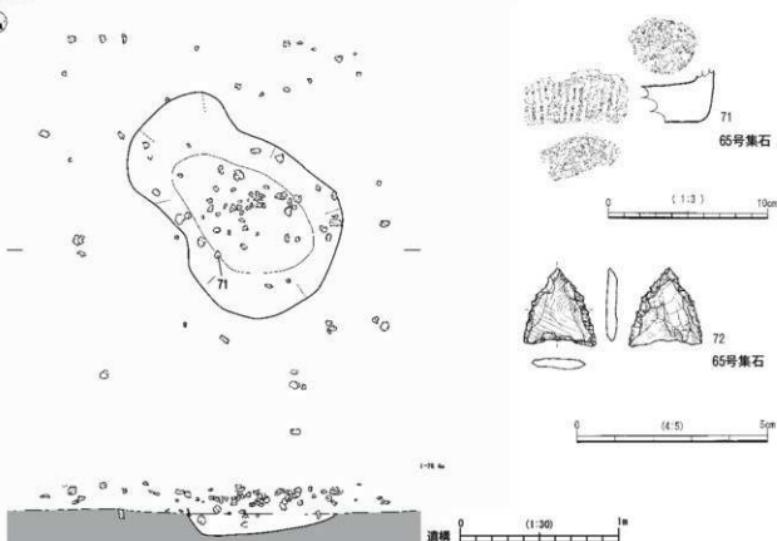
## 114号集石（第73図）

F-33区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、先行トレレンチによって全体像を捉えられなかつたが、75cm×60cmの楕円形プランである。礫は、土坑外2mの範囲にまで広がる。構成礫は、総数18点で、土坑内からの出土は少ない。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器2点で、このうち土器1点を図化した。

64号集石

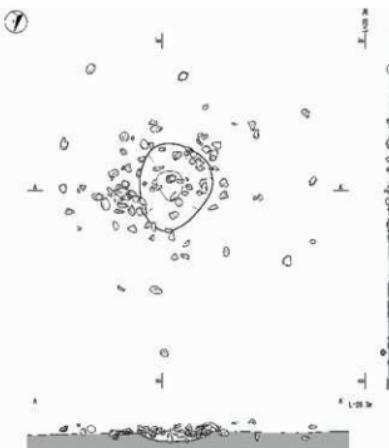


65号集石

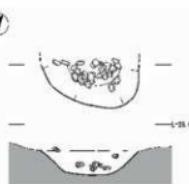


第63図 64, 65号集石・65号集石出土遺物

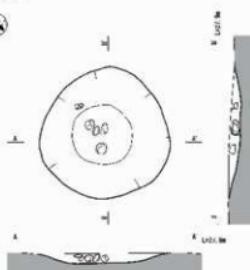
66号集石



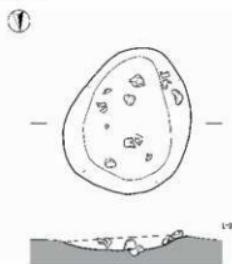
67号集石



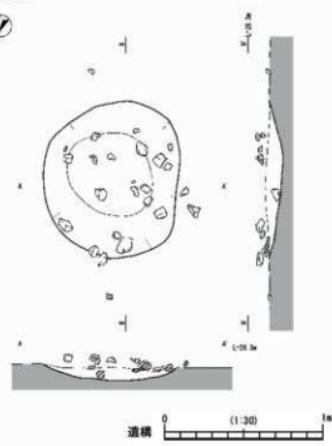
68号集石



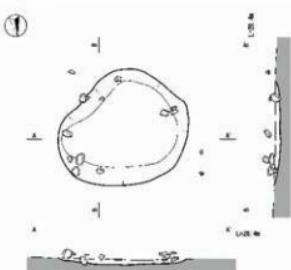
72号集石



73号集石



76号集石



第64図 66, 67, 68, 72, 73, 76号集石

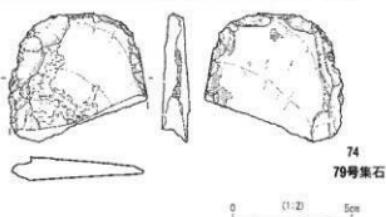
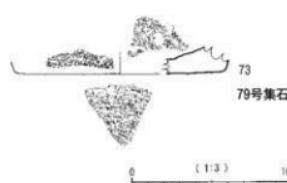
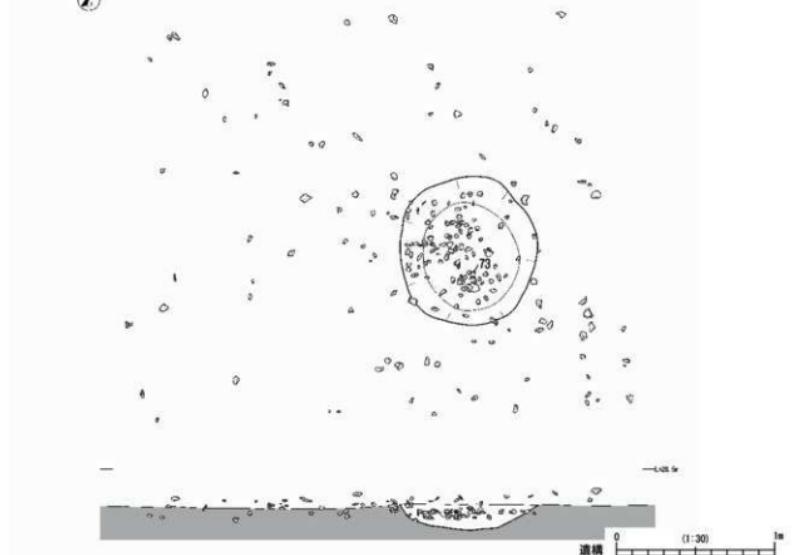
77号集石

①



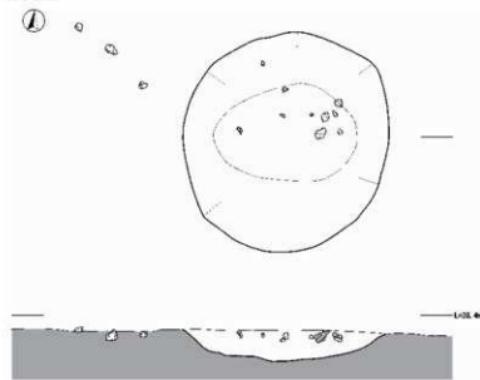
79号集石

②

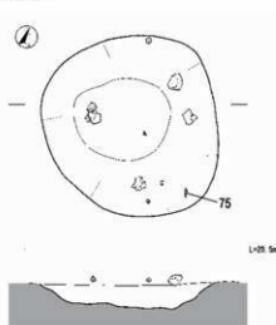


第65図 77, 79号集石・79号集石出土遺物

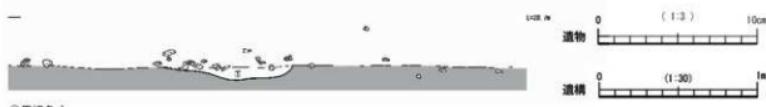
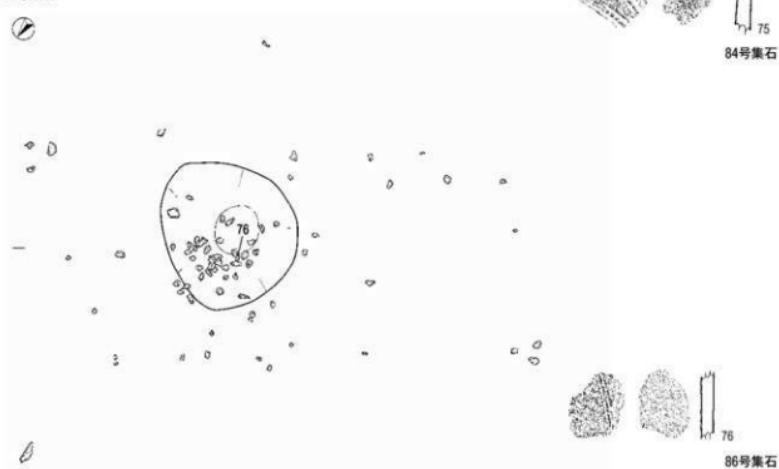
83号集石



84号集石



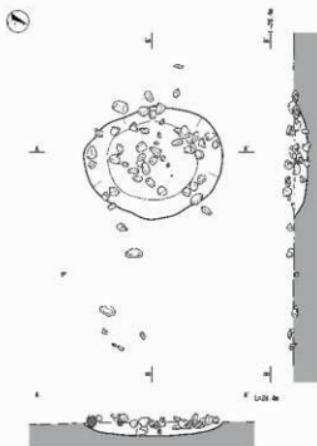
86号集石



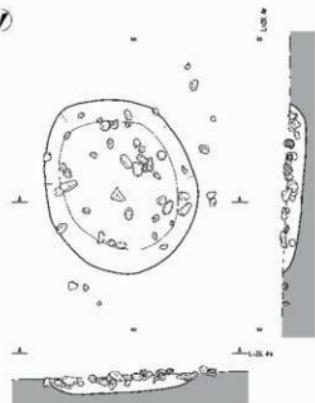
①黑褐色土

第66図 83, 84, 86号集石・84, 86号集石出土遺物

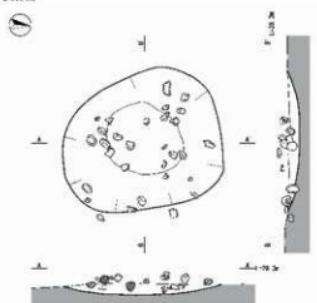
88号集石



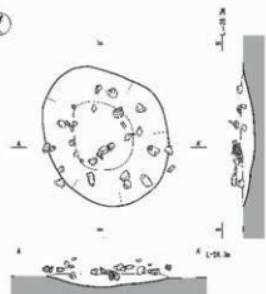
89号集石



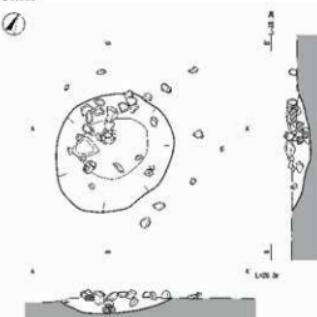
90号集石



91号集石



92号集石



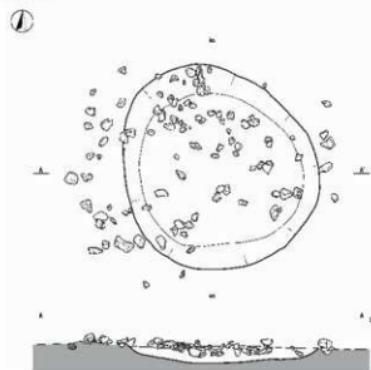
91号集石

遺物 (1:3) 10cm

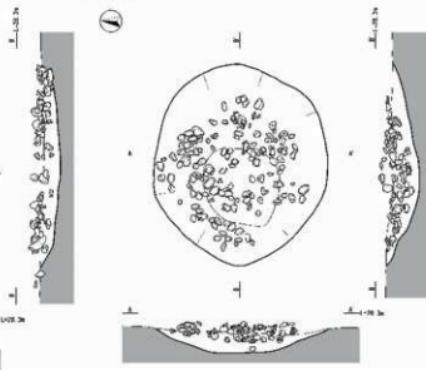
遺構 (1:30)

第67図 88, 89, 90, 91, 92号集石・91号集石出土遺物

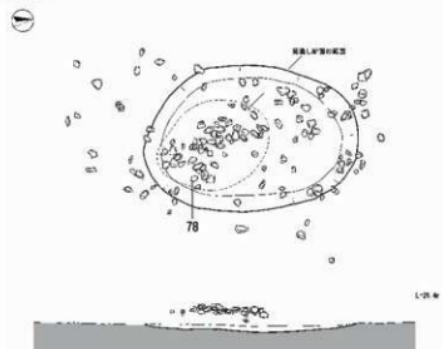
93号集石



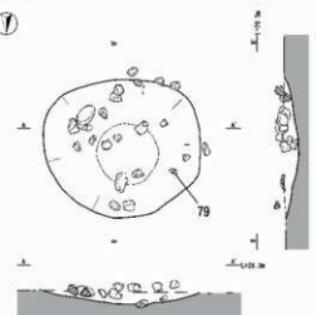
95号集石



94号集石



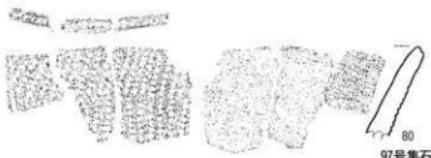
96号集石



94号集石

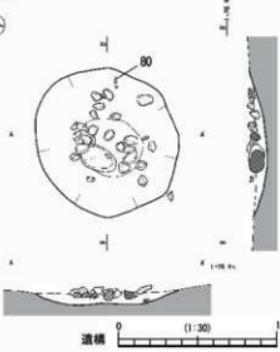


96号集石

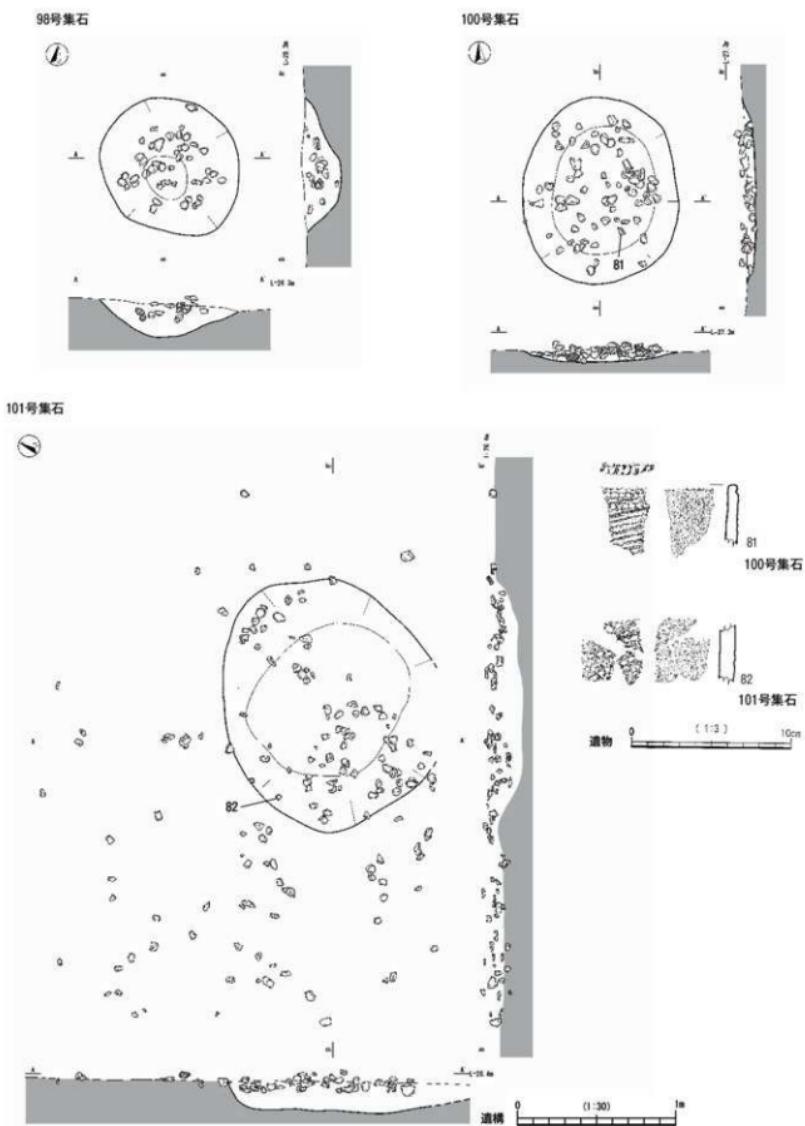


遺物 (1:13) 10cm

97号集石



第68図 93, 94, 95, 96, 97号集石・94, 96, 97号集石出土遺物



第69図 98, 100, 101号集石・100, 101号集石出土遺物

106号集石



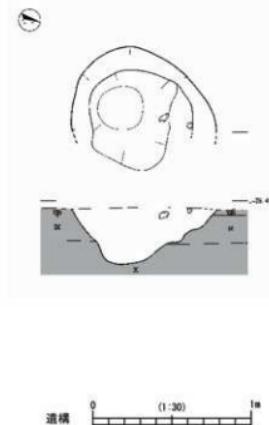
第70図 106号集石

材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため同化は困難であった。

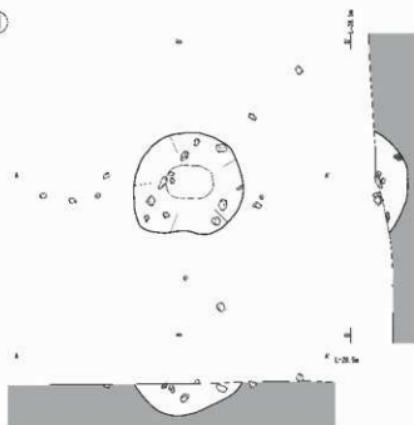
118号集石（第74図）

D-33区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかったが、礫下面と検出面との差5cm程度の掘り

104号集石



107号集石



第71図 104, 107号集石

込みがあった可能性も考えられる。礫は、1m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数30点で、大きめの礫を床面に配置し、その上に5~6cm大の砂岩破片礫、凝灰岩亜円礫が集まっている。石材は砂岩が多い傾向にある。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は石皿片が1点出土している。

#### 120号集石（第74図）

B-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、礫は、破碎礫を中心。礫は掘り込みの北側に集まっている箇所もあるが、全体的に散在状態であった。床面に2~3点の礫が落ち込んでいる。構成礫は、総数30点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

#### 121号集石（第74図）

B-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×65cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数39点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 122号集石（第74図）

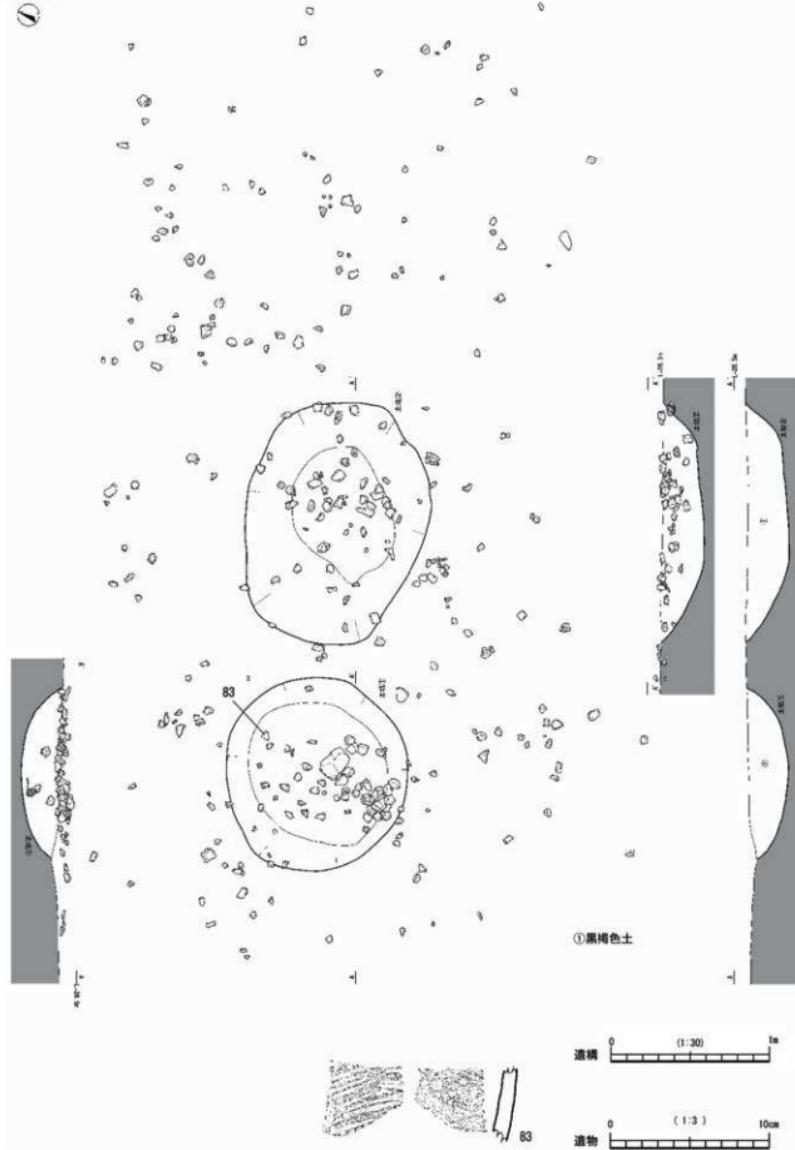
A-34区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、半分が調査区外へ延びているため形状はわからないが、楕円形プランとなる可能性が想定された。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数75点で、砂岩が圧倒的に多い。集石内遺物は確認できなかった。

#### 123号集石（第75図）

B-34区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×65cmの楕円形プランで、北側がわずかに2段掘りとなる。礫は、この土坑部分には集中し、床面より若干上位でまとまる。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

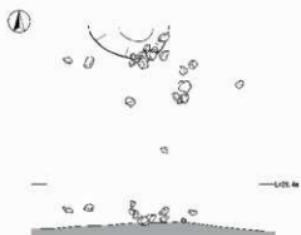
#### 124号集石（第75図）

C-34区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×60cmの円形プランで、断面形状がすり鉢状を呈する。礫は、土坑周辺にも広がる。構成礫は、総数67点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

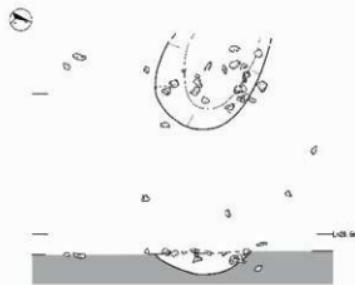


第72図 108号集石・出土遺物

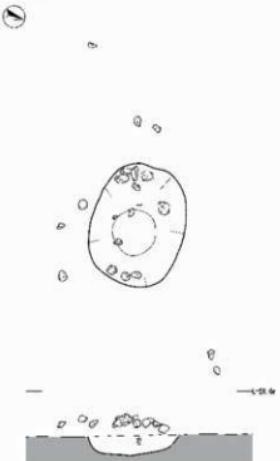
109号集石



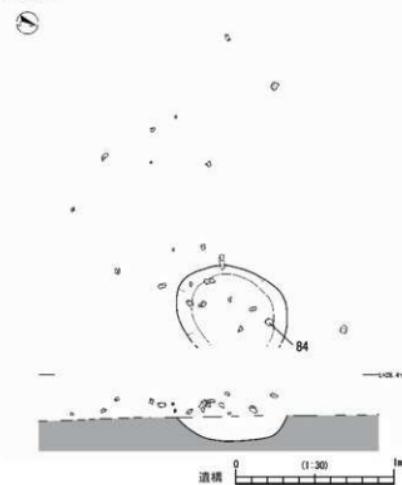
110号集石



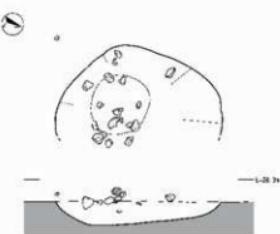
113号集石



114号集石

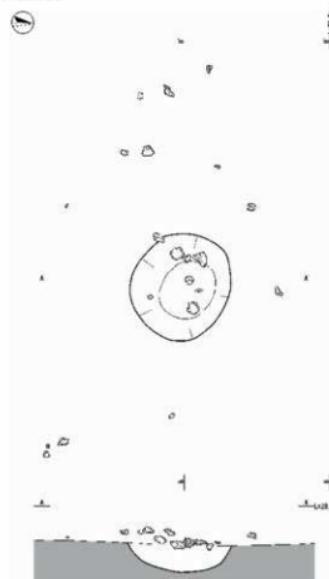


115号集石

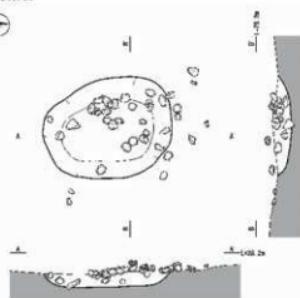


第73図 109, 110, 113, 114, 115号集石・114号集石出土遺物

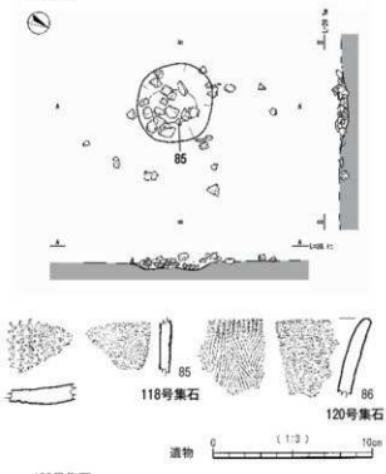
117号集石



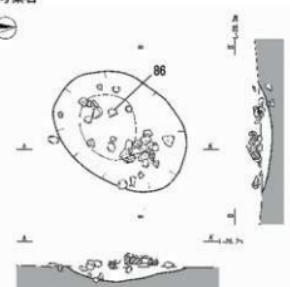
121号集石



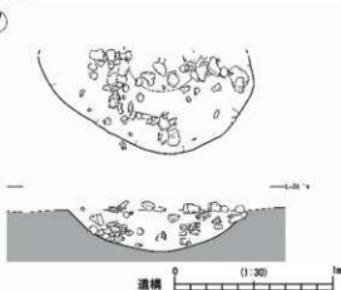
118号集石



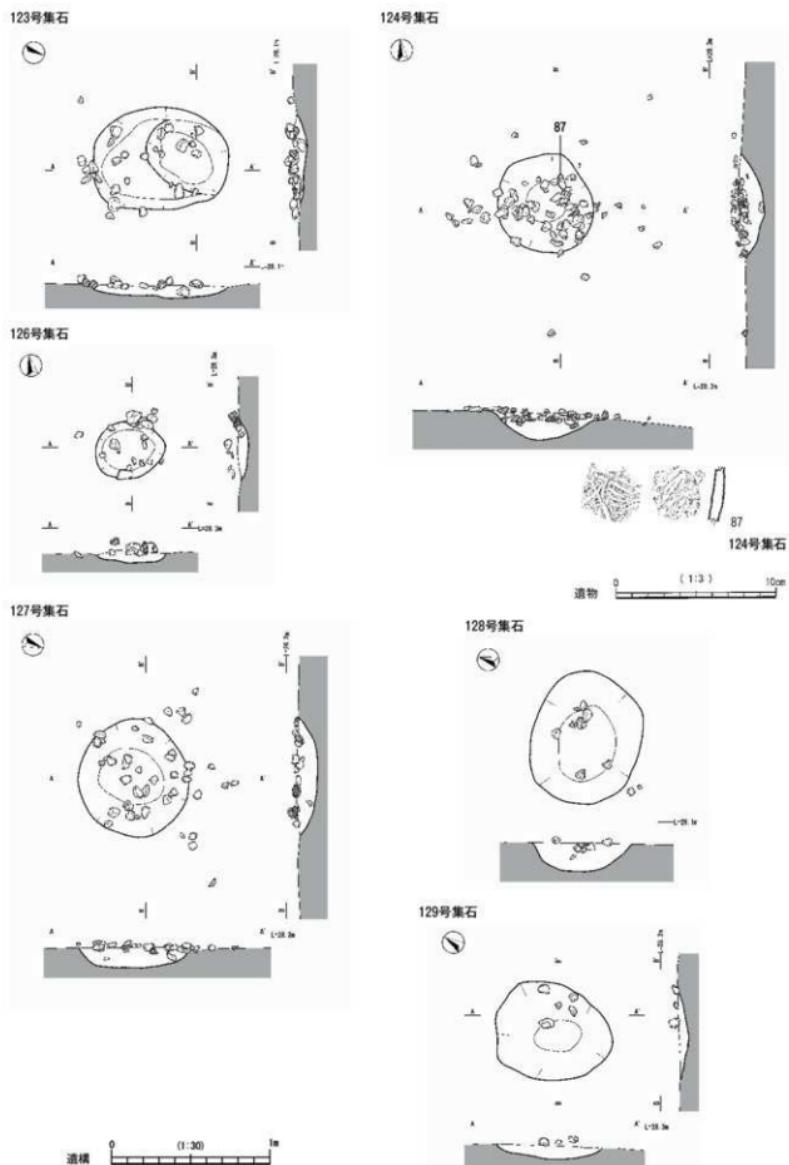
120号集石



122号集石

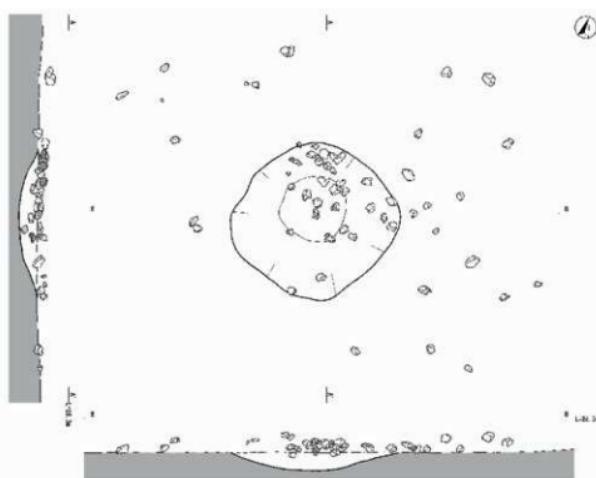


第74図 117, 118, 120, 121, 122号集石・118, 120号集石出土遺物

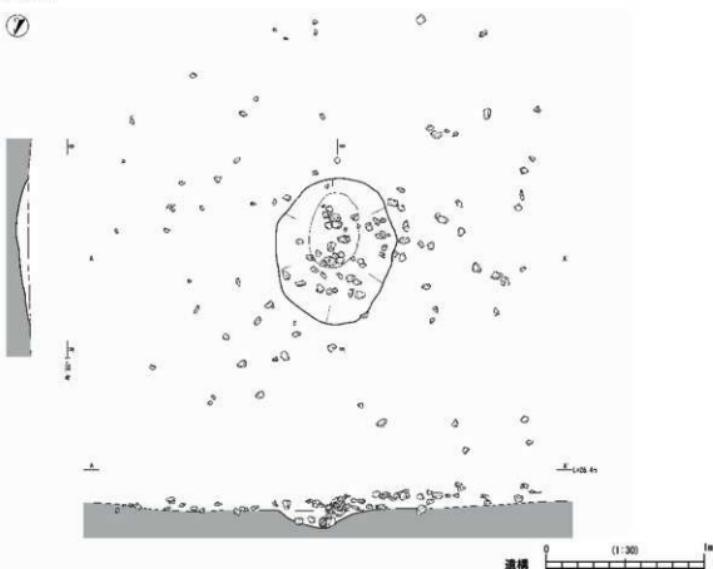


第75図 123, 124, 126, 127, 128, 129号集石・124号集石出土遺物

133号集石

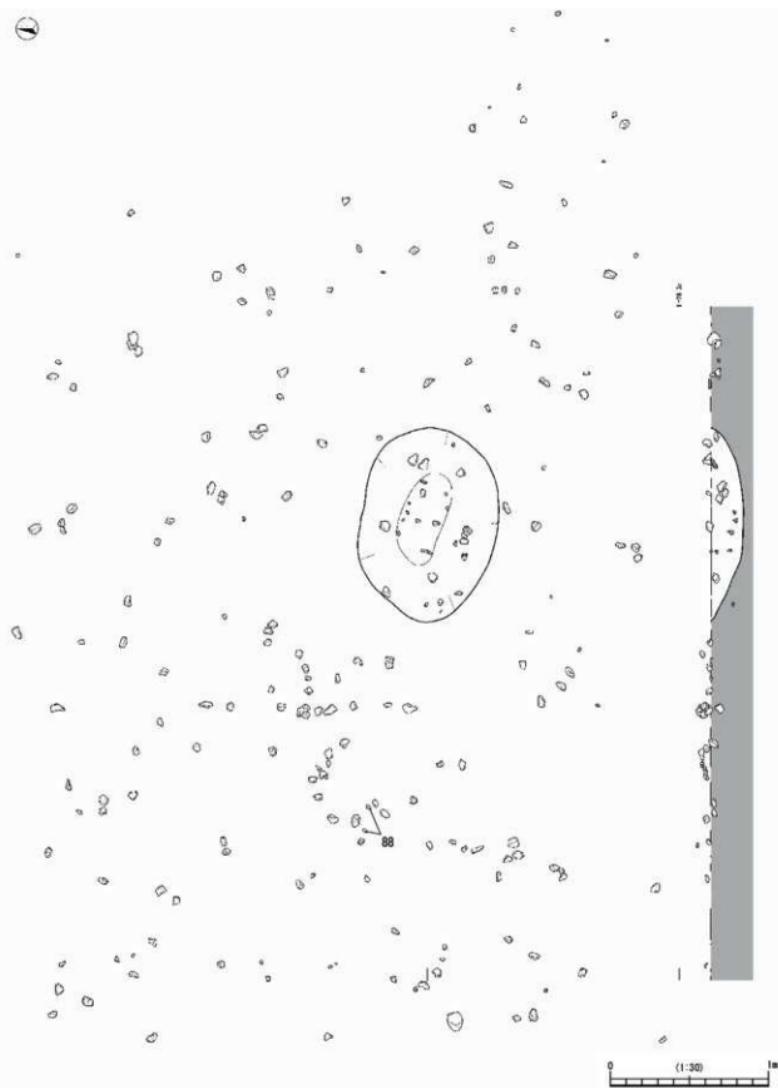


134号集石

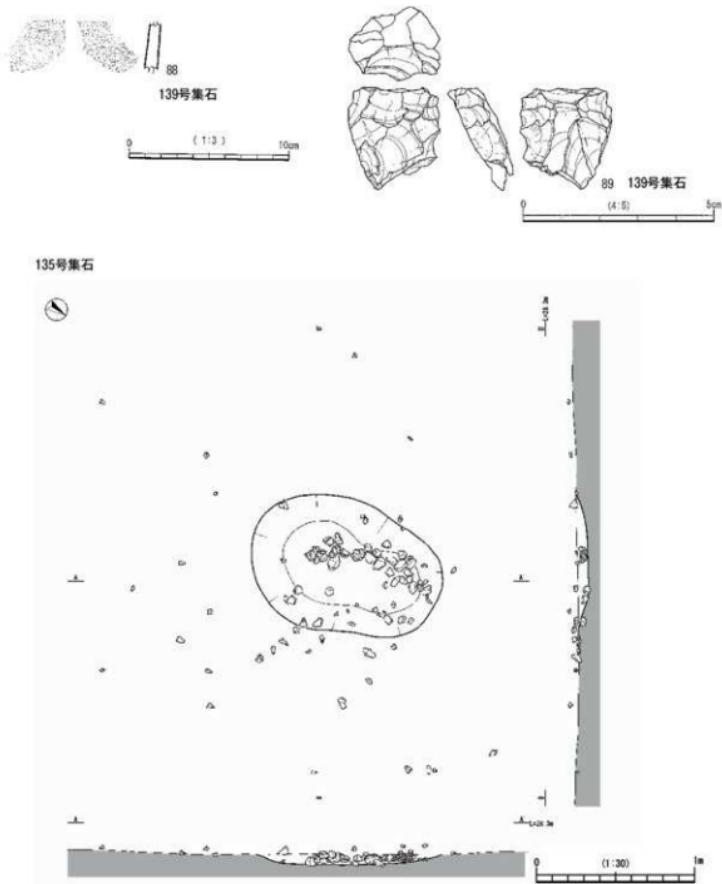


第76図 133, 134号集石

(1)



第77図 139号集石



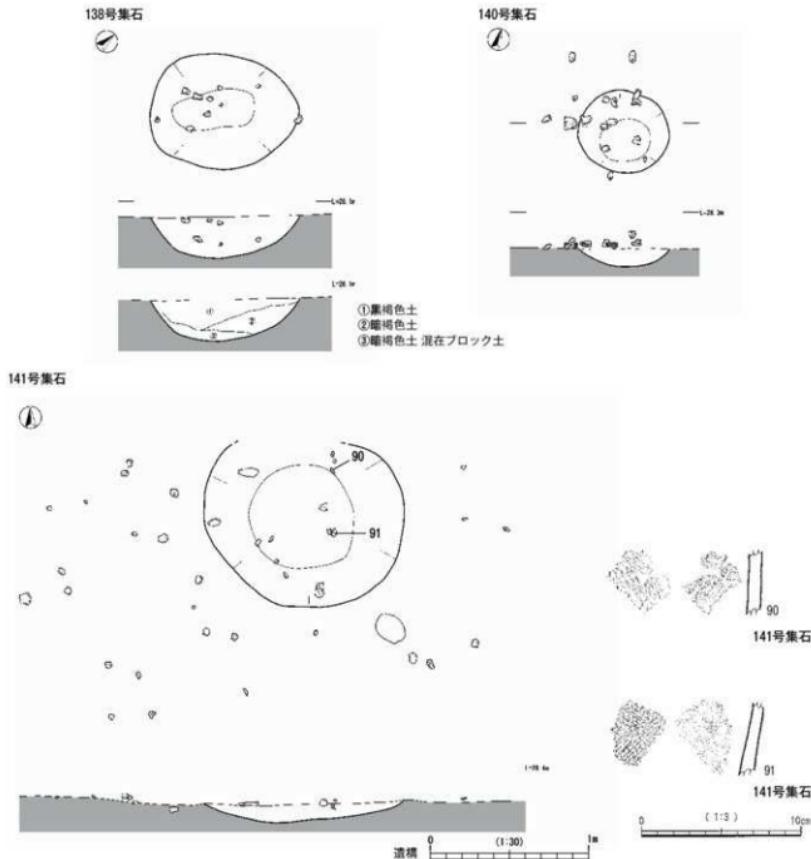
第78図 135号集石・139号集石出土遺物

#### 126号集石（第75図）

D-34区Ⅷb層で検出した。縄の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、45cm×40cmの略円形プランで、縄は、土坑上面にはば集中する。構成縄は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため固化は困難であった。

#### 127号集石（第75図）

D-34区Ⅷb層で検出した。縄の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、縄は、1.5m×1mの範囲に広がる。構成縄は、総数41点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため固化は困難であった。



第79図 138, 140, 141号集石・141号集石出土遺物

#### 128号集石（第75図）

E・F-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×70cmの楕円形プランで、礫は、総数16点確認できた。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 129号集石（第75図）

E・F-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×60cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、小片も含め総数11点で、

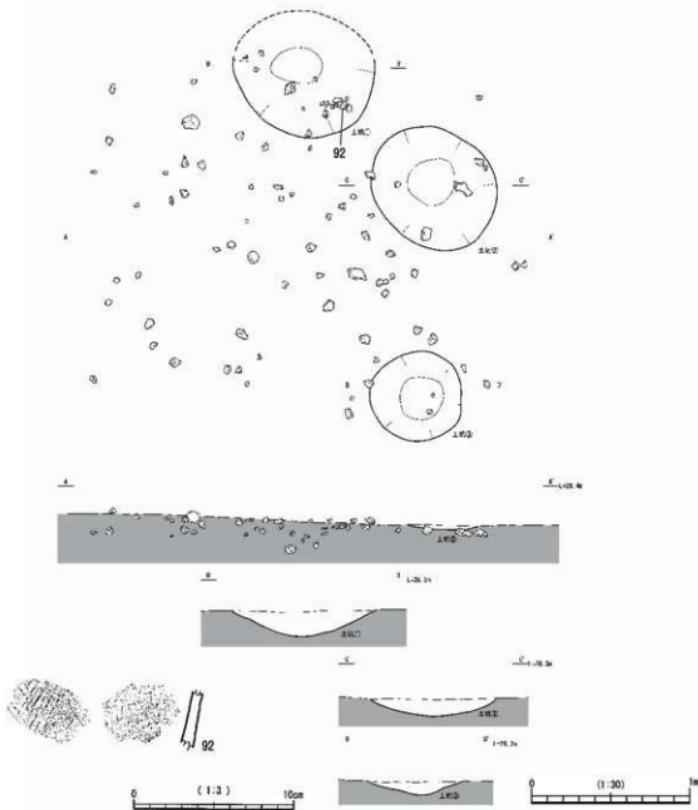
石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 133号集石（第76図）

E・F-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの略円形プランで、礫は、3m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数55点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。56号連穴土坑を切っている。

## 142号集石

①



第80図 142号集石・出土遺物

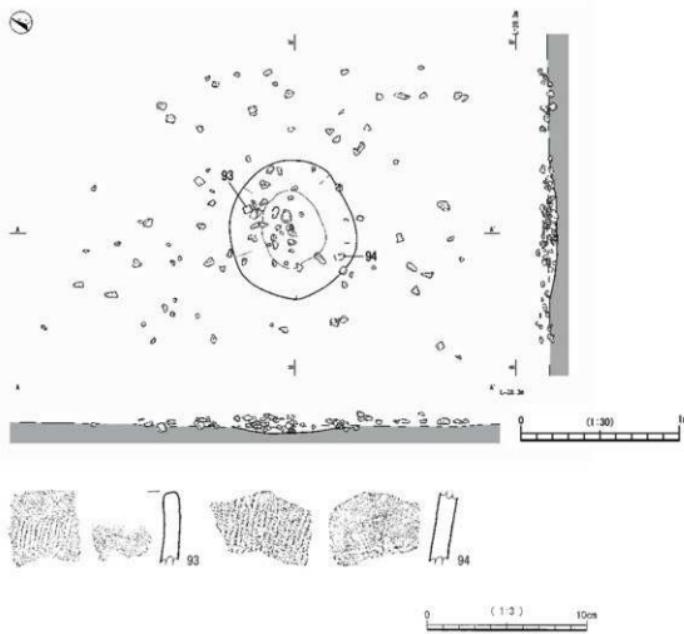
## 134号集石（第76図）

F-34・35区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、礫は、土坑周辺3mの範囲に広がる。構成礫は、総数125点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石片1点である。

## 139号集石（第77・78図）

G-33・34区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×85cmの楕円形プランで、礫は、6m四方に広がる。構成礫は、総数171点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点、石器1点で、これを固化した。89は石核である。

## 143号集石



第81図 143号集石・出土遺物

## 135号集石（第78図）

F-33・34区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×85cmの楕円形プランで、検出面から底面までが浅い。礫は、土坑内を中心にして3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数91点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 138号集石（第79図）

F-34区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にはほぼ収まり、総数22点確認した。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 140号集石（第79図）

G-35区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×55cmの略円形プランで、礫は、土坑周辺80cmの範囲に広がる。礫は、土坑内からは

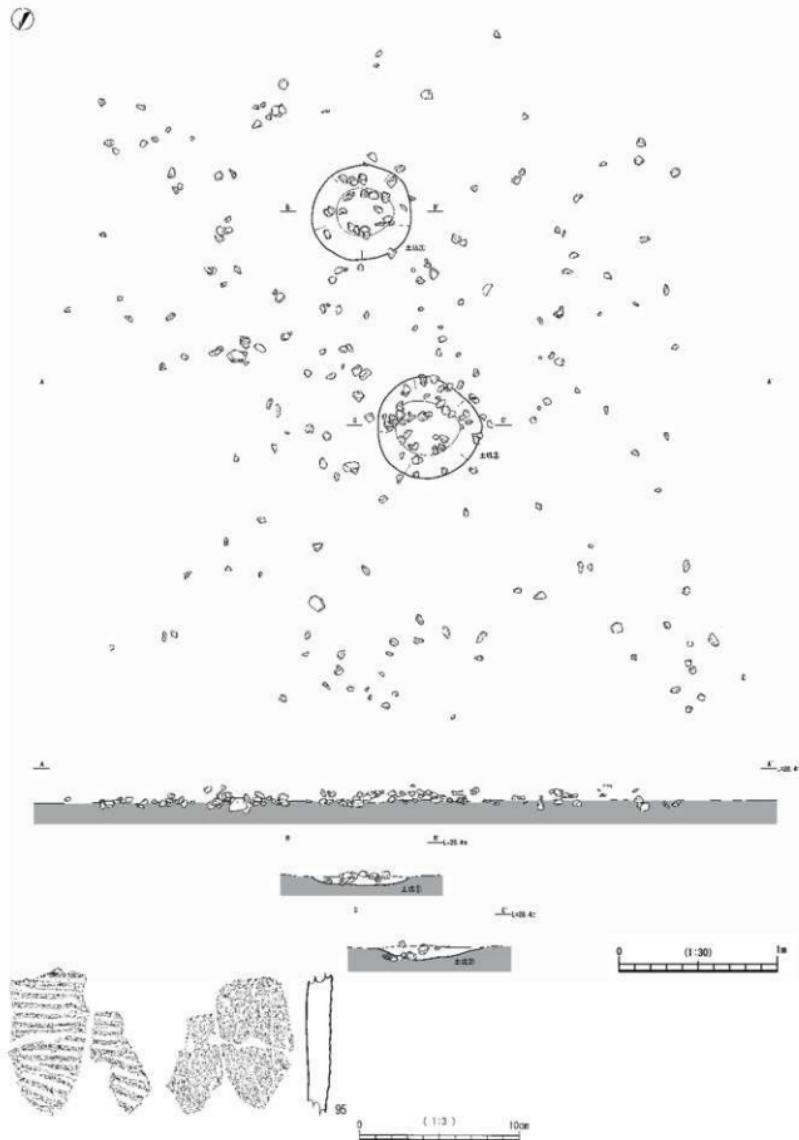
ほとんど出土せず、土坑検出面に散在する。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 141号集石（第79図）

G-35区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、一部が調査区域の壁面により未調査であるが、130cm×115cmの略円形プランで、浅いすり鉢状の断面を呈する。礫は、3m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数25点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器2点を図化した。

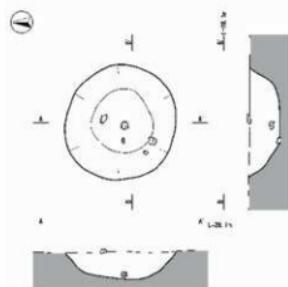
## 142号集石（第80図）

G-35区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に3基の土坑も確認された。土坑は、いずれも円形ないし略円形プランで、土坑①は長軸90cm、土坑②は85cm×70cm、土

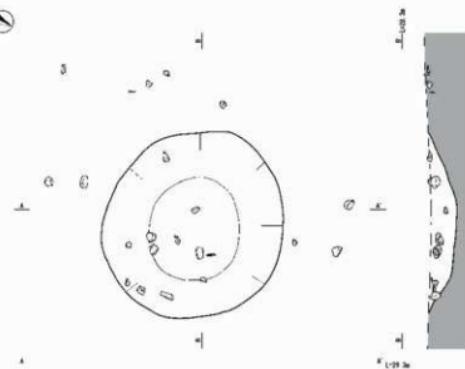


第82図 145号集石・出土遺物

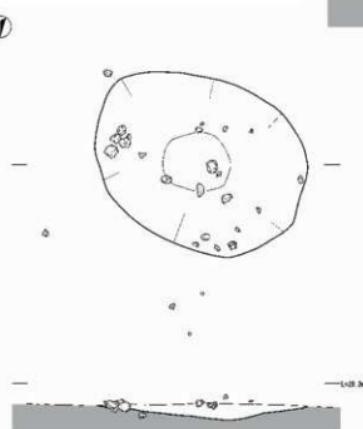
149号集石



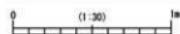
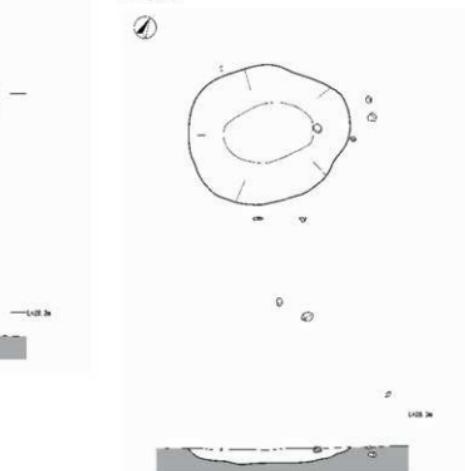
151号集石



152号集石

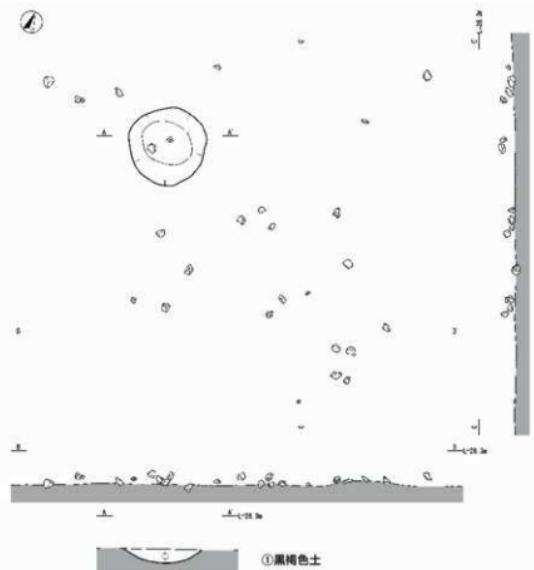


156号集石

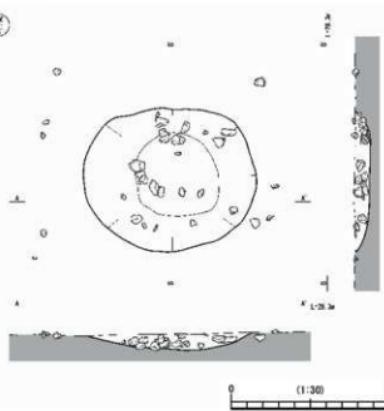


第83図 149, 151, 152, 156号集石

157号集石



158号集石



第84図 157, 158号集石

坑③は60cm×55cmで、いずれも断面が浅いすり鉢状を呈する。礫は、土坑内から出土するものは少なく、土坑外が多く3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数68点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

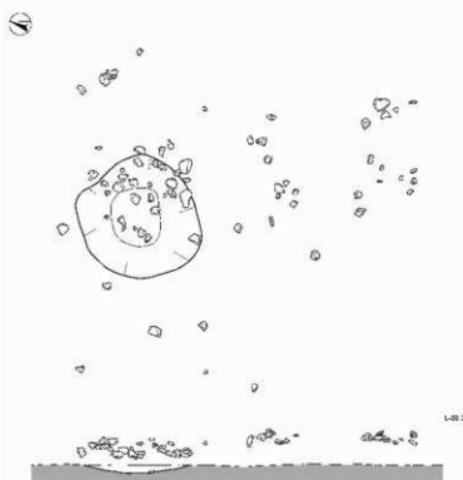
143号集石（第81図）

F-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、3m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数93点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、これを図化した。

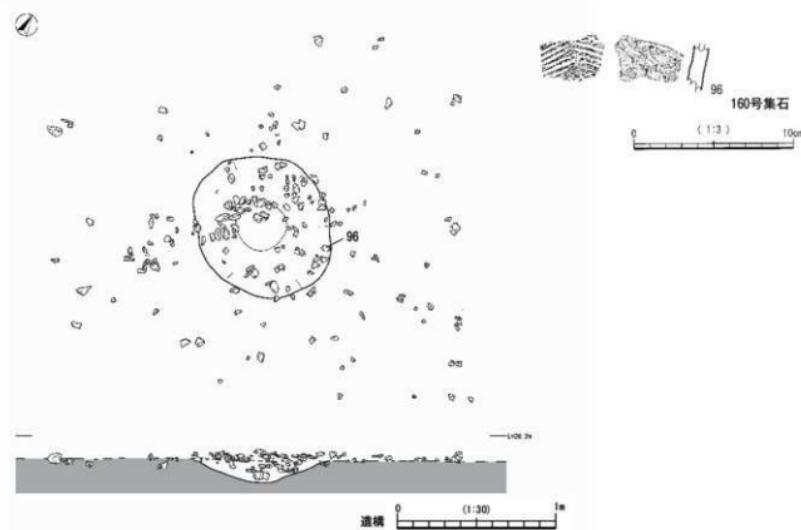
145号集石（第82図）

F-35区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基が隣接し、いずれも60cm×60cm程度の円形プランである。礫は、5.5m×5mの範囲に広がる。構成礫は、総数223点で、土坑内にも比較的多い。石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。

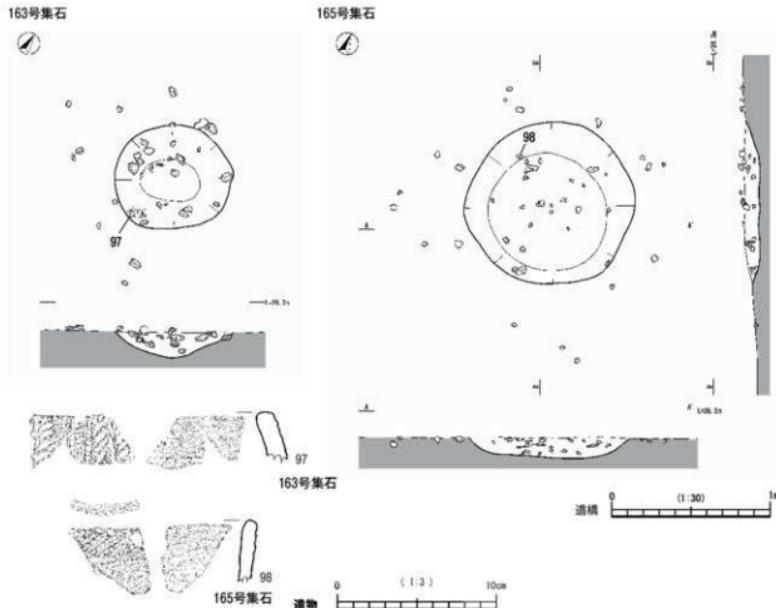
159号集石



160号集石



第85図 159, 160号集石・160号集石出土遺物



第86図 163, 165号集石・出土遺物

#### 149号集石（第83図）

F-35区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、土坑内に総数4点確認された。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

#### 151号集石（第83図）

E・F-35区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×115cmの円形プランで、礫は、2.2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点、石器1点で、石器は磨石片1点である。小破片のため図化には至らなかった。

#### 152号集石（第83図）

E-35区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×105cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数22点で、

石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したもののは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

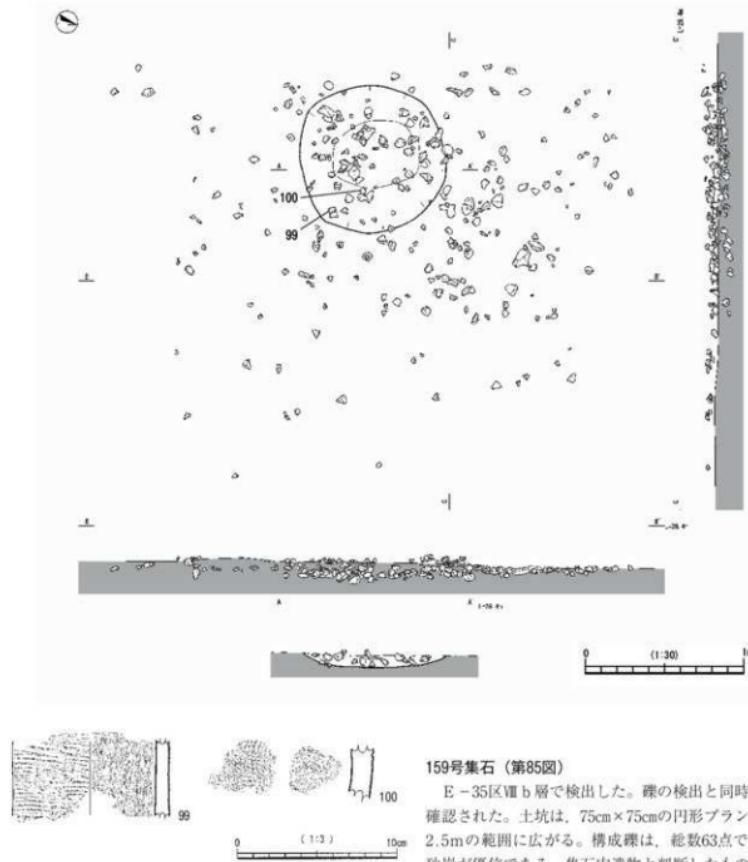
#### 156号集石（第83図）

E-35区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、1.7m×1.2mの範囲に散在する。構成礫は、総数3点で、石材は凝灰岩のみである。集石内遺物は確認できなかった。

#### 157号集石（第84図）

E-35区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm程度の円形プランで、礫は、土坑外を中心2.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

166号集石



第87図 166号集石・出土遺物

158号集石（第84図）

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×90cmの楕円形プランで、礫は、土坑プラン外50cm程度まで広がるが、土坑内の礫は比較的まとまっている。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

159号集石（第85図）

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数63点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

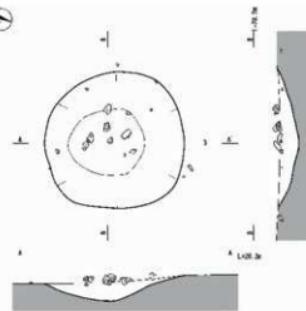
160号集石（第85図）

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数157点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点、石器1点で、このうち土器1点が図化した。いずれも小破片である。石器は調片1点が出土している。

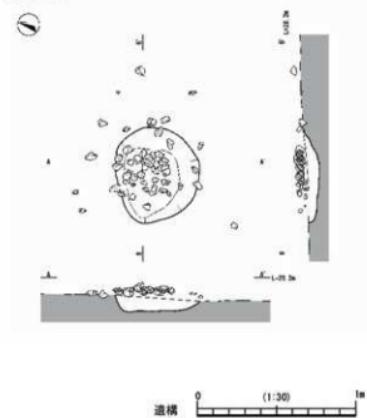
167号集石



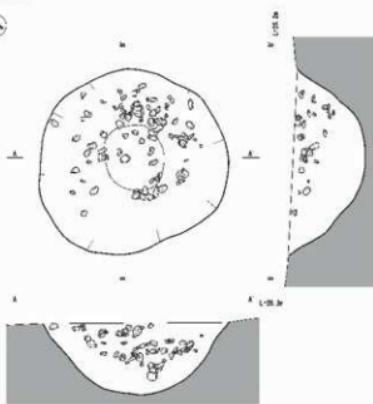
171号集石



172号集石



173号集石



第88図 167, 171, 172, 173号集石

163号集石（第86図）

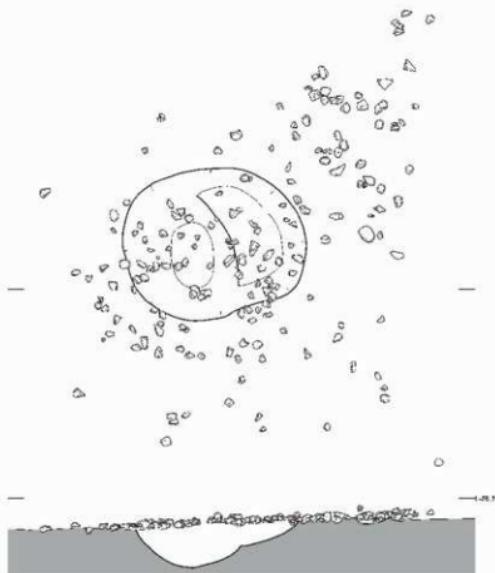
E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×65cmの略円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、1.3m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数30点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

165号集石（第86図）

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、礫は、2m×2mの範囲に広がる。土坑内の礫はあまりまとまりがなく散在し、総数34点を確認した。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

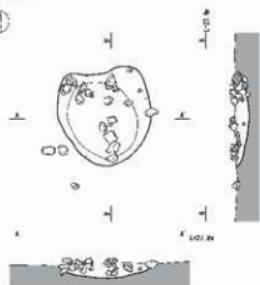
174号集石

①



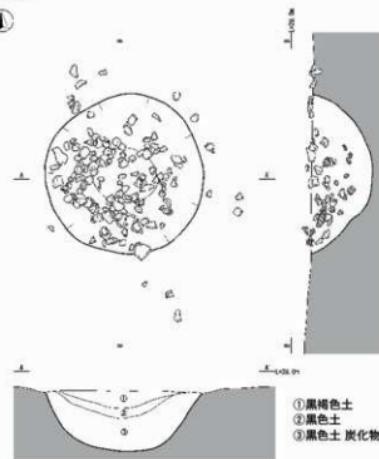
175号集石

①



178号集石

①

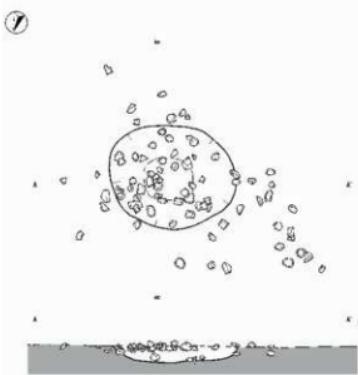


遺構  
1:30

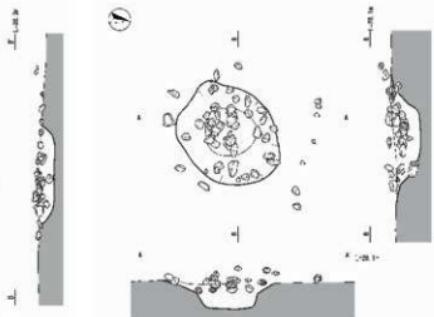
- ①黒褐色土
- ②黒色土
- ③黒色土 塵化物多く含む

第89図 174, 175, 178号集石・出土遺物

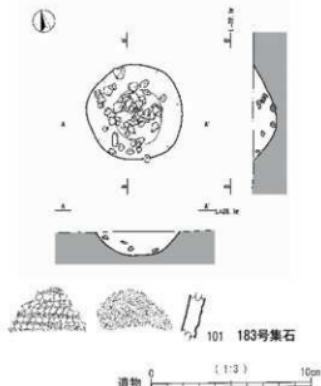
179号集石



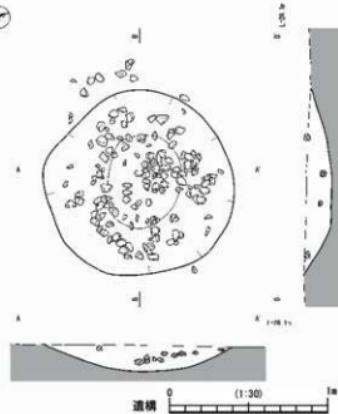
180号集石



183号集石



185号集石



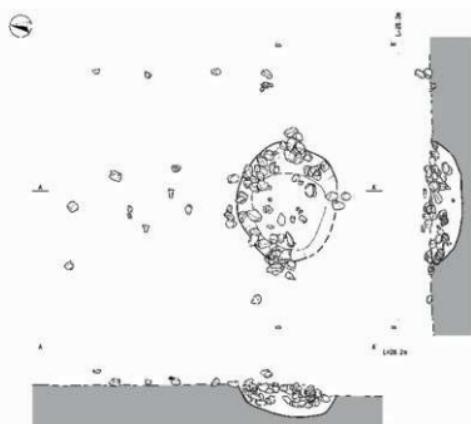
188号集石

**166号集石（第87図）**

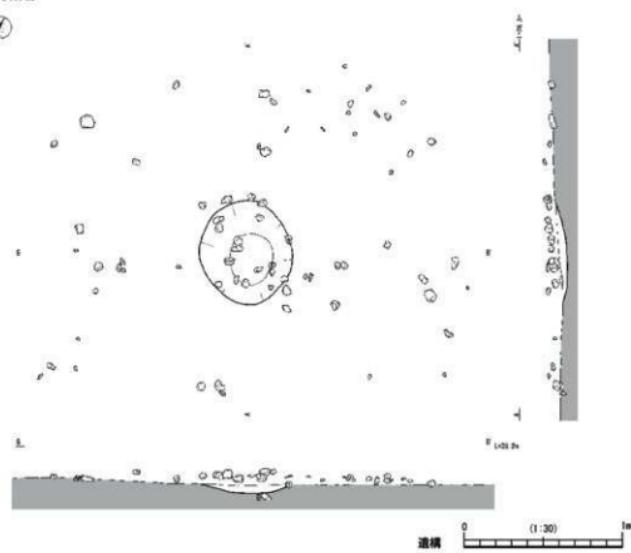
E -35区毘b層で検出した。環の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×95cmの円形プランで、環は、3mの範囲に広がる。構成環は、総数237点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器2点を図化した。

第90図 179, 180, 183, 185, 188号集石・183号集石出土遺物

189号集石

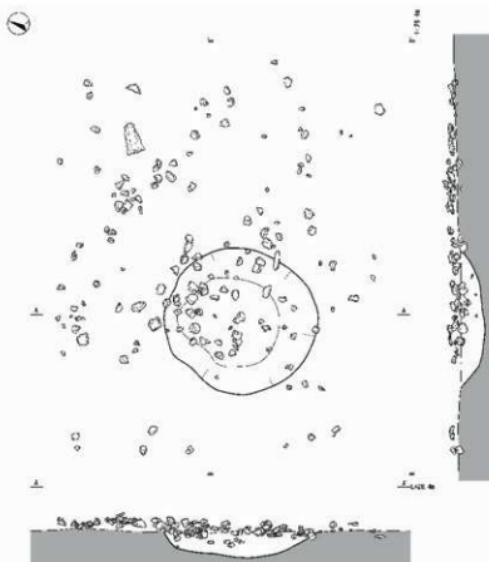


190号集石

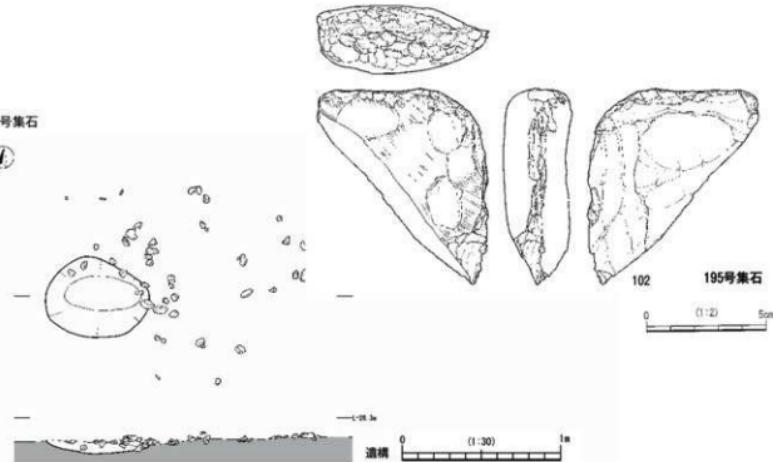


第91図 189, 190号集石

195号集石



197号集石

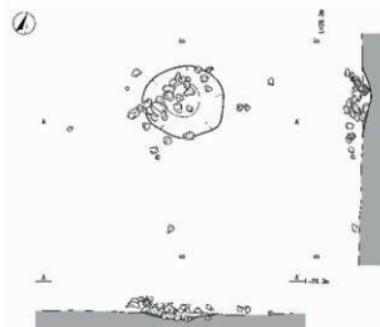


第92図 195, 197号集石・195号集石出土遺物

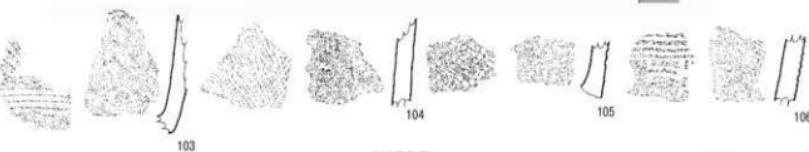
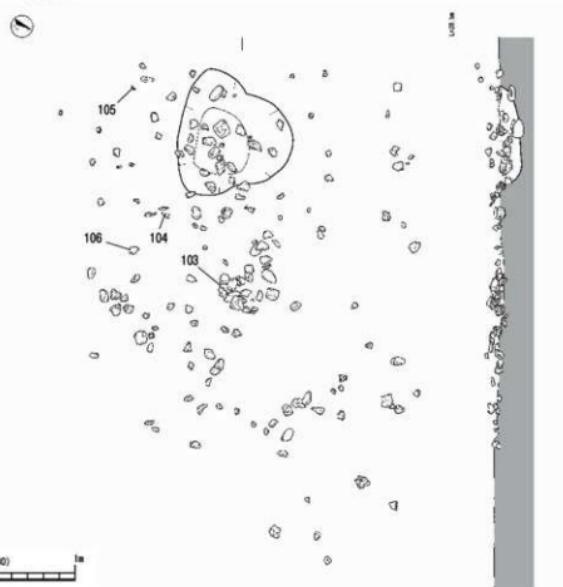
198号集石



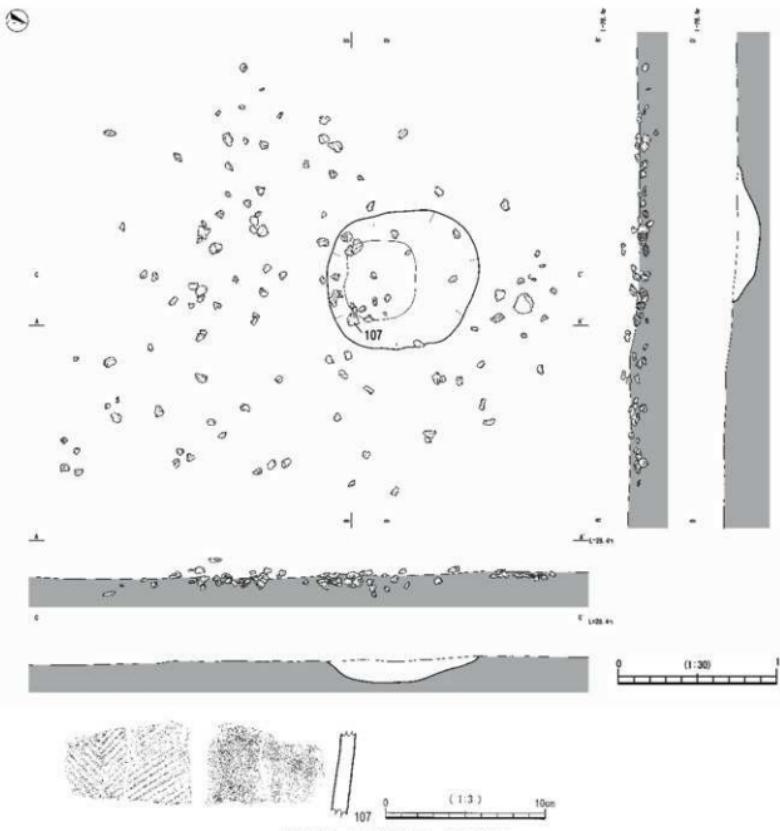
202号集石



200号集石



第93図 198, 200, 202号集石・200号集石出土遺物



第94図 206号集石・出土遺物

## 167号集石（第88図）

E-35区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、浅いすり鉢状を呈する。礫は、2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数29点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 171号集石（第88図）

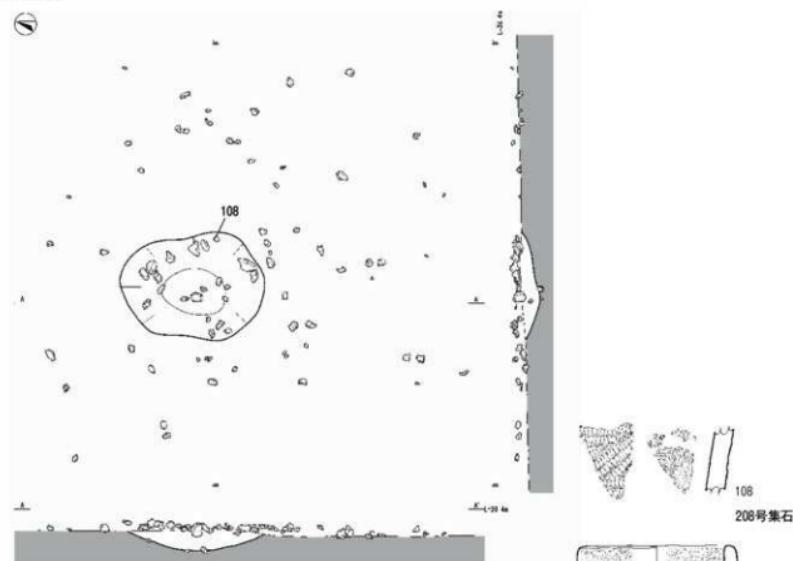
C-35区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×90cmの円形プランで、礫は、

わずかに土坑外からも出土したが、土坑上面に収まる。構成礫は、総数18点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

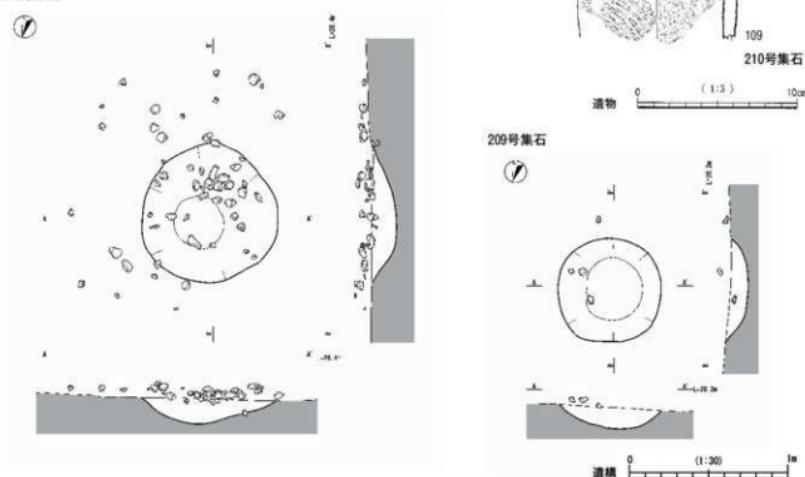
## 172号集石（第88図）

C-35区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×55cmの略円形プランで、礫は、土坑上面を中心にして、1.2m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数57点で、土坑内からはほとんど出土しな

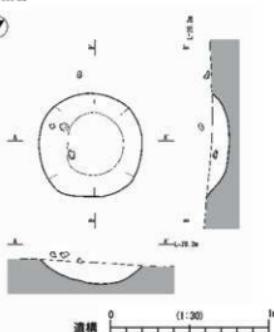
208号集石



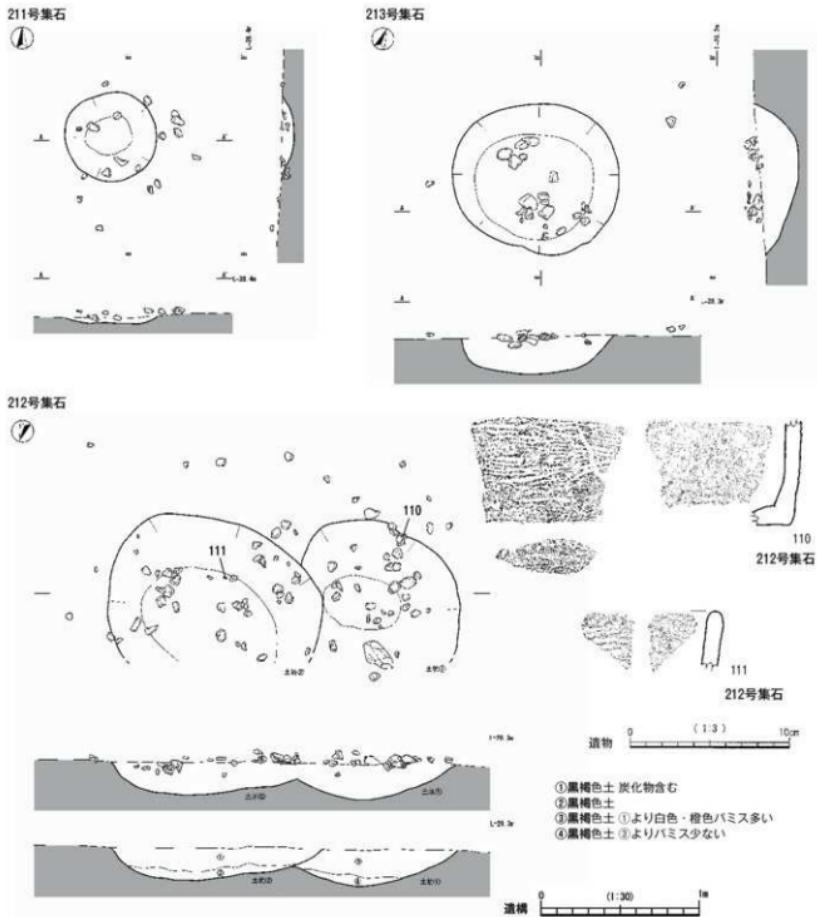
210号集石



209号集石



第95図 208, 209, 210号集石・208, 210号集石出土遺物



第96図 211, 212, 213号集石・212号集石出土遺物

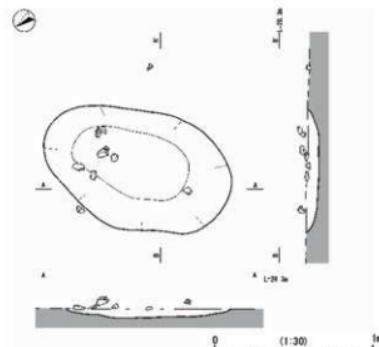
い。石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 173号集石（第88図）

B-35・36区Ⅷa層上面で検出できた集石。検出面、埋土、形態、疊の種類からみて、他の集石より時期が新

しいと考える。疊の検出とともに土坑も確認された。土坑は、120cm×110cmの略円形プランで、検出面から底面まで45cmを測り、検出された集石の中では深い掘り込みを有する疊は、土坑内に収まる。構成疊は、総数96点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 214号集石



第97図 214号集石

#### 174号集石（第89図）

B-35区Ⅷa層で検出した。礫の検出の後に土坑も確認された。土坑は、 $115\text{cm} \times 95\text{cm}$ の楕円形プランで、東側にステップ状の段を有する。礫は、この土坑検出面で $3.5\text{m} \times 3\text{m}$ の範囲に広がる。構成礫は、総数196点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 175号集石（第89図）

B-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $60\text{cm} \times 60\text{cm}$ の円形プランで、礫は、土坑外 $20\text{cm}$ の位置に散在しているものも見られた。構成礫は、総数27点で、石材は凝灰岩が優位である。礫の周囲には、極小の炭化物が見られた。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 178号集石（第89図）

B-36区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $105\text{cm} \times 100\text{cm}$ の円形プランで、検出面から底面までが $40\text{cm}$ と深い。埋土は、3層に細分が出来た。礫は、土坑周辺にもわずかに広がる。構成礫は、総数203点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石皿片1点が出土している。

#### 179号集石（第90図）

B-36区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $80\text{cm} \times 65\text{cm}$ の楕円形プランで、礫は、土坑上面を中心 $2\text{m} \times 1\text{m}$ の範囲に広がる。構成

礫は、総数78点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 180号集石（第90図）

B-C-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $70\text{cm} \times 55\text{cm}$ の楕円形プランで、礫は、 $1.2\text{m} \times 0.8\text{m}$ の範囲に広がる。構成礫は、総数57点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。85号土坑を切る。

#### 183号集石（第90図）

C-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $60\text{cm} \times 60\text{cm}$ の円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数61点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

#### 185号集石（第90図）

C-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $115\text{cm} \times 115\text{cm}$ の円形プランで、礫は、この土坑内にはほぼ収まるが、西側に若干広がる。隣接する集石と同一集石の可能性もある。構成礫は、総数153点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 188号集石（第90図）

D-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $50\text{cm} \times 40\text{cm}$ の略円形プランで、礫は、土坑周辺 $0.7\text{m}$ の範囲に広がる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 189号集石（第91図）

E-36区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $75\text{cm} \times 60\text{cm}$ の略円形プランで、礫は、 $1.7\text{m}$ の範囲に広がる。構成礫は、総数91点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

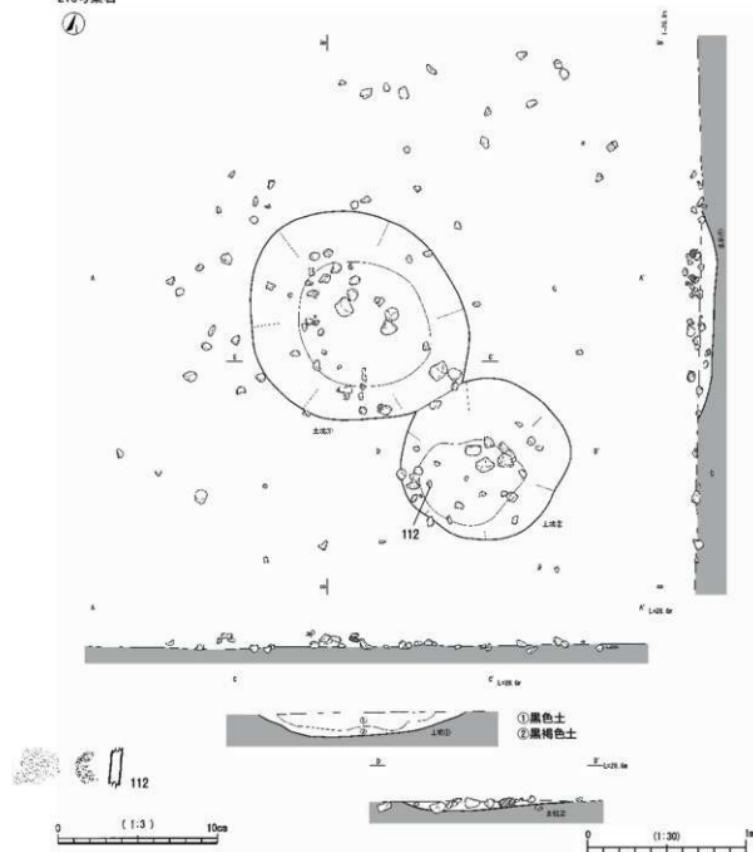
#### 190号集石（第91図）

E-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $65\text{cm} \times 60\text{cm}$ の円形プランで、礫は、 $3\text{m}$ 四方に広がる。構成礫は、総数61点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。

#### 195号集石（第92図）

E-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

## 216号集石



第98図 216号集石・出土遺物

確認された。土坑は、100cm×95cmの円形プランで、礫は、2.5m四方に広がる。構成礫は、総数104点で、石材はわずかに凝灰岩が優位で、花崗岩を含む。集石内遺物と判断したものは、土器5点であるが、小破片のため図化は困難であった。なお、周辺からは10種類土器の大きめの破片が出土している。石器は1点が出土し、これを図化した。102は磨製石斧の基部片である。

## 197号集石（第92図）

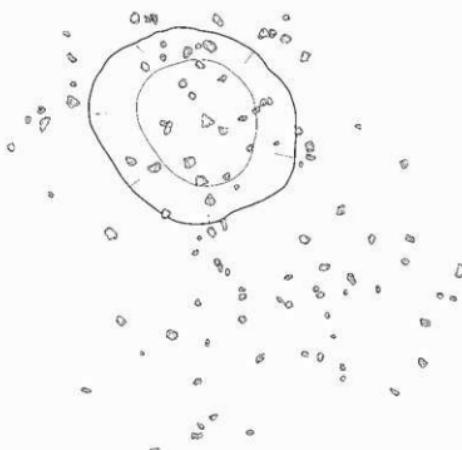
E-36区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×50cmの楕円形プランで、礫は、2m×1.3mの範囲に広がる。土坑内より土坑外の礫数が多い。構成礫は、総数40点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 198号集石（第93図）

E-35・36区Ⅶa層で検出した。散礫の検出と同時に

217号集石

①



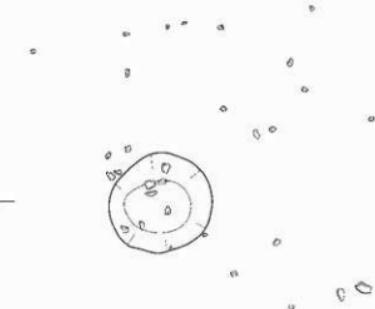
219号集石

①



① 黒褐色土  
② やや暗い黒褐色土

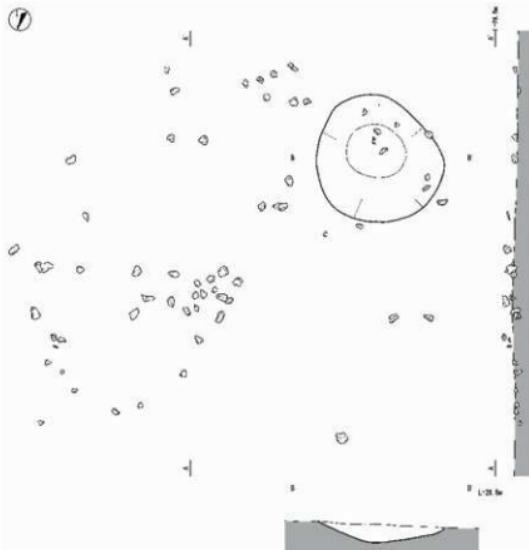
①



第99図 217, 219号集石

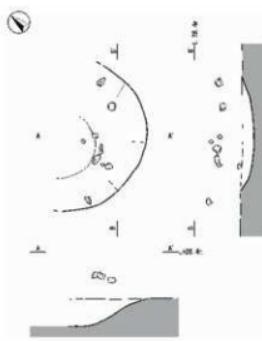
220号集石

⑦



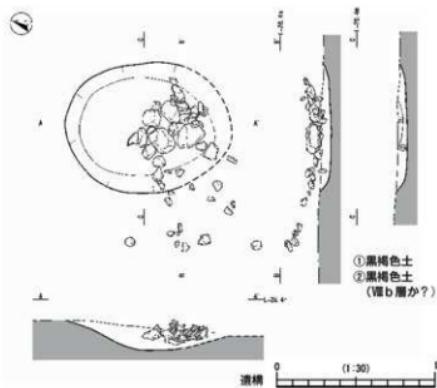
222号集石

⑧



225号集石

⑨

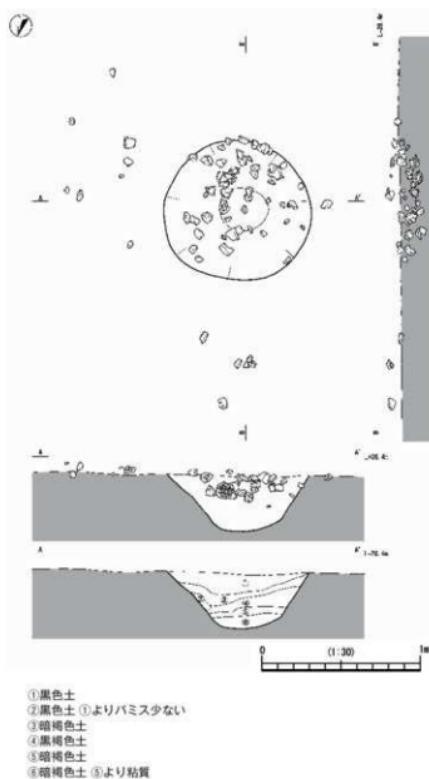


第100図 220, 222, 225号集石

土坑も確認され、一連の集石として調査した。土坑は、  
60cm×45cmの略円形プランで、検出面から底面までは浅  
い。疊は、土坑付近約50cm程度の距離に、総数3点確認

された。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 223号集石



第101図 223号集石

## 202号集石 (第93図)

E・F-36・37区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×45cmの円形プランで、礫は、土坑内にはばらまき。構成礫は、総数32点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

## 200号集石 (第93図)

E・F-36区Ⅸ層a層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、礫は、3m四方に広がる。構成礫は、総数109点で、石

材は砂岩が優位であり、わずかに花崗岩を含む。集石内遺物と判断したものは土器11点で、このうち土器4点を図化した。103と104は10類土器の特徴を有する。105は貝殻刺突文が羽状を呈していることから11類土器と思われ、106は、横位の貝殻条痕文の下位が無文であることから、14類土器の特徴を有する。

## 206号集石 (第94図)

F-36区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの略円形プランで、礫は、3m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数101点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。215号集石と接合関係にある。

## 208号集石 (第95図)

F-36区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの梢円形プランで、礫は、土坑内にはあまり見られず、土坑上面から周囲3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数57点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、これを図化した。

## 209号集石 (第95図)

F-36区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×65cmの円形プランで、礫は、総数3点と少ない。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 210号集石 (第95図)

F-36区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は、1.8m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

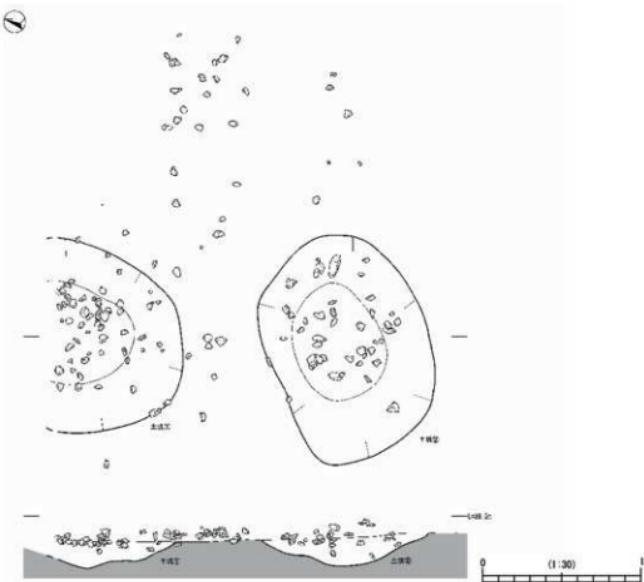
## 211号集石 (第96図)

F-36区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、58cm×55cmの略円形プランで、検出面から底面までが浅い。礫は、土坑周辺1mの範囲に広がる。構成礫は、総数21点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点と石器1点で石器は石皿片である。いずれも小破片のため図化は困難であった。

## 212号集石 (第96図)

F-36区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基が切り合って検出され、この

224号集石



第102図 224号集石

上面に礫が多く出土した。先行トレンチにより全体を検出できなかったが、 $130\text{cm} \times 120\text{cm}$ の梢円形プランの土坑が、 $120\text{cm}$ 程度の円形土坑を切っていると思われる。礫は、 $2.5\text{m} \times 1.5\text{m}$ の範囲に広がる。構成礫は、総数67点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器2点を図化した。

213号集石（第96図）

F - 36区Ⅴ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $105\text{cm} \times 95\text{cm}$ の略円形プランで、検出面から底面までが $25\text{cm}$ ある。礫の多くは、この土坑検出面に集中し、構成礫は、総数22点確認された。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

214号集石（第97図）

F - 36区Ⅴ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $120\text{cm} \times 75\text{cm}$ の梢円形プランで、検出面から底面までが浅い。礫は、この土坑検出面で総数10点を確認した。石材は凝灰岩のみである。集石内遺物は確認できなかった。

215号集石（第98図）

F - G - 36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基が接して検出され、現場で一連のものとして調査し図化していく。土坑①は $140\text{cm} \times 130\text{cm}$ の円形プランで、土坑②は $100\text{cm}$ の円形プランである。礫は、 $3\text{m}$ 四方の範囲に広がる。構成礫は、総数69点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は石皿片である。

217号集石（第99図）

G - 35 - 36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、 $130\text{cm} \times 120\text{cm}$ の略円形プランで、断面は浅いすり鉢状を呈する。礫は、 $3\text{m} \times 3\text{m}$ の範囲に広がる。構成礫は、総数82点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点、石器2点で、石器は2点とも石皿片であるが、小破片のため図化は困難であった。

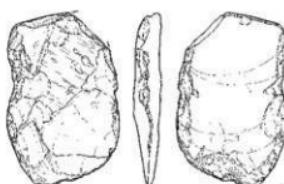
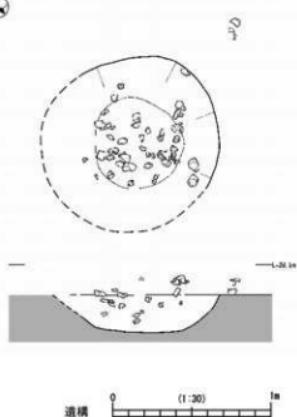
227号集石

①



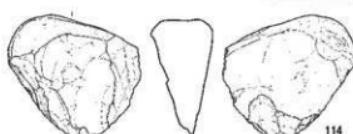
228号集石

②



113 227号集石

0 (1:2) 5cm

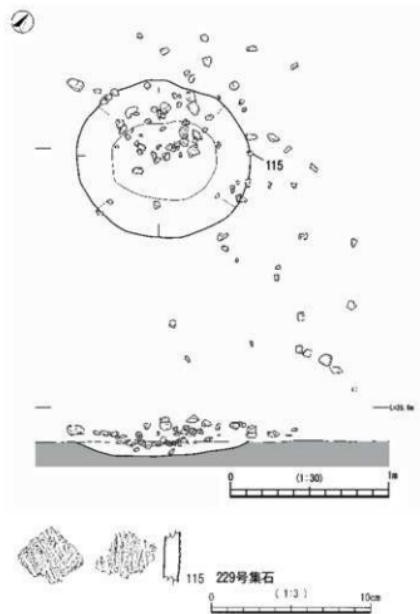


114 228号集石

0 (1:2) 10cm

第103図 227, 228号集石・出土遺物

### 229号集石



第104図 229号集石・出土遺物

### 219号集石 (第99図)

G - 36・37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランである。礫は、2.5m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数35点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 220号集石 (第100図)

G - 36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。北東側と南西側との2カ所のまとまりがあるが、1つの集石と現場で判断し図化している。土坑は、80cmの円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、3m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数55点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。

### 222号集石 (第100図)

G - 36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑のプランは、調査区外に延びておらずはっきりとしないが、概ね円形を呈すると思われる。礫は、この土坑上面に取まる。構成礫は、総数8点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。96号土坑に切られている。

### 225号集石 (第100図)

G - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、一部確認できなかったが、楕円形プランを呈すると思われる。礫は、比較的大型の礫が土坑内に多く、土坑外0.7m程度の範囲まで広がって出土している。構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 223号集石 (第101図)

G - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×90cmの円形プランで、検出面から底面までの深さが35cmを測る。礫は、この土坑内を中心として2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数62点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 224号集石 (第102図)

G - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基が隣接して検出され、このうちの1基は調査区外へと延びるため、プランは不明である。この土坑の約10cm下部からは、97号土坑が検出されている。もう1基は140cm×100cmの楕円形プランである。礫は、2.8m×2.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数125点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は3点出土し、内訳は剥片2点、磨石片1点である。

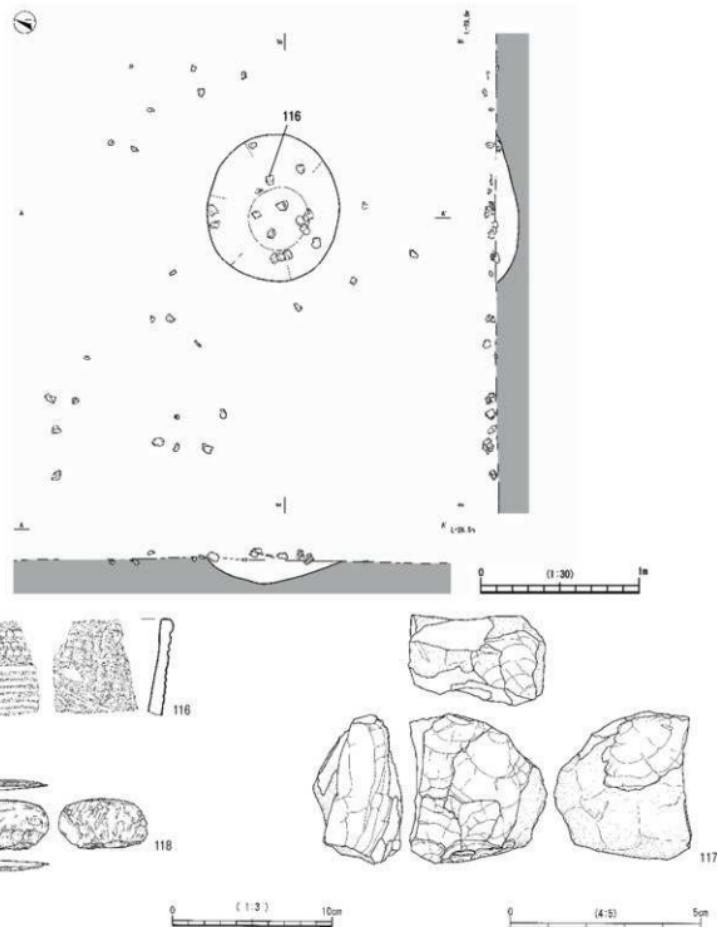
### 227号集石 (第103図)

G - 36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×105cmの略円形プランで、礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数164点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器1点で、これを図化した。113は、剥片礫を素材とする磨製石斧である。裏面に大きく剥離面が残る。

### 228号集石 (第103図)

F・G - 36・37・G - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検

## 230号集石



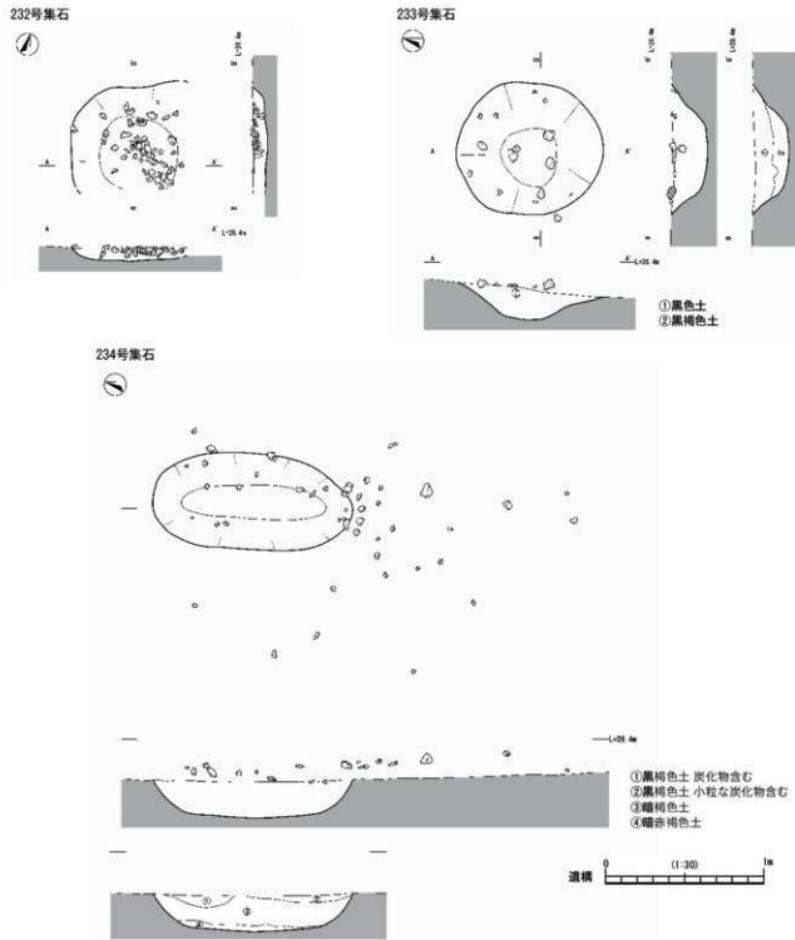
第105図 230号集石・出土遺物

出と同時に土坑も確認された。土坑は、先行トレンチにより全体を把握できなかったが、略円形プランを呈すると思われる。礫は、周辺にわずかながら出土したが、ほぼ土坑内に収まっており、構成礫は、总数51点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石

器1点で、これを図化した。114は逆三角形状の砾器として掲載した。

## 229号集石（第104図）

F-37区Ⅲb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も



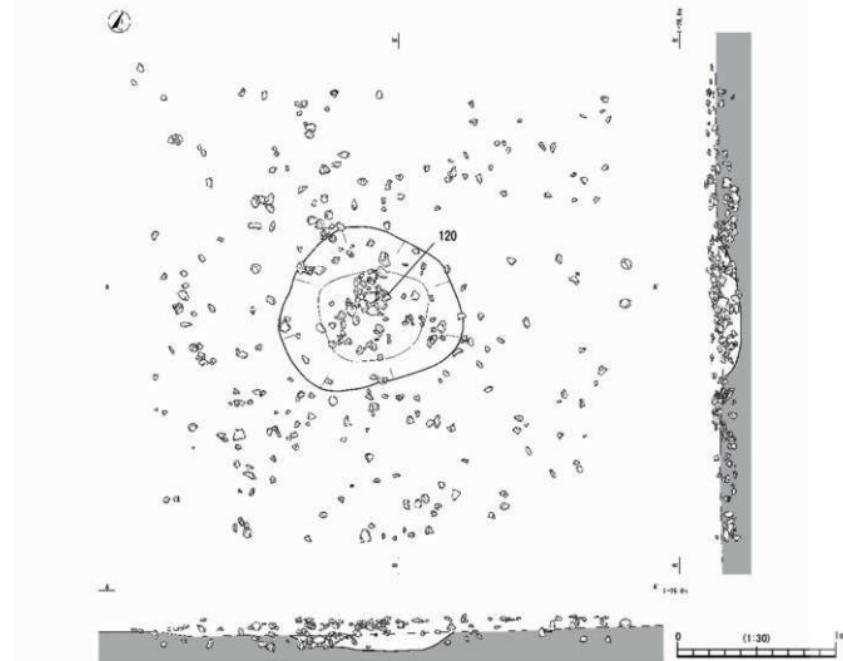
第106図 232, 233, 234号集石

確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランである。礫は、2.7m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数79点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

#### 230号集石（第105図）

F・G-37区Ⅵb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、断面は浅いすり鉢状を呈する。礫は、3m×2mの範囲に広がり、土坑内への密集は認められない。構成礫は、総数30点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判

236号集石



第107図 236号集石

断したものは、土器1点、石器2点で、このうち土器1点、石器2点を図化した。内訳は礫器1点と磨製石斧片1点である。116は、口縁部が直行し、口縁部に横位の貝殻条痕文を3条めぐらす。同部は、横位の貝殻条痕文である。117は石核である。118は当初石斧の調整剥片と認識していたが、剥離面等への加工痕などから礫器として掲載した。

232号集石（第106図）

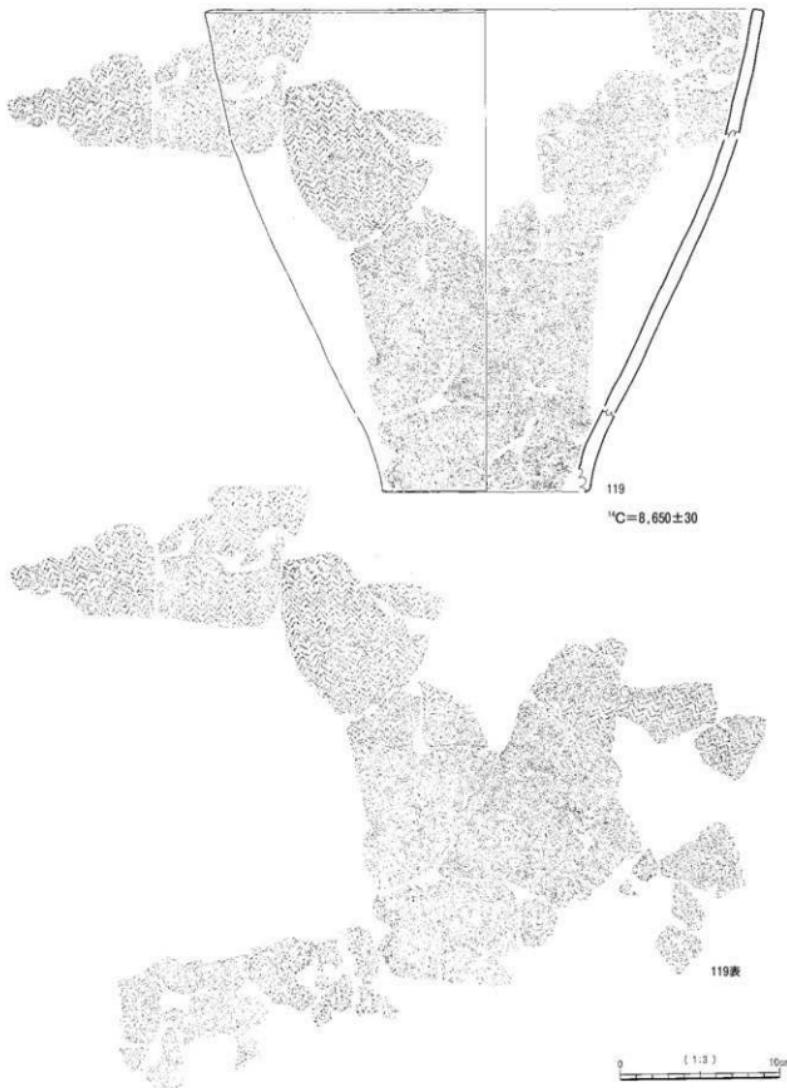
F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、先行トレンチにより一部が検出できなかった。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数47点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

233号集石（第106図）

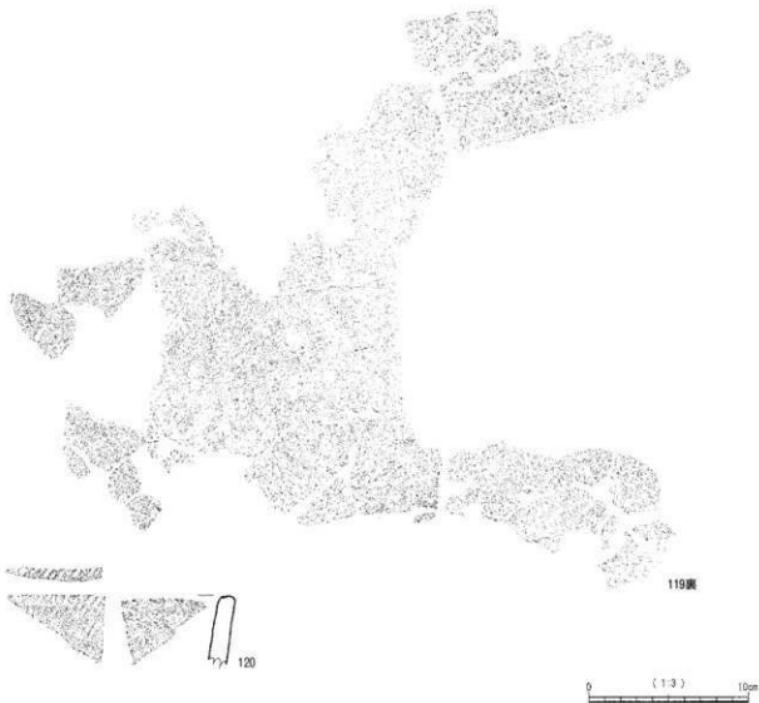
F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×85cmの略円形プランで、検出面から底面まで20cm程度の深さがある。礫は、この土坑内に収まり、構成礫は総数14点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

234号集石（第106図）

F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×60cmの楕円形プランで、礫は、この土坑検出面において、2.7m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数30点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。



第108図 236号集石出土遺物①



第109図 236号集石出土遺物②

#### 236号集石（第107～109図）

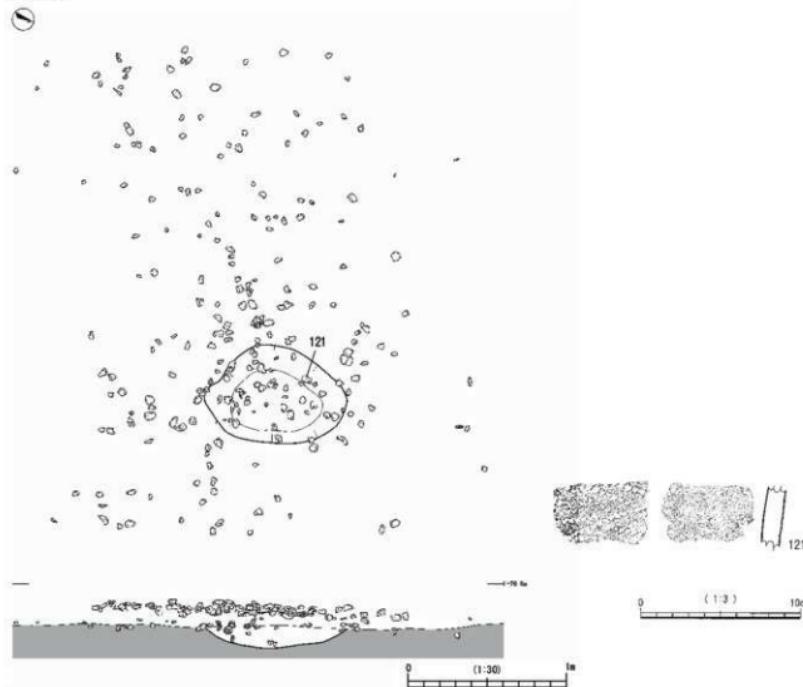
F-36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数239点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点、石器11点で、このうち土器2点を図化した。119は、口縁部が直行し平坦な口唇部を有する。器形はバケツ形に近く、文様は山形押型文を横方に施す。この押型文は部分的にナデにより消失しており一部が帶状を呈する。石器の内訳は、剥片6点、磨製石斧片4点、磨石片1点である。磨製石斧片はいずれも小片で、石斧再加工の際に生じたものが集石内から出土したものと考えられる。

#### 237号集石（第110図）

F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出よりやや遅れて土坑も確認された。土坑は、90cm×60cmの梢円形プランで、礫は、3.5m×3.0mの範囲に広がり、礫の広がりと土坑とに10cm程度のレベル差がある。構成礫は、総数215点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

#### 239号集石（第111図）

E-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×50cmの梢円形プランで、礫は、この土坑外2.5m四方に広がる。構成礫は、総数36点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。



第110図 237号集石・出土遺物

## 240号集石（第111図）

E-36・37区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランで、礫は、1.4m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。

## 242号集石（第112図）

E-37区VIIb層で検出した。当初は2基の集石を想定して調査を進めたが、検討の結果1基とした。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、不定型なプランで、長軸150cm、短軸90cmを測る。礫は、4mの範囲に広がる。構成礫は、総数227点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、石

器はフレイクである。

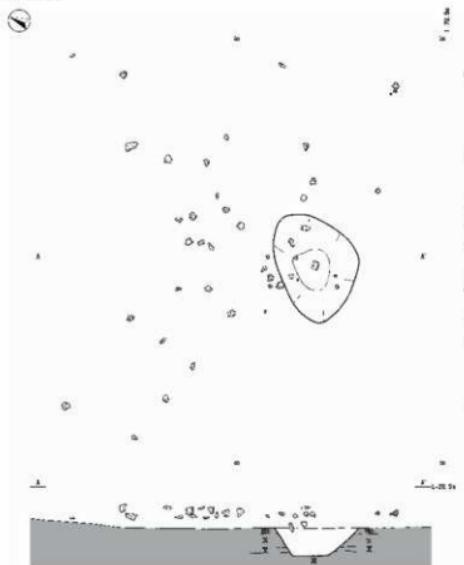
## 244号集石（第112図）

E-37区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、55cm×25cmの梢円形プランで、やや小型である。礫は、この土坑周辺と西側に集中し、これらは当初別の遺構として認識していたが、礫のまとまりなどから同一遺構として掲載した。構成礫は、総数87点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。

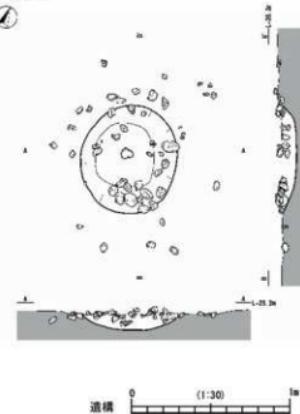
## 246号集石（第113～116図）

E-37区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの隅丸長方形プランで、

239号集石



240号集石



第111図 239, 240号集石

西側で底面からの立ち上がりが急激になる。礫は、ほぼ土坑内に収まり、総数19点確認した。比較的大型の礫と土器片を含む。土器は、11類の大形片が分割されたように出土している。これが意図的なものなのか、使用によるものなのかははっきりとしない。集石を構成する石材は、凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器19点で、このうち5点を図化した。123は、口縁部が内窪して口唇部は平坦で肥厚する。文様は外面の全面に貝殻刺突文を羽状に施す。123と同一個体と思われるが、接合できなかった資料については、拓本のみを掲載している。124は、口縁部から底部までが接合した。口縁部が内窪し、口唇部がわずかに肥厚する。胴部はやや膨らみ平底の底部へと至る。文様は、外面に横位の貝殻刺突文を施し、内面はていねいなナデが施される。石器は見られなかった。下部から109号土坑が検出されていて。

#### 247号集石（第117図）

E-37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×85cmの楕円形プランで、

礫は、3.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数72点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は2点が出土し、このうち1点を図化した。磨・敲石類C2類に分類できる。石皿片は小片のため図化していない。

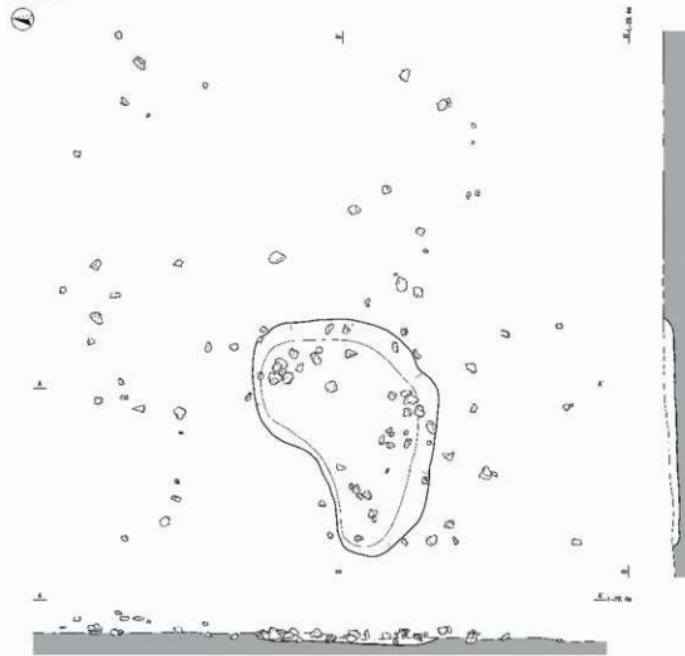
#### 249号集石（第117図）

D-37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×120cmの楕円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、2m×1.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数89点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

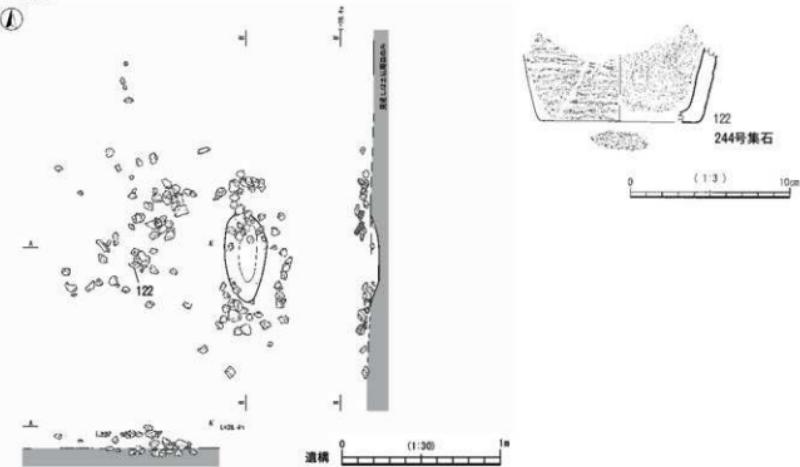
#### 250号集石（第118図）

D-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、185cm×120cmの楕円形プランで検出されたが、土坑西側で円形に深くなる。2基の切り合いの可能性もあるが、はっきりとしない。礫は、円形部

242号集石

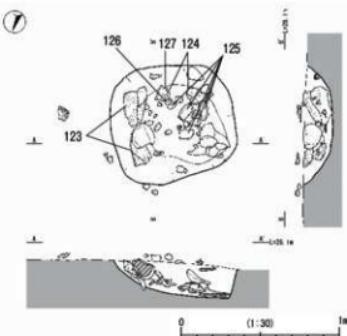


244号集石



第112図 242, 244号集石・244号集石出土遺物

## 246号集石



第113図 246号集石

分に比較的集中し、総数104点確認できた。石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 251号集石（第118図）

C - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×55cmの略円形プランで、礫は、土坑内を中心 $1.4m \times 0.7m$ の範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 252号集石（第118図）

B・C - 37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×80cmの楕円形プランで、上層に1cm以下の礫片を多く含み、底面付近では炭化物が多数混入していた。底面に近づくにつれ、色調は黒色に近くなる。木材と礫を燃焼した後、自然埋没した印象を受ける。礫は、この土坑内には取まる。構成礫は、総数63点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

## 253号集石（第118図）

B・C - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、土坑内には取まる。土坑検出面に集中する傾向が見られた。構成礫は、総数67点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

## 254号集石（第118図）

B - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×105cmの円形プランで、礫は、土坑内に取まる。構成礫は、総数26点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

## 255号集石（第119図）

B - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、礫は、土坑とその周辺に範囲に広がる。土坑の断面形状は浅いすり鉢状を呈し、構成礫は総数39点で、土坑検出面よりやや上位に集中する傾向が見られた。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。255号集石の床面より5cm下から88号連穴土坑が検出されている。

## 256号集石（第119図）

B - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×55cmの円形プランで、礫は、土坑上面からレベル差なく2.5m×1.5mの範囲に広がり、土坑の中心は礫の空白部となる。構成礫は、総数98点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

## 258号集石（第119図）

A - 37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×65cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に取まる。構成礫は、総数16点で、砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 260号集石（第119図）

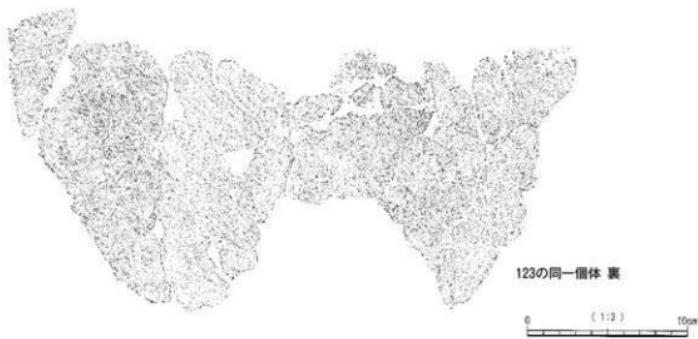
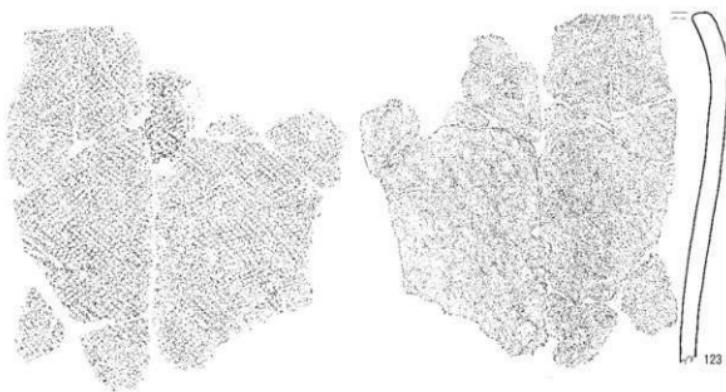
A - 38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×65cmの楕円形プランで、礫は、土坑内には取まる。構成礫は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 261号集石（第119図）

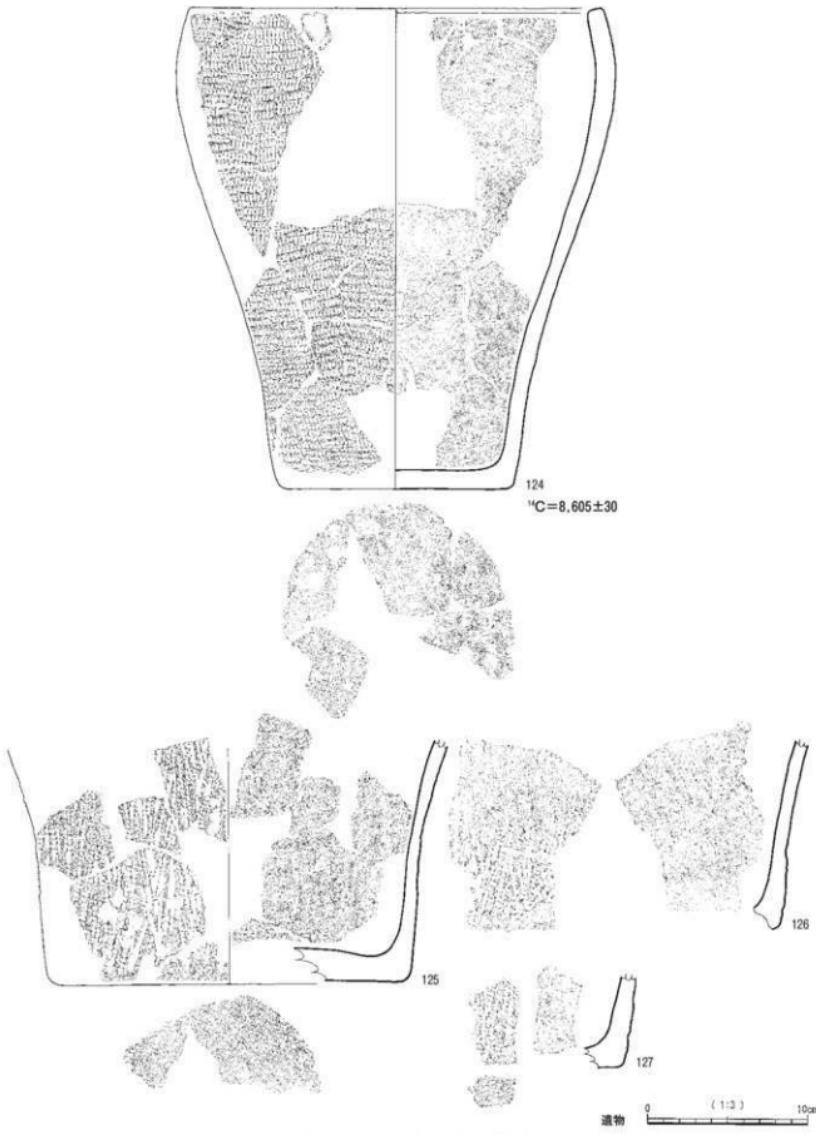
B - 38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、145cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑内には取まる。構成礫は、総数172点で、石材は砂岩が優位である。土坑内の西側に集中する印象を受ける。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

## 265号集石（第120図）

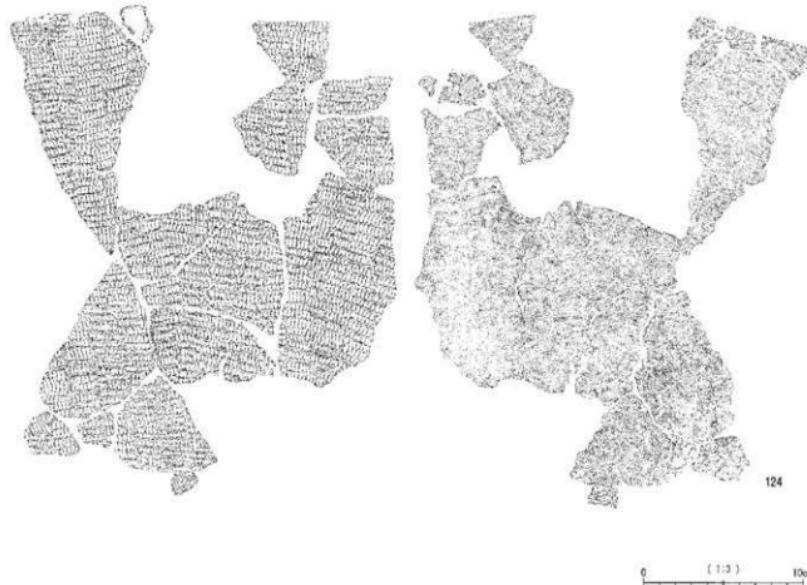
B - 38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、



第114図 246号集石出土遺物①



第115図 246号集石出土遺物②



第116図 246号集石出土遺物③

礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数27点で、底面に15~20cmの扁平な砂岩礫を4枚を敷き詰めている。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 266号集石（第120図）

C-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×95cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数33点で、5cm程度の礫が多く、石材は凝灰岩が多い傾向にある。集石内遺物は確認できなかった。

#### 267号集石（第120図）

D-38区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×90cmの円形プランで、礫は、1.5m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数84点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。131は3類に該当する。口唇部は平坦でキザミが施される。口縁部外端にもキザミが施され、胴部は横位のていねいな貝殻条

痕の上に縱位の短い貝殻条痕を縱位に間隔をあけて連続する。

#### 270号集石（第120図）

D-38区Ⅸa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×95cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数110点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。

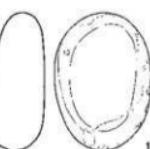
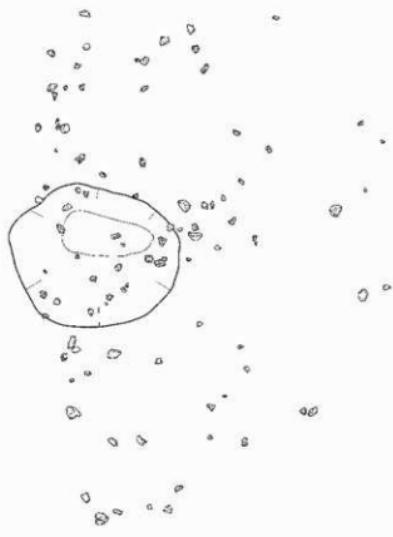
#### 271号集石（第120図）

D-38区Ⅸa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×100cmの略円形プランで、礫は、この土坑内の上面にほぼ収まる。構成礫は、総数68点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 272号集石（第121図）

E-38区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

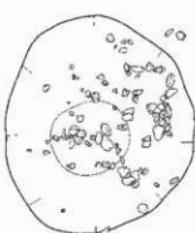
247号集石



128  
247号集石

0 (1:3) 10cm

249号集石



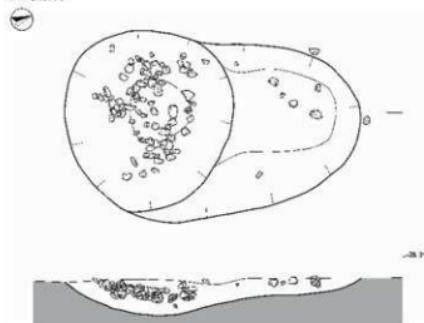
造模

0 (1:30) 1m

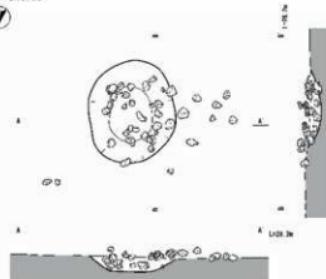


第117図 247, 249号集石・247号集石出土遺物

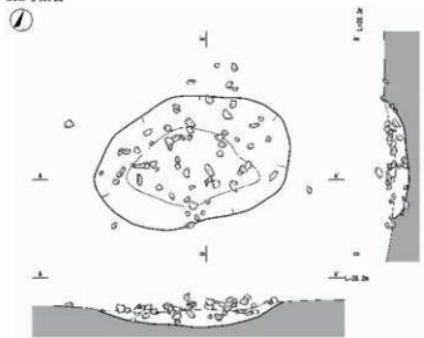
250号集石



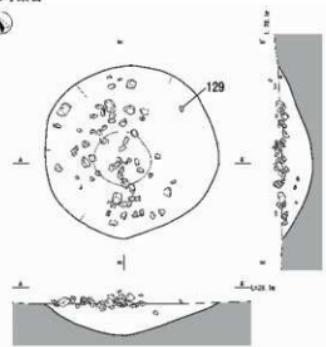
251号集石



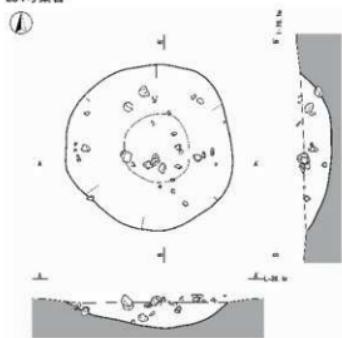
252号集石



253号集石



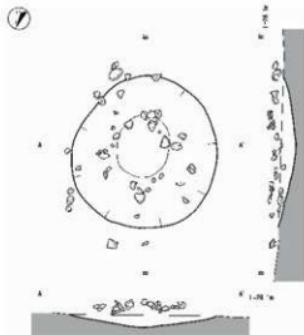
254号集石



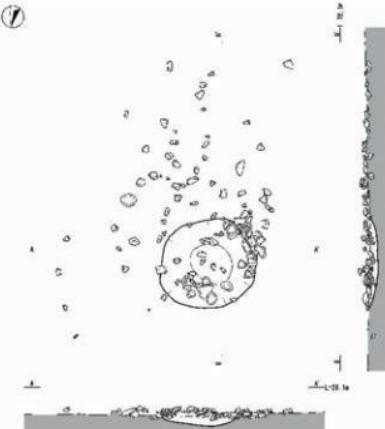
遺構 (1:30) 10cm

第118図 250, 251, 252, 253, 254号集石・253号集石出土遺物

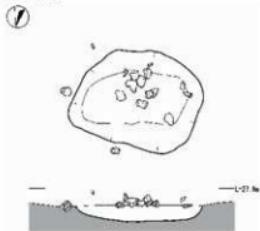
255号集石



256号集石



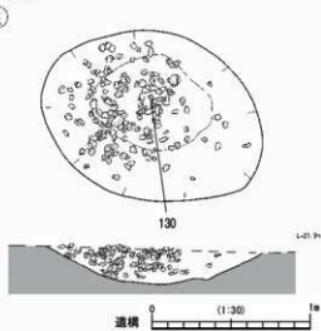
258号集石



260号集石

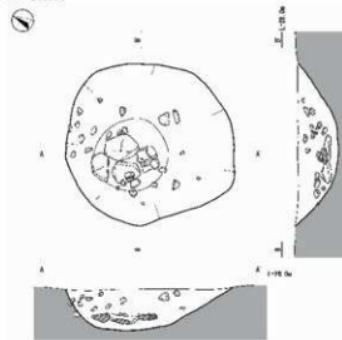


261号集石

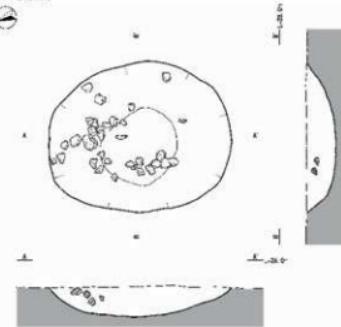


第119図 255, 256, 258, 260, 261号集石・261号集石出土遺物

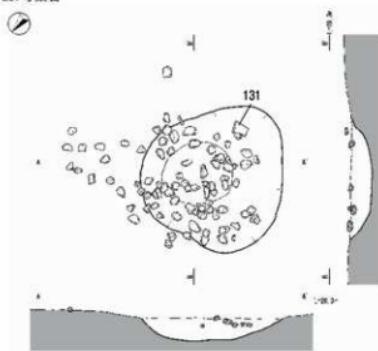
265号集石



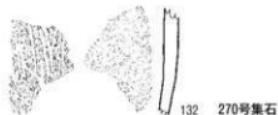
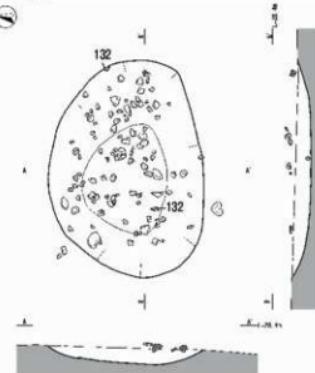
266号集石



267号集石

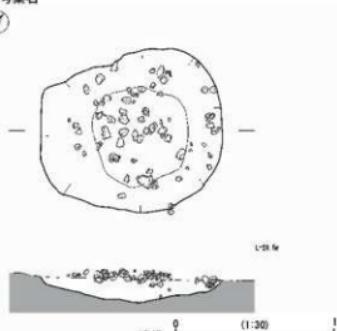


270号集石

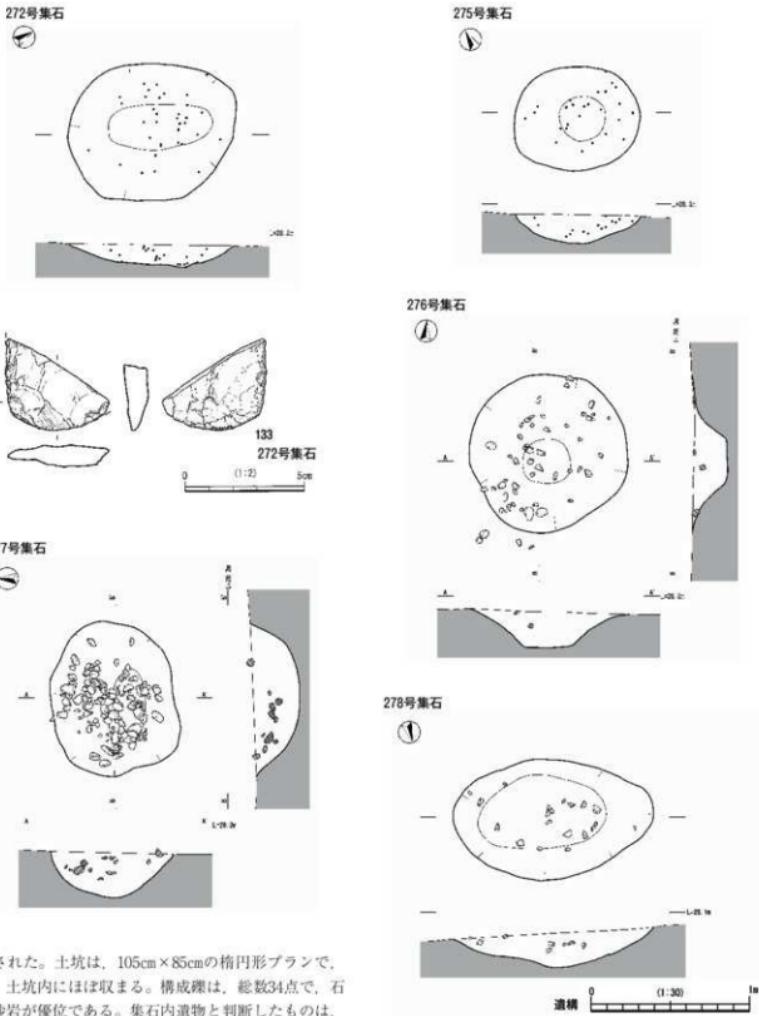


遺物 0 (1:3) 10cm

271号集石



第120図 265, 266, 267, 270, 271号集石・267, 270号集石出土遺物



第121図 272, 275, 276, 277, 278号集石・  
272号集石出土遺物

#### 275号集石（第121図）

E-38区VIIb層で検出した。縲の検出と同時に土坑も

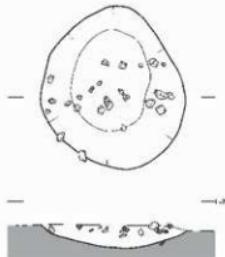
281号集石



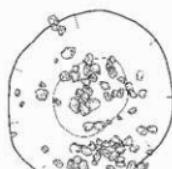
285号集石



287号集石



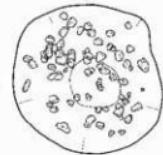
282号集石



284号集石



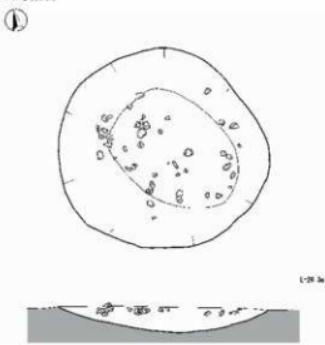
288号集石



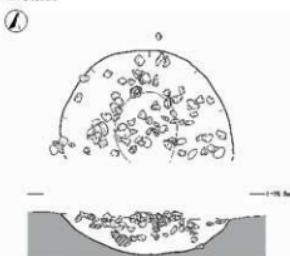
遺構 0 (1:30) 1m

第122図 281, 282, 284, 285, 287, 288号集石・281号集石出土遺物

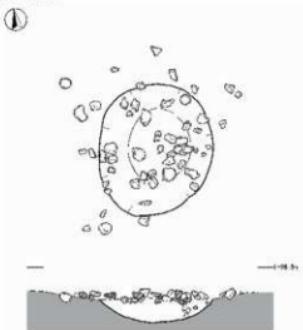
289号集石



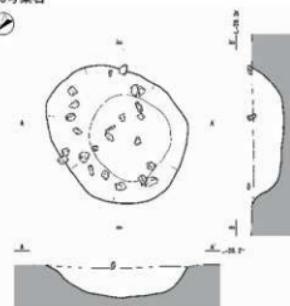
290号集石



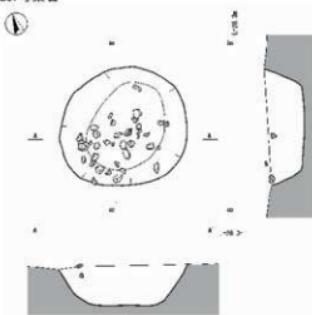
294号集石



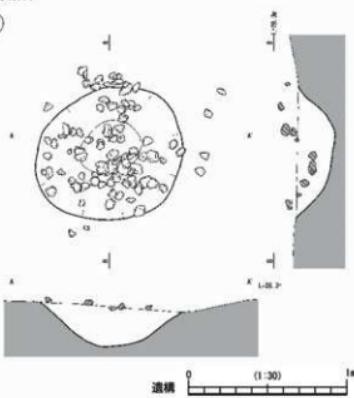
296号集石



297号集石

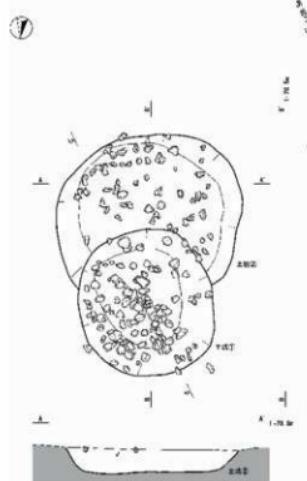


298号集石

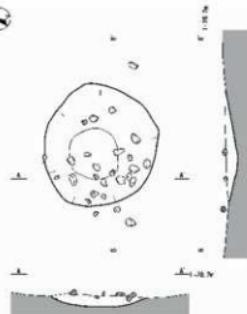


第123図 289, 290, 294, 296, 297, 298号集石

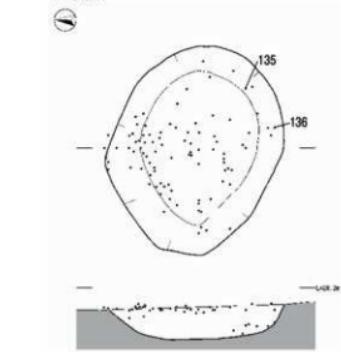
300号集石



302号集石

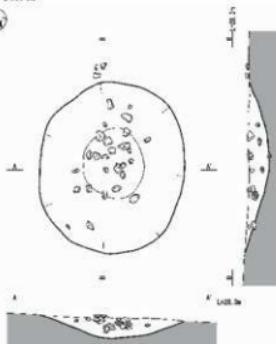


304号集石

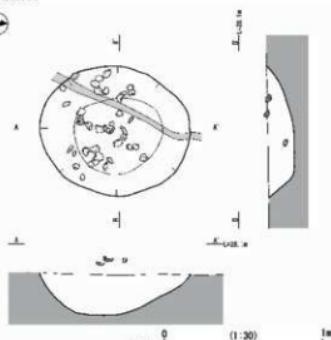


0 (1:3) 10cm

303号集石



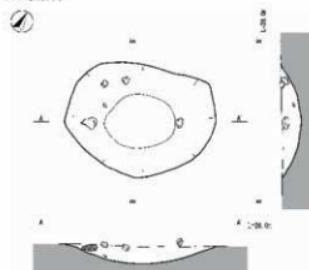
305号集石



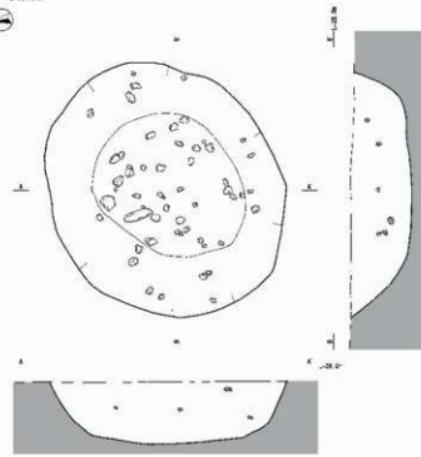
0 (1:30) 1m

第124図 300, 302, 303, 304, 305号集石・304号集石出土遺物

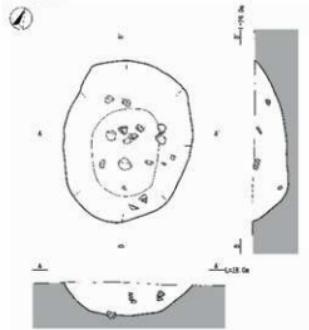
306号集石



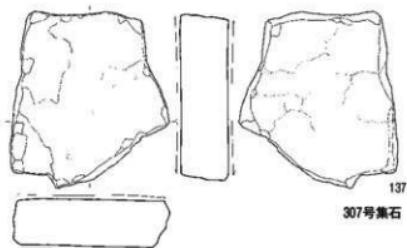
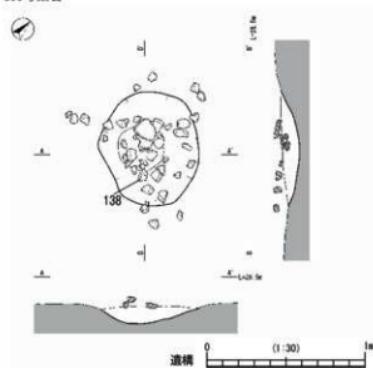
307号集石



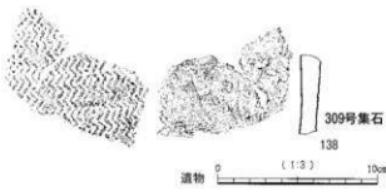
308号集石



309号集石



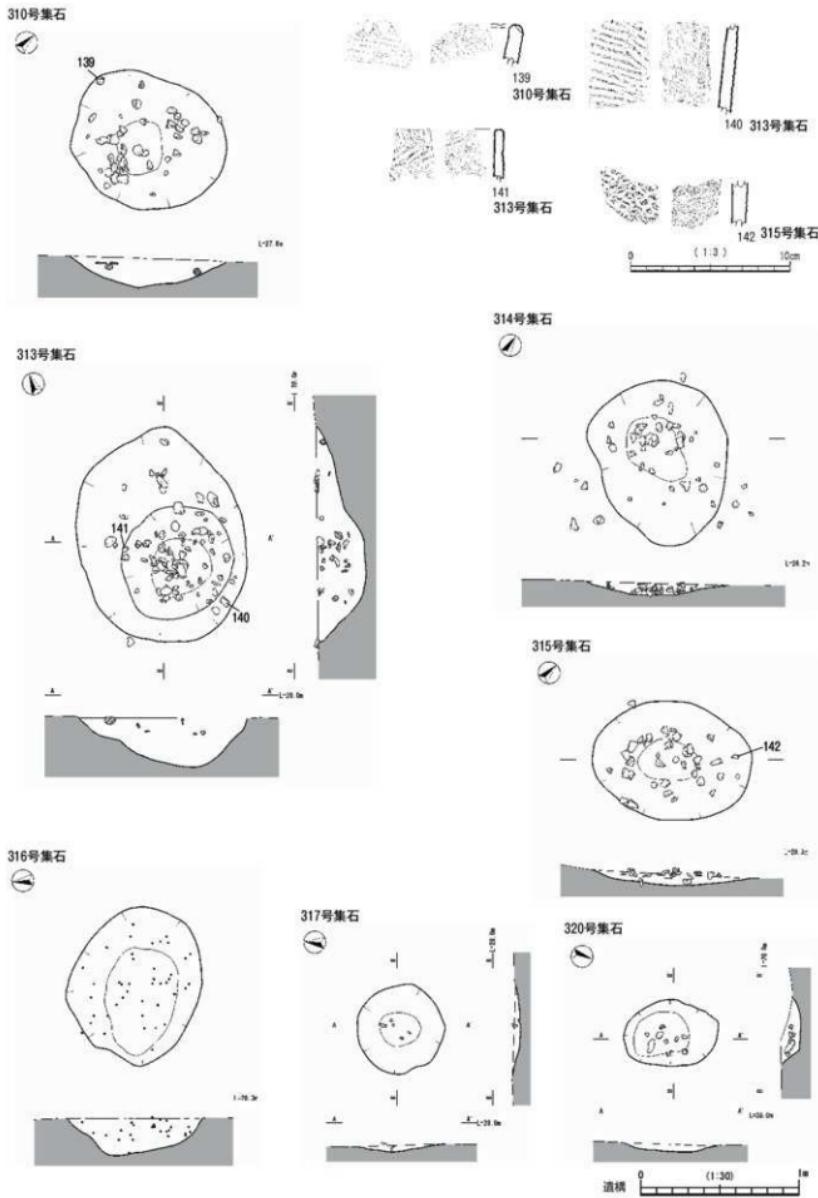
307号集石



309号集石

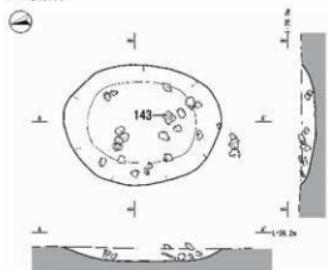
遺物 (1:3) 10cm

第125図 306, 307, 308, 309号集石・307, 309号集石出土遺物



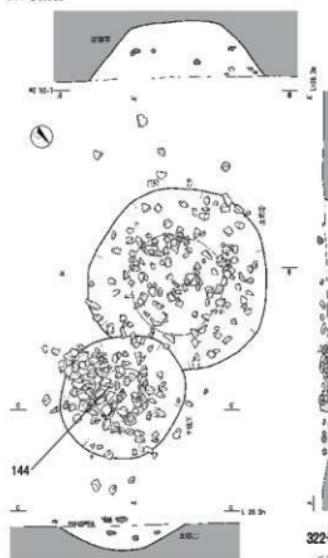
第126図 310, 313, 314, 315, 316, 317, 320号集石・310, 313, 315号集石出土遺物

319号集石



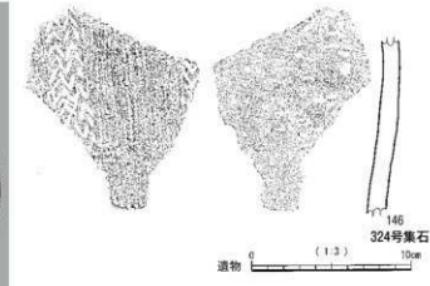
319号集石

321号集石



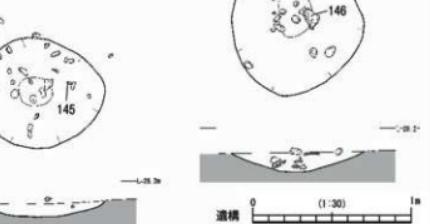
321号集石

322号集石



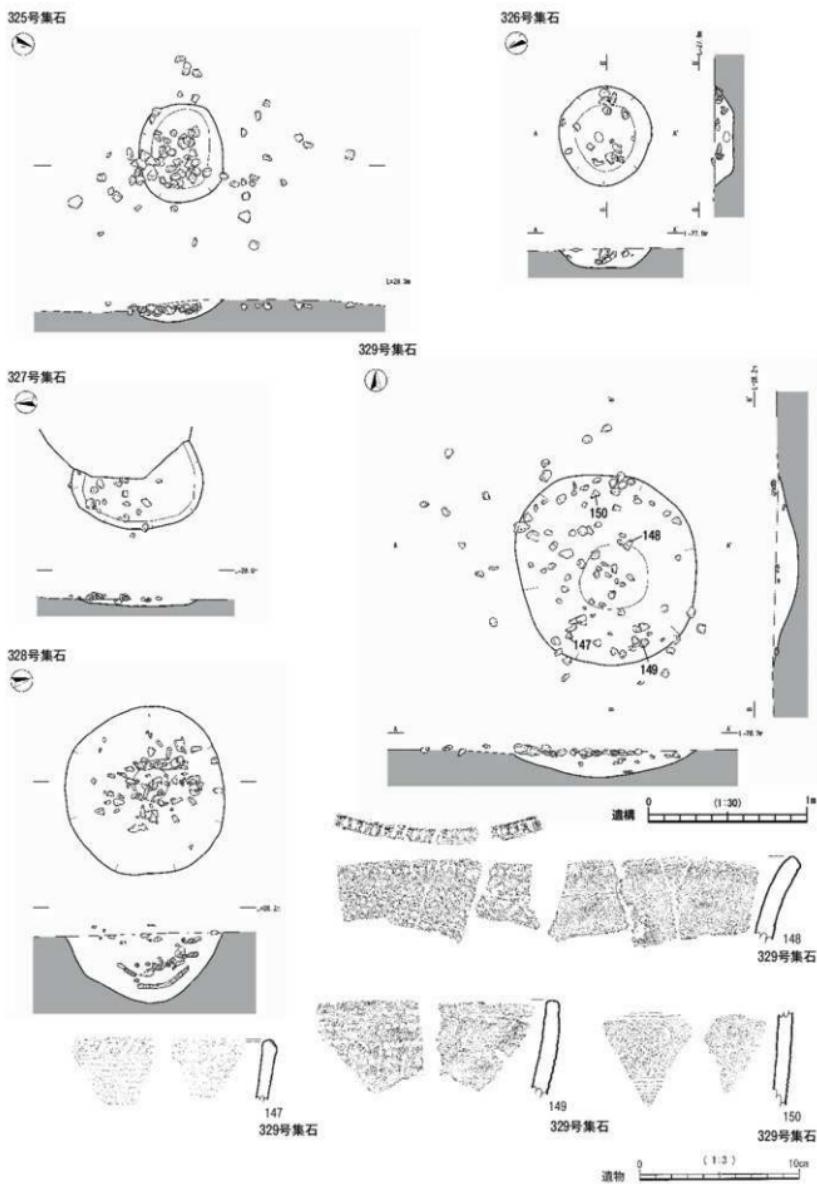
遺物 (1:3) 10cm

322号集石



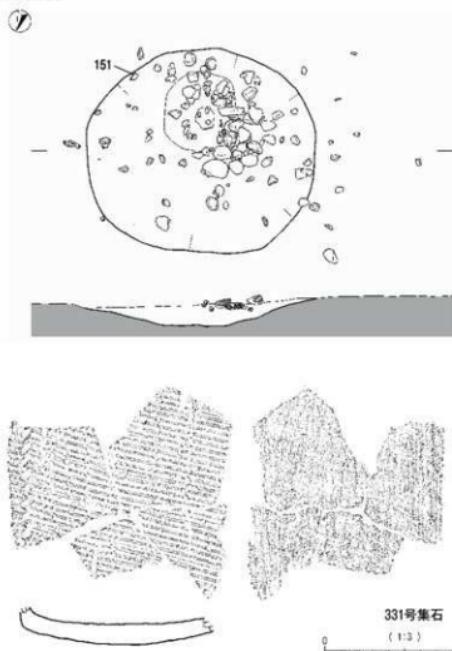
324号集石

第127図 319, 321, 322, 324号集石・出土遺物

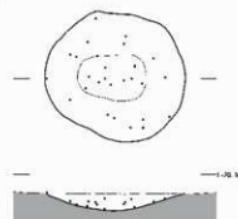


第128図 325, 326, 327, 328, 329号集石・329号集石出土遺物

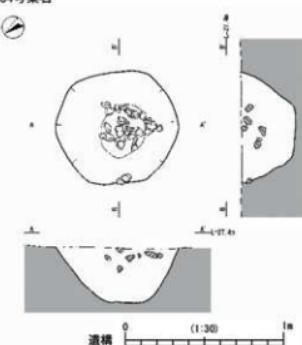
331号集石



332号集石



334号集石



第129図 331, 332, 334号集石・331号集石出土遺物

確認された。土坑は、80cm×65cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。171号土坑の上位20cmでの検出である。

#### 276号集石（第121図）

E・F-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、わずかに土坑外に見られるものの、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数50点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。172号土坑の上に位置する。

#### 277号集石（第121図）

E-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×80cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数96点で、石材はわずか

に砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

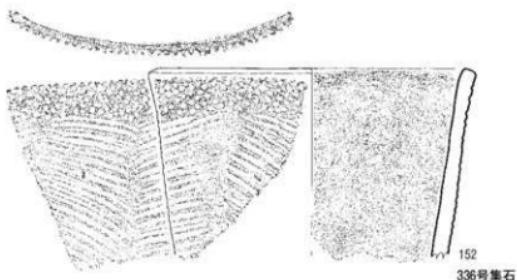
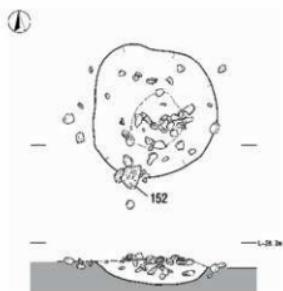
#### 278号集石（第121図）

E-F-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×80cmの楕円形プランで、床面はやや不安定な状況であった。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。180号土坑と176号土坑を切る。

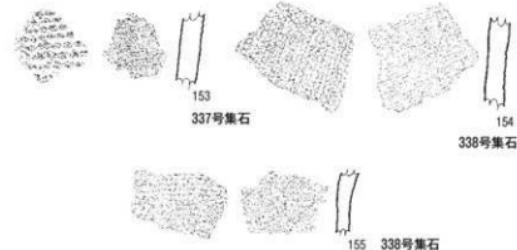
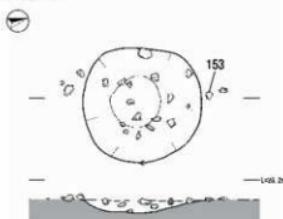
#### 281号集石（第122図）

F-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、掘り込みは深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数27点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

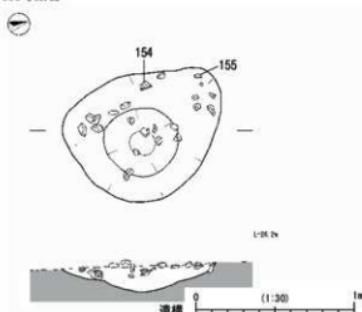
336号集石



337号集石



338号集石



第130図 336, 337, 338号集石・出土遺物

134は、胴部に横位の貝殻条痕文が施される。181号土坑を切るが、181号土坑の平面プラン内に集石は収まる。

#### 282号集石（第122図）

F-38区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×105cmの略円形プランで、

礫は、1.5m×1mの範囲に広がる。構成礫は、总数81点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため固化は困難であった。

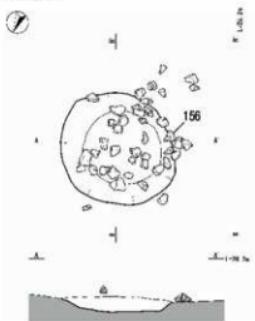
#### 284号集石（第122図）

F-38区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×90cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、总数39点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。283号集石に隣接し、下部からは192号土坑と193号土坑が検出されている。

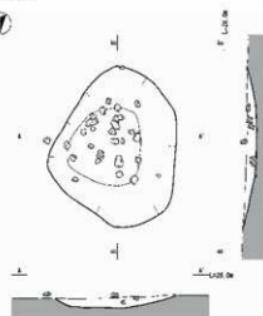
#### 285号集石（第122図）

F-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、楕円形プランで、浅いすり鉢状を呈する。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、总数8点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

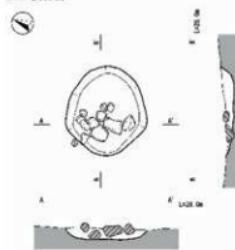
340号集石



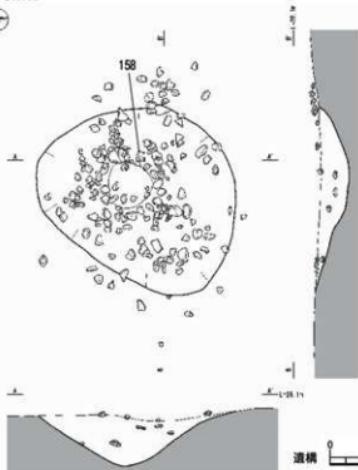
341号集石



342号集石



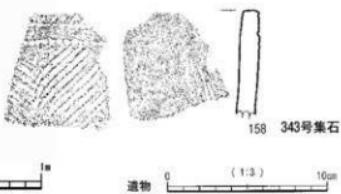
343号集石



157 341号集石

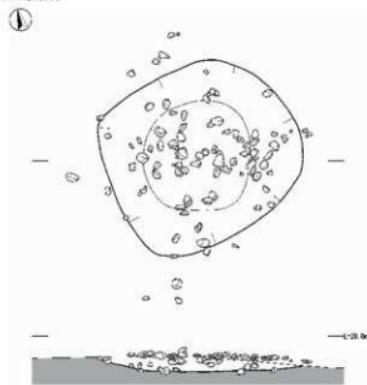


158 343号集石

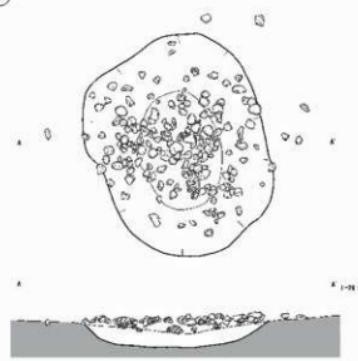


第131図 340, 341, 342, 343号集石・340, 341, 343号集石出土遺物

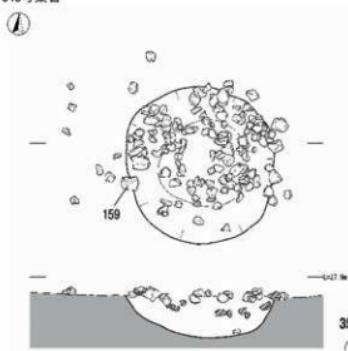
346号集石



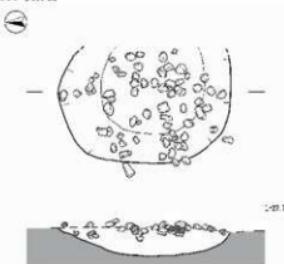
347号集石



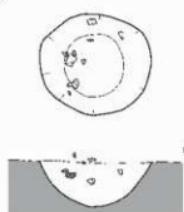
348号集石



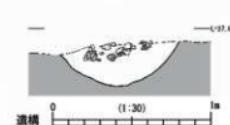
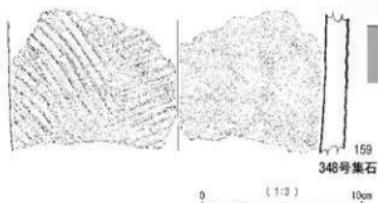
350号集石



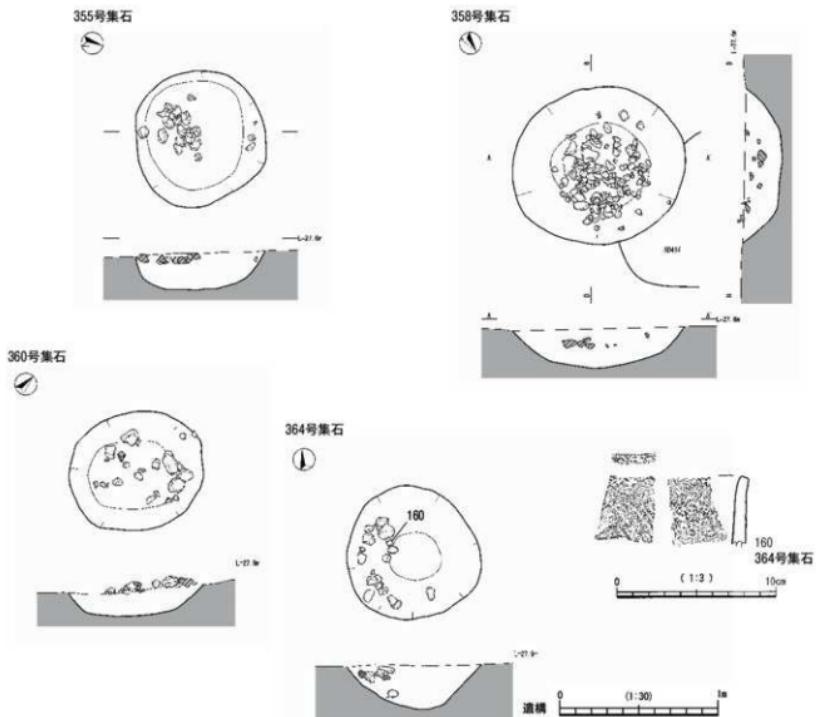
351号集石



353号集石



第132図 346, 347, 348, 350, 351, 353号集石・348号集石出土遺物



第133図 355, 358, 360, 364号集石・364号集石出土遺物

#### 287号集石（第122図）

G-38区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×90cmの略円形プランで、礫は土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 288号集石（第122図）

G-38区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数68点で、土坑内に散在している状況であった。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 289号集石（第123図）

G-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×130cmの円形プランで、構成礫は、総数35点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

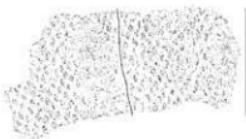
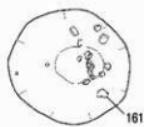
#### 290号集石（第123図）

G-39区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、約1/3が調査区外へと延びているが円形プランと思われる。礫は、土坑内にほぼ収まり、比較的土坑内の上位に位置している。集石内遺物は確認できなかった。

#### 294号集石（第123図）

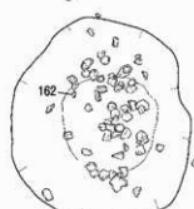
F-39区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

365号集石

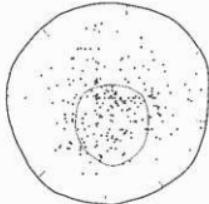


365号集石

366号集石

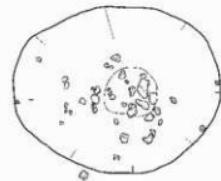


367号集石

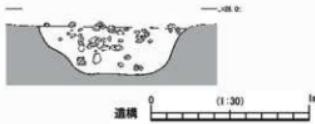
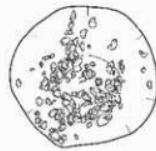


367号集石

368号集石

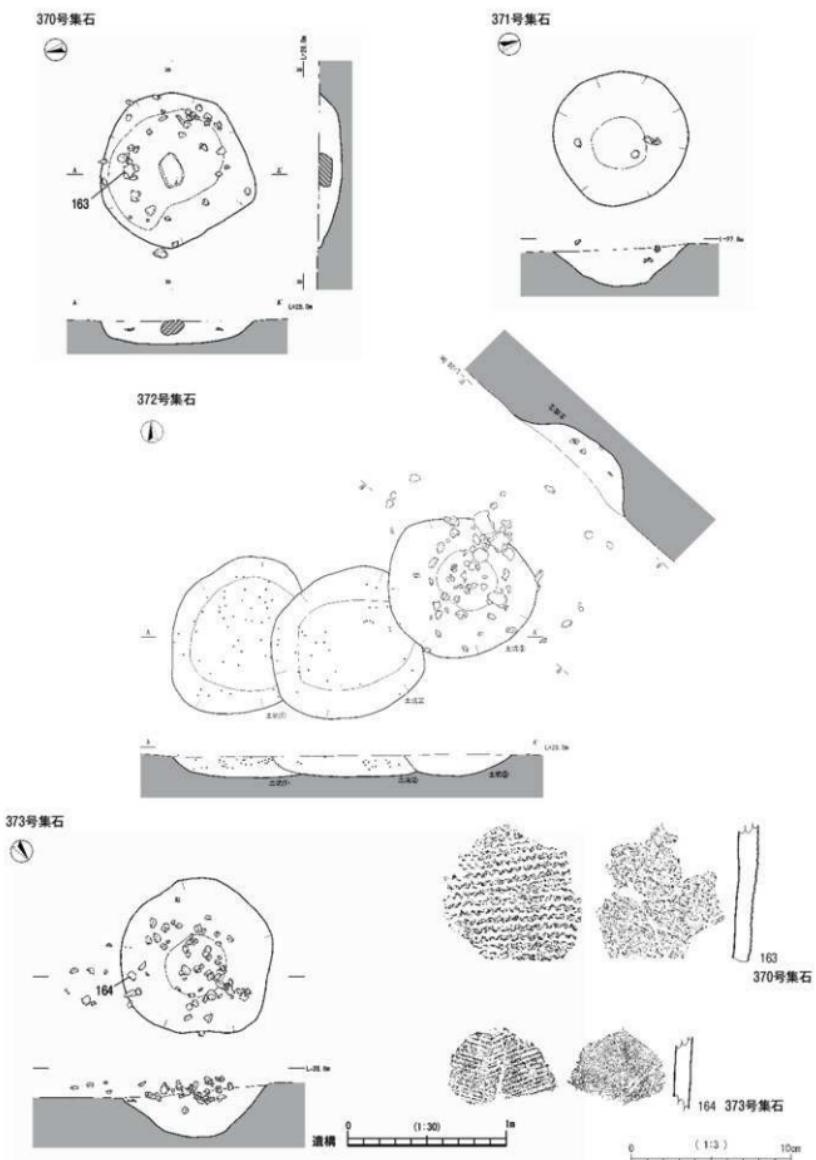


369号集石



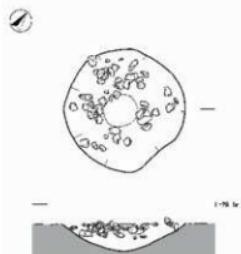
369号集石

第134図 365、366、367、368、369号集石・365、366号集石出土遺物

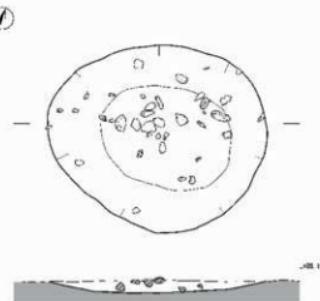


第135図 370, 371, 372, 373号集石・370, 373号集石出土遺物

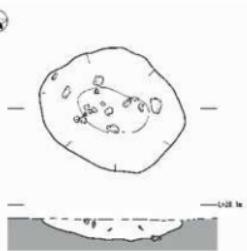
374号集石



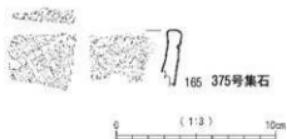
375号集石



378号集石

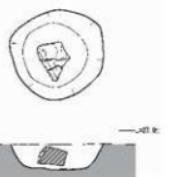


381号集石

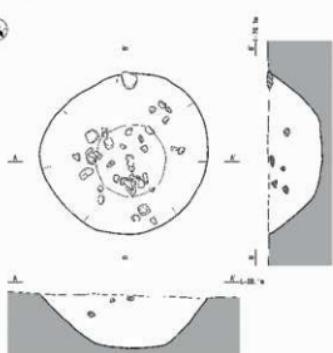


1:3 10cm

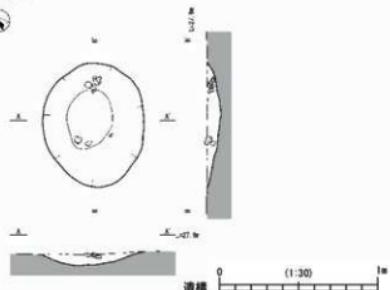
382号集石



380号集石

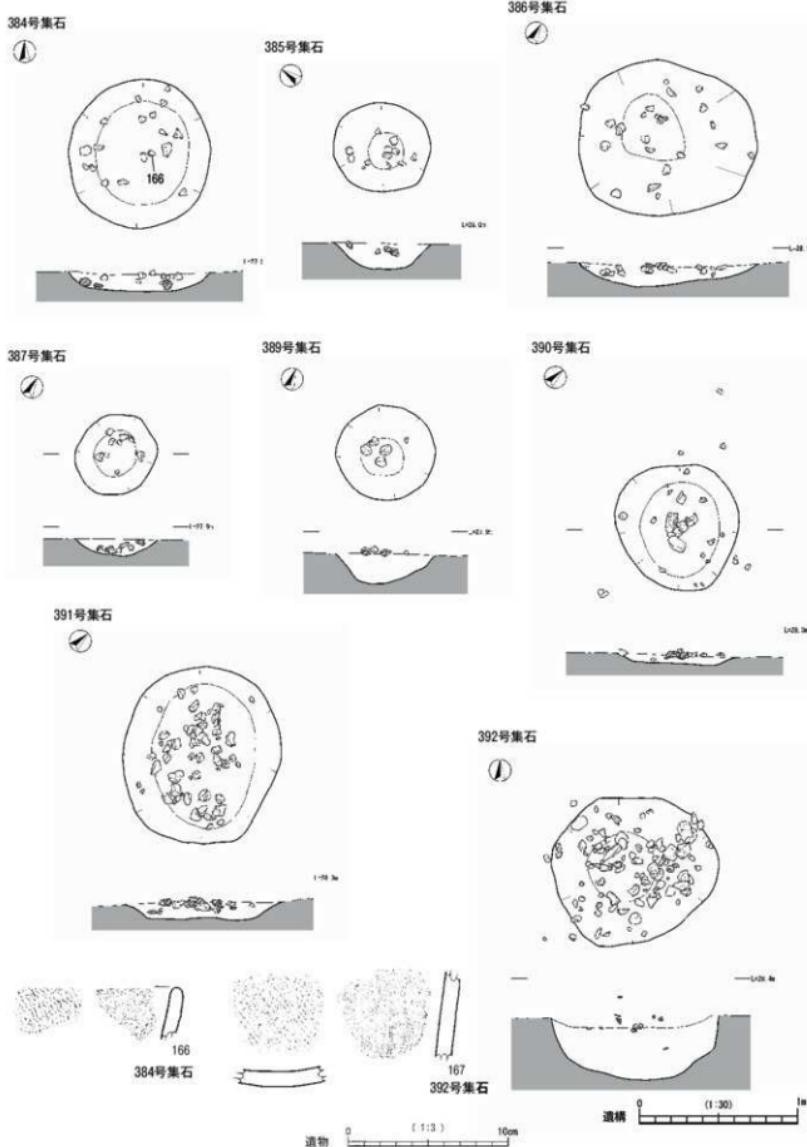


383号集石



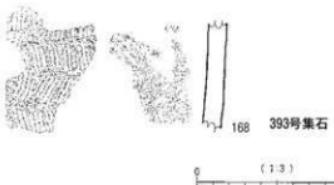
遺構 0 (1:30) 1m

第136図 374, 375, 378, 380, 381, 382, 383号集石・375号集石出土遺物



第137図 384, 385, 386, 387, 389, 390, 391, 392号集石・384, 392号集石出土遺物

393号集石



394号集石



395号集石



396号集石



397号集石

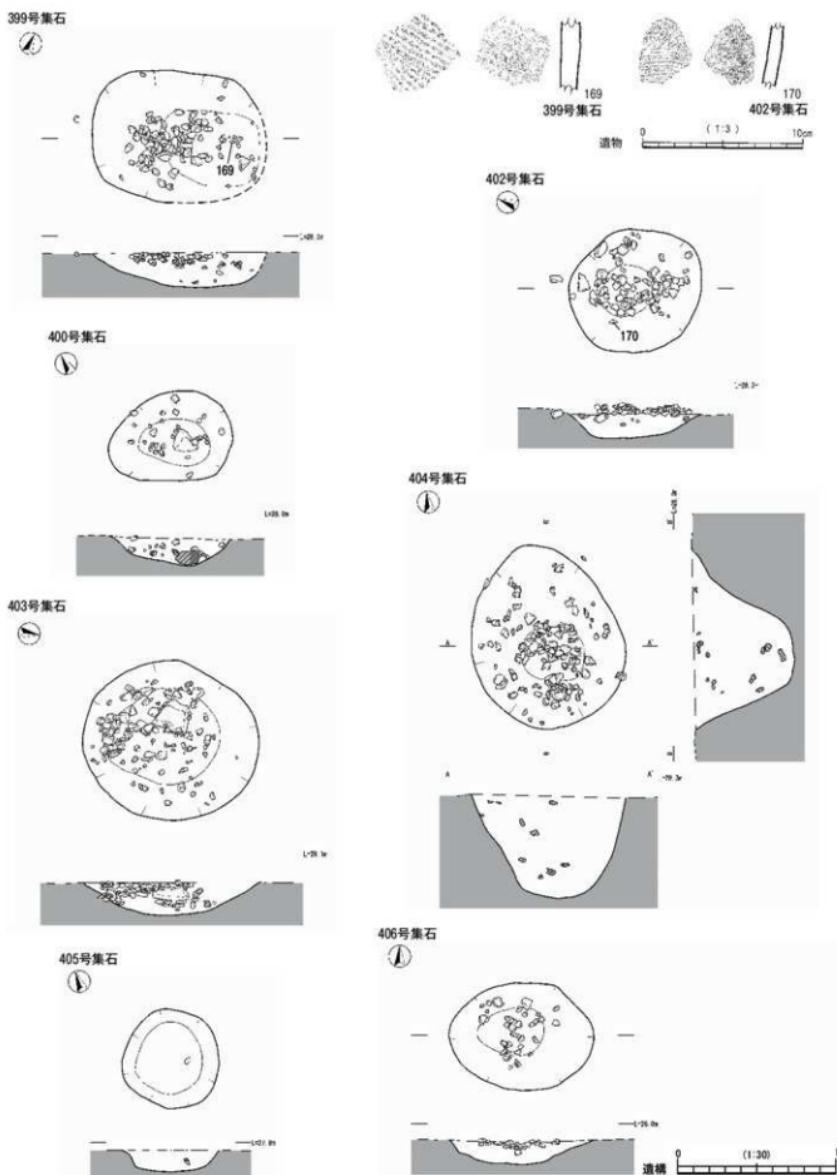


398号集石



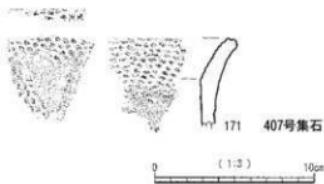
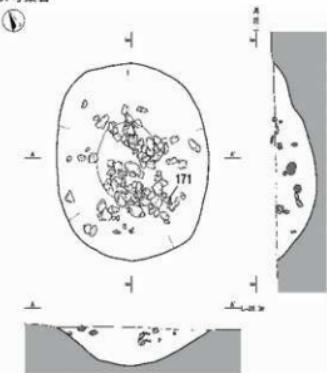
遺構 0 (1:30) 1m

第138図 393, 394, 395, 396, 397, 398号集石・393号集石出土物

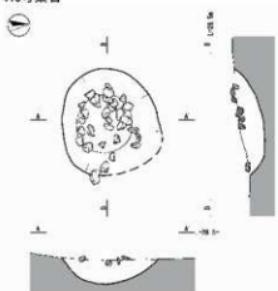


第139図 399, 400, 402, 403, 404, 405, 406号集石・399, 402号集石出土遺物

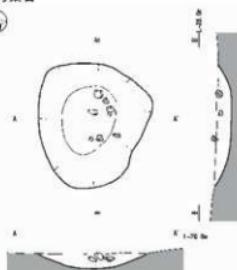
407号集石



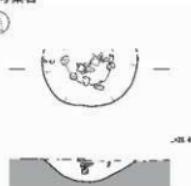
410号集石



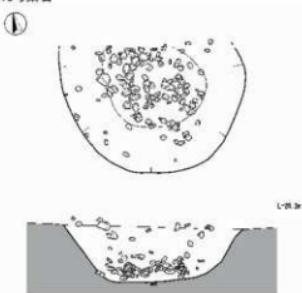
409号集石



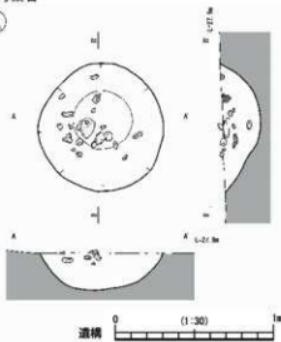
412号集石



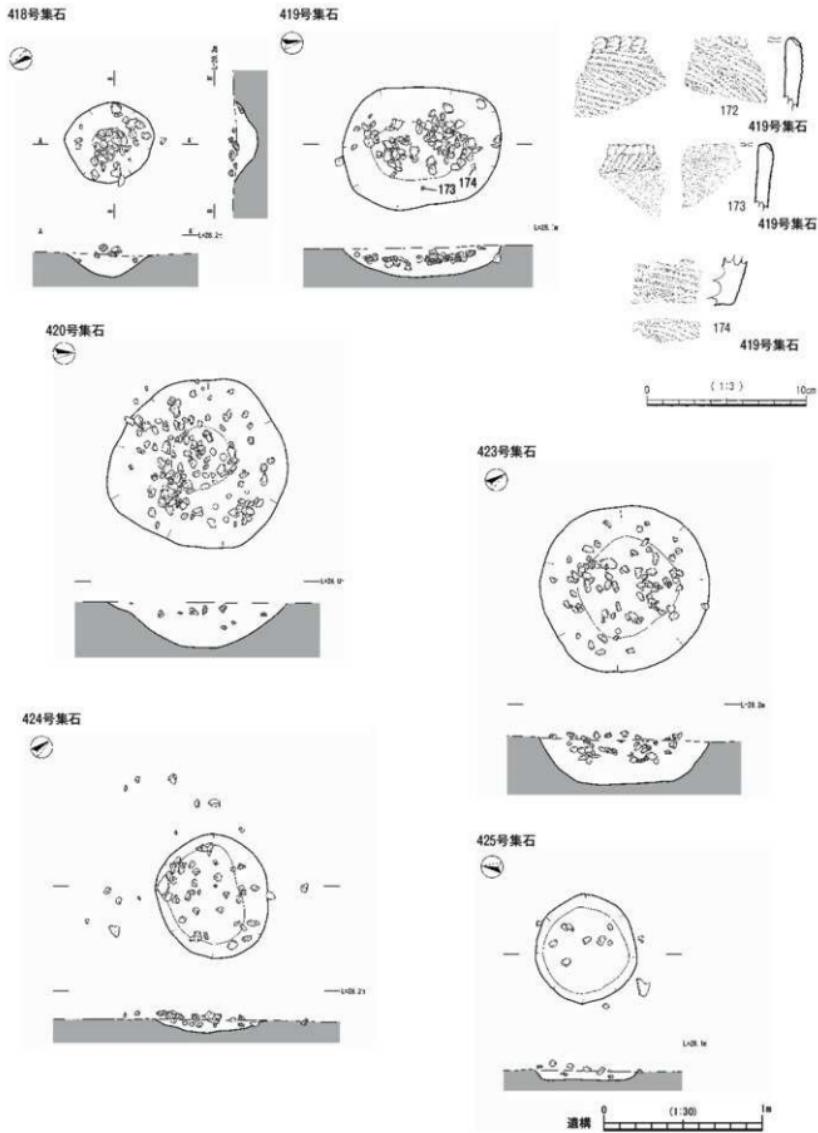
413号集石



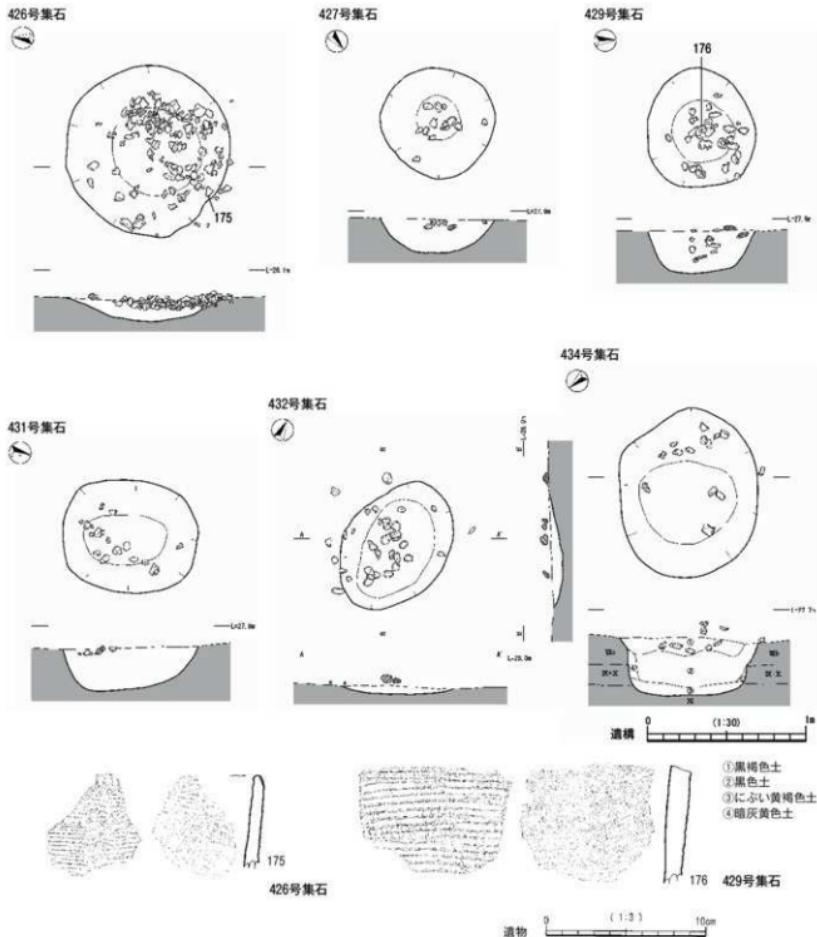
416号集石



第140図 407, 409, 410, 412, 413, 416号集石・407号集石出土遺物



第141図 418, 419, 420, 423, 424, 425号集石・419号集石出土遺物



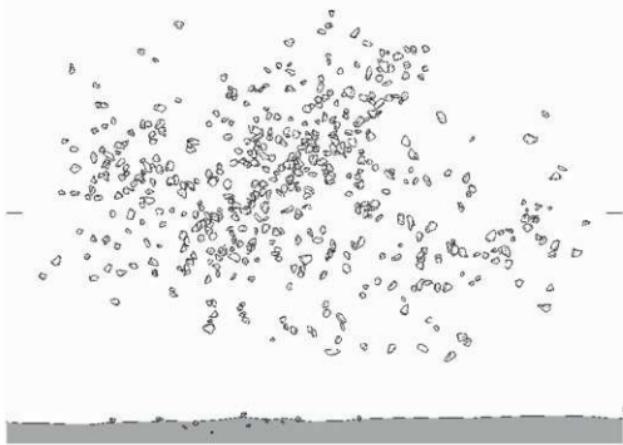
第142図 426, 427, 429, 431, 432, 434号集石・426, 429号集石出土遺物

確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は、土坑検出面上多くが集中し、1.4m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数63点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

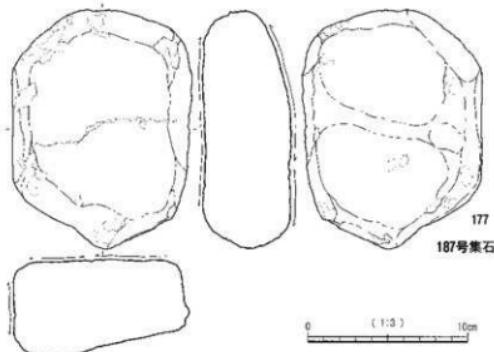
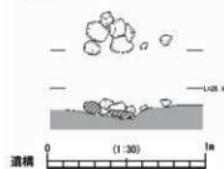
#### 296号集石（第123図）

F-39区Ⅲa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内にはば収まる。構成礫は、総数23点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

177号集石



187号集石



第143図 177, 187号集石・187号集石出土遺物

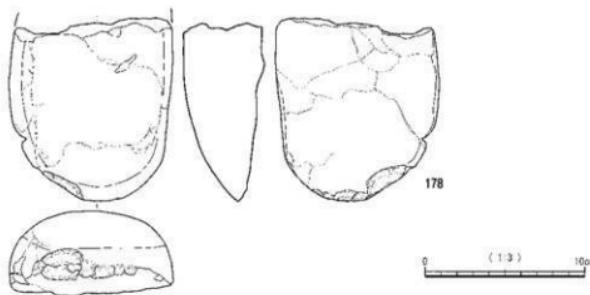
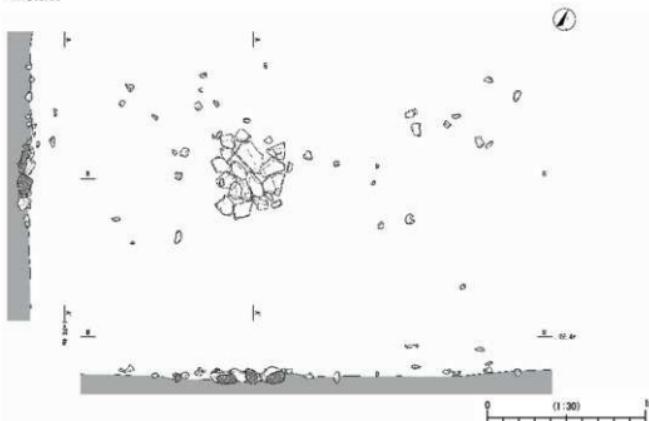
## 297号集石（第123図）

F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの略円形プランで、埋土に多量の炭を含む。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数40点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

## 298号集石（第123図）

F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、一部土坑外にも見られるが、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数87点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

196号集石



第144図 196号集石・出土遺物

## 300号集石（第124図）

F-38・39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。2基の集石が切り合っているが、一連のものとして掲載した。土坑①は95cm×85cmの円形プランで、土坑②は125cm×115cmの円形プランで、土坑①に切られる。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数126点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物は確認できなかった。

## 302号集石（第124図）

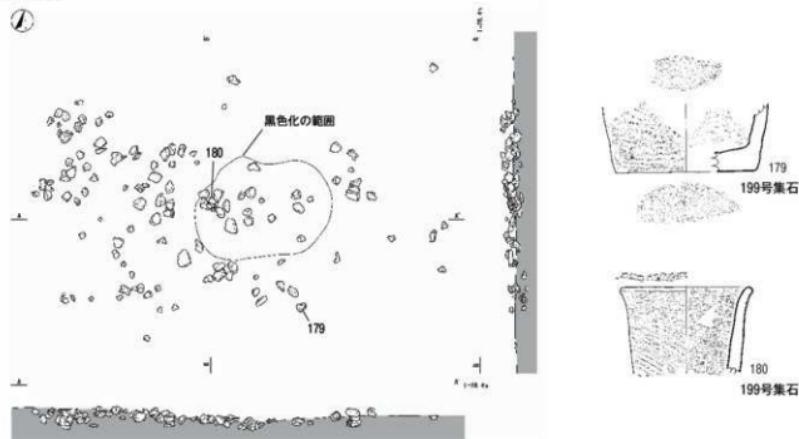
F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、礫は、わずかに土坑外に見られるが、ほぼ土坑内に収まる。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

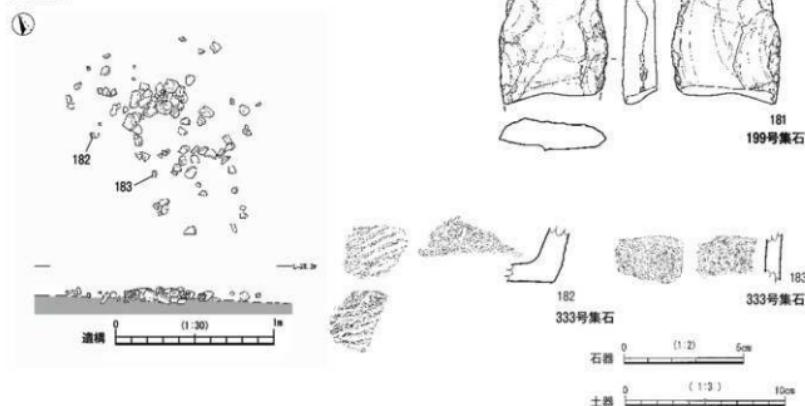
## 303号集石（第124図）

E・F-39区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×90cmの梢円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数23点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断した

199号集石



333号集石



第145図 199, 333号集石・出土遺物

ものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

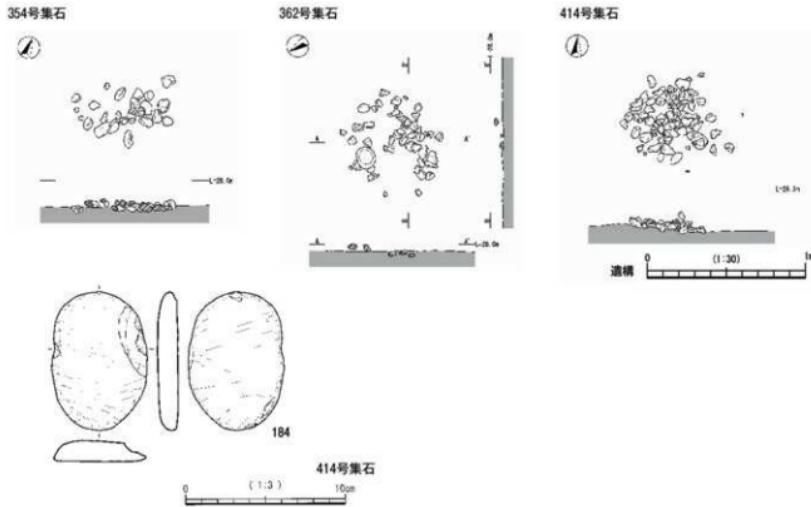
#### 304号集石（第124図）

E・F-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にはは収まる。構成礫は、総数101点で、

石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器2点で、これを図化した。135は短い条痕を羽状に施文する。136は、条痕を格子状に施文している。

#### 305号集石（第124図）

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、



第146図 354, 362, 414号集石・414号集石出土遺物

土坑内に収まる。構成礫は、総数39点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。211号土坑と212号土坑を切り、噴砂によって一部が切られている。

#### 306号集石（第125図）

E-39・40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内には収まる。構成礫は、総数7点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 307号集石（第125図）

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、170cm×145cmのやや大型の楕円形プランで、検出面から底面までが40cmと深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは石器1点で、これを図化した。137は石皿類2B類に属する。

#### 308号集石（第125図）

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×80cmの楕円形プランで、礫は、

土坑内に収まる。構成礫は、総数19点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 309号集石（第125図）

E-39区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×65cmの略円形プランで、礫は、土坑周辺に散在する。構成礫は、総数47点で、比較的まとまって出土しており、扁平な凝灰岩礫が3点あることが特徴的な印象を受ける。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

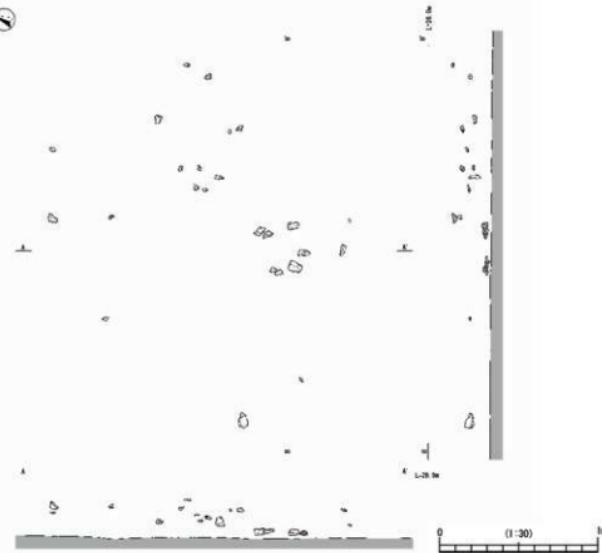
#### 310号集石（第126図）

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数44点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

#### 313号集石（第126図）

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×105cmの楕円形プランで、中央部で2段掘りとなる。礫は、土坑内に収まり、土坑の

4号集石



第147図 4号集石

形状と礫の集中とに明確な関係は見いだせなかった。構成礫は、総数80点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器2点を図化した。

314号集石（第126図）

E-39区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×80cmの楕円形プランで、礫は、土坑周辺の1.2m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数46点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

315号集石（第126図）

E-39区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数34点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

316号集石（第126図）

E-39・40区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの略円形プランで、礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数40点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

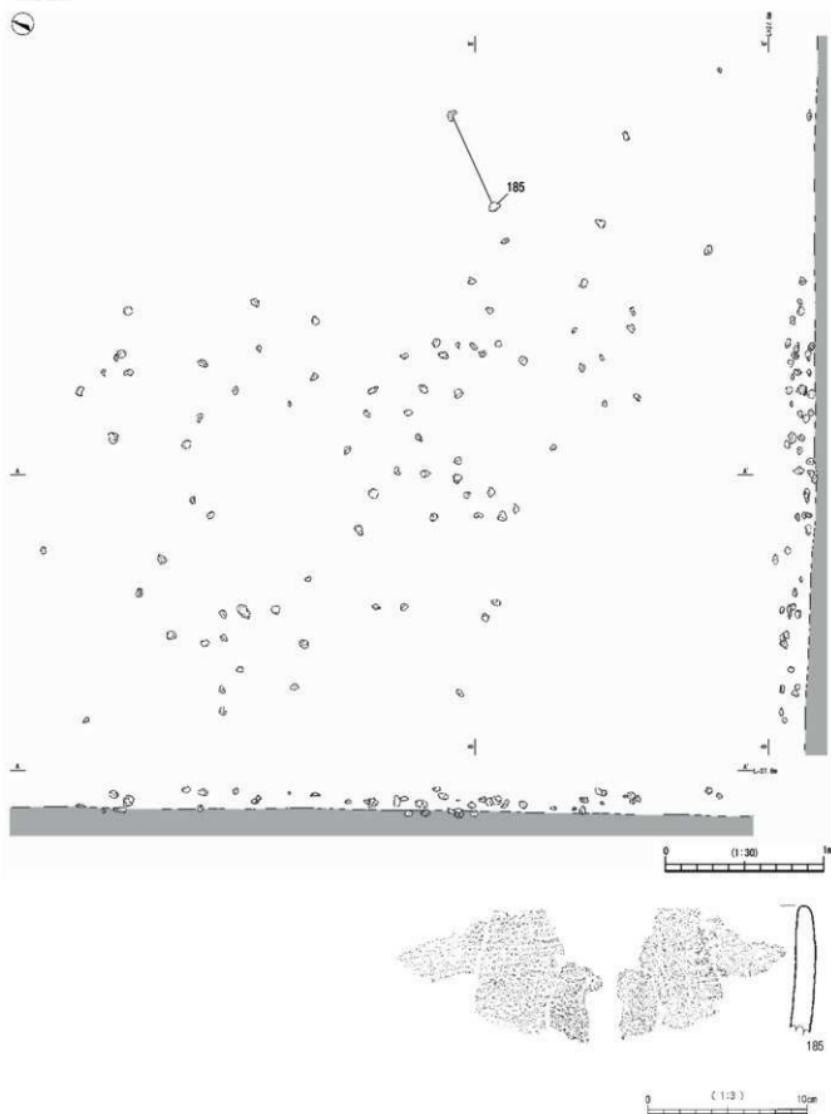
317号集石（第126図）

E-39・40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、55cm×55cmの円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数6点で、石材は全て砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。224号集石を切る。

320号集石（第126図）

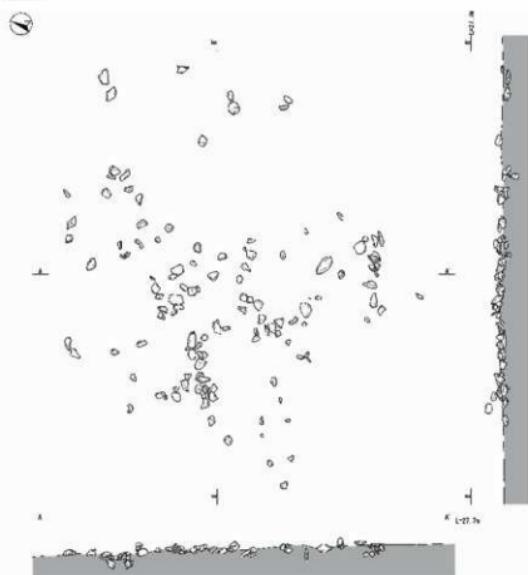
E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×45cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数9点で、石材は全て砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。

9号集石

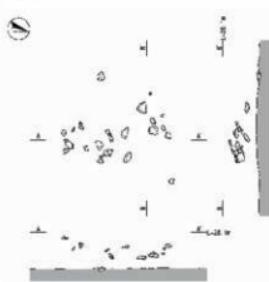


第148図 9号集石・出土遺物

15号集石



33号集石



53号集石



第149図 15, 33, 53号集石

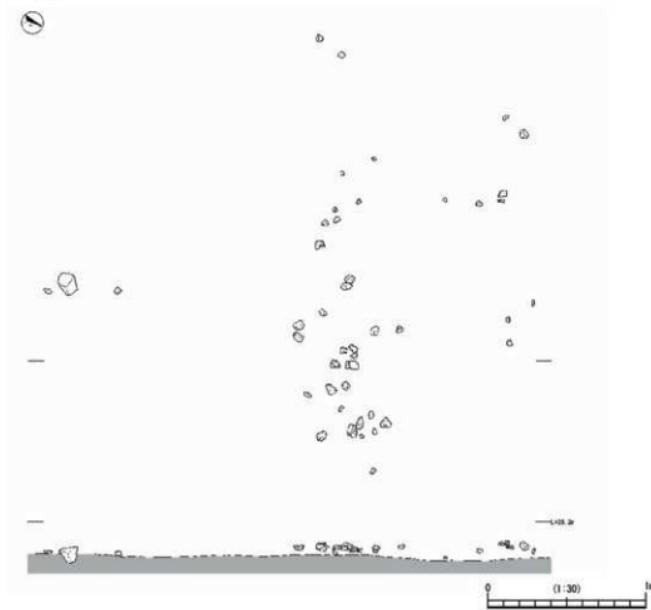
54号集石



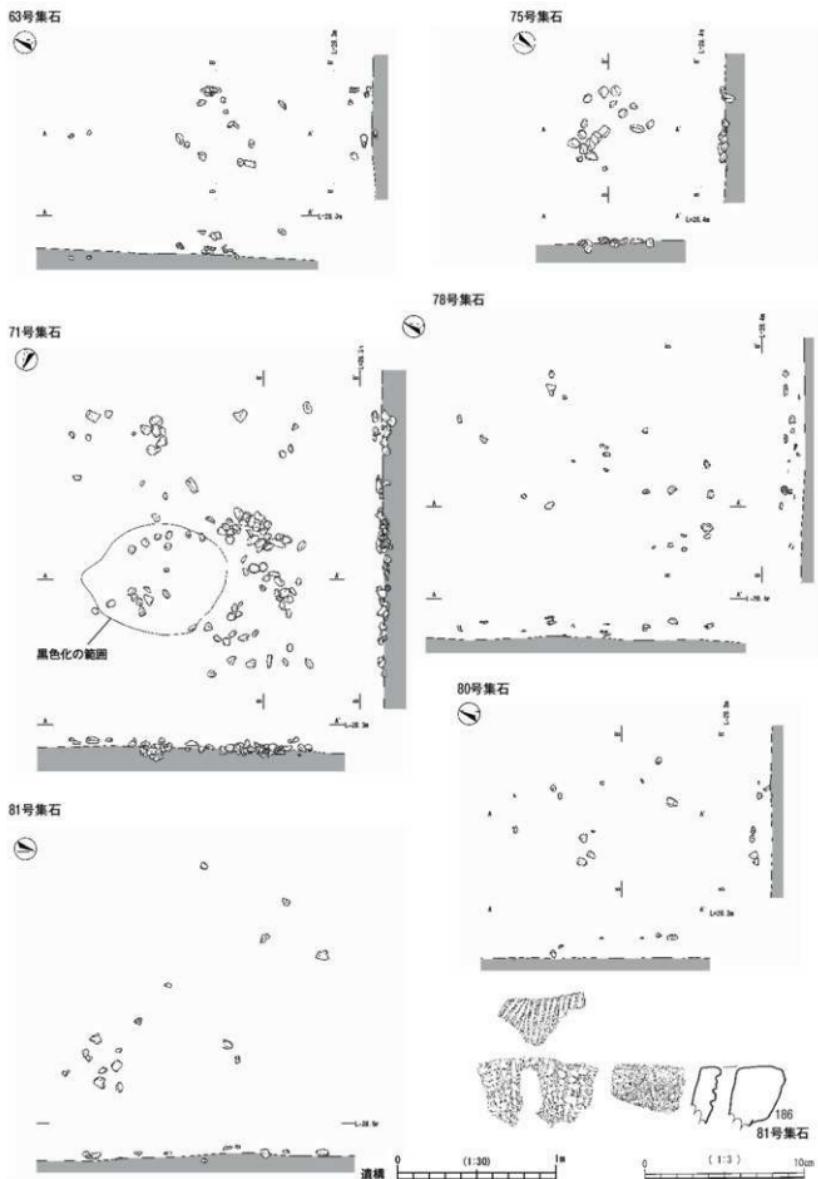
62号集石



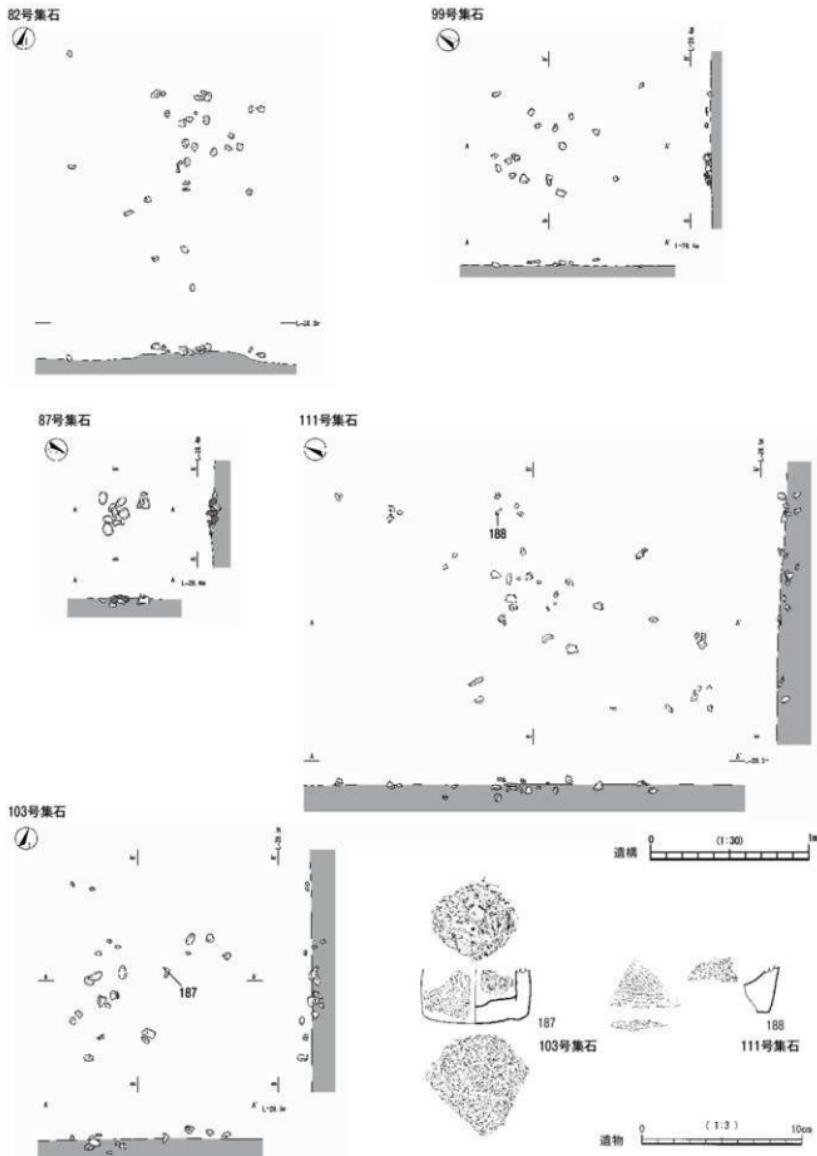
59号集石



第150図 54, 59, 62号集石



第151図 63, 71, 75, 78, 80, 81号集石・81号集石出土遺物



第152図 82, 87, 99, 103, 111号集石・103, 111号集石出土遺物

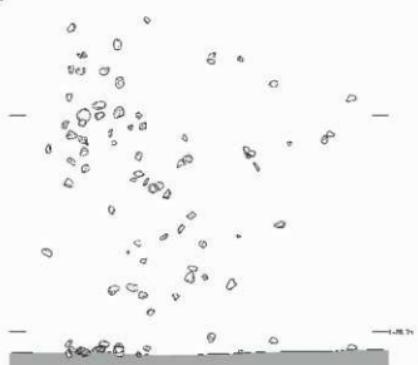
112号集石

①



125号集石

②



第153図 112, 125号集石

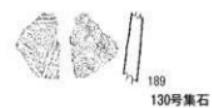
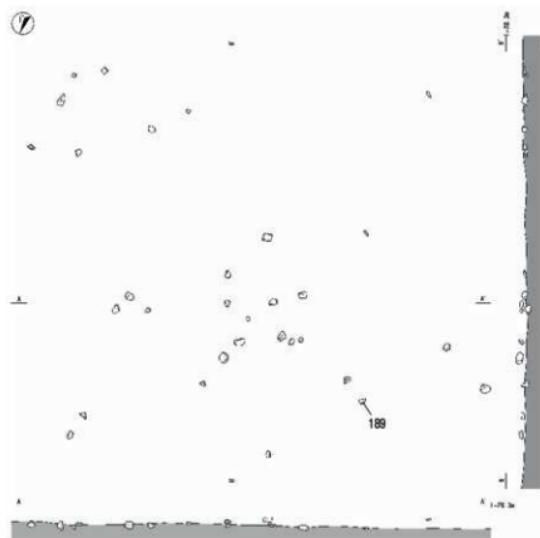
## 319号集石（第127図）

E-39区Ⅷ b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にはは収まる。構成礫は、総数28点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。227号集石の上に位置する。

## 321号集石（第127図）

D-39区Ⅷ a層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。当初は2基の集石として個別に作業を進めていたが、切り合って接しているため、一連の遺構として図化した。土坑①は、80cm×75cmの円形プランで、土坑②は、土坑①に切られ115cmの円形プランである。礫は、土坑内にはは収まる。構成礫は、総数218点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器3

130号集石



130号集石

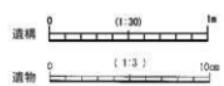
131号集石



131号集石

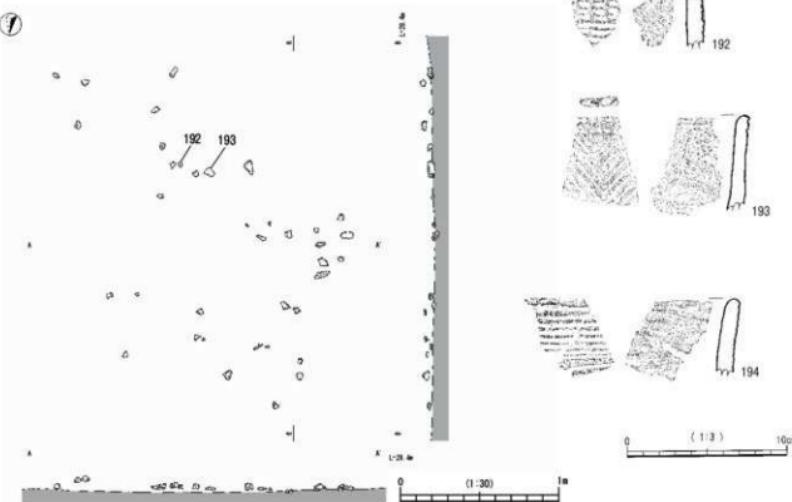


131号集石



第154図 130, 131号集石・出土遺物

132号集石



第155図 132号集石・出土遺物

点で、このうち土器1点を図化した。

322号集石（第127図）

D-39区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数21点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

324号集石（第127図）

D-39区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

325号集石（第128図）

D-39区VII a層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×55cmの略円形プランで、礫は、1.9m×1.4mの範囲に広がる。構成礫は、総数79点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

326号集石（第128図）

D-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数21点で、石材は砂岩と凝灰岩で構成される。集石内遺物は確認できなかつた。

327号集石（第128図）

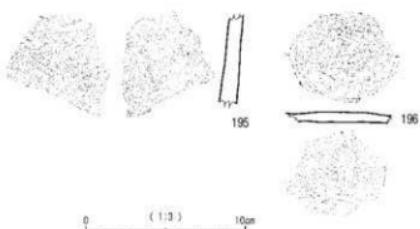
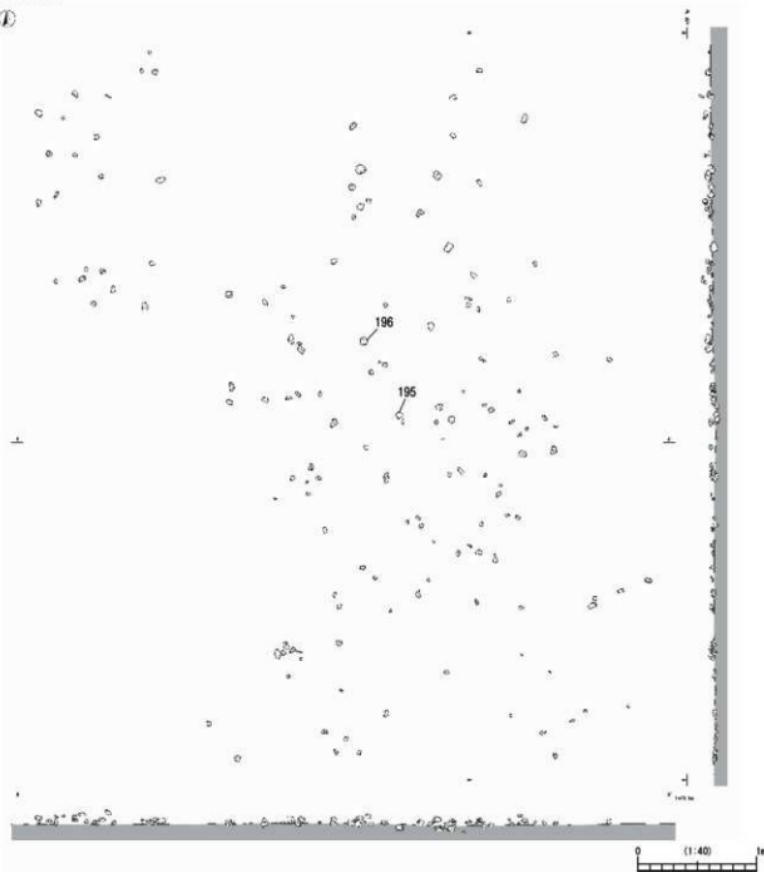
D-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、231号土坑と切り合いにあるため全体形状は不明であるが、長軸85cmの楕円形プランが想定される。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数20点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物は確認できなかつた。

328号集石（第128図）

D-39区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの略円形プランで、検出面から底面までが45cmと深い。礫は、土坑内にばくまり、上下2段に礫が集中する。構成礫は、総数123点で、石材は砂岩が優位である。板状の炭化物の出土も見られた。集石内遺物は確認できなかつた。

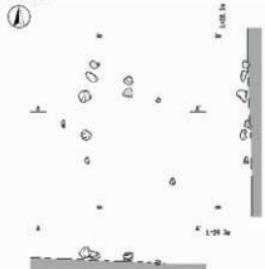
136号集石

①



第156図 136号集石・出土遺物

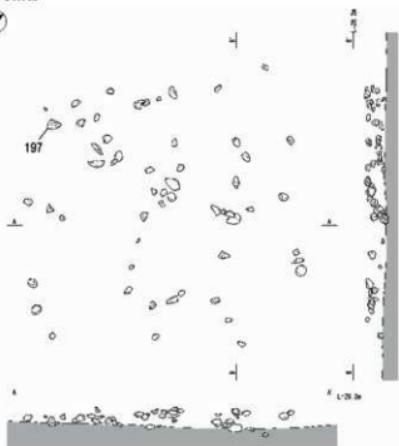
137号集石



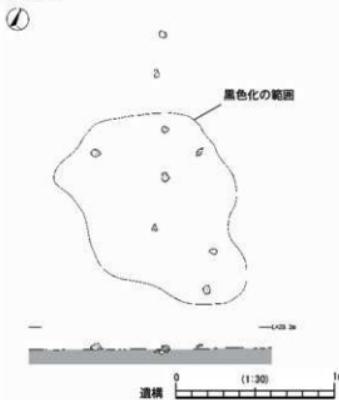
153号集石



148号集石



154号集石



第157図 137, 148, 153, 154号集石・148号集石出土遺物

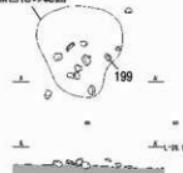
155号集石



161号集石



黒色化の範囲



155号集石



199  
161号集石

遺物 0 (1:2) 10cm

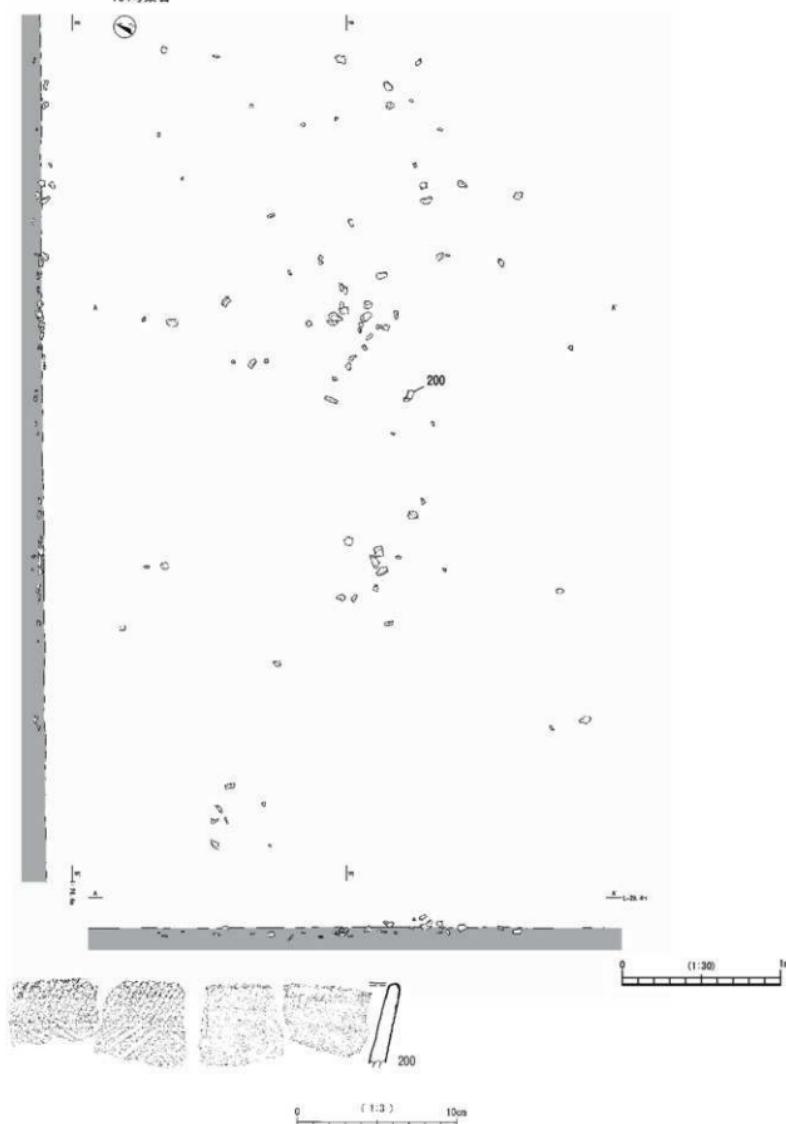
162号集石



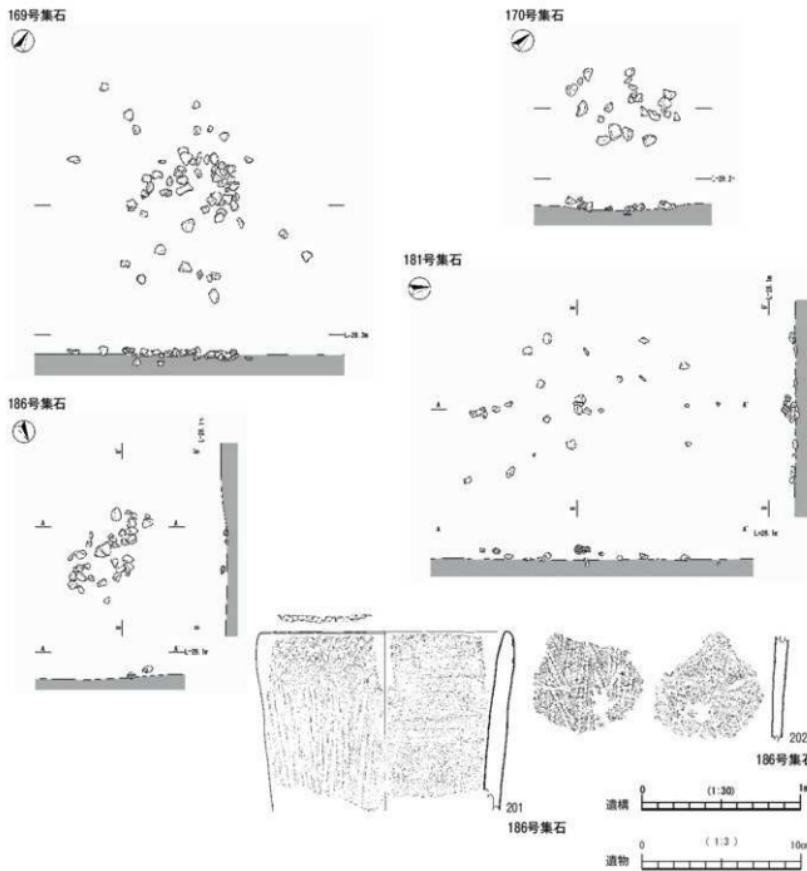
遺物 0 (1:30) 1m

第158図 155, 161, 162号集石・155, 161号集石出土遺物

164号集石



第159図 164号集石・出土遺物



第160図 169, 170, 181, 186号集石・186号集石出土遺物

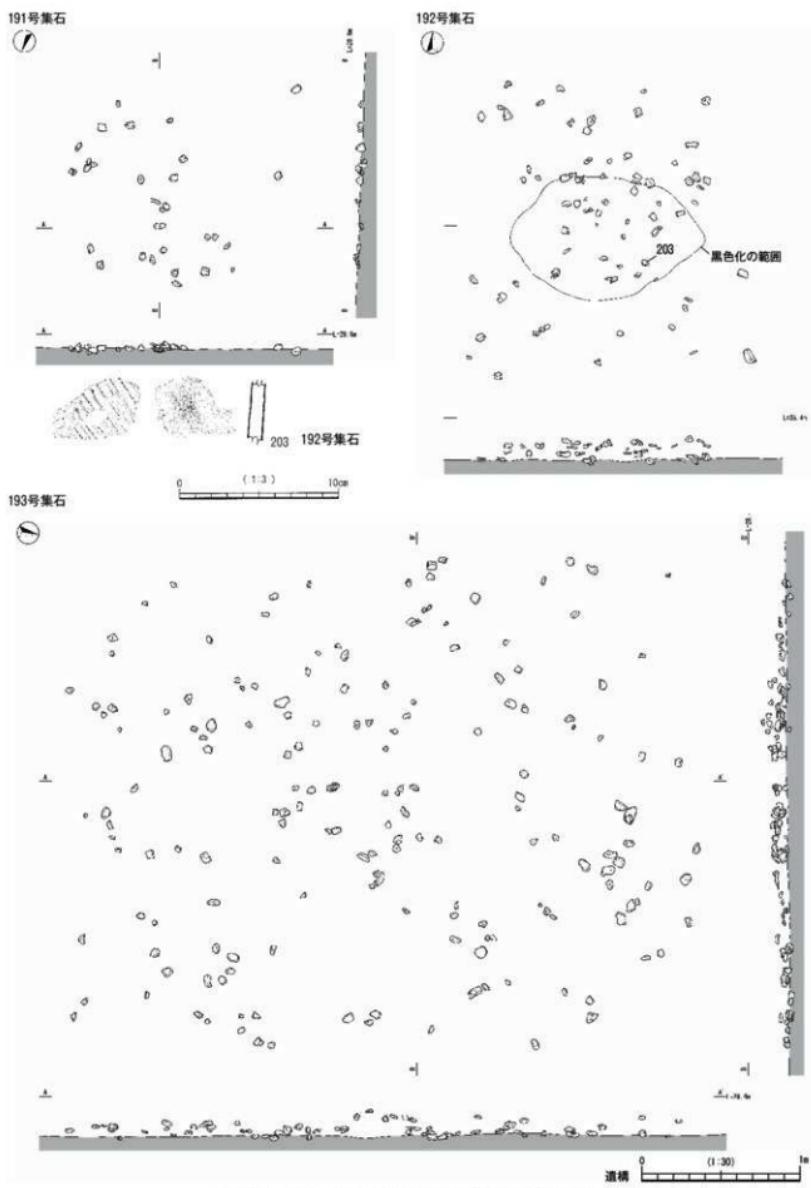
#### 329号集石（第128図）

D-39区VII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×120cmの円形プランで、礫は、2m×1.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数91点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器10点で、このうち土器4点を図化した。

#### 331号集石（第129図）

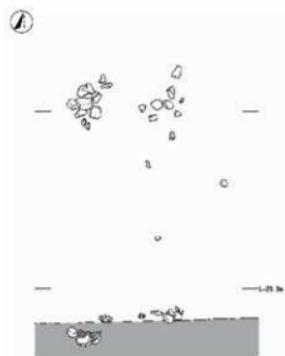
D-39区VII a層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

確認された。土坑は、145cm×130cmの略円形プランで、礫は、2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数84点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器1点を図化した。424号集石と接合関係にある。151は、角筒形土器である。貝殻条痕の上に貝殻刺突文を重ねる。内面には、下から上へのケズリ痕が顕著に残されている。角部には、刺突文が短く施文される。

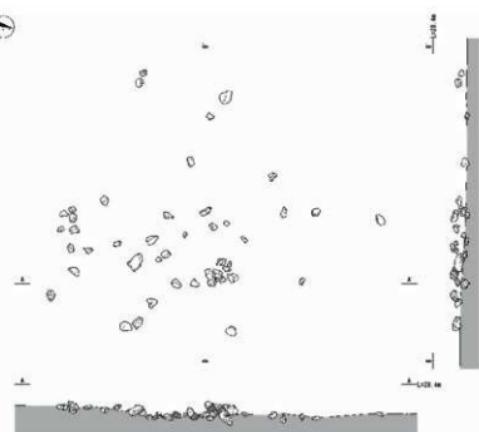


第161図 191, 192, 193号集石・192号集石出土遺物

201号集石



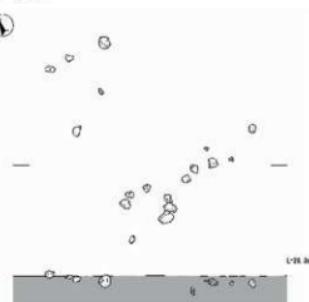
204号集石



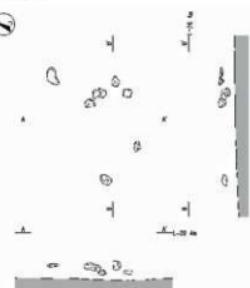
205号集石



207号集石



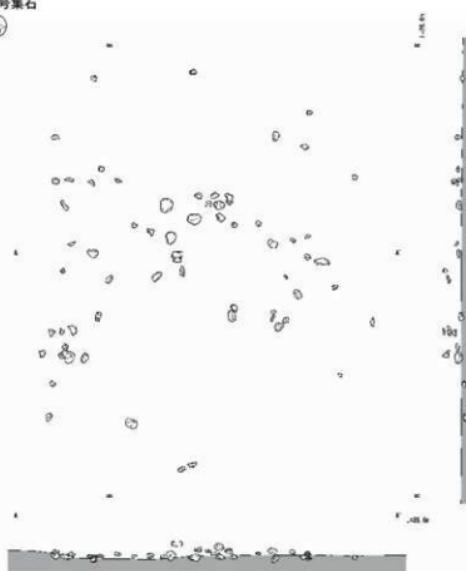
218号集石



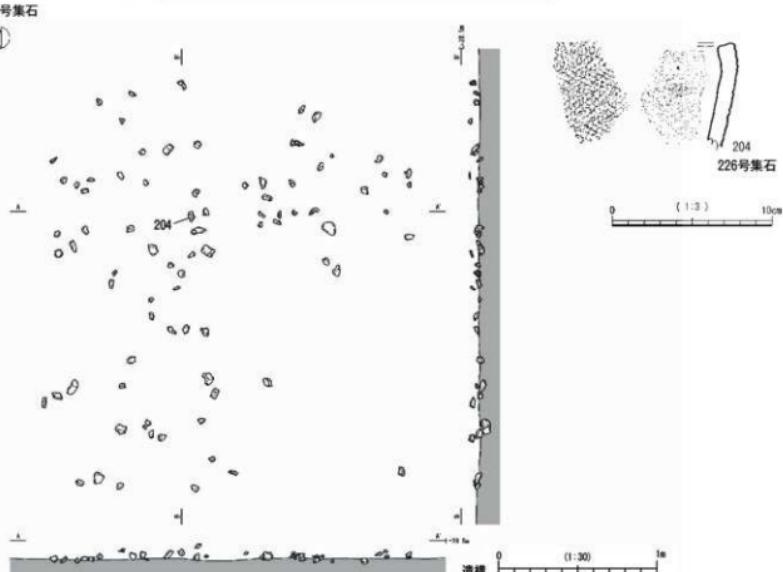
遺構  
0 (1:30) 1m

第162図 201, 204, 205, 207, 218号集石

221号集石



226号集石



226号集石

0 (1:3) 10cm

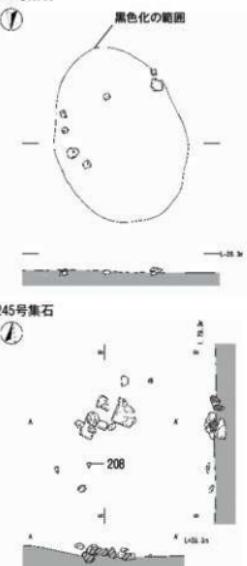
遺構 0 (1:30) 1m

第163図 221, 226号集石・226号集石出土遺物

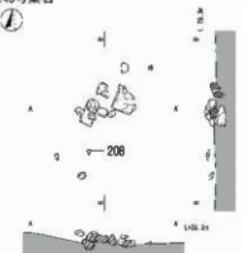
241号集石



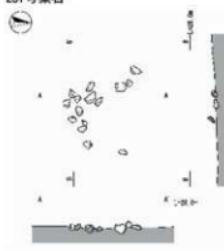
243号集石



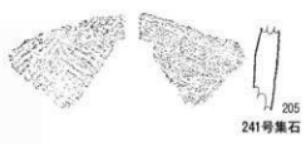
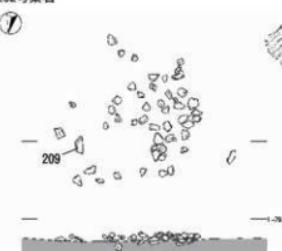
245号集石



257号集石



262号集石

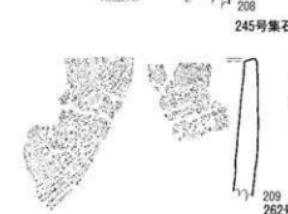
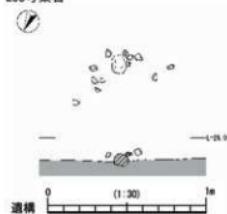


241号集石

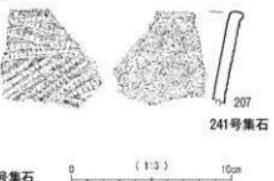


241号集石

263号集石

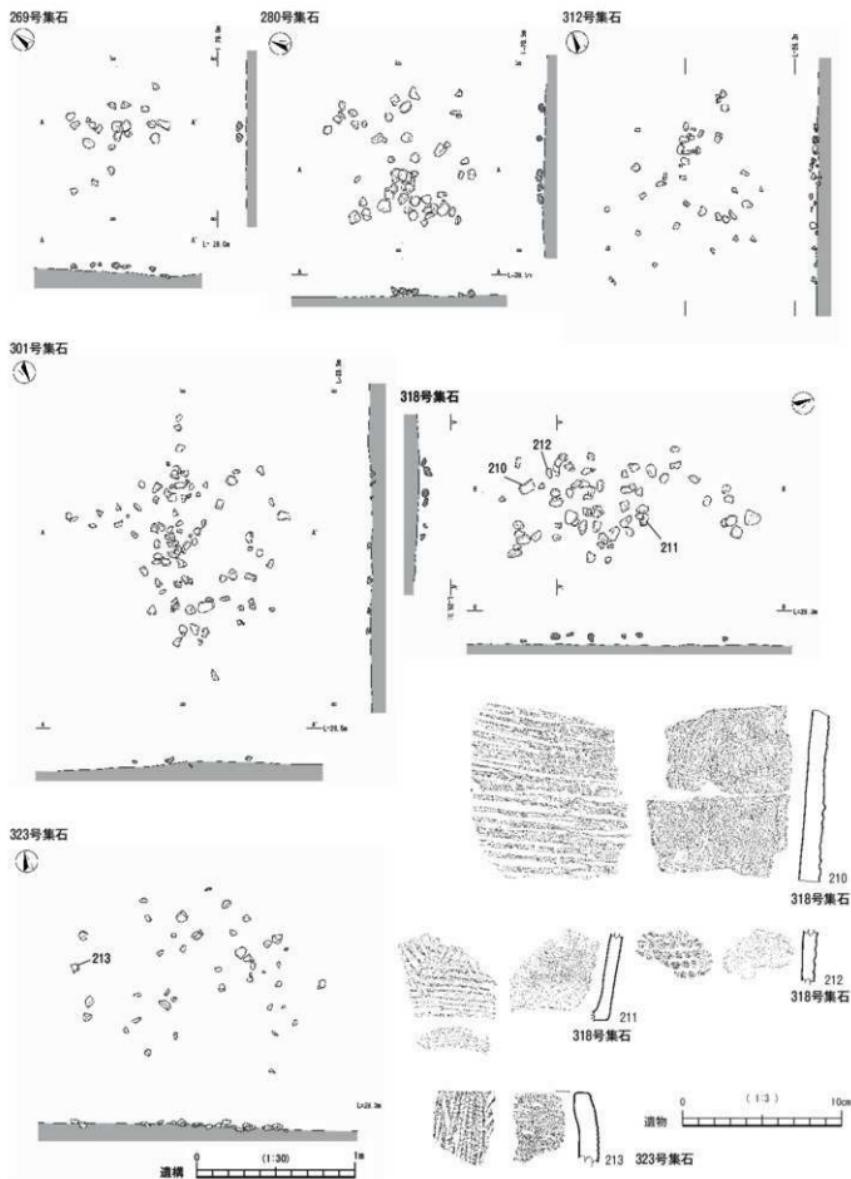


245号集石

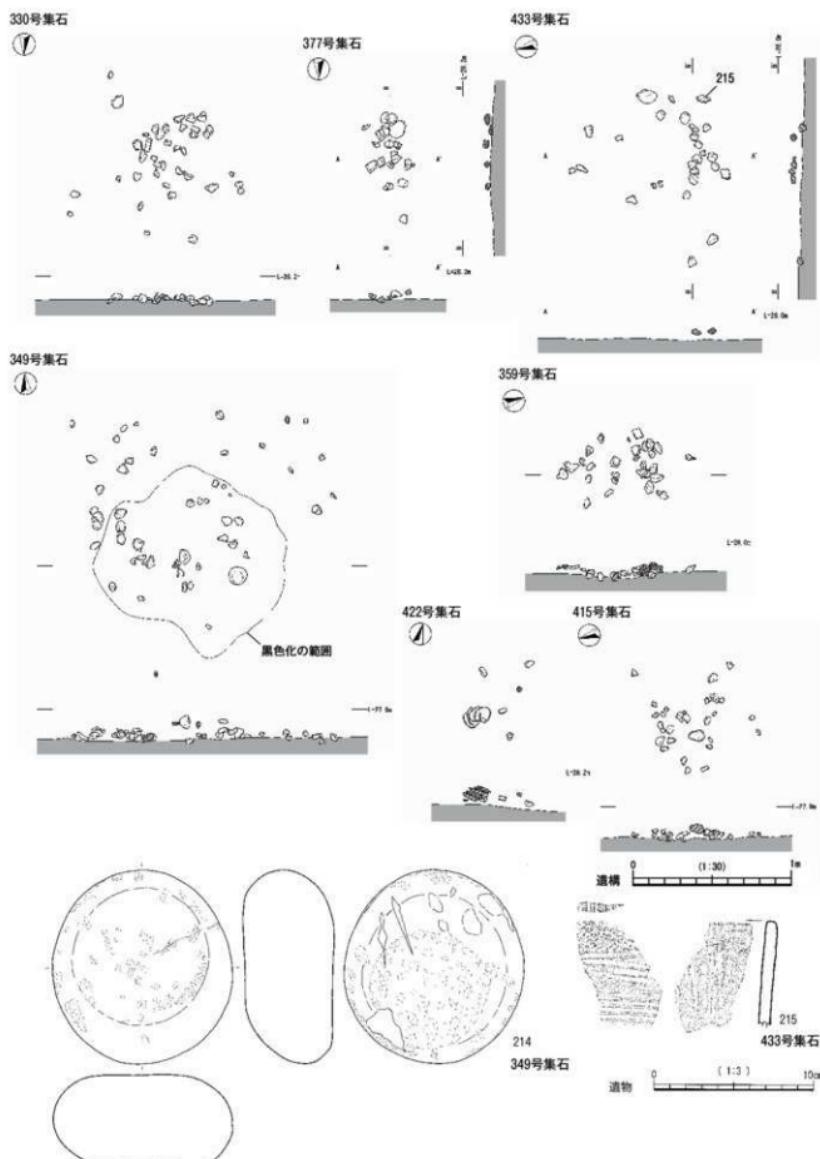


245号集石

第164図 241, 243, 245, 257, 262, 263号集石・241, 245, 262号集石出土遺物



第165図 269, 280, 301, 312, 318, 323号集石・318, 323号集石出土遺物



第166図 330, 349, 359, 377, 415, 422, 433号集石・349, 433号集石出土遺物

### 332号集石（第129図）

D-39・40区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数27点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。床面完掘後、15cm下で236号土坑を検出した。

### 334号集石（第129図）

D-39・40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの略円形プランで、検出面から底面までが35cmとやや深い。礫は、土坑内にほぼ収まるが、土坑内でも上位に集中する傾向がある。構成礫は、総数31点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。236号土坑を切る。

### 336号集石（第130図）

D-39区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×85cmの円形プランで、礫は、土坑底面からやや浮いた状態で、土坑20cm周辺までを一連のものとして記録した。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点で、このうち土器1点を図化した。152は、口縁部がわずかに外反し、口唇端部にキザミが施される。口縁部文様は、斜位の貝殻刺突文で、胴部は綾杉条痕文が施される。

### 337号集石（第130図）

C・D-39区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、1m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。153は、楕円押型文が横位に施される。石器は磨石片1点が出土しているが小破片のため図化には至らなかった。

### 338号集石（第130図）

C・D-39区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×80cmの楕円形プランで、2段掘りとなる。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち2点を図化した。

### 340号集石（第131図）

C-39・40区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、1.2m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数51

点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。146号集石と接合関係にある。156は、口縁部が外反し、胴部でわずかに膨らむ。やや丸みを帯びる口唇部にはキザミが施され、口縁部には斜位の貝殻刺突文が施される。胴部は、綾杉条痕文であるが、やや不揃いの印象がある。内面はでていねいなナデが施されている。

### 341号集石（第131図）

C-39区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×80cmの楕円形プランで、掘り込みは浅い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数29点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器1点でこれを図化した。157は礫素材の剥片の長軸側に鱗皮面からの剥離により刃部を形成しているもので、礫器として図化した。

### 342号集石（第131図）

C-39区Ⅴb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×50cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 343号集石（第131図）

B・C-39区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×105cmの楕円形プランで、礫は、1.7m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、検出時円形に見られたが密な出土ではなく、皿状に落ち込むが、中央部はわずかに空白となる。礫の一部は壁面に沿うように出土し、床面近くでは出土しなかった。総数178点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器9点で、このうち土器1点を図化した。

### 346号集石（第132図）

B-39区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×120cmの略円形プランで、礫は、この土坑内を中心にわずかに周辺へ広がる。構成礫は、総数89点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 347号集石（第132図）

B-39区Ⅴa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑を中心にして1.8m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数202点で、6cm程度の礫が多く、石材はわずかに砂岩が多い傾向にある。集石内遺物と判断したもの

は、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 348号集石（第132図）

B-39区Ⅷa層で検出した。検出時に5~10cm大の砂岩、凝灰岩円礫、破碎繩が掘り込みの縁に沿って出土した。埋土を掘り下ると礫が円形に出土した。中心部から礫の出土が少ない傾向がうかがえた。掘り込みは深く皿状であり、底面から礫は浮いてる。検出された土坑は、100cm×95cmの略円形プランで、礫は、1.5m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数145点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器1点を図化した。159は、貝殻条痕による綾杉文が施される特徴から、10類土器である。

### 350号集石（第132図）

A・B-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へ延びており全体形状を検出できなかったが、最大長110cmの円形プランを呈すると思われる。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数76点で、石材は凝灰岩が優位である。検出面に礫が多い傾向がある。集石内遺物は確認できなかった。

### 351号集石（第132図）

B-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×65cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数9点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 353号集石（第132図）

B-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×70cmの略円形プランで、構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 355号集石（第133図）

B-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×85cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まるが土坑南側に集中する傾向が見られた。構成礫は、総数24点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。291号土坑を切る。

### 358号集石（第133図）

B-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、391号集石を切る。礫は、土坑内中央にまとまる。構成礫は、総数106点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 360号集石（第133図）

B・C-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は土坑検出面に集中し、土坑内にはほぼ収まる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 364号集石（第133図）

C-40・41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×85cmの円形プランで、礫は、土坑内にはほぼ収まる。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。土坑西側に礫がやまとまっている。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。160は口縁部がわざかに外反する。脣部に綾杉条痕文が施されている。

### 365号集石（第134図）

C-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの略円形プランで、すり鉢状に近い断面形状を呈する。構成礫は、検出面よりも土坑内に多く出土し、総数は16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。161は、脣部下半の資料で、底面との接合面で剥離している。器面に楕円押型文を綾位に施し、部分的に無文部を有する。

### 366号集石（第134図）

C-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×125cmの略円形プランで、掘り込みは浅い。礫は、土坑内にはほぼ収まり、土坑中央部に多い。構成礫は、総数116点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。162は、口縁部に綾位の貝殻刺突文を施し、脣部は貝殻条痕文が横位に施文される。

### 367号集石（第134図）

C-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×130cmの円形プランで、検出面から底面までが55cmと深い。構成礫は、総数216点で、石材は砂岩が優位である。記録は、礫の中央部分を点で記録して取り上げていった。集石内遺物は、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。315号土坑を切る。石器は、剥片1点が出土している。

### 368号集石（第134図）

C-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×105cmの楕円形プランで、

標は、土坑内にはば収まる。構成標は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが小破片のため図化は困難であった。床面完掘後317号土坑が検出された。

#### 369号集石（第134図）

C-40区Ⅷb層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×90cmの略円形プランで、標は、土坑内にはば収まる。構成標は、総数126点で、石材は砂岩が優位である。土坑の中心部には炭化物が多い。土坑内西側でステップ状の変化が見られたが、ランを入れるなどのものではなかった。集石内遺物と判断したものは、土器5点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 370号集石（第135図）

D-40・41区IX層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、標は、土坑内にはば収まる。構成標は、総数41点で、中央には大型の軽石が出土した。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。163は、山形押型文が横位に施される。粘土接合部で剥離している。

#### 371号集石（第135図）

D-40区X層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×85cmの円形プランで、標は、総数3点と少ない。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。324号土坑の西に切り合う。

#### 372号集石（第135図）

D-40区Ⅸb層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑①・②内の標は点による取り上げを行い、土坑③部分のみ標を実測した。土坑③は、95cm×85cmの略円形プランで、標は、1.5m×1.4mの範囲に広がる。土坑を有する3基の集石が切り合っており、周辺の標がどの集石に属するかは不明である。埋土の堆積状況から土坑①が古く、土坑③が最も新しい。構成標は、総数129点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 373号集石（第135図）

D-40区Ⅸb層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×95cmの円形プランで、検出面から底面までが30cmと深い。標は、土坑内にはば収まる。構成標は、総数70点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。164は、貝殻条痕が綾糸状に施文さ

れている。

#### 374号集石（第136図）

D-40区Ⅸb層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの略円形プランで、構成標は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。検出面付近に標が集中するが、土坑底面付近からはあまり出土しなかった。集石内遺物は確認できなかった。この集石は、25号堅穴建物跡の上面に位置する。集石完掘後に25号堅穴建物跡を検出したことから、集石が新しい。

#### 375号集石（第136図）

D-40区Ⅸb層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×120cmの楕円形プランで、検出面から底面までが緩やかで浅い。標は、土坑内にはば収まる。構成標は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器1点を図化した。26号堅穴建物跡の上面で検出された。

#### 376号集石（第136図）

D-40区Ⅸb層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×75cmの楕円形プランで、標は、土坑内にはば収まる。構成標は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。下部で328号土坑が検出された。

#### 380号集石（第136図）

D-40区Ⅸb層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの略円形プランで、検出面から底面までが35cmと深い。標は、土坑内に収まる。構成標は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。掘り込みが327号土坑の埋土とプランを切る。

#### 381号集石（第136図）

D-40区X層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×60cmの円形プランで、標は、土坑内にはば収まる。構成標は、一括を含めて総数9点で、底面に大型の標が出土した。意図的なものであるかははつきりしない。石材は全て砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 382号集石（第136図）

D-40区X層で検出した。標の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、55cm×50cmの略円形プランで、標は、土坑内に収まる。構成標は、総数15点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 383号集石（第136図）

D-39・40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×65cmの楕円形プランで、構成礫は、総数6点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 384号集石（第137図）

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×90cmの略円形プランで、礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数20点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。27号竪穴建物跡の20cm上位で検出されているが、両者の関係は明確に出来なかつた。

### 385号集石（第137図）

D-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×55cmの略円形プランで、構成礫は、総数11点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

### 386号集石（第137図）

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 387号集石（第137図）

E-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×50cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数8点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

### 389号集石（第137図）

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランで、礫は、土坑内に総数4点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

### 390号集石（第137図）

E-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×80cmの円形プランで、391号集石と隣接する。礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 391号集石（第137図）

E-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×100cmの略円形プランで、390号集石と隣接する。礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 392号集石（第137図）

E-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの略円形プランで、検出面から底面まで40cmと深い。構成礫の総数や石材については記録を行っていない。集石内遺物と判断したものは、土器2点でこのうち1点を図化した。167は横断面が直線的であることから、角筒形土器と思われる。文様は、貝殻条痕の上に擬位の貝殻刺突文が重なる。

### 393号集石（第138図）

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数16点で、軽石や扁平礫が見られる。石材は凝灰岩が多い傾向にある。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。なお、集石の底面より10cm下で28号竪穴建物跡が検出されている。

### 394号集石（第138図）

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数19点で、石材は砂岩が優位である。埋土中層から炭化物が多くなる傾向が看取された。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。333号土坑の立ち上がりを切る。

### 395号集石（第138図）

E-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×90cmの略円形プランで、浅いすり鉢状の断面形状である。構成礫は、総数19点で、土坑中央に多い傾向がある。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

### 396号集石（第138図）

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×110cmの略円形プランで、礫は、土坑内にはばくまる。構成礫は、総数55点で、30cm程度の軽石が出土している。礫は、上下2層に分かれること傾向があり、中央部に大型の礫が見られる。石材は凝

灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点であるが小破片のため図化は困難であった。333号土坑の上面に収まる。この土坑の埋土を一部掘り込んでいることから、当該集石が新しい。

#### 397号集石（第138図）

E-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数7点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 398号集石（第138図）

E-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×50cmの楕円形プランで、掘り込みは浅い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数8点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 399号集石（第139図）

E-40区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数98点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。169は、楕円押型文が斜位に施文されている。

#### 400号集石（第139図）

E・F-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×60cmの楕円形プランで、礫は、15cmの大形礫が土坑中央に見られ、他は2cm程度の小型礫が土坑内に収まる。構成礫は、総数9点で、石材は砂岩が多い傾向にある。集石内遺物は確認できなかった。401号集石に隣接し、348号土坑・349号土坑を切る。

#### 402号集石（第139図）

F-40区VIIa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数66点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。170は、小波状に近い横位の貝殻条痕文の上位に短い羽状の貝殻刺突文が施されている。

#### 403号集石（第139図）

F-39・40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数123点で、土坑

中央の底面やや上位に20cmの大型礫が出土した。全体としては、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 404号集石（第139図）

F-40区VIIa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×95cmの略円形プランで、検出面から底面までが55cmと深い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数95点で、上層と下層とで分かれて出土する印象があった。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器11点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 405号集石（第139図）

F-40・41区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、構成礫は、総数1点で、本来土坑をすべきものである。石材は砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。357号土坑を切る。

#### 406号集石（第139図）

F-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、構成礫は、総数36点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 407号集石（第140図）

F-39・40区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×95cmの楕円形プランで、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数98点で、比較的の土坑中央部に集中する傾向がある。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器3点で、このうち土器1点を図化した。171は、口縁部が外反し、口縁部内面には段を有する。口縁部と口縁部内外面に比較的小粒な楕円押型文が施される。

#### 409号集石（第140図）

F-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数9点で、石材は砂岩が優位である。このうち軽石が1点出土している。集石内遺物は確認できなかった。

#### 410号集石（第140図）

F-40区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×65cmの略円形プランで、構成礫は、総数30点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 412号集石（第140図）

G - 39・40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へと延びているため全体形状は不明であるが、概ね60cm程度の円形プランが想定される。構成礫は、総数22点で、砂岩のみで構成される。集石内遺物は確認できなかった。集石としては、比較的小さい部類に属する。

#### 413号集石（第140図）

F - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へ延びるため全体形状は不明であるが、120cmの円形プランを呈すると思われる。検出面から底面までが35cmとやや深い。構成礫は、総数138点で、検出面より土坑底面近くに多く出土する傾向がある。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。360号土坑を切る。

#### 416号集石（第140図）

F - 41区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×80cmの円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 418号集石（第141図）

E・F - 41区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、55cm×50cmの略円形プランで、構成礫は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 419号集石（第141図）

E - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの梢円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数75点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点でこれを図化した。172・173は口唇部が小波状を呈する特徴から、1類土器である。

#### 420号集石（第141図）

E - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×115cmの円形プランで、検出面から底面まで30cmとやや深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数130点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 423号集石（第141図）

E - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×105cmの円形プランで、構

成礫は、総数107点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

#### 424号集石（第141図）

E - 41区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの略円形プランで、礫は、1.3m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。331号集石と接合関係にある。石器は石皿片1点が出土している。

#### 425号集石（第141図）

D・E - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×60cmの略円形プランで、426号集石に隣接する。20cm程度の距離で近接しているが、埋土に違いが見られるため、両者は別の集石として記録した。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数12点で、凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 426号集石（第142図）

D・E - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×105cmの略円形プランで、326に隣接する。20cm程度の距離で近接しているが、埋土に違いが見られるため、両者は別の集石として記録した。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数111点で、石材は砂岩が優位である。集石を構成する礫は、検出面に比較的集中しており、土坑南側へかけて多い。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器1点を図化した。379号集石と接合関係にある。

#### 427号集石（第142図）

D - 41区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数12点で、石材は砂岩のみである。礫は、検出面直下にまとまるが、土坑底面からはあまり出土していない。集石内遺物は確認できなかった。

#### 429号集石（第142図）

D - 41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、検出面から底面までが25cmあり、底面が広く壁の立ち上がりが急で、土坑の径に対しては深いという特徴が見られた。礫は、土坑内で完結して総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、

このうち土器1点を図化した。176は、胴部片で、貝殻押引文が施される。

#### 431号集石（第142図）

D-41区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は、土坑内にはほぼ収まる。構成礫は、総数14点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。332号土坑と切り合い関係にあり、322号土坑を切る。

#### 432号集石（第142図）

D-41区VIIb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×65cmの楕円形プランで、礫は、土坑上面を中心にして1.1m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数35点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 434号集石（第142図）

C-41区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×90cmの楕円形プランで、検出面から底面までが38cmとやや深く、底面からの立ち上がりも急な印象を受ける。埋土は4つに分層が可能であった。礫は、土坑の上位に比較的集中し、総数14点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物は確認できなかった。

### （3）集石2a類

#### 177号集石（第143図）

B-36区VIIa層で検出した。検出当初、土坑状のプランが確認されたため半載するなど精査して確認を行ったが、最終的には掘り込みは確認できなかった。礫は、3.5m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数491点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。石器は石皿片が1点出土している。

#### 187号集石（第143図）

C-36区VIIb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.6m×0.3mの範囲で総数8点がまとまる。石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、石器2点で、石器の内訳は磨石片1点と石皿片1点で、このうち1点を図化した。177は石皿類2B類に属する。

#### 196号集石（第144図）

E-36区VIIb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、2.7mの範囲に広がり、その中でも60cmほどに集中する傾向が看取出来る。構成礫は、総

数38点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は1点出土し、これを図化掲載した。178は、磨・敲石類であるが、半分を欠損しているため全体の形状が不明であり、5類に分類した。

#### 199号集石（第145図）

E-F-36区VIIb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかつたが、230cm×170cmの範囲にシミ状の痕跡が確認された。礫は、230cm×170cmの範囲に広がる。構成礫は、総数91点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器15点、石器1点で、このうち土器2点、石器1点をを図化した。181は磨製石斧の基部片である。

#### 333号集石（第145図）

D-39-40区VIIa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、1.5m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数81点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器2点を図化した。

#### 354号集石（第146図）

B-40区VIIa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、0.7m×0.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は、石皿片1点が出土している。

#### 362号集石（第146図）

C-40区VIIb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、0.7m×0.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数51点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は、磨石片1点が出土している。

#### 414号集石（第146図）

F-41区VIIa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、0.6m×0.6mの範囲にまとまっている。構成礫は、総数71点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器2点で、このうち石器1点を図化した。184は円錐の節理面で剥離した半円状の礫素材の長軸中央付近に加壓を加えたもので、石錐の可能性もある。359号土坑の上面に位置する。他に剥片が1点出土している。

### （4）集石2b類

#### 4号集石（第147図）

D-13区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、2.5m×2mの範囲に広がる。構成

標は、総数20点で、まとまりの北側は、南側よりもレベルが上位であり、広めの土坑等の存在を否定できない。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 9号集石（第148図）

A・B-15・16、C-15・16区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、5.5m×3.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数67点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。

#### 15号集石（第149図）

G-21区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、長軸2.9m、短軸2.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数127点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 33号集石（第149図）

E-26区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、長軸70cm、短軸60cmの範囲に広がる。構成礫は、総数21点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。

#### 53号集石（第149図）

D-28区IX層で検出した。シミ状の痕跡と散礫が確認された。礫は、5点のみで全て凝灰岩である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 54号集石（第150図）

D-28区Ⅸb層で検出した。礫の検出と黒化したシミ状の痕跡も確認された。シミ状の痕跡は、1.6m×1.4mの範囲に広がる。礫は、長軸1.7m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数17点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 59号集石（第150図）

F-28区X層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。2.8m×2mの範囲に広がり、やや離れて3点の礫がある。構成礫は総数47点で、凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 62号集石（第150図）

F・G-29区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、一部列状とも見えるように検出され、総数21点を確認した。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 63号集石（第151図）

G-29区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。1.4m×0.6mの範囲に散在している。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 71号集石（第151図）

B-30区Ⅸb層で検出した。礫の検出と同時にシミ状の痕跡を確認した。礫は、2m×1.8mの範囲に広がるが、シミ状痕跡の南側に比較的密集している状況であった。構成礫は、総数95点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 75号集石（第151図）

D-30区Ⅸb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、0.6m×0.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数17点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 78号集石（第151図）

E-30区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、長軸170cm、短軸70cmの範囲に広がる。構成礫は、総数19点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、小破片のため図化は困難であった。

#### 80号集石（第151図）

F-30区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、長軸100cm、短軸60cmの範囲に広がる。構成礫は、総数10点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

#### 81号集石（第151図）

F-30区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかつた。礫は、1.5m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数14点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。186は、瘤状突起を有する口縁部資料である。口唇部は平坦面を有し、キザミが施される。口縁部は、縦位の貝殻刺突文が施されている。

#### 82号集石（第152図）

G-30区Ⅸb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、1.5m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数26点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

### 87号集石（第152図）

D-31区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.4m×0.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数11点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物はと判断したものは、石器1点で石皿片である。

### 99号集石（第152図）

D-32区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため国化は困難であった。

### 103号集石（第152図）

F-32区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を国化した。187は底部片である。器壁が一定でなく、やや内傾しながら胴部が立ち上がる特徴を有している。

### 111号集石（第152図）

G-33区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.7m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点で、このうち土器1点を国化した。188は、底部片である。粘土接合部で剥離している。

### 112号集石（第153図）

F・G-33区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.5m×1.5mの範囲にまとまりを見せるが、その外側へも散在しており、ここまでを集石の範囲として捉えた。構成礫は、総数51点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。17号竪穴建物跡、54号土坑・39号連穴土坑の上面からその周辺に礫が広がっている。

### 125号集石（第153図）

C-34区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.2m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数57点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器9点であるが小破片のため国化は困難であった。

### 130号集石（第154図）

E-34・35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、3m×3mの範囲に広がる。

構成礫は、総数28点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを国化した。

### 131号集石（第154図）

E-34区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、3m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器2点で、これを国化した。いずれも胴部片である。190は、綾杉条痕文が施される。191は、綾杉条痕文であるが、1つの単位が短く、鋸歯状施文にも見える。

### 132号集石（第155図）

E-34区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.5m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器12点、石器1点で、このうち土器3点を国化した。土器はいずれも小破片である。193は、口縁部がほぼ直行し、口縁部に貝殻刺突文を横位に2条めぐらす。胴部は綾杉条痕文が施されている。194は、口唇部が丸みを帯びて口縁部がわずかに外反する。口縁部は、横位の貝殻条痕文が施される。石器は、国化に至らなかったが、磨石が出土している。

### 136号集石（第156図）

F-33・34区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、7m×5mの範囲に広がる。構成礫は、総数139点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器2点を国化した。195は、綾杉条痕文が施される。

### 137号集石（第157図）

F-34区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1m×0.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数8点で、石材は凝灰岩のみである。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため国化は困難であった。

### 148号集石（第157図）

F-35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数50点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点、石器1点で、このうち土器1点を国化した。197は、口縁部がわずかに外反し、平坦な口唇部にはキザミが鋸歯状に施される。口縁部には横位の貝殻刺突文が3条めぐり。胴部は、貝殻押引き文が横位に施されている。国化には至らなかったが、石器は磨石片が出土している。

### 153号集石（第157図）

E - 35区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時にシミ状の痕跡を確認した。礫は、2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数35点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが、小破片のため図化は困難であった。

### 154号集石（第157図）

E - 35区Ⅶb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかつたが、140cm×100cmの範囲でシミ状の痕跡が確認された。構成礫は、総数9点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

### 155号集石（第158図）

E - 35区Ⅶb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかつた。礫は、3m四方の範囲に広がる。構成礫は、総数127点で、石材は砂岩が優位である。礫の散布状況から、2つのまとまりを1つと捉えてしまっている可能性もある。集石内遺物と判断したものは、土器10点で、このうち土器1点を図化した。

### 161号集石（第158図）

E - 35区Ⅶb層で検出した。礫の検出と同時にシミ状の痕跡も確認された。礫は、0.8m×0.4mの範囲に広がる。構成礫は、総数12点で石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は磨石片が出土しているが図化には至らなかつた。

### 162号集石（第158図）

E - 35区Ⅶb層で検出した。土坑などの掘り込みは確認できなかつた。礫は、2.5m×2.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数17点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

### 164号集石（第159図）

E - 34・35区Ⅶb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、5m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数77点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。200は、口縁部が直行する。口縁部に斜位の貝殻刺突文を施し、その下位に横位の貝殻刺突文を1条めぐらせる。胴部は綾杉条痕文が施されることから、10類土器に属する。

### 169号集石（第160図）

D - 35・36区Ⅶb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、1.8m×1.2mの範囲に広がる。

構成礫は、総数60点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 170号集石（第160図）

C - 35区Ⅶb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、0.8m×0.6mの範囲に広がる。構成礫は、総数20点で、石材は砂岩のみで構成される。集石内遺物は確認できなかつた。

### 181号集石（第160図）

C - 36区Ⅶb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、1.7m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数25点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 186号集石（第160図）

C・D - 36区Ⅶb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、0.7m×0.5mの範囲に広がる。185号集石の西側で検出されており、掘り込みはなく一連のもの可能性もある。構成礫は、総数37点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点でこれを図化した。201は、口縁部が直行する。口唇部に刺突文が施され、口縁部には斜位の貝殻刺突文が施される。肩部は縦位の貝殻条痕文が施される。202は、貝殻刺突文が施されることから、11類土器に属する。

### 191号集石（第161図）

E - 36・37区Ⅶb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかつた。礫は、1.7m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数29点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

### 192号集石（第161図）

E - 36区Ⅶa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかつたが、120cm×75cmの範囲にシミ状の痕跡が認められた。礫は、2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数61点で、石材は砂岩が優位である。上層と下層に若干分かれの印象がある。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。203は、綾杉条痕文が施されている。

### 193号集石（第161図）

E - 36区Ⅶa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかつた。礫は、4m四方に広がる。構成礫は、総数136点で、石材は砂岩が優位でわずかに花崗岩を含む。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破

片のため図化は困難であった。

#### 201号集石（第162図）

F - 36区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、80cmの範囲に広がる。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。東西2カ所に礫がまとまっており、西側の方が集中するが、部分的に下層からの礫の検出となっている。集石内遺物は確認できなかった。

#### 204号集石（第162図）

F - 36区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点であるが、小破片のため図化は困難であった。

#### 205号集石（第162図）

F - 36区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。

#### 207号集石（第162図）

F - 36区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.1m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数13点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

#### 218号集石（第162図）

G - 36区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、80cm×60cmの範囲に広がる。構成礫は、総数6点で、石材は凝灰岩のみである。集石内遺物は確認できなかった。

#### 221号集石（第163図）

G - 36区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.5m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数56点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。集石の下部より95号土坑と94号土坑が検出されている。

#### 226号集石（第163図）

G - 37区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.7m×2.3mの範囲に広がる。構

成礫は、総数71点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点、石器1点で、石器は剥片である。土器はこのうちの1点を図化した。204は、口縁部がやや内傾する。口唇部は平坦面を有し、口縁部は貝殻刺突文が羽状に比較的ていねいに施文される。

#### 241号集石（第164図）

E - 37区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数56点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器3点を図化した。

#### 243号集石（第164図）

E - 37区VII b層で検出した。シミ状の痕跡と散礫が確認された。礫は、115cm×85cmのシミ状痕跡内に総数7点確認された。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 245号集石（第164図）

E - 37区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.9m×0.4mの範囲に広がる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを掲載した。

#### 257号集石（第164図）

A・B - 37区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、60cm四方に広がる。構成礫は、総数14点で、周辺には極小の炭化物が認められた。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

#### 262号集石（第164図）

B - 38区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.1m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は凝灰岩と砂岩が同量で花崗岩がわずかに含まれる。集石内遺物と判断したものは、土器7点で、このうち土器1点を図化した。209は口縁部が直行する。口唇部は平坦面を意識しているが一様でない。文様は、外面に繩文・撚糸文が施されている。

#### 263号集石（第164図）

B - 38区VII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数12点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 269号集石（第165図）

D-38区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.6mの範囲に広がる。構成礫は、総数21点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 280号集石（第165図）

F-38・39区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 301号集石（第165図）

F-39区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.6m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数87点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は、磨石片1点が出土している。

### 312号集石（第165図）

E-39区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.4m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数41点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 318号集石（第165図）

E-39区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.5m×0.9mの範囲に広がる。構成礫は、総数60点で、わずかに軽石が混在する。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器3点を図化した。210は横位の貝殻条痕文の上に横位の貝殻条痕文が施されている。211は、梢円押型文が横位の施文される。

### 323号集石（第165図）

D-39区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.7m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数36点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器1点を図化した。213は、口縁部が内傾し、縦位の貝殻刺突文と粒状短沈線文とが交互に組み合わさる。

### 330号集石（第166図）

D-39区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.2m×1.2mの範囲に広がる。構

成礫は、総数35点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 377号集石（第166図）

D-40区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 433号集石（第166図）

D-41区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.2m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は総数24点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は、土器1点でこれを図化した。215は、口縁部が直行し、平坦な口唇部にキザミが施される。口縁部は横位の貝殻刺突文が3から4条めぐり、脣部は横位の貝殻条痕文である。内面調整は縦位の調整痕が残る。

### 349号集石（第166図）

B-39区Ⅷb層で検出した。掘り込み等は確認できなかった。26cm下部より276号土坑が検出されている。礫は、2m四方の範囲に広がる。構成礫は、総数49点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器2点で、石器の内訳は剥片1点、磨石片1点である。このうち石器1点を図化した。214は磨石類2B類に分類した。

### 359号集石（第166図）

B-C-40区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.9m×0.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

### 415号集石（第166図）

F-41区X層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

### 422号集石（第166図）

E-41区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、50cmの範囲に扁平な円錐が集積しており、埋納も想定される。石材は凝灰岩と砂岩が同数出土している。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

## 6 重複遺構

ここでは、複数の遺構が切り合う重複遺構について詳述する。ただし、集石については、この項では断面図などの図示により新旧関係を表すことに留め、詳細については集石の項で記載する。また、埋土番号については、重複遺構内の新しい遺構から連番で付しているが、新旧関係が不明な場合や共通の埋土の場合は遺構毎に付している。各遺構の計測値や分類については観察表を参照していただきたい。なお、遺構内出土土器は、重複遺構の中での古い遺構から順に掲載している。

### 重複遺構 1 (第167図)

E - 9区X層で検出した。3号・4号連穴土坑が重複しているが、埋土の堆積状況等からは新旧関係を検討することが困難であった。やや主軸を越えて主穴部を東西方向に掘り込み、3号連穴土坑は東側に、4号連穴土坑は西側に從穴部を有する。いずれも床面付近に焼土が残存し、4号連穴土坑は焼土塊が見られる。また、3号連穴土坑のブリッジにはX層、4号連穴土坑のブリッジにはX層・XII層が残存する。遺構内遺物と判断したものは、4号連穴土坑からの石器1点であり、図化した。

### 重複遺構 2 (第169図)

D - 14区IX層で検出した。検出面では、8号・9号連穴土坑がほぼ直角方向に重複しているが、埋土の堆積状況等からは新旧関係を検討することが困難であった。8号連穴土坑はブリッジにX層が残存し、9号連穴土坑はブリッジが崩落している。遺構内遺物は確認できなかつた。

### 重複遺構 3 (第170図)

D - 24区IX層で検出した。11号・12号土坑がほぼ直角方向に重複しており、埋土の堆積状況等から11号土坑が新しいと判断した。いずれも断面の形状から落とし穴の可能性が考えられたが、逆茂木痕が確認されなかつたため土坑として取り扱った。12号土坑の掘り込み内南側は、掘削のため埋土の堆積状況が不明である。11号土坑では埋土6cmから3~5cmの摩崖火山灰のブロックがみられる。遺構内遺物と判断したものは、12号土坑から土器1点であり、図化した。217は、口縁部が直行する。貝殻条痕の上に口縁部文様の横位貝殻刺突文が施され、内面はていねいなケズリ痕が残る。

### 重複遺構 4 (第171図)

F - G - 25・26区IX層で検出した。3号・4号・5号堅穴建物跡が重複しており、埋土の堆積状況等から3号堅穴建物跡が最も新しいと判断した。5号堅穴建物跡の南西側周辺に不定形の掘り込みが見られ、当初5号堅穴

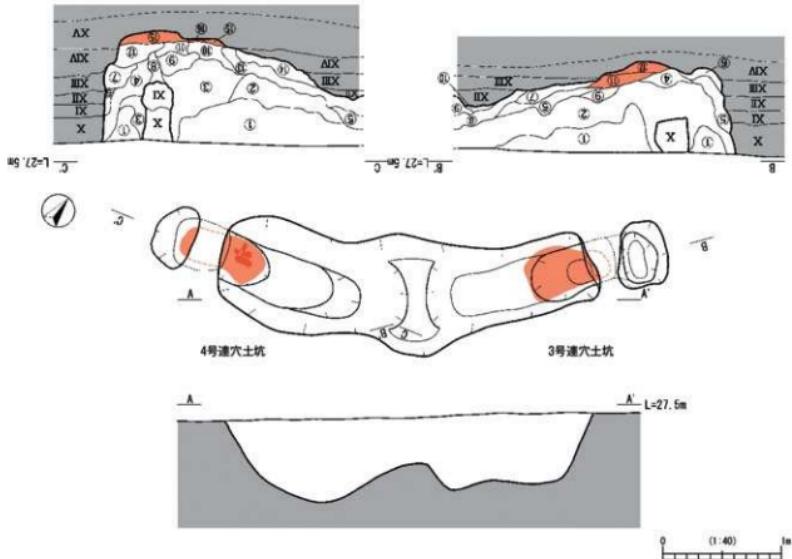
建物跡周辺を巡る大型の掘り込みの可能性も考えられたが、残存状況や埋土の堆積状況等から関係性を検討することは困難であった。この重複遺構の周辺もしくは5号堅穴建物跡内にビットが点在しているが、ビットと重複遺構との関係性も不明である。14号ビットは大型だが、周辺のビットとの関連性を考慮してビットとして取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、5号堅穴建物跡から土器42点と石器1点、4号堅穴建物跡から土器3点、3号堅穴建物跡から土器4点と石器3点であり、そのうち5号堅穴建物跡から土器29点、4号堅穴建物跡から土器2点、3号堅穴建物跡から土器1点を図化した。218と219は、斜位の貝殻刺突文が施される、部分的に瘤状突起が付く。胴部はていねいな綾糸条痕が見られ、底部付近では横位の貝殻条痕となる。220の口唇部には貝殻刺2条による刺突文がめぐらし、口縁部には斜位の貝殻刺突文が施される。221の外側には貝殻条痕文と横位ないし斜位に施し、その上から口縁部文様としての斜位の貝殻刺突文を重ねる。類似する224で見ると、横位の貝殻条痕は口縁部に限っており、胴部は綾糸条痕となる。240は胴部下半に横位の貝殻条痕文が施されている。241は底部外端にキザミ状の刺突が施されている。244は貝殻条痕が比較的シャープな印象がある。247は口縁部が直行する器形で、綾糸条痕の上から口縁部文様である横位の貝殻刺突文が施されている。248は口縁部が直行し直線的な胴部となる。文様は、口縁部に綾糸の貝殻刺突文を施し、胴部はやや長めの綾糸条痕である。

### 重複遺構 5 (第176図)

C - D - 25区で検出され、17号・18号連穴土坑はIX層、14号土坑はX層で検出した。調査時のトレーナによる掘削等のため新旧関係を検討することが困難であった。18号連穴土坑は焼土が残存する。14号土坑は、断面形態等から連穴土坑の可能性も考えられたが、ブリッジや焼土が検出されなかつたこと、掘削のため平面形態がはつきり捉えられなかつたことなどから土坑として取り扱った。17号土坑の埋土中及びブリッジ下からは礫が数点出土している。遺構内遺物と判断したものは、17号連穴土坑から土器4点と石器1点、18号連穴土坑から土器1点であり、そのうち17号連穴土坑から土器3点と石器1点、18号連穴土坑から土器1点を図化した。250は貝殻刺突文を羽状に施す。253は石皿類片で、扁平でやや厚みがあり、両面に磨面が確認される。254は口唇部に貝殻刺2条の刺突文を施す。口縁部文様は、貝殻刺突文が斜位に施される。

### 重複遺構 6 (第178図)

B - 27区VIIb層で検出した。24号連穴土坑と16号土坑がほぼ水平方向に重複しており、埋土の堆積状況等から



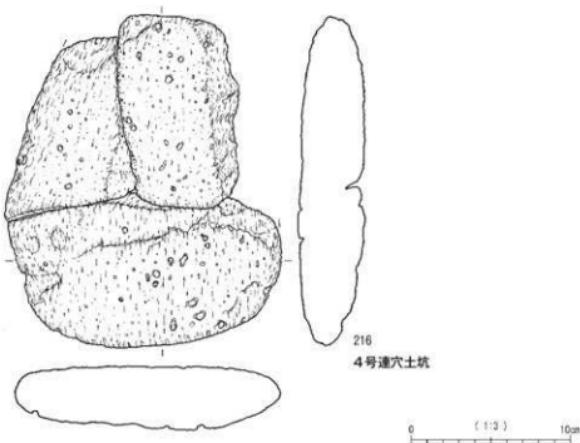
### 3号連穴土坑

- ①黒褐色シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い 3~5mm大の黄色バミス、1mm大の明黄色バミスを多量に含む VIIb層類似  
 ②4号連穴土坑①と同じ  
 ③暗褐色シルト 緋まりやや強い 粘性有り 3mm大の黄色バミスを少量含み、1mm大の白色バミスを少量含む IX層類似の土をブロック状に少量含む  
 ④褐色シルト 緋まりやや強い 粘性有り 3mm大の赤色バミスを上部に極少量含む ③とIX層の混土層 ⑤よりやや黒み強い  
 ⑤暗褐色シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミスを少量、1mm大の白色バミスをわずかに含む IX層類似の土をブロック状に少量含む  
 ⑥褐色粘質土 緋まりやや弱い 黏性やや強め ⑤の土をブロック状にわずかに含む  
 ⑦暗褐色シルト 緋まりやや強い 粘性有り VIIb層類似 明黄バミスを少量含む ③とIX層の混土層  
 ⑧4号連穴土坑⑤と同じ  
 ⑨4号連穴土坑⑤と同じ  
 ⑩暗褐色粘質土 緋まりやや強い 粘性やや弱い 2mm大の赤色粒子を多量に含む ⑪に比べて赤みが強い ③とIX層の混土層  
 ⑪暗褐色シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い 2mm大の赤色粒子を多量に含む、一部赤く変色している ③とIX層の混土層

### 4号連穴土坑

- ①黒褐色シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い VIIb層類似 3~5mm大の明黄バミス、1mm大の白色バミスを多量に含む 炭化物をわずかに含む 3号連穴土坑⑨と同じ埋土  
 ②暗褐色シルト 緋まりやや強い 粘性有り VIIb層類似 3~5mm大の明黄バミスを多量に含み、1mm大の白色バミスを少量含む IX層類似の土をブロック状に多量に含む ⑩より全体的にバミスの量が少ない  
 ③黒褐色シルト 緋まりやや強い 粘性有り VIIb層類似 3mm大の明黄バミスを少量含み、1mm大の白色バミスを含む IX層類似の土、X層類似の土をブロック状に含む ⑪より全体的にバミスの量が少ない  
 ④黒褐色シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い VIIb層類似 3mm大の明黄バミスをわずかに含み、1mm大の白色バミスを少量含む、IX層類似の土をわずかに含む  
 ⑤暗褐色シルト 緋まりやや弱い 粘性やや弱い VIIb層類似 3mm大の明黄バミスを少量含む ⑫に比べて緋まりが弱い ⑬とIX層の混土層 3号連穴土坑⑨と同じ  
 ⑥褐色粘質土 緋まり有り 粘性やや強い IX層類似 ⑭をわずかに含む X層より若干緋まりが弱い  
 ⑦暗褐色粘質土 緋まり有り 粘性やや強い XⅢ層類似 ⑮をブロック状に少量含む ⑯に比べて緋まりが強い  
 ⑧褐色粘質土 緋まり有り 粘性やや弱い XI層類似 ⑯をブロック状に少量含む  
 ⑨褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや弱い XI層類似 ⑰に比べて緋まりが弱い  
 ⑩黒褐色シルト 緋まりやや強い 粘性有り VIIb層類似 3~30mm大の明黄バミスを少量含む  
 ⑪暗褐色シルト 緋まり有り 粘性やや弱い VIIb層類似 3mm大の明黄バミス、1mm大の白色バミスを少量含む ⑫に比べて緋まりが弱い ⑬を少量含む  
 ⑫暗褐色シルト 緋まり有り 粘性やや弱い 粘性有り VIIb層類似 3mm大の明黄バミスをわずかに含む ⑭とIX層の混土層 3号連穴土坑⑨と同じ  
 ⑬褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや弱い XI層類似 XI層に比べて緋まりが弱い  
 ⑭褐色粘質土 緋まり弱い 粘性弱い XⅢ層類似 5mm大の明黄バミスをわずかに含む  
 ⑮明赤褐色シルト 緋まり強い 粘性弱い XIV層類似 5mm大の明黄バミスをわずかに含む

第167図 重複遺構 1



第168図 重複遺構1出土遺物

24号連穴土坑が新しいと判断した。24号連穴土坑のブリッジはX層が残存するが、ややすれ落ちていると考えられる。また、埋土上部から礫が数点出土している。16号土坑は埋土中に蘆摩火山灰ブロックが見られ、ブリッジの可能性も考えられたが、遺構の規模等から土坑と判断した。遺構内遺物は確認できなかった。

#### 重複遺構7（第179図）

F・G-28区で検出され、18号土坑～20号土坑及び9号堅穴建物跡はⅤb層、8号堅穴建物跡、26号連穴土坑はⅣ層で検出した。埋土の堆積状況等から18号土坑～20号土坑が最も新しく、8号堅穴建物跡が最も古いと判断した。26号連穴土坑は調査時のトレーナによる掘削のため、東側のブリッジは観察できなかった。8号堅穴建物跡及び9号堅穴建物跡はいずれも上段と下段に分かれているが、上段は正確な形状の検出が困難であったため、上段平面形は推定線として薄い線で、上段の埋土と考えられる層はa～cのアルファベットで表している。また、8号堅穴建物跡東側にはステップが見られる。埋土の堆積状況から、9号堅穴建物跡の床面付近から26号連穴土坑を掘り込んでいると考えられ、26号連穴土坑のブリッジ下の床面付近からは礫がまとまって出土した。遺構内遺物と判断したものは、8号堅穴建物跡から土器7点と石器2点、9号堅穴建物跡から土器17点と石器5点、18号土坑から土器1点、19号土坑から土器2点であり、そのうち8号堅穴建物跡から土器5点、9号堅穴建物跡から土器11点と石器2点、19号土坑から土器1点を固化し

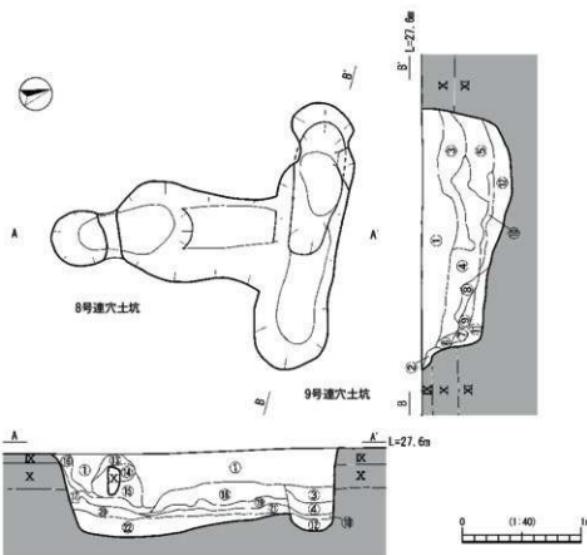
た。255は比較的器壁が薄く、口縁部には斜位の貝殻刺突文が施される。256の胴部は綾杉条痕文で、底部付近で横位の貝殻条痕文が重ねられる。260は口唇部に貝殻刺突文が施される。口縁部には貝殻刺突文が羽状に施される。261は、口縁部文様帶は確認できず、綾杉条痕文が全面に施される。262は瘤状突起が付く。口縁部上端に横位の貝殻刺突文が1条めぐり、その下位に縱位の貝殻刺突文が施される。265は浅い綾杉条痕文が施される。267は太めの貝殻条痕により綾杉状に施文されている。

#### 重複遺構8（第182図）

D-30・31区X層で検出した。12号堅穴建物跡・30号連穴土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から12号堅穴建物跡が新しいと判断した。12号堅穴建物跡は方形を呈し、30号連穴土坑の主底部東側を切る。遺構内遺物と判断したものは、12号堅穴建物跡から土器3点であり、固化した。274は綾杉条痕文と思われる。

#### 重複遺構9（第183図）

C・D-32区X層で検出した。36号・37号連穴土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から37号連穴土坑が新しいと判断した。いずれも焼土が残存するが、36号連穴土坑はブリッジが崩落している。37号連穴土坑のブリッジにはX層が残存し、埋土下部からは礫が数点、検出面付近から土器片が出土している。遺構内遺物と判断したものは、37号連穴土坑から土器2点と、36号連穴土坑から土器3点であり、そのうち37号連穴土坑から土器1点



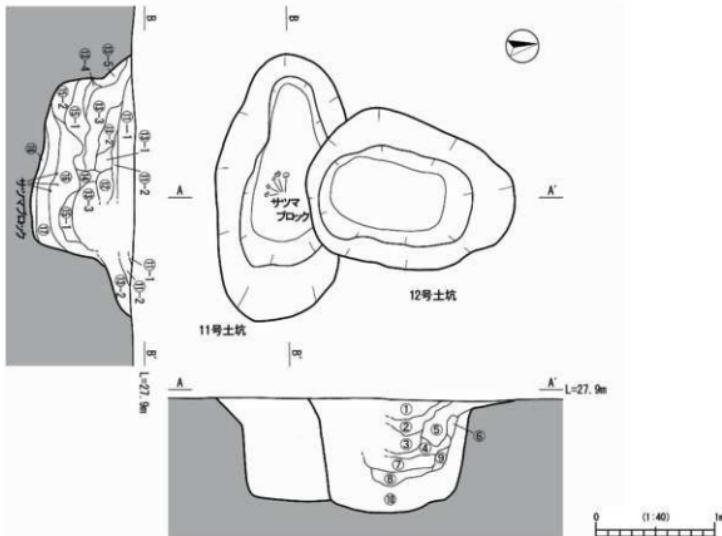
- ① 黒褐色シルト 緋まりやや強い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを多量含み、1mm大の白色バミスを多量含む
- ② 鎌褐色シルト 緋まりやや強い 黏性やや弱い IX層類似 1mm大の黄色バミスを微量含み、X層ブロックを少量含む
- ③ 黒褐色シルト 緋まりやや強い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを中量含み、IX層ブロックを微量含む、1mm大の白色バミスを少量含む ④ よりリバミスさらに少なく、やや柔らかい
- ④ 黒褐色シルト 緋まりやや弱い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを多量含み、1mm大の白色バミスを多量含む、IX層ブロックを微量含む ⑤ よりリバミス少なく、やや柔らかい
- ⑤ 黒褐色シルト 緋まりやや弱い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを少量含み、1mm大の白色バミスを少量含む、X層ブロックを微量含む ⑥ よりバミス少く、やや柔らかい
- ⑥ 黒褐色シルト 緋まりやや弱い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを少量含み、1mm大の白色バミスを少量含む、X層ブロックを微量含む ⑦ よりバミス少くない 弱い斑状
- ⑦ 黒褐色シルト 緋まりやや弱い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを少量含み、1mm大の白色バミスを微量含む、IX層ブロックを少量含む ⑧ +⑨の混土
- ⑧ 黒褐色シルト 緋まりやや弱い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを多量含み、1mm大の白色バミスを中量含む、IX層ブロックを微量含む ⑩ +⑪の混土
- ⑨ 黒褐色シルト 緋まり強い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを多量含み、1mm大の白色バミスを中量含む、IX層ブロックを微量含む バミス量多く、黒み最も強い 固くしまるラミナ構造にははっきりとは見えられないが、スローブ形状の埋土に似る
- ⑩ 残褐色粘質土 緋まりやや弱い 黏性やや強い Vib層とIX層の混土 Vib層ブロック70~80%程度
- ⑪ 残褐色粘質土 緋まり有り 黏性有り Vib層類似 Vib層ブロック少量含む ⑫ よりVib層ブロック少ない
- ⑫ 残褐色粘質土 緋まり強い 黏性弱い 売く変色している
- ⑬ 緋まりやや強い 黏性有り 2~3mmの大黄色バミスを多量含み、1mm大の白色バミスを少量含む Vib層+Ⅸ混土層
- ⑭ 残褐色シルト 緋まりやや弱い 黏性やや弱い IX層類似 1mm大の黄色バミスを微量含み、X層ブロックを少量含む バミス少くない
- ⑮ 残褐色シルト 緋まりやや弱い 黏性やや弱い IX層類似 1mm大の黄色バミスを少量含み、X層ブロックを微量含む バミス少くない
- ⑯ 黒褐色シルト 緋まりやや弱い 黏性やや弱い Vib層類似 1~3mm大の黄色バミスを少量含み、X層ブロックを微量含む
- ⑰ 黒褐色シルト 細かい 痕状
- ⑱ ⑯に類似 Vib層とIX層との混土ブロック (50%~50%) 著しい斑状
- ⑲ 残褐色粘質土 緋まりやや弱い 黏性やや強い IX層類似 Vib層ブロック微量
- ⑳ 残褐色土 緋まりやや弱い 黏性やや弱い IX層起源の粘土質 Vib層ブロックほとんど含まない ⑪と比べると、やや明るく粘性弱い
- ㉑ 残褐色粘質土 細かい 痕状

第169図 重複遺構2

36号通穴土坑から土器1点固化した。278は綾杉条痕文の上から浅くナデが施されている。

#### 重複遺構10 (第184図)

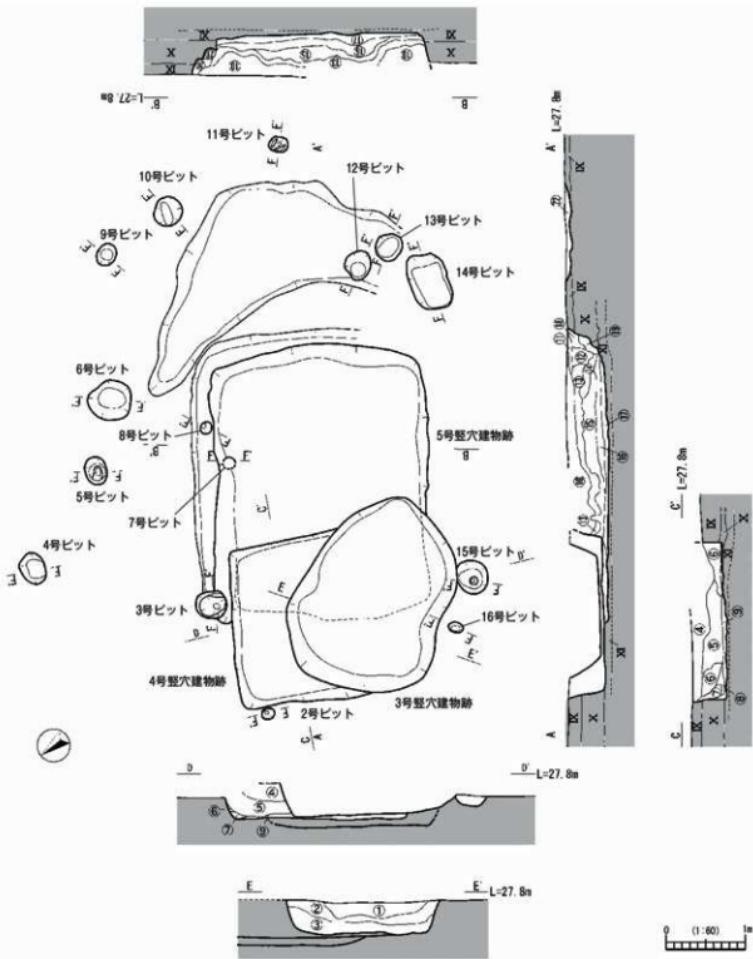
G-32・33区IX層で検出した。16号堅穴建物跡・27号土坑・38号通穴土坑が重複しており、現場段階の位置情



- (1) 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス多量、1~3mm大の橙色バミス中量、2mm大の炭化物粒を少量含む  
 (2) 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の白色バミス、橙色バミス、炭化物粒を少量含む 土質は(1)に似るが、混入物の割合が(1)に比べ少ない  
 (3) 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の白色バミス、橙色バミス、炭化物粒を少量含む 1~2cm大の褐色土ブロックを少量含む  
 (4) 黑褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量、橙色バミス、炭化物粒含む  
 (5) 黑褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量、2mm大の橙色バミス少量含む、1~2cm大の褐色土ブロックを中量含む  
 (6) 黑褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2cm大の褐色土ブロックを多量含む  
 (7) 黑褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2cm大の白色バミス微量、1~3mm大の橙色ブロック少量含む、1cm大の褐色土ブロックを微量含む  
 (8) 黑褐色土 締まり強い 粘性弱い 2mm大の橙色バミスを微量含む  
 (9) 暗赤褐色粘質土と黒褐色土との混在 締まり弱い 粘性強  
 (10) 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや弱く、ほとんど含有物を含まない  
 (11)-1 黒褐色土 締まり強い 粘性なく1mm以下の白色バミス多く含む、レンズ状に堆積する白色バミス多く 1~3mmのオレンジバミス少ないと  
 の炭化物多く含む  
 (11)-2 灰褐色土 ⑪-1よりやや明るいバミス比較的やや多い  
 (12) 梅色土 締まり弱い 粘性弱い 1~3cm程度の暗赤褐色土主体のブロック土 薩摩火山灰起源の可能性もあるが、締まり弱い  
 (13)-1 黒褐色土 ⑫-2と似るが、黄色味強く明るい 橙色バミス含むが少ない  
 (13)-2 黑褐色土 ⑪-1と比べ若干明るい 橙色バミス多く含む  
 (13)-3 暗褐色土 ⑬b層類似の黒褐色土を堆積すると共に、1~3mm大の橙色バミス、1mm以下の大粒白色バミスを多く含む1~3cm大の斑状堆積目立つ  
 (13)-4 黑褐色土 1~3cm大の斑状堆積目立つ 橙色バミス、白色バミスとも⑫-2, ⑬-3と比べ若干少ない  
 (13)-5 黑褐色土 1~3cm大の斑状堆積目立つ 橙色バミス、白色バミスとも⑫-2, ⑬-3と比べ若干多い  
 (14) 梅色土 締まりなくやわらかい 粘性もなし ⑯よりさらに暗い 暗赤褐色土主体の埋土 Vb層類似の黒褐色土を1~3cm大の斑状にわずかに含む ⑮-1, ⑯と⑯の混合層 2~4cmの斑状を呈する  
 (15)-1 暗褐色土 混土割合が50%程度か、黑色土の割合が多い  
 (15)-2 暗赤褐色土 ⑯-1と比べ締まり弱い  
 (16) 暗赤褐色土 やわらかく、1~3cm大の斑状を呈する 下部に10cm大の黄色ロームブロックが少量有する  
 (17) 黑褐色土 締まり弱いが、粘性強い ⑯~XⅢ層相当 ⑯と比べると暗くねばりあるが若干やわらかい  
 (18) 梅色土 締まりややあるが、粘性はない XⅣ層相当のブロック土



第170図 重複遺構3・出土遺物

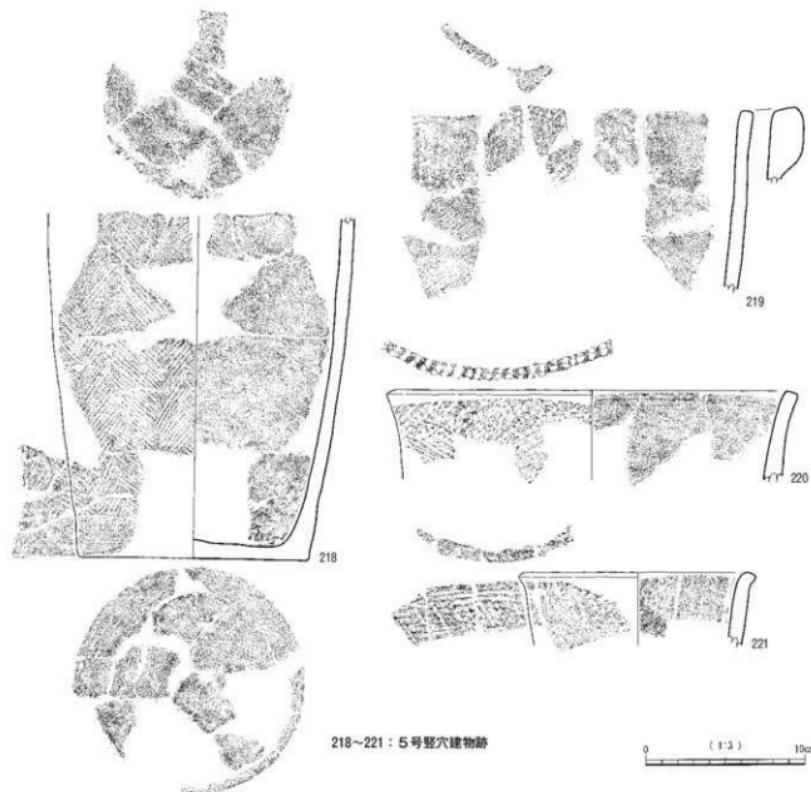


第171図 重複構造4・周辺ピット

報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から16号堅穴建物跡が27号土坑、38号連穴土坑に切離していると判断した。16号堅穴建物跡は段を有する堅穴建物跡と考えられるが、北側は調査区境のため検出できなかった。また、16号堅穴建物跡上部には、埋土の可能性が考えら

れるが平面的な広がりが不明な堆積がみられることから、周辺土層とは区別してa・bで表している。38号連穴土坑は焼土が残る連穴土坑で、ブリッジにはX層、Y層、Z層が残存する。38号連穴土坑の埋土上部及び27号土坑の埋土上部には礫が散在している。遺構内遺物と判断し





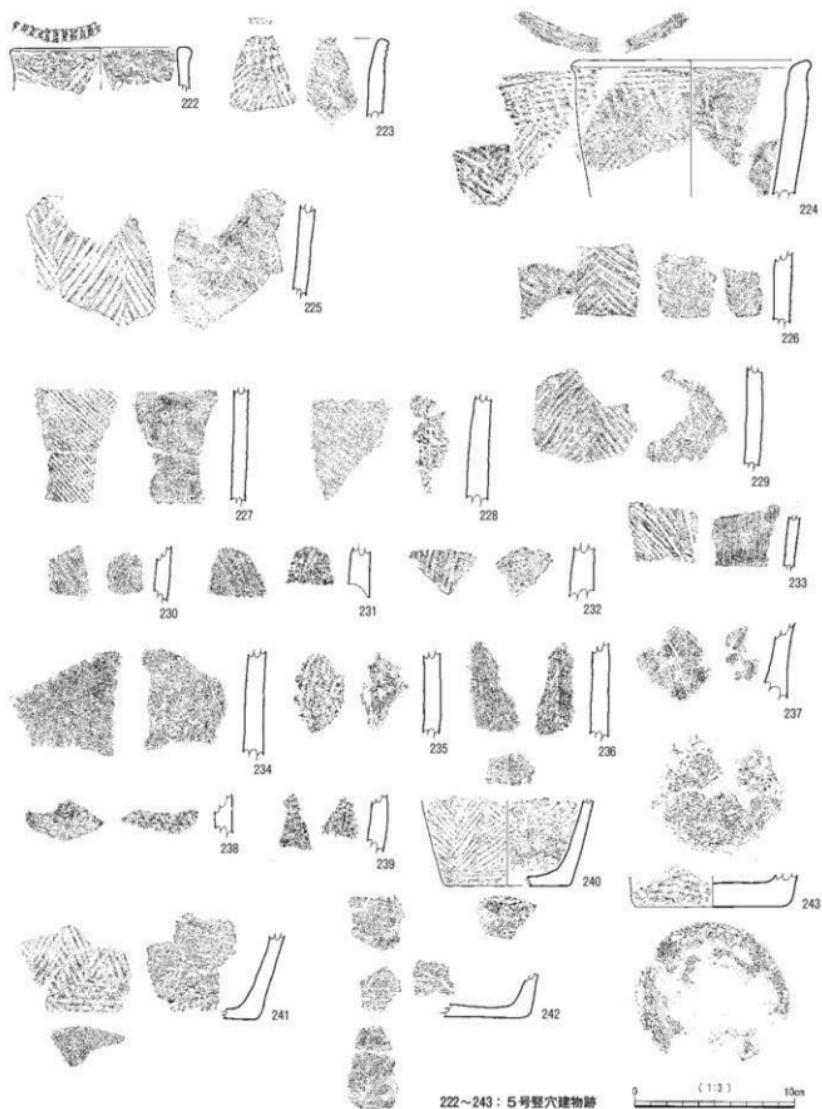
第173図 重複遺構4出土遺物①

たものは、16号竪穴建物跡から土器4点と石器2点、38号連穴土坑から土器2点であり、そのうち16号竪穴建物跡から土器4点と石器1点、38号連穴土坑から土器1点図化した。279はシャープな稜形条痕である。283は扁平な円錐を分割し、分剖面から細石刃を剥離している。

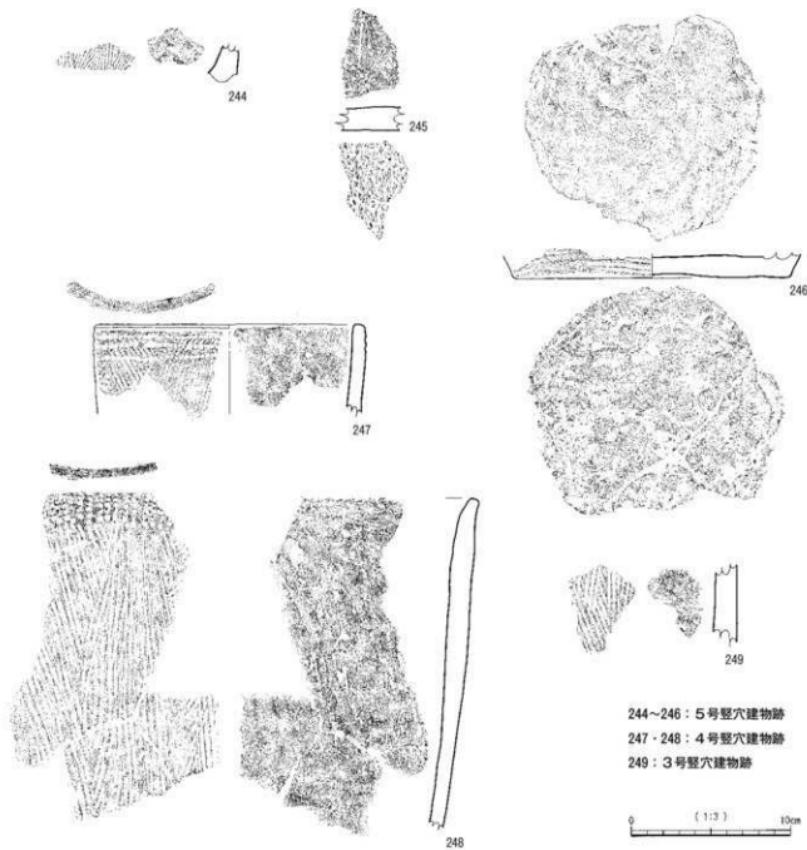
#### 重複遺構11（第186図）

G-33区で検出され、18号竪穴建物跡はⅧb層、17号竪穴建物跡・39号連穴土坑・29号土坑はⅨ層で検出した。現場段階の位置情報を元に整理作業で復元した。17号竪穴建物跡が最も古く、39号連穴土坑と29号土坑が17号竪

穴建物跡の真上に重複し、さらに17号竪穴建物跡東側壁面が18号竪穴建物跡に切られる判斷した。ただし、18号竪穴建物跡と29号土坑の新旧関係は不明である。39号連穴土坑は楕円形でわずかにブリッジの痕跡が残り、29号土坑も類似した楕円形を呈するが、痕跡が見られなかったため土坑として取り扱った。また、39号連穴土坑は検出面から床面まで約48cmと他の遺構に比べて深い。17号竪穴建物跡・18号竪穴建物跡はいずれもスロープ状施設が見られるが、18号竪穴建物跡のスロープ状施設は調査時の掘削により平面では観察できず、埋土の堆積状況からおよその平面形を復元した。遺構内遺物と判断したものは、18号竪穴建物跡から土器15点と石器1点、29



第174図 重複造構4出土遺物②



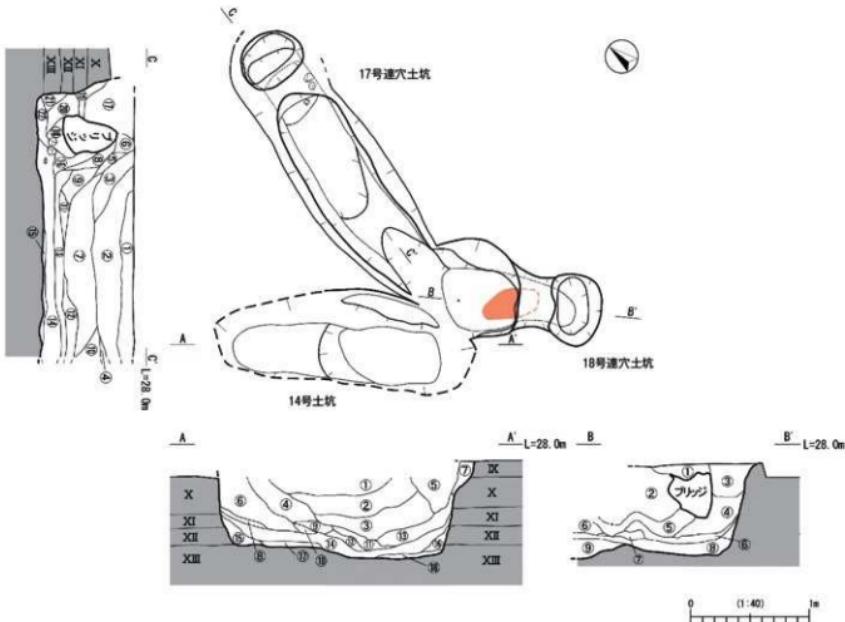
第175図 重複造構4出土遺物③

号土坑から土器2点であり、そのうち18号竪穴建物跡から土器6点と石器1点、29号土坑から土器1点を図化した。287は、わずかに綾杉条痕文と確認できる。288は短沈線を羽状に施す。290は口唇部が丸みを呈してやや内傾する。器壁はやや厚手で、内外面共にナデが施される。

#### 重複造構12（第188図）

F・G-33区IX層で検出した。30号・31号土坑と40号連穴土坑が重複している。10号連穴土坑が30号土坑の南端を切り、わずかに31号土坑が40号連穴土坑の南東端を

切る。40号連穴土坑は埋土中に蘿火山灰(X層)ブロックを含み埋道部が想定される床面がピット状に深くなっている。西側を主軸に沿って断ち割り確認したところ、XV層からXVI層中にシミ状痕跡が認められた。これらの状況から、40号連穴土坑は連穴土坑として取り扱った。造構内遺物と判断したものは、40号連穴土坑から土器1点、31号土坑から石器1点であり、そのうち40号連穴土坑の土器1点を図化した。293は綾杉条痕文が施されている。



#### 14号土坑

- (1) 黒褐色 緋まりは強く粘性もある 2m以下の黄色バミスを多く含み、1m以下の白色バミスをわずかに含む
- (2) 黒褐色 緋まりは強く粘性もある ((1)より若干粘性は弱い) 5m以下の黄色バミスを多く含み、1m以下の白色バミスも多く含む
- (3) 黑褐色 やや緋まり有り 粘性少ない 1m以下の黄色バミスを多く含み、1m以下の白色バミスをわずかに含む (暗褐色粘質土を斑に含む)
- (4) 黑褐色 やや緋まり有り 粘性少ない 5m以下の黄色バミスを多く含み、1m以下の白色バミスを斑に含む (暗褐色粘質土を斑に含む)
- (5) 黑褐色 緋まりは強く 粘性有り 1m以下の黄色バミスを多く含み、1m以下の白色バミスをわずかに含む
- (6) 黑褐色 緋まりは強く 粘性もある 1m以下の黄色バミスを多く含み、1m以下の白色バミスを多く含む (X層酷似した土を多く含む)
- (7) 黑褐色 やや緋まり 粘性もある 5m以下の黄色バミスをわずかに含む
- (8) 黑褐色に暗褐色をブロック状に含む やや緋まり有り 3m以下の黄色バミスをわずかに含み、白色バミスも極わずかに含む Vb層とX層の混在層
- (9) 黑褐色に暗褐色をブロック状に含む やや緋まり有り 3m以下の黄色バミスをわずかに含む白色バミスも極わずかに含む ((6)と酷似している) Vb層とX層の混在層

※暗褐色に黒褐色を斑に含む やや緋まり 粘性が強い 2m以下の黄色バミスをわずかに含み 白色バミスも極わずかに含む Vb層とX層の混在層

⑩ 黑褐色に黒褐色を斑に含む やや緋まり 粘性が強い 2m以下の黄色バミスをわずかに含み白色バミスも極わずかに含む ((6)と酷似している) Vb層とX層の混在層

※暗褐色に黒褐色を斑に含む 緋まりは弱く 粘性が強い 1m以下の黄色バミスを極わずかに認める Vb層とX層の混在層

※暗褐色に黒褐色を斑に含む やや緋まり 粘性が強い 5m以下の黄色バミスを極わずかに含む 白色バミスも極わずかに含む ((8)・(9)と酷似している) Vb層とX層の混在層

※暗褐色に黒褐色を斑に含む 緋まりは弱く 粘性が強い 5m以下の黄色バミスと1m以下の青灰色バミスを極わずかに認める ((8)より若干緋まりがある) X層とX層の混在層

※暗褐色に黒褐色を斑に含む 緋まりは弱く 粘性が強い 5m以下の青灰色バミスを極わずかに認める ((8)と酷似している) ((8)より若干緋まりがある)

18号連穴土坑

- (1) 黒褐色 粘性砂質土 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミス少量含む やや緋まり強い
- (2) 黑褐色 粘性砂質土 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミス多量に含む やや緋まり強い X層と思われる粘質土を斑に含む
- (3) 黑褐色 粘性砂質土 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを多量に含む やや緋まり強い X層と思われる粘質土を斑に含む ((2)と類似)
- (4) 黑褐色 粘性砂質土 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを少量含む やや緋まり強い (Vb層とX層の混合層) X層を30%含む)
- (5) 黑褐色 粘性砂質土 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを少量含む やや緋まり強い (Vb層とX層の混合層) X層を30%含む) ((4)と類似) 炭化層と焼土あり

⑥ 暗褐色粘質土 緋まりはやや有り (Vb層とX層の混合土) (X層が50%)

⑦ 暗褐色粘質土 緋まりなし

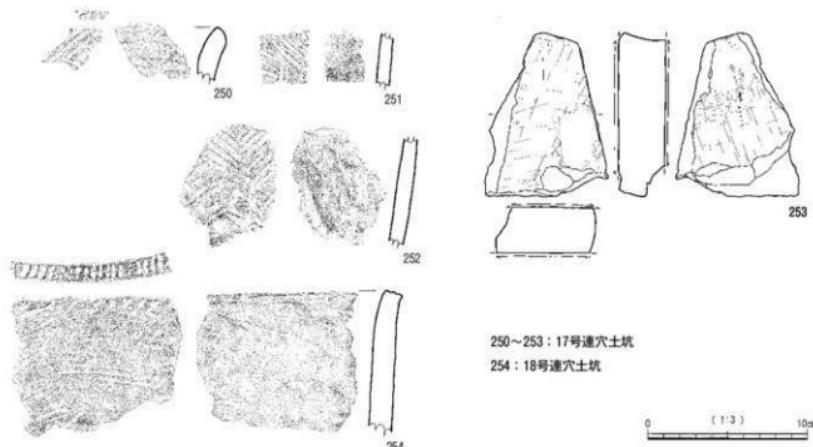
⑧ 暗褐色粘質土 緋まりなし (炭化物と黄色バミスを少量含む) ((7)より若干色暗い)

⑨ 暗褐色粘質土 緋まりなし (黄色バミスと白色バミスを少量含む)

第176図 重複遺構5

### 17号連穴土坑

- ①黒褐色粘性砂質土 やや練まり有り 5m以下の中黄色バミスを中量含み 1m以下の白色バミスを若干含む
- ②黒褐色粘性砂質土 やや練まり有り 8m以下の黄色バミスを中量含み 1m以下の白色バミスを多量に含む
- ③黒褐色粘性砂質土 やや練まり有り 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを多量に含む 炭化物含む
- ④黒褐色粘性砂質土 やや練まり有り 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを多量に含む 炭化物含む
- ⑤黒褐色粘性砂質土 粘性強い 3mm以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを均等に含む
- ⑥黒褐色粘性砂質土 粘性強い 1m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを均等に含む (Ⅶb層とⅪ層の土層)
- ⑦黒褐色粘性砂質土 やや練まり有り 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを中量含む (7cm大のレキ含む) (Ⅺ層と類似している土をまだらに含む)
- ⑧暗褐色砂質土 (若干の粘性有り) 練まりは弱い 5m以下の黄色バミスを均等に含む 1m以下の白色バミスを上位に中量含む
- ⑨暗褐色粘性砂質土 やや練まり有り 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを中量含む (Ⅺ層と類似している土を含む)
- ⑩粘性砂質土 練まりは強い 8m以下の黄色バミスを多量に含み 1m以下の白色バミスを少量含む (下位にⅩ層と類似している土が堆積 炭化物を多量に含む)
- ⑪黒褐色粘性砂質土 練まりは強い 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを少量含む
- ⑫黒褐色粘性砂質土 練まりは強い 5m以下の黄色バミスと1m以下の白色バミスを少量含む (Ⅺ層と類似)
- ⑬暗褐色 (ⅩⅢ層に類似) に黒褐色をまだらに含む 練まりは強い (Ⅺ層の漸移層)
- ⑭暗褐色粘性質土 (粘性が強い) (Ⅺ層と類似)
- ⑮暗褐色粘性質土 (粘性が強い) に3mm以下の黄色バミスを含む
- ⑯暗褐色粘性質土 (粘性が強い) に2mm以下の黄色バミスを含む
- ⑰黒褐色粘性砂質土 (Ⅺ層と類似)
- ⑱黒褐色粘性砂質土
- ⑲暗褐色粘性砂質土に1.5cm以下の黄色バミスをまだらに含む
- ⑳暗褐色粘性砂質土に黒褐色粘性砂質土をまだらに含む
- ㉑暗褐色粘性砂質土に⑯が少量混じる (焼けたレキと土器片出土) 烧土を含む



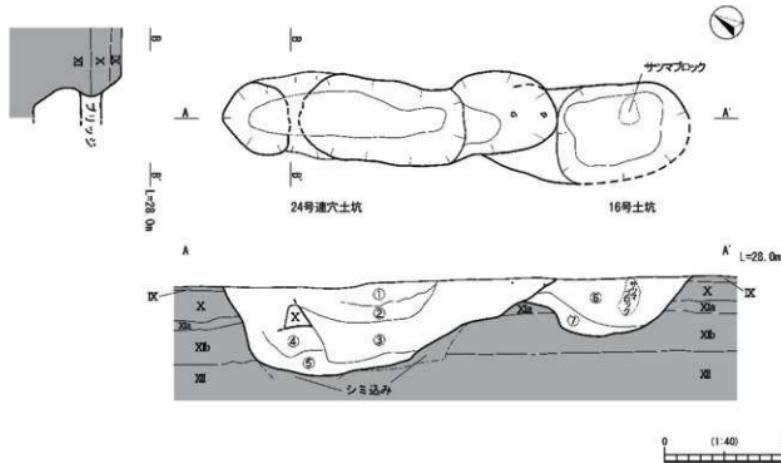
第177図 重複遺構5出土遺物

### 重複遺構13 (第189図)

E-33区で検出され、33号土坑はⅧb層、34号土坑・40号ピットはⅩ層で検出した。埋土の堆積状況等から33号土坑が最も新しいと判断した。33号土坑は、検出面付近に礫が散在しているほか、埋土①中に大型の軽石がみられ、34号土坑・14号ピットの中間に位置して両者の上端をわずかに切る。14号ピットの北壁は垂直に立ち上がる。遺構内遺物と判断したものは、33号土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。294はやや摩滅しているが、外面には斜位の貝殻刺突文が施されている。

### 重複遺構14 (第190図)

D-33・34区で検出され、36号土坑はⅨ層、37号土坑はⅩ層で検出した。東西方向にはほぼ水平に重複しており、埋土の堆積状況等から、36号土坑が新しく37号土坑の西側を切ると判断した。遺構内遺物と判断したものは、36号土坑から土器2点、37号土坑から石器1点であり、そのうち36号土坑から土器2点図化した。295は外面が剥落している。口縁部が直行し口唇部が平坦でキザミが施される。



- ①黒褐色土 緩まりあり 粘性やや有り 火山灰含む 1mm以下の白色バミス微量、1~5mm大の黄色バミス少量含む  
 ②黒褐色土 緩まりあり 粘性やや有り 火山灰含む 1mm以下の白色バミス少量、1~5mm大の黄色バミス少量含む  
 ③黒色土 緩まり強い 粘性やや有り 1~2mm大の白色バミス微量、1~2mm大の黄色バミス少量含む、5~15mm大の暗オリーブ褐色土をブロック状に少量含む  
 ④灰褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性強い  
 ⑤暗赤褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性強い  
 ⑥黒褐色土 緩まり強い 粘性やや有り 1~10mm大の黄色バミス中量、1~2cm大の礫混在  
 ⑦に赤褐色粘質土 緩まり有り 粘性非常に強い 1mm以下の白色粒含む

第178図 重複遺構6

#### 重複遺構15（第190図）

C-33区で検出され、45号連穴土坑はX層、46号連穴土坑はIX層で検出した。ほぼ水平方向に重複しているが、床面がほぼ連続していることや埋土の堆積状況等から、新旧関係を検討することが困難であった。45号連穴土坑のブリッジにはX層が残存する。46号連穴土坑のブリッジ崩落後、軸をややずらして北側に主部と從穴部を再構築したと考えられる。46号連穴土坑東端の埋土上部からは、礫が数点と土器が出土した。遺構内遺物と判断したものは、46号連穴土坑から土器2点であり、そのうち土器1点を図化した。

#### 重複遺構16（第191図）

B-33区で検出され、48号連穴土坑はIX層、119号集石はVII b層で検出した。119号集石は48号連穴土坑の主穴部東端の床面付近にはわずかに焼土粒が散在する。遺構内遺物と判断したものは、48号連穴土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。298は口唇部にキザミが施され、口縁部は貝殻刺突文が横位に5条めぐる。

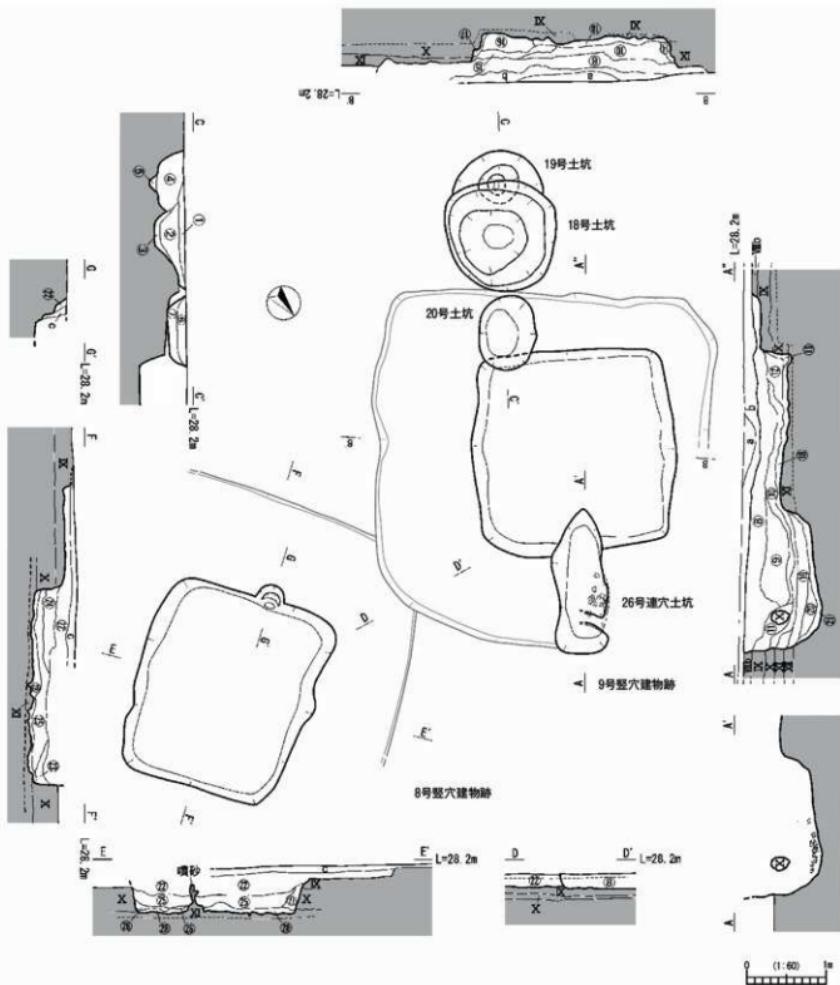
欠落している口縁部方向に肥厚しており、瘤状突起が付く資料である可能性がある。

#### 重複遺構17（第192図）

B-34区IX層で検出され、19号堅穴建物跡、52号連穴土坑はIX層、53号連穴土坑はVII b層で検出した。現場段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から52号・53号連穴土坑が新しく、それぞれが19号堅穴建物跡を切ると判断した。52号連穴土坑は焼土が残存する。遺構内遺物と判断したものは、53号連穴土坑から土器3点であり、そのうち土器3点を図化した。299は、口縁部が外反し脣部でわずかに膨らむ器形を呈する。口唇部にはキザミを施し、口縁部直下に貝殻刺突文を1条横位に施す。その下位に、斜位の貝殻刺突文が施され、脣部の絞糸条痕文は上下の間隔がある。301は尖底ないし丸底を呈するもので、文様ははっきりとしない。

#### 重複遺構18（第194図）

E・F-34区VII b層で検出した。56号連穴土坑と133号集石とが重複している。集石の掘り込みが56号連穴土

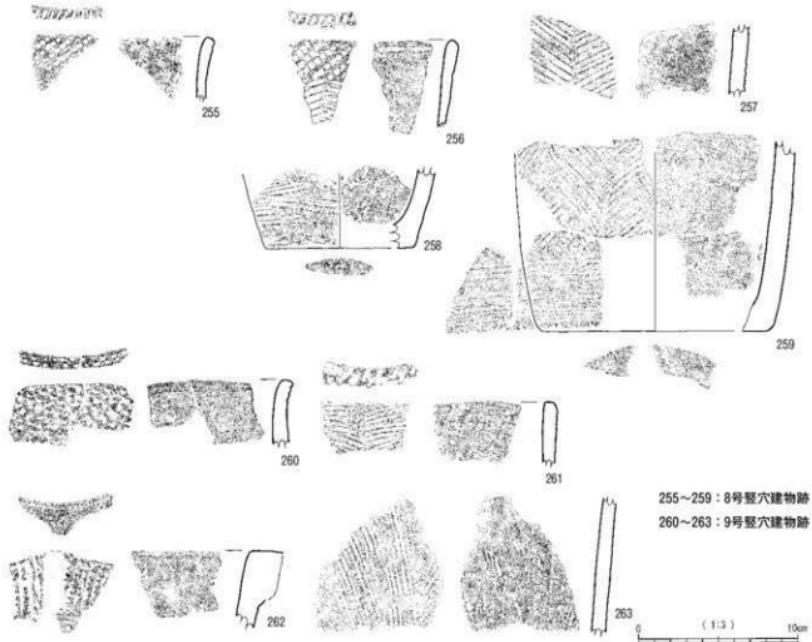


第179図 重複遺構 7

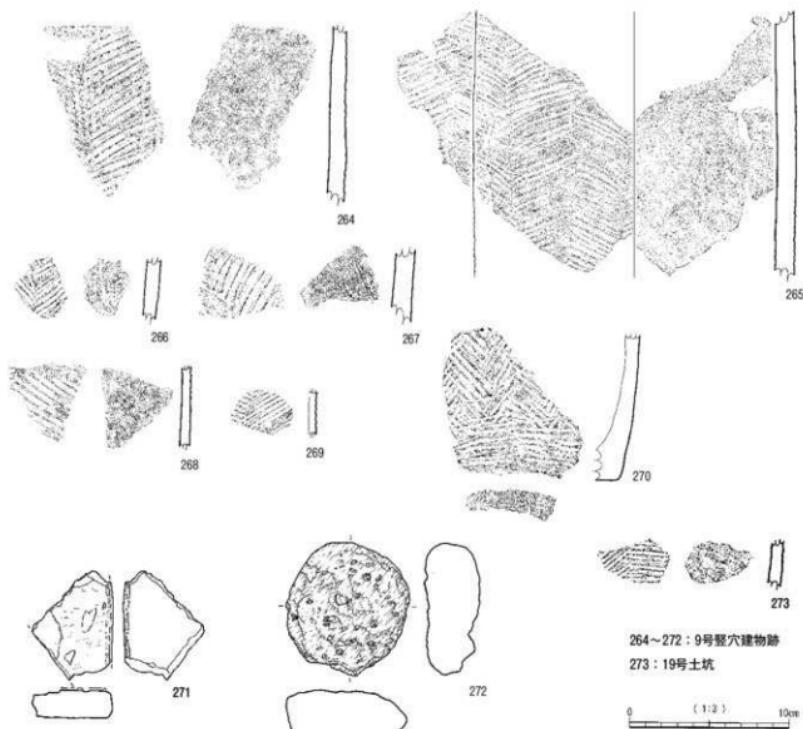
坑を切るが、集石検出時には56号連穴土坑の上面にも礫が散在しており、埋土中にも礫が散在する。ここでは、集石は掘り込みのみ図示する。56号連穴土坑の床面は主穴部でブリッジに向かって傾斜し、從穴部で急峻となる。

立ち上がった從穴部は残存するブリッジ上面とほぼ同じレベルでステップ状となる。このステップ部分の埋土は、主穴部やブリッジ周辺を含んでいるため、上面からの遺構が重複している可能性も否定できない。遺構内遺物と

- ① 黒褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1mmの大の黄白色バミスを少量含む 1mmの大の炭化物を微量含む
- ② 黒褐色 緋まり弱い 粘性やや少ない 1~2mmの大の黄白色バミスを含む 1mmの大の炭化物を微量含む
- ③ 黒褐色 緋まりややや有り 粘性やや少ない 1~3mmの大の黄白色バミスを含む 1mmの大の炭化物を微量含む
- ④ 黒褐色 緋まりやや弱い 粘性やや少ない 1~2mmの大の黄白色バミスをやや多く含む 1mmの大の炭化物を微量含む
- ⑤ 黒褐色 緋まりややや有り 粘性やや有り 1mmの大の黄白色バミスを含む 1mmの大の炭化物を微量含む
- ⑥ 黒褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1mmの大の黄白色バミスを含む 1mmの大の炭化物を微量含む
- ⑦ 黒褐色 緋まりややや有り 粘性やや少ない 1~2mmの大の黄白色バミスを含む 1mmの大の炭化物を微量含む
- a 黒褐色 緋まりやや弱い 粘性やや少ない 1mmの大の黄白色バミス及び黄白色バミスを多く含む
- b 黒褐色 緋まりやや弱い 粘性やや少ない 1~5mm大灰白色バミスと1mmの大の黄白色バミスを多く含む 炭化物粒を少量含む
- ⑧ 黒褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~3mmの大の黄白色バミス多く含む 純褐色土が少額混じる 炭化物粒を微量含む
- ⑨ 黑褐色 緋まり弱い 粘性やや弱い 1~5mmの黄白色バミスを多量に含む 炭化物粒を微量含む
- ⑩ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~5mmの黄白色バミスを多く含む 炭化物粒を微量含む 褐色土が混じる
- ⑪ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~5mmの黄褐色バミスを少量含む
- ⑫ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~5mmの大の黄褐色バミスを多量に含む にふい黄褐色土が混じる
- ⑬ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~2mmの大の黄褐色バミスを含む 純い黄褐色炭化物粒を微量含む
- ⑭ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~3mmの大の黄褐色バミスを含む
- ⑮ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~3mmの大の黄褐色バミスを多く含む 純褐色土が少量混じる
- ⑯ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~5mmの大の黄褐色バミスを多量に含む にふい黄褐色土が微量混じる
- ⑰ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~2mmの大の黄褐色バミスを含む 純い黄褐色土が多く混じる 皺層に似る
- ⑱ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~2mmの大の黄褐色バミスを微量含む 褐色土(双層)が斑状に多く含む
- ⑲ にふい赤褐色 緋まり弱い 粘性やや有り 灰-難層相当のブロック状に堆積し 地山と比べるとやわらかく緋まりない 1mm前後の炭化物を多く含む
- ⑳ 赤褐色 緋まり弱い 粘性やや有り 基本的には平行に似るがXⅢ層のブロックをわずかに含み ⑲と比べるとやや明るく見える 1~3mm橙色バミス多く含む Ⅷb層 ブロックを含む
- ㉑ 黑褐色 緋まり弱い 粘性少ない 難層を主体にXⅢ層が混じる混土層 1mmの大の炭化物含む
- c 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや少ない 1~5mmの大の灰白色バミスと1mmの大の黄白色バミスを多く含む 炭化物粒を微量含む
- ㉒ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや少ない 1~2mmの大の黄白色バミスを少量含む 炭化物粒を少量含む 黑褐色土が少量混じる
- ㉓ 黑褐色 緋まり弱い 粘性少ない 1~2mmの大の黄褐色バミスを含む
- ㉔ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~4mmの大の黄褐色バミスを多量に含む 炭化物粒を微量含む
- ㉕ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~5mmの大の黄褐色バミスを多く含む にふい黄褐色土が2~3cmのブロック状に混じる
- ㉖ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや少ない 1~2mmの大の黄白色バミスを少量含む 純褐色土が少額混じる
- ㉗ 黑褐色 緋まりやや弱い 粘性やや有り 1~5mmの大の黄白色バミスを多く含む 黄褐色土が4cm程のブロック状に混じる
- ㉘ 黑褐色 緋まり弱い 粘性少ない 1~2mmの大の黄褐色バミスを微量含む 褐色土が斑状に多く混じる



第180図 重複構造 7出土遺物①



第181図 重複造構7出土遺物②

判断したものは、56号連穴土坑から土器7点であり、そのうち土器1点を図化した。302は外面に剥落が目立つが、絹杉条痕文が施されている。

#### 重複造構19（第195図）

F・G-34区で検出され、53号土坑はⅦb層、54号土坑はX層で検出した。埋土の堆積状況等から54号土坑が新しいと判断した。いずれも梢円形プランを呈し、54号土坑の南壁は段を持って立ち上がる。造構内遺物と判断したものは、54号土坑から土器4点であり、そのうち土器1点を図化した。

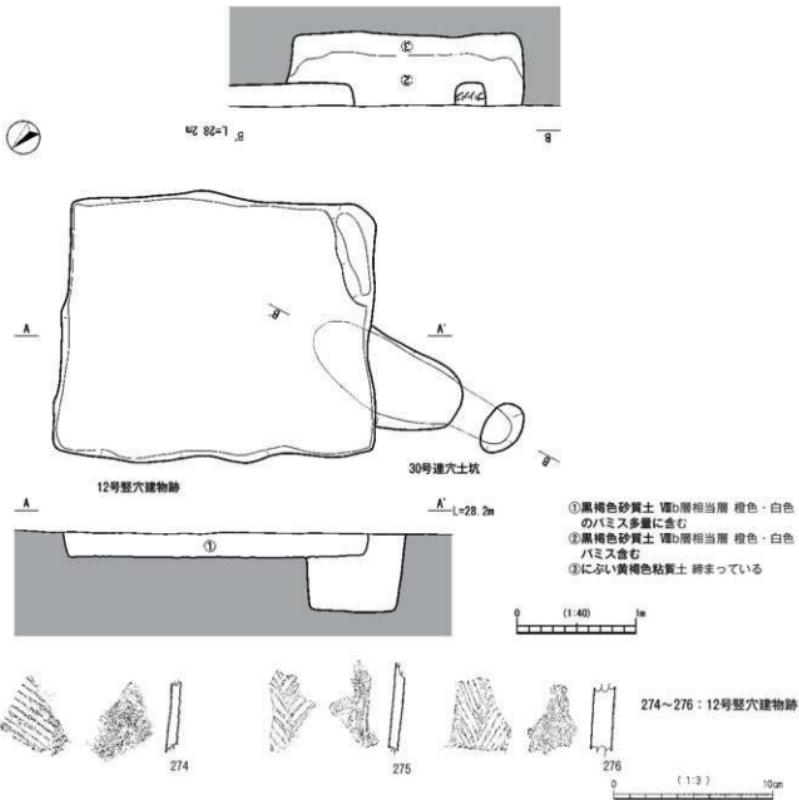
#### 重複造構20（第196図）

E-35区で検出され、60号連穴土坑はⅨ層、156号集

石はⅧb層で検出した。埋土の堆積状況等から、156号集石が60号連穴土坑の外側掘り込みの東側をわずかに切ると判断した。60号連穴土坑はX層及びⅨ層からなるブリッジが残存するが、ブリッジ下に薩摩火山灰のプロックが見られるから、ブリッジが一部崩落した可能性がある。主穴部からブリッジ下にかけて焼土が残存し、埋土中及び検出面には甕が散在する。造構内遺物と判断したものは、60号連穴土坑から土器5点であり、全て図化した。304は貝殻刺突文が見られるが、はっきりとしない。

#### 重複造構21（第198図）

D・E-35区で検出され、69号土坑はⅧb層、62号連穴土坑はⅧa層で検出した。調査時点では重複を確認で



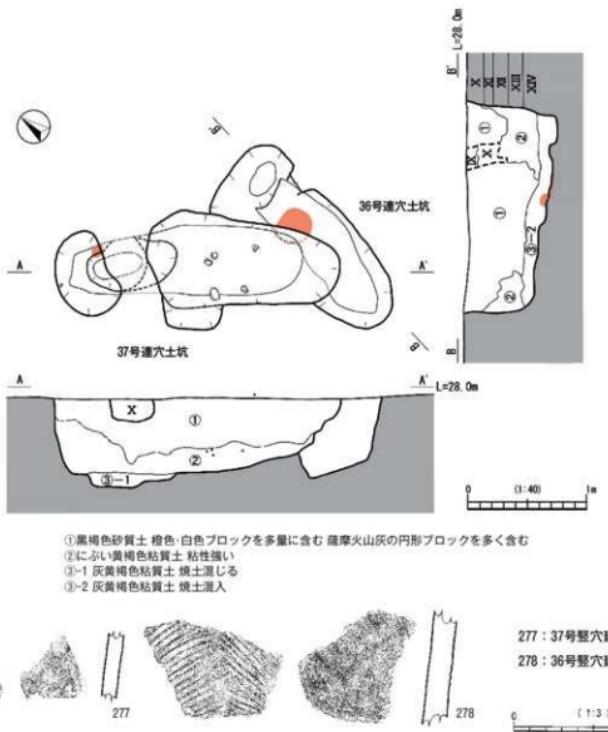
第182図 重複造構8・出土遺物

きず。整理作業段階で判明した。69号土坑は62号連穴土坑の從穴部周辺の掘り込みの可能性があったが、69号土坑の北半分が調査時に掘削されており、重複関係を検討することは困難であった。しかし、69号土坑の北半分が掘削される前には重複していた可能性が高いことを考慮し、重複造構として取り扱った。ただし、不明瞭な点が多いことから、重複造構図は簡易的な模式図として掲載する。62号連穴土坑の埋土上部には繩が見られた。造構内遺物と判断したものは、69号土坑から土器1点と、62号連穴土坑から土器1点であり、そのうち69号土坑から土器1点、62号連穴土坑から土器1点図化した。309は、

口縁部が直行し、横位の貝殻刺突文が3条めぐる。

#### 重複造構22（第199図）

D-35区Ⅴb層で検出した。42号ピットと63号連穴土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から42号ピットが新しいと判断した。なお、発掘調査時点では重複を確認できず、整理作業段階で判明した。63号連穴土坑の東側に掘り込みを42号ピットが切る。63号連穴土坑は外側に掘り込みを有し、ブリッジにはX層が残存する。造構内遺物は確認できなかった。



第183図 重複遺構9・出土遺物

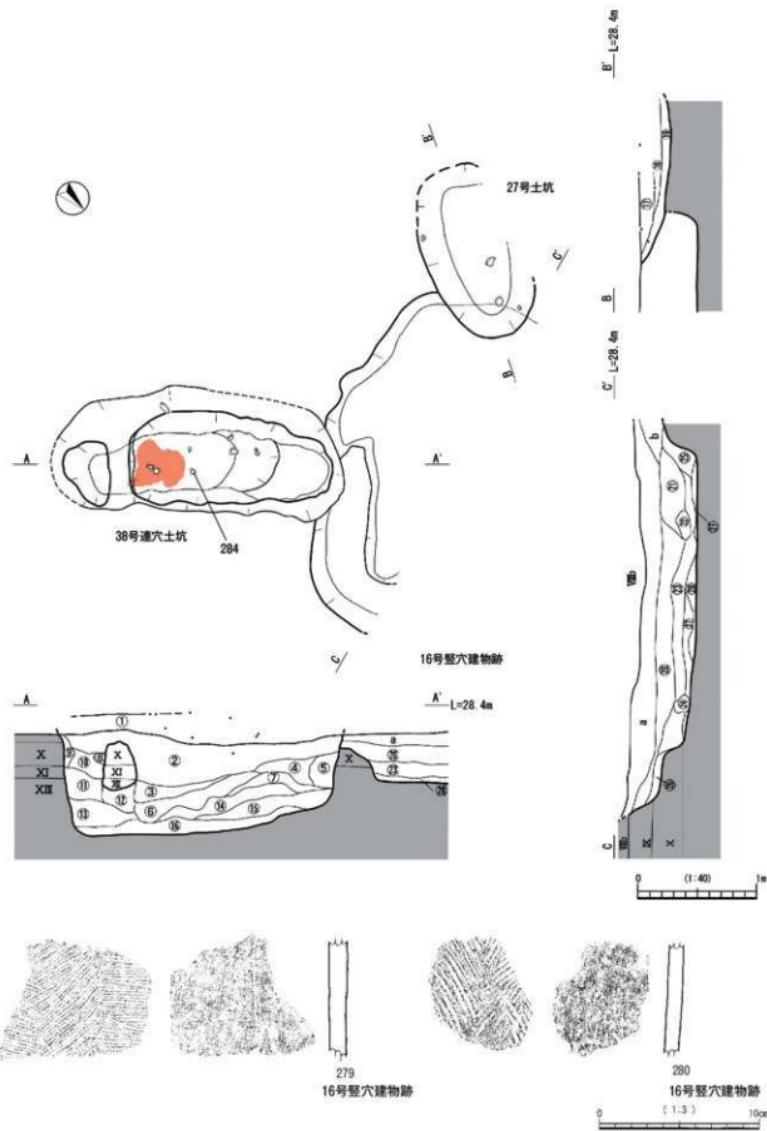
#### 重複遺構23（第200図）

A・B・36・37区Ⅲb層で検出した。80号土坑、69号、70号連穴土坑が重複しており、現場段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から70号連穴土坑が最も新しいと判断した。なお、発掘調査時点では、80号土坑と69号連穴土坑の重複関係で調査を進めたのちに北側に70号連穴土坑が検出された。69号連穴土坑はブリッジに亘り、70号連穴土坑はブリッジにX層が残存しており、いずれも外側に掘り込みを有するが、部分的に掘削されている。遺構内遺物と判断したものは、80号土坑から土器2点、69号連穴土坑から土器7点、70号連穴土坑から土器14点であり、そのうち80号土坑から土器2点、69号連穴土坑から土器2点、70号連穴土坑から土器3点を図化した。312は内外面共にいねいなナデが施

される。文様は、横位の山形押型文で部分的に文様がナデ消され、帶状となる。313は口唇部にキザミが施され、口縁部には2条の貝殻刺突文がめぐり脣部には綾衫条痕文が施される。314は底部付近で横位の貝殻条痕文が施されている。315は口唇部が平坦でキザミを施し、口縁部には擬位に瘤状突起が付く。口縁部文様は押引状の条痕文である。

#### 重複遺構24（第201図）

B-36区で検出され、72号連穴土坑はⅢb層、73号連穴土坑はX層で検出した。72号連穴土坑は外側に掘り込みを有し、この掘り込みが73号連穴土坑の主穴部東端と重複する。ただし、発掘調査段階では72号連穴土坑が73号連穴土坑を切ると想定して調査が進められていたが、



第184図 重複遺構10・出土遺物①

- ①黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~3mmの大の黄橙色バミ中量 1mmの大の炭化物粒極微量含む

②黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~5mmの大の黄橙色バミを多量 1mmの大の炭化物粒極微量含む ①と資質同じバミの含有量が比較的多い

③黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~3mmの大の黄橙色バミ中量 1mmの大の炭化物粒極微量含む わずかに赤褐色粘土を含む

④黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~3mmの大の黄橙色バミ中量含む わずかに赤褐色粘土を含む

⑤暗褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 1~3mmの大の黄色バミ少量 1~3mmの大の炭化物粒極微量含む

⑥黒褐色土 (80%) に赤褐色粘土 (20%) のとの混層 基礎は黒色土部分に 1mmの大の白色バミ少量と 2~3mmの大の橙色バミ中量を含む 赤褐色粘土は第層状に混入する 下部では顯著な斑状堆積

⑦に赤褐色粘土 黒色土を 2~3cmの大のブロック状に少量 (10%) 含む 黒色土は白色バミ・橙色バミが微量含まれる 全体的に混土状の堆積

⑧黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1~2mmの大の白色バミ中量 2~3mmの大の橙色バミ微量含む

⑨暗褐色土 細まり強い 黏性弱い 1~2mmの大の白色バミ少量 2~4mmの大の黄橙色バミ少量含む X層をブロック状に含む

⑩黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~3mmの大の黄橙色バミ中量含む わずかに赤褐色粘土の混入がみられ ③と同質の埋土である

⑪に赤褐色粘土 細まり強いが強度と比較して細まりは弱い 黏性弱い 1~2mmの大の赤色燒土粒を微量含む

⑫赤褐色粘土 細まり強い X層と比較して細まりは弱い 黏性弱い 1~2mmの大の赤色燒土粒を微量含む

⑬赤褐色粘土 細まり強い 黏性弱い 10mmの大の黒褐色土ブロックが5%程度斑状文脈に混じる

⑭赤褐色粘土 細まり強い X~XV層と比較して細まりは弱い 黏性弱い 5~10mmの大の黄褐色土ロームブロック (XV層) を極微量と 1mmの大の赤色燒土粒を極微量含む

⑮赤褐色粘土 細まり強い X~XIV層と比較して細まりは弱い 黏性弱い 5~10mmの大の黄褐色土ロームブロック (XV層) 少量 5mmの大の黒褐色土ブロック 少量 1~5mmの大の赤色燒土粒を少量含む 下面は熱帯に赤化している

⑯黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 1~3mmの大の橙色バミ中量含む 斑状堆積弱く やや土質細かい ⑯によりやや暗い

⑰黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 1~3mmの大の橙色バミ多量含む 埋土はVb層に類似するがVb層と比較してやや色調明るい バニス多くなる 黒色土がブロック状に堆積

⑱黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ微量 1~3mmの大の橙色バミ少量含む 色調・土質は⑯に似るが⑯と比較してバミの含有量が少なく 底面近くで 2~3mmのX層ブロックを微量含む X層主体 ⑯により明るい

⑲a 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~3mmの大の淡黄色バミを少量含む

b 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ多量 2~3mmの大の淡黄色バミを少量含む 赤褐色粘土を後量含む

c 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ多量 2~3mmの大の淡黄色バミを中量含む 僅かに赤褐色粘土の混入が見られる

d 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~5mmの大の淡黄色バミを微量含む 赤褐色粘土を少量含む ⑯+X層

e 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 1~8mmの大の淡黄色バミを少量含む 2~6mmの大の薩摩ブロックを含む ⑯と類似

f 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~4mmの大の淡黄色バミを中量含む 赤褐色粘土を少量含む

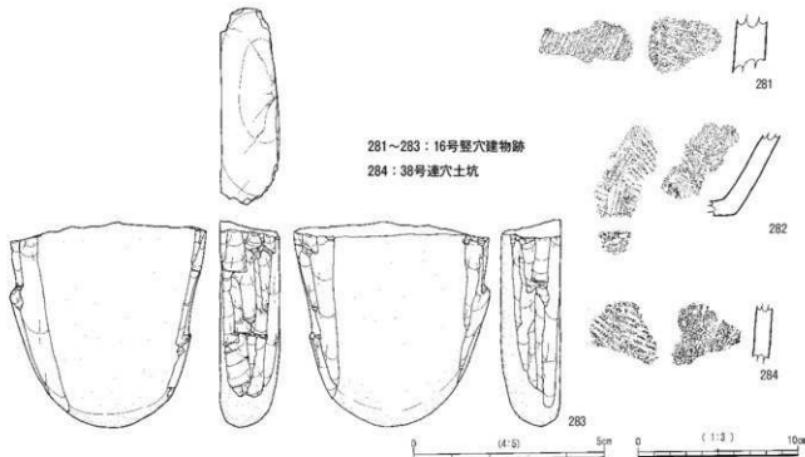
g 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 1~10mmの大の淡黄色バミを少量含む 1.5mmの大の薩摩ブロックを含む ⑯と類似

h 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mmの大の白色バミ少量 2~5mmの大の淡黄色バミを中量含む 1mmの大の橙色バミを少量含む 赤褐色粘土を少量含む

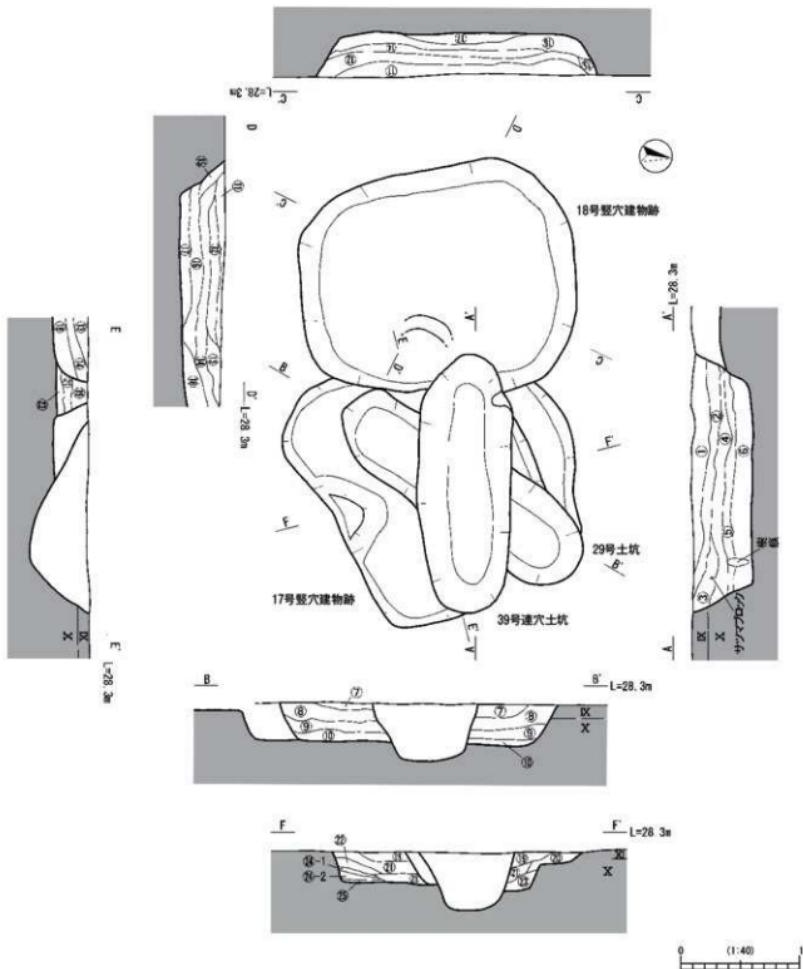
i 暗褐色土 細まり強い 黏性弱い X層とX層の間の淡黄色バミを少量含む 2~3mmの黄色バミが少すくある 下部では 1~2cmのX層ブロックが少しある 1mmの大の白色バミ少量 2~3mmの大の淡黄色バミを微量含める

j 黑褐色土 細まり強い 黏性弱い 色調は⑯に似るが ⑯に比べてバミが少なく黒み強い 1mmの大の白色バミ中量 2~3mmの黄色バミ少量 ⑯との境界付近では顯著な斑状堆積を示す

k 赤褐色粘土 細まり強い 黏性弱い 5~10mmの大の淡黄色バミ 混色バミはほとんど含まない 僅かに斑状を呈する



第185図 重複遺構10出土遺物②

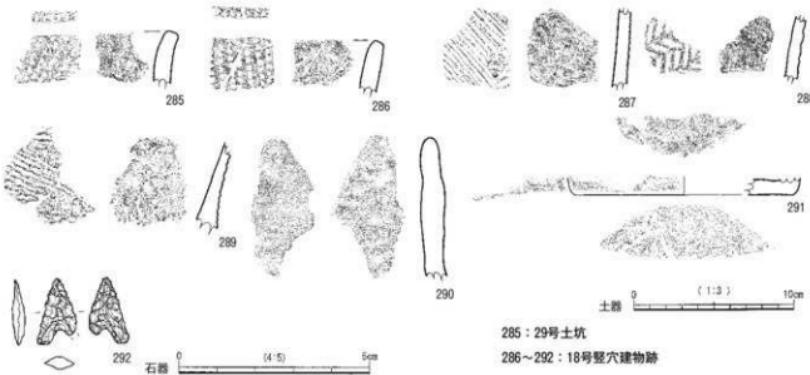


第186図 重複遺構11

72号連穴土坑の完掘後の写真からは、外側の掘り込みの床面としていた面及び掘り込みの壁面に73号連穴土坑の主穴部と思われる痕跡が確認できる（図版142上段）。そのため本来の新旧関係の検討は困難であった。遺構内遺

物と判断したものは、72号連穴土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を陶化した。318の口唇部にはキザミが施され、口縁部には斜位の貝殻刺突文、胴部には綾杉条痕文が施文される。

- (1) 黒褐色土  $Vb$ b層類似 納まり強い 粘性弱い 白色粒多量、黄色バニス多量、黄褐色色粒少量含む  
 (2) 黒褐色土  $Vb$ b層類似 納まり強い 粘性弱い 白色粒少量、黄色バニス多量、黄褐色色粒微量、炭化物を微量含む  
 (3) 黒褐色土  $Vb$ b層類似 納まり強い 粘性弱い 白色粒少量、黄色バニス微量、暗褐色土微量含む  
 (4) 黒褐色土 IV層類似 納まり強い 粘性やや弱い 黄色バニス微量、黄褐色色粒微量、暗褐色土ブロック少量含む  
 (5) 黑褐色土 納まりやや弱い 粘性強い 黑褐色土色粒含む  
 (6) 黑褐色土 納まりやや弱い 粘性弱い 黑褐色土少量含む  
 (7) 黑褐色土  $Vb$ b層類似 納まり強い 粘性弱い 白色粒多量、黄色バニス少量、黄褐色色粒微量含む  
 (8) 黑褐色土  $Vb$ b層類似 納まり強い 粘性弱い 白色粒少量、黄色バニス多量、黄褐色色粒微量含む  
 (9) 黑褐色土  $Vb$ b層とIV層の混合土 納まり強い 粘性弱い 黄褐色色粒微量、暗褐色土少量含む ややブロック状  
 (10) 黑褐色土 納まりやや弱い 粘性弱い 黑褐色土多量含む  
 (11) 黑褐色土  $Vb$ b層類似 納まり強い 白色粒中量、黄色バニス微量  
 (12) 黑褐色土  $Vb$ b層類似 納まり強い 白色粒中量、黄色バニス微量  
 (13) 黑褐色土  $Vb$ b層とIV層の混土 納まり強い 粘性弱い 白色粒少量、黄色バニス少量含む、3cm程度の薩摩ブロック含む  
 (14) 黑褐色土 IV層類似 納まり強い 粘性弱い IV層に並んでが少額混入 (15) 層よりもやや暗い 白色バニス、黄色バニス少量含む  
 (16) 黑褐色土 IV層類似 納まり強い 粘性弱い ブロック状に堆积  
 (17) 黑褐色土 IV層類似 納まり強い 粘性弱い 黄褐色色粒微量、暗褐色土ブロック状に少量含む  
 (18) 黑褐色土 IV層類似 納まり弱い 黑色土ブロック状に少量含む  
 (19) 黑褐色土 IV層類似 納まり弱い 黑色土ブロック状に少量含む  
 (20) 黑褐色土 IV層類似 納まり弱い 黑色土ブロック状に少量含む  
 (21) 黑褐色土  $Vb$ b層類似 納まり強い 粘性弱い 白色粒中量、黄色バニス多量、黄褐色色粒微量含む  
 (22) 黑褐色土  $Vb$ b層とIV層の混土 (21)と(22)の混入 納まり強い 粘性弱い 白色粒少量、黄色バニス少量、黄褐色色粒微量含む (23)層よりもやや暗い  
 (23) 黑褐色土 IV層類似 納まり弱い 黄褐色色粒微量、暗褐色土 (IV層) ブロック少量含む  
 (24) 1 黒色土  $Vb$ b層類似 非常にかたく納まつた黒味の強い土 粘性弱い やや弱い 白色粒微量、黄褐色色粒微量含む 黒褐色土少量含む 4~5cm大の厚みがあり、平行のうミナが観察され、非常に硬くしまる  
 (25) 2 黑色土  $Vb$ b層類似 非常にかたく納まつた黒味の強い土 粘性やや弱い 白色粒微量、黄褐色色粒微量含む 黑褐色土少量含む 埋土は(24)と同質だがラミーは確認されない  
 (26) 黑褐色土 IV層と(25)の混土層 納まりやや弱い 粘性あり 白色バニス、黄色バニスとも極微量



第187図 重複遺構11出土遺物

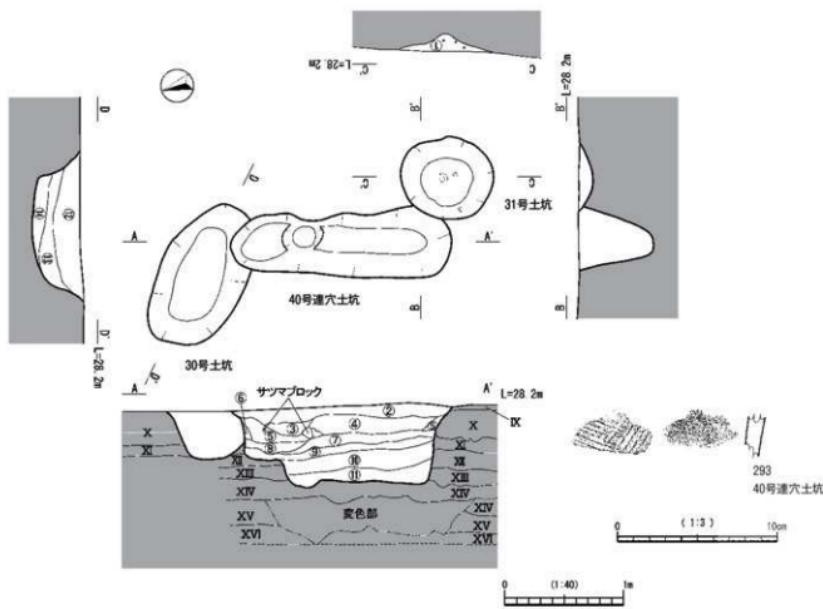
#### 重複遺構25（第202図）

B-36区X層で検出した。74号・75号連穴土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、75号連穴土坑の主穴部を74号連穴土坑の主穴部が切ると判断した。両者ともにブリッジの残存が認められた。75号連穴土坑の從穴部外側にはテラス状の掘り込みが確認される。両者とも、主穴部は検出面から中位まで斜位の壁面形状を呈し、中位から底面へは比較的急峻な壁面となる特徴を有する。遺構内遺物と判断したものは、74号連穴土坑から土器1点と、75号連穴土坑から土器4点であり、そのうち74号

連穴土坑から土器1点、75号連穴土坑から土器1点を図化した。

#### 重複遺構26（第203図）

B-C-36区で検出され、85号土坑は $Vb$ 層、180号集石は $Vb$ a層で検出した。現場段階の位置情報を元に整理作業で復元した。85号土坑の西壁中央部を180号集石が切る。埋土の堆積状況等から180号集石が新しいと判断した。遺構内遺物は確認できなかった。



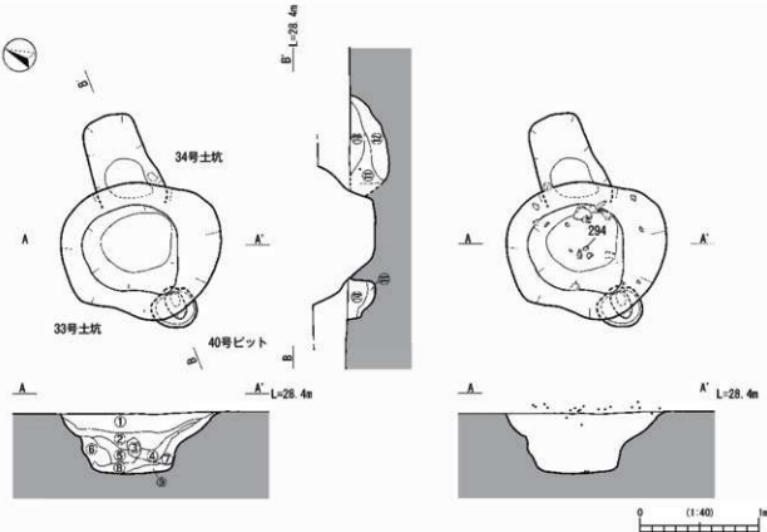
- ① 黒褐色土 繼まりやや有り 1mmの大白色バミス、3mmの大黄色バミスを多量に含む  
 ② 黒褐色土 IV層類似 繼まり強い 粘性弱い 白色粒多量、黄色バミス中量含む  
 ③ 黑褐色土 IV層類似 繼まり強い 粘性弱い 白色粒少量、黄色バミス中量 ①よりやや明るい 黑褐色土少量含む  
 ④ 黑褐色土 IVb層類似 繼まり強い 粘性弱い 白色粒多量 ②層よりもさらに多い、黄色バミス多量 IV層微量含む  
 ⑤ 黑褐色土 VIb層とIV層の混合土 繼まり強い 粘性弱い 白色粒微量、黄色バミス中量、黄褐色土少量含む  
 ⑥ 黑褐色土 IV層とII層の混合土 繼まりやや強い 粘性やや弱い ⑤よりIV層の割合多い  
 ⑦ 黑褐色土 VIb層類似 繼まり強い 粘性弱い 白色粒少量、黃褐色バミス少量、黑褐色土とIV層がブロック状に混合する ⑦と⑧は同じもの上層の違いにより 白色バミスの混入量が異なる  
 ⑧ 黑褐色土 VIb層類似 繼まり強い 粘性やや弱い 黄褐色粒微量、IV層をブロック状に含む ⑦と⑧が同じもの上層の違いにより白色バミスの混入量が異なる  
 ⑨ 黑褐色土 II層類似 繼まりやや弱い 黄色やや強いく 黑褐色土を微量含む  
 ⑩ 黑褐色土 II層類似 繼まり弱い 黄褐色土極微量含む  
 ⑪ 黑褐色土 II層類似 繼まり弱い 粘性強い 黑褐色土極微量 下部付近では 黄褐色土をブロック状に含む  
 ⑫ 黑褐色土 繼まり強い 粘性弱い 1mmの大白色バミス中量、1~3mmの大黄色バミス少量含む ③よりやや黒み強くかたい  
 ⑬ 黑褐色土 繼まりやや強い 粘性弱い 1mmの大白色バミス少量、1~3mmの大黄色バミス微量含む 埋土はVIb下層~IV層のやや褐色を帯びた色調であり、バミスの含有量が少ない  
 ⑭ 黑褐色土 繼まり弱い 粘性強い II層と⑬の混合土 II層土を主体とし、ブロック状の⑭を20%程度含む  
 実色部 にい 黄褐色

第188図 重複遺構12・出土遺物

#### 重複遺構27（第203図）

C-36区VIb層で検出した。発掘調査時は、76号連穴土坑と数基の土坑との重複遺構と考えて調査が進められていたが、ブリッジを含め主部と從穴部が土坑により大きく掘削されていることなどから、76号連穴土坑の機能停止後に埋め戻す際の搔き取り痕跡の可能性を示して調査を終了している。そのため、整理作業段階では76号連穴土坑周辺の掘り込みとして図化を行い、掘削された

と考えられる範囲の埋土をaとして表したが、76号連穴土坑と土坑が切り合っている可能性も考慮して重複遺構として取り扱った。76号連穴土坑東側の掘り込み内にはピット状の穴が掘り込まれているが、機能は不明である。遺構内遺物と判断したものは、76号連穴土坑から土器1点であり、図化した。



- ① 黒褐色土 緩まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス多量. 2~3mm大の黄褐色バミス中量. 1~2mm大の炭化物粒微量含む  
 ② 黒褐色土 緩まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス少量. 2~3mm大の黄褐色バミス中量. 1~2mm大の炭化物粒微量含む  
 ③ 黒褐色土 (50%) とぶい赤褐色粘土 (50%)との混土 1~2mm大の白色バミス微量. 2~3mm大の黄褐色バミス微量含む ブロック状に堆積  
 ④ 黒褐色土 緩まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量. 2~3mm大の黄褐色バミス微量含む にぶい赤褐色粘土を2~3mm大のブロック状に30~40%含む  
 ⑤ 黒色土 緩まり強い 粘性弱い 白色バミスを少量. 2~3mm大の黄褐色バミスを微量含む にぶい赤褐色粘土を下部に30%程度ブロック状に含む  
 ⑥ 黒褐色土 緩まり強い 粘性弱い 白色のバミスをほとんど含まず. 2~4mm大のやや大きめの橙色バミスを少量含む  
 ⑦ にぶい黄褐色土 緩まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量. 2~3mm大の黄褐色バミス微量含む  
 ⑧ にぶい赤褐色粘土 (60%)と黒褐色土 (40%)との混土 2~3mm大の黄褐色バミスを極微量含む ⑨+10層 ブロック状混土層  
 ⑩ にぶい赤褐色粘土 (90%)と黒褐色土 (10%)との混土 11層 ブロック状主体のブロック状堆積  
 ⑪ 黑褐色砂質土 棕色・白色的バミスを多量に含む 硬質  
 ⑫ 灰黒褐色粘質土 前に刈削のブロック混入  
 ⑬ ⑭ 11層の混土 キメが細かくしつこっている 橙色と白色のバミス少量含む



第189図 重複造構13・出土遺物

#### 重複造構28（第204図）

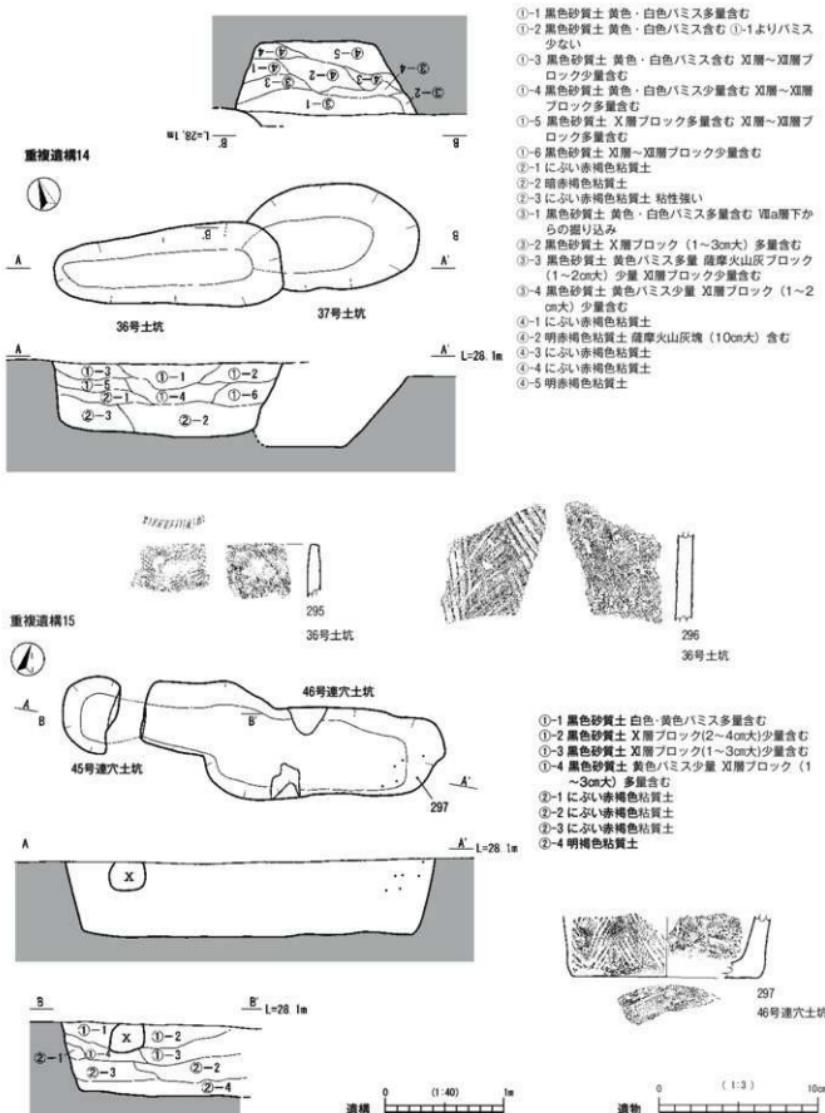
E - 35・36区Ⅷb層で検出した。64号・65号土坑がほぼ直角方向に重複しているが、埋土の堆積状況が不明であり新旧関係を検討することが困難であった。そのため、断面の模式図を復元するのみに留めた。65号土坑の床面上に礫が1点見られたが、造構内遺物は確認できなかつた。

#### 重複造構29（第204図）

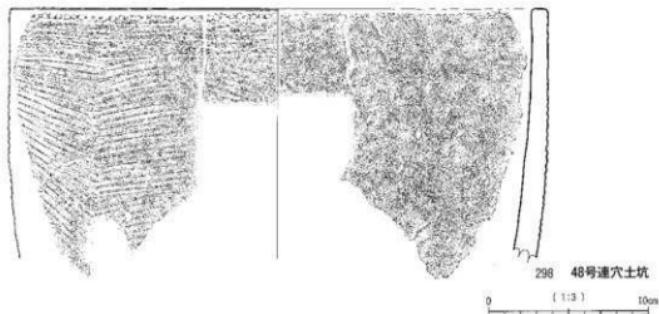
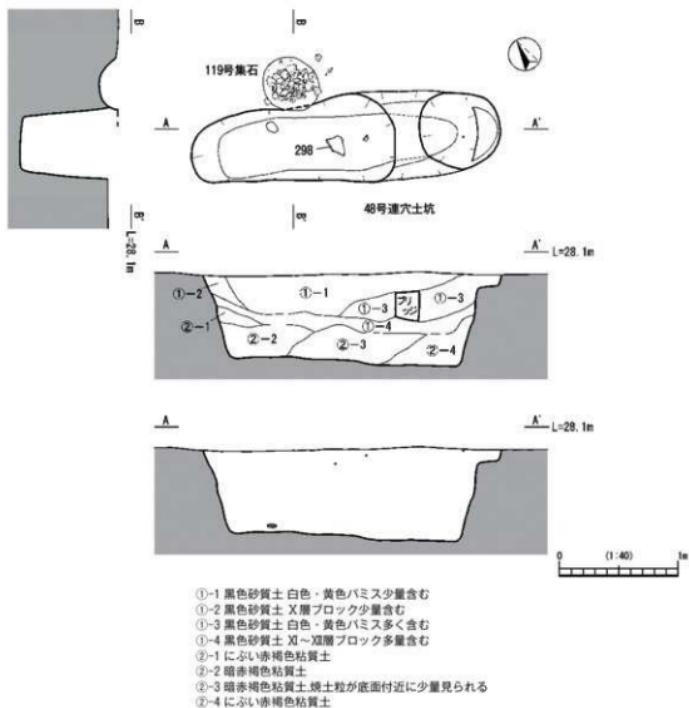
G - 36区Ⅸ層で検出した。94号・95号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から95号土坑が新しいと判断した。95号土坑の北側は調査区外へ延びているため、検出できなかつた。造構内遺物は確認できなかつた。

#### 重複造構30（第204図）

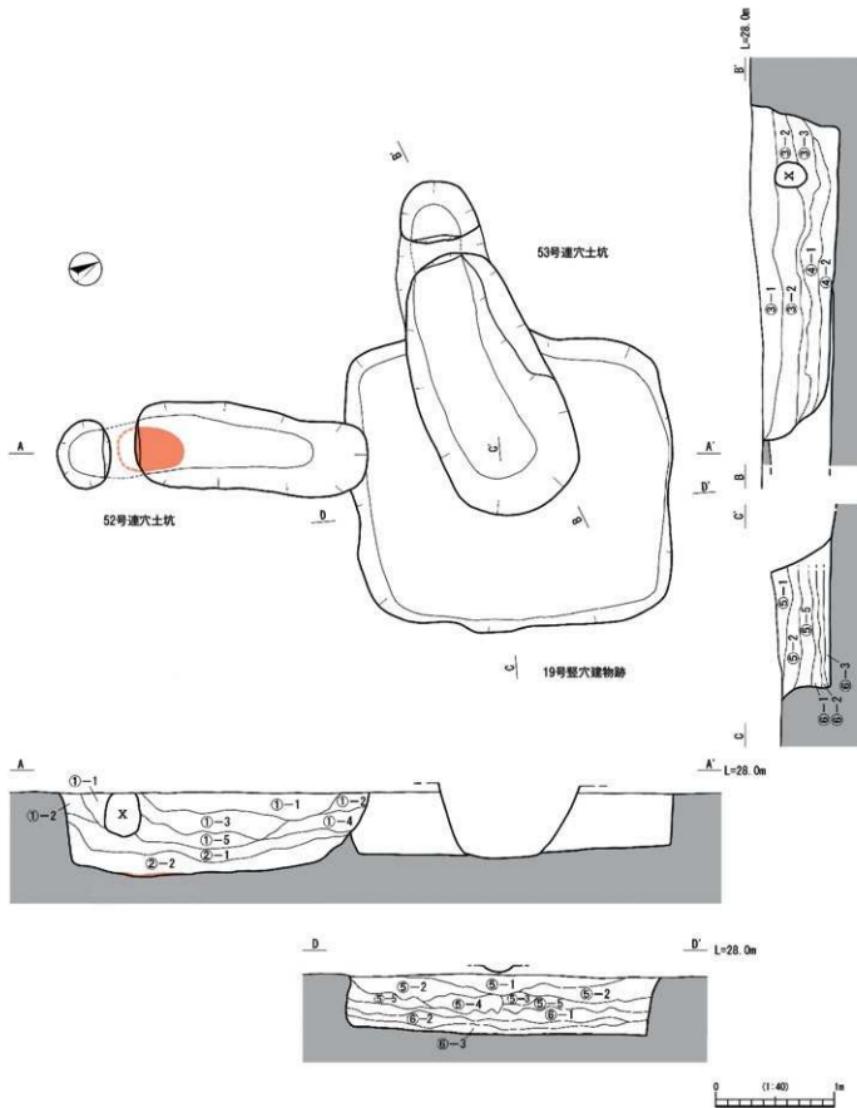
G - 36・37区で検出した。222号集石をⅧb層で検出し、その後、Ⅸ層で96号土坑を確認し、2基の重複造構とし



第190図 重複遺構14, 15・出土遺物



第191図 重複造構16・出土遺物

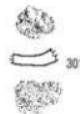


第192図 重複遺構17

- ①-1 黒褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Vfa層類似 1~3mmの大黄色バミス多量、1mmの大白色バミス多量含む  
 ①-2 褐褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Vfa層類似 1~3mmの大黄色バミス中量、1mmの大白色バミス中量含む  
 ①-3 黒褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Vfa層類似 1~3mmの大黄色バミス多量、1mmの大白色バミス少量、X層ブロックを微量含む  
 ①-4 黒褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Vfa層類似 1~3mmの大黄色バミス中量、1mmの大白色バミス少量、X層をブロック状に微量含む  
 ①-5 褐褐色砂質シルト 細まりやや弱い 粘性やや弱い Vfa層類似 1~3mmの大黄色バミス少量、X層をブロック状に微量含む  
 ②-1 褐褐色粘性土 細まりやや弱い 粘性やや強い Xf層類似 Xf層より細まりが弱い  
 ③-1 黑褐色砂質シルト 黑色砂質土 細まり強い 粘性やや弱い 白色バミスを少量、黃褐色バミスを少量含む  
 ②-2 黑褐色砂質シルト 黑色砂質土 細まり強い 粘性やややや弱い 黄褐色バミスを多量、X層を微量含む  
 ③-1 黑褐色砂質シルト 黑色砂質土 細まり有り 粘性やや弱い 2~5cmの大X層ブロックを中量、白色バミスと黄褐色バミスを少量含む  
 ④-1 にい(黄褐色粘質土 黄褐色粘質土 細まりやや弱い 粘性有り 白色バミスと黒褐色砂質シルトブロックを少量、1cmの炭化物を微量含む  
 ④-2 黑褐色土 細まり強い 粘性弱い 1mmの大白色バミス少量、2~3mmの大橙色バミス、黄色バミス多量含む ⑤-1 土質似るがバミスの含有量が非常に多い  
 ⑤-2 黑褐色土 細まり強い 粘性弱い 1mmの大白色バミス少量、2~3mmの大橙色バミス少量含む また1~2cmの大炭化材を中量含む ⑤-3から⑤-4はブロック埴埴  
 ⑥-4 黑褐色土 細まり強い 粘性弱い 1mmの大白色バミス少量、2~3mmの大橙色バミス少量含む また1~4cmの大X層ブロックを多量含む  
 ⑦-5 黑褐色土 細まり強い 粘性やや有り ③-4と④-1層の混土層 ④-4主体に⑤-1層が40%程度ブロック状に混入する そのため粘性やや有り  
 ⑧-1 褐赤褐色粘土 細まり有り 粘性強い バミス粒含まないが、5~10mmの大黑褐色土を板状に少量含む、その他2~3mmの大塊土を極微量含む  
 ⑨-2 褐赤褐色粘土 細まり有り 粘性非常に強い 含有物なし 地山埋層と比較して細まり弱い 色調も若干暗い  
 ⑩-3 褐褐色粘土 細まり有り 粘性非常に強い 含有物なし 地山と比較して細まり弱く 色調暗い



299



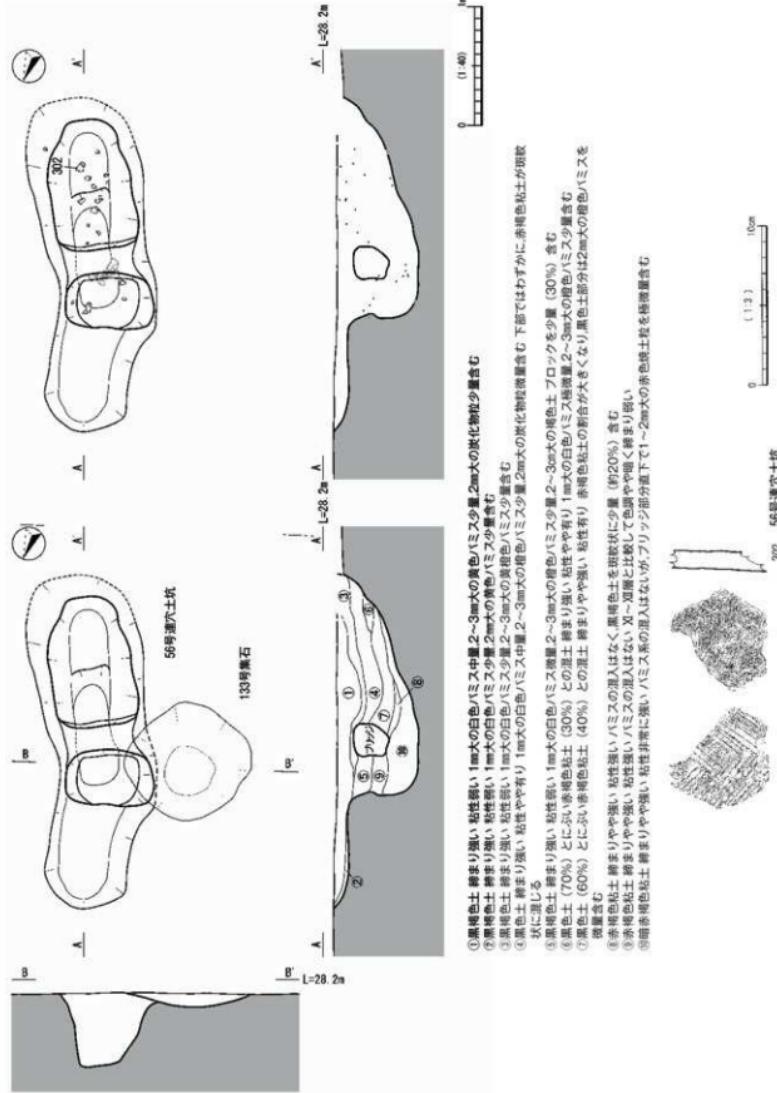
299~301 : 53号連穴土坑

0 (1.3) 10m

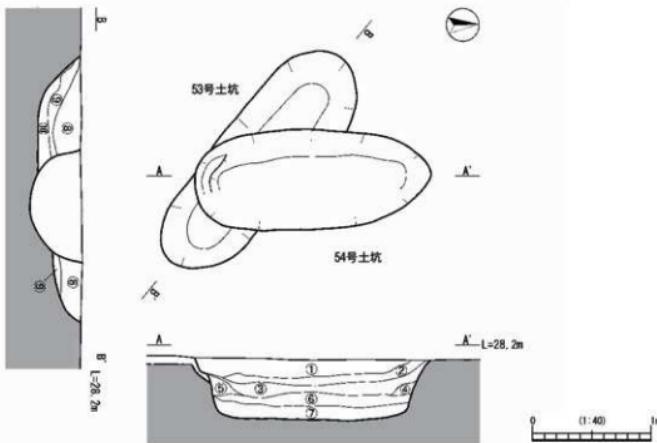
第193図 重複遺構17出土遺物

た。いずれも調査区境での検出であり、遺構プランの約半分が北側の調査区外へ延びる。96号土坑は断面観察により、Vb層中からの掘り込みと判断できるが、掘り込み面付近の埋土ははっきり捉えることができなかつたた

め、Vb<sup>a</sup>として表す。上部にはVa層が連続して堆積している。想定される深さは60cm程度あり、円形ないし楕円形プランの土坑と見えるが、連穴土坑の可能性も否定できない。遺構内遺物と判断したものは、96号土坑か



第19図 重複連續18・出土遺物



- ① 黒褐色土 Vlb層類似 緩まり強い 粘性弱い 白色粒多量、黄色バミス中量、黄褐色粘土微量含む  
 ② 黒褐色土 Vlb層類似 緩まり強い 粘性弱い ①層よりもやや暗く、白色粒の混入が少ない 黄色バミス中量 弱いブロック状  
 ③ 黒褐色土 Vlb層と区別した混合土 緩まり強い 黄褐色粒微量含む、白色バミス、黄色バミス少量含む また、暗褐色土がブロック状に混入する  
 ④ 黑褐色土 V層類似 緩まりやや強い 粘性弱い 黄褐色粘土微量、暗褐色土少量含む V層+③混合層  
 ⑤ 黑褐色土 V層類似 緩まりやや強い 粘性弱い X層多量、暗褐色土微量含む V層+X層混土層  
 ⑥ 暗褐色土 X層類似 緩まりやや強い 粘性強い 灰層よりや柔らかい  
 ⑦ 黑褐色土 X層類似 緩まりやや強い 粘性強い 灰層よりや柔らかい  
 ⑧ 黑褐色土 X層類似 緩まりやや強い 1mm大の白色バミス、2mm大の黄褐色バミスを中量含む これらのバミスは下位に多く堆積する  
 ⑨ 黑褐色土 緩まりやや強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量、2mm大の黄褐色バミス中量含む 赤褐色粘土30%が崩れ状に混じる  
 ⑩ 黑褐色土 緩まり有り 粘性やや強い 2~5mm大の橙色バミスを中量含む ⑨の黒褐色土が1cm大のブロック状に混じる

第195図 重複遺構19・出土遺物

ら土器1点で、図化した。322は底面に彫み物の圧痕が残る。

#### 重複遺構31（第205図）

E-37区X層で検出した。埋土の堆積状況等から、104号・107号土坑が105号土坑の東西両端を切ると判断した。また、107号土坑と104号土坑は同一の埋土であり、時期差はほとんどないと考えられる。105号土坑の床面は西側にむけ傾斜する。遺構内遺物と判断したものは、107号土坑から土器1点で、図化した。

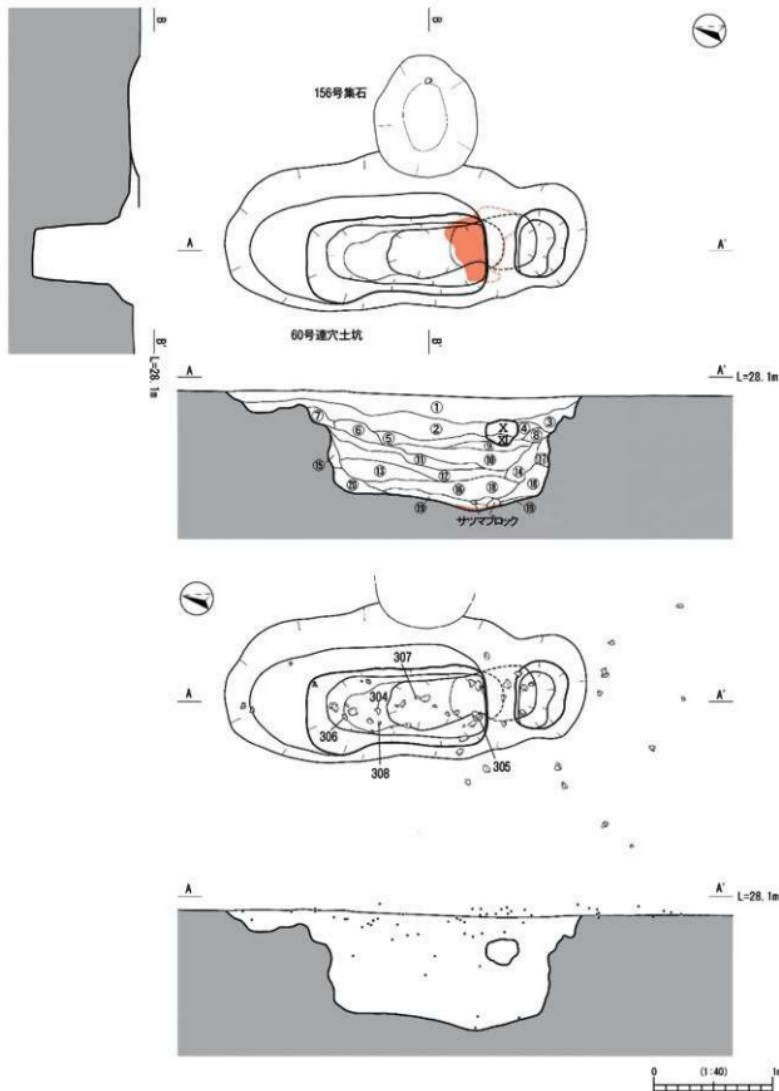
#### 重複遺構32（第205図）

D-37区X層で検出した。83号連穴土坑と115号土坑

が重複しており、埋土の堆積状況等から、83号連穴土坑が新しいと判断した。115号土坑の北側を83号連穴土坑が切る。83号連穴土坑は、ブリッジは残存していないが焼土がわずかに残存し、焼土が残る床面は一段深く掘られている。そのため、連穴土坑として取り扱った。遺構内遺物は確認できなかった。

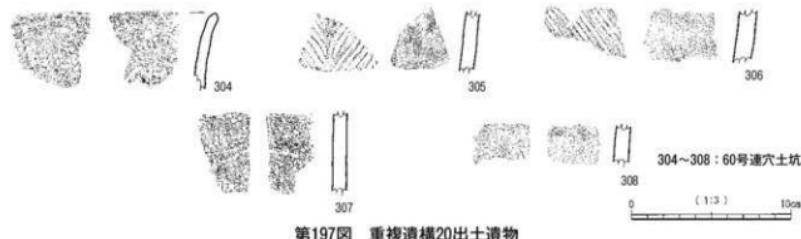
#### 重複遺構33（第206図）

C-37・38区で検出され、86号連穴土坑はVb層、126号土坑はX層で検出した。発掘調査時は、86号連穴土坑の完掘後に126号土坑を検出している。86号連穴土坑は東側のみ外側に掘り込みを有し、主穴部中央付近に焼土が残存する。遺構内遺物は確認できなかった。



第196図 重複遺構20

- ①黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mm大の白色バミス中量, 2mm大の黄色・橙色バミス少量, 2~3mm大の炭化物粒を微量, 5~10mm大の白色軽石と1~2cm大のX層ブロックを微量含む 土質はⅤb層に類似するがバミスの混入量が比較的小ない
- ②黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mm大の白色バミス微量, 2~5mm大の黄色・バミス微量, 1mm大の赤色焼土粒と炭化物粒極微量, 1mm大の白色軽石と1~2cm大のX層ブロックを微量含む
- ③黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mm大の白色バミス極微量, 1~3mm大の橙色バミス微量, 2mm大のX層ブロックを少量含む ①と②の中間の様な埋土
- ④黒褐色土 細まり強い 黏性弱い 1mm大の白色バミス微量, 2~5mm大の橙色バミス微量, 1mm大の炭化物粒を極微量含む ②とはほぼ同質の埋土
- ⑤黒褐色土 (60%) を主体ににふい赤褐色粘土 (40%) と斑状に混入し 細まり強い 黏性あり 1mm大の白色バミス極微量, 1mm大の橙色バミス極微量含む
- ⑥黒褐色土 細まり強い 黏性やや有り 1mm大の白色バミス微量, 2~5mm大の橙色バミス極微量含み, 赤褐色粘土が2~3cm大のブロック状に少量 (30%) 混じる
- ⑦赤褐色土 細まり強い 黏性弱い X層またはⅤ層類似 1mm大の白色バミス極微量含み下位で赤褐色粘土が漸進的に (20%程度) 混じる X層主体でⅩ+Ⅺ ④にふい赤褐色粘土 (細まり弱い) 黏性弱い 1~2mm大の白色バミス微量, 1mm大の褐色土ブロックを極微量含む, Ⅴ層起源とみられる 5mm大の暗褐色土が小ブロック状に混入する (30%程度)
- ⑧にふい赤褐色粘土 細まり弱い 黏性あり 1~2mm大の白色バミス微量, 2~5mm大の橙色バミス極微量含む 5~10mm大の暗褐色土がブロック状に混入する (30%程度) ⑨とほぼ同質であるが混入する暗褐色土ブロックが比較的大きい
- ⑨にふい赤褐色粘土 (細まり弱い) 黏性やや強い 1mm大の白色バミス微量, 2~3mm大の褐色土小ブロック微量, 1~4cm大の褐色土ブロック少量, 3~10mm大の赤褐色土粒微量, 1~2mm大の炭化物粒少微量含む
- ⑩にふい赤褐色粘土 細まり有り 黏性やや強い 2~3mm大の褐色土ブロックを微量含む 他バニス粒, 烧土粒, 炭化物粒は見られない
- ⑪にふい黄褐色土 細まり有り 黏性やや強い 2~4mm大の黄褐色土ブロックを中量 (40%) 含む 他の埋土に比べ黄褐色土ブロックを多く含むため, 明瞭に分層が可能
- ⑫暗赤褐色粘土 細まり有り 黏性強い 3mm大の黄褐色土ブロック粒子極微量含む, 黑褐色土との混土となり, 色調暗くなる
- ⑬にふい赤褐色粘土 細まり有り 黏性やや強い 5mm大の黄褐色土ブロックを微量含む 離道部からの流入堆積土
- ⑭にふい赤褐色粘土 細まり有り 黏性非常に強い 混入物は見られない Ⅹ~Ⅺ層と比較して粘性強く細まり弱い
- ⑮暗赤褐色粘土 細まり有り 黏性強い 3mm大の黄褐色土ブロック粒子極微量含む, ⑨とほぼ同質であるが混土となる黒褐色土の割合が⑨と比較してやや多い
- ⑯にふい赤褐色粘土 細まり有り 黏性非常に強い 混入物は見られない Ⅹ~Ⅺ層と比較して粘性強く細まり弱い
- ⑰にふい赤褐色粘土 紹まり有り 黏性強い 2~3mm大の黄褐色土ブロック粒微量, 1mm大の赤色焼土粒を極微量, 1mm大の炭化物粒極微量含む, わずかに黒褐色土を含み色調暗くなる
- ⑱暗赤褐色粘土 2~3mm大の黄褐色土ブロック粒少量, 1~3mm大の赤色焼土粒を少量, 2mm大の炭化物粒微量含む
- ⑲暗赤褐色粘土 2mm大の黄褐色土ブロック粒微量, 1~3mm大の赤色焼土粒を微量, 1mm大の炭化物粒極微量含む ⑨と同質であるがわずかに黒褐色土含み色調暗くなる



第197図 重複構造20出土遺物

#### 重複構造34 (第207図)

B・C-37・38区X層で検出した。131号土坑・89号連穴土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、131号土坑が新しいと判断した。89号連穴土坑は、主穴部の両端にそれぞれ從穴部を有し、いずれのブリッジもⅩ層が残存する。主穴部の中央からやや東南寄りを、ほぼ直角方向に253号土坑が切る。遺構内遺物は確認できなかつた。

#### 重複構造35 (第208図)

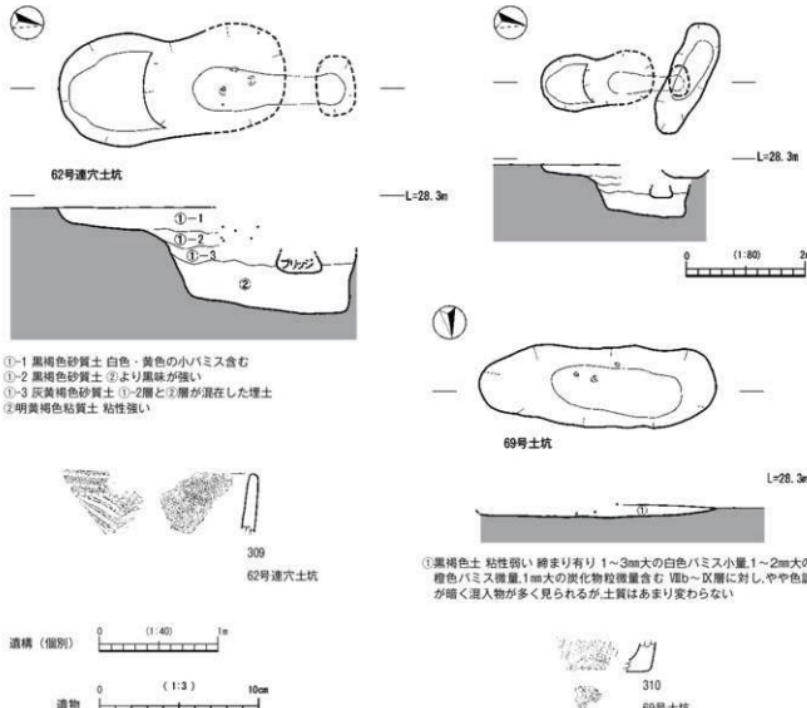
B-37区で検出した。90号・91号連穴土坑はⅤb層、92号連穴土坑はX層で検出した。91号連穴土坑・90号連穴土坑はいずれも外側に掘り込みを有し、91号連穴土坑の掘り込み東端が90号連穴土坑の掘り込み南側にわざかに重複する。埋土の堆積状況から91号連穴土坑が新しい

可能性が高いが、ほぼ同時期に構築された可能性もあり、正確な新旧関係は不明である。また、91号連穴土坑の東壁が92号連穴土坑の從穴部西端をわずかに切る。91号連穴土坑はブリッジ中央部分が崩落しており、崩落部直下からは被熱による変色のある疊が数点出土した。遺構内遺物と判断したものは、90号連穴土坑から土器1点であり、図化した。324は口縁部が直行し、横位に貝殻刺突文が浅く3条めぐる。肩部は綾糸条痕文が施される。

#### 重複構造36 (第210図)

B-38・39区X層から検出したが、96号連穴土坑外側の掘り込みはⅤb層で検出された。埋土の堆積状況等から、96号連穴土坑が新しいと判断した。96号連穴土坑は21号堅穴建物跡の南端を床面以下まで深く切って構築され、ブリッジにはⅩ層が残存するが上部が掘削されてい

### 重複遺構21



第198図 重複遺構21・出土遺物

る。遺構内遺物と判断したものは、21号堅穴建物跡から土器3点と石器1点、96号連穴土坑から土器2点であり、そのうち21号堅穴建物跡から土器2点と石器1点を図化した。328は、花崗岩製の石皿類である。やや不均一な厚みがあり、表面にやや平坦面を形成して磨りが確認される。

### 重複遺構37（第209図）

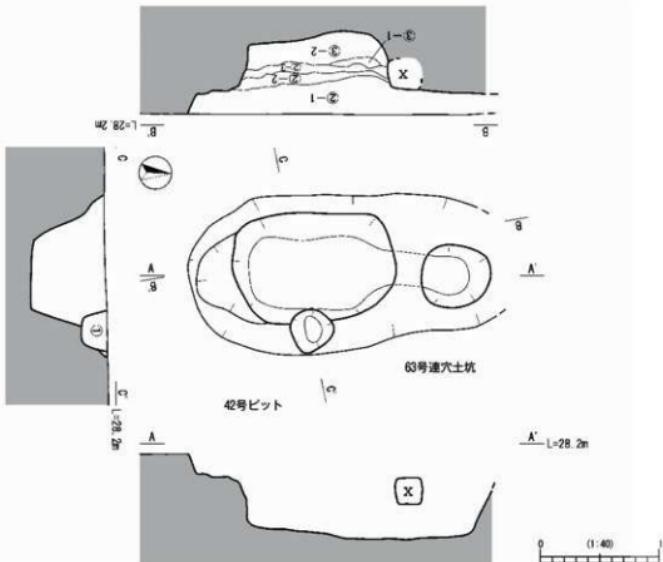
B-38区で検出され、133号土坑はⅦb層、134号土坑はX層で検出した。埋土の堆積状況等から133号土坑が新しく、134号土坑の南東端をわずかに切る。遺構内遺物と判断したものは、133号土坑から土器2点であり、そのうち土器1点を図化した。325は口縁部がやや外反する。口唇部にはキザミが施され、口縁部は綾目貝殻刺突文が施されている。

### 重複遺構38（第211図）

B-38区X層で検出した。135号土坑と98号連穴土坑がほぼ直角方向に重複しており、埋土の堆積状況等から、135号土坑が新しいと判断した。135号土坑は長軸がおよそ3mで、連穴土坑の可能性も考えられたが、ブリッジの痕跡等が見られず土坑として取り扱った。98号連穴土坑のブリッジにはⅣ層が残存する。遺構内遺物は確認できなかった。

### 重複遺構39（第212図）

C-38区X層で検出した。101号連穴土坑と139号土坑がおよそ直角方向に重複しており、埋土の堆積状況等から、101号連穴土坑が新しいと判断した。101号連穴土坑は焼土や炭化物は確認されなかったが、北側がややすらみ若干深くなる傾向にあることから、ブリッジの残存部



- ① 黒色土 1mm大の白色バニス少量含む、1mm大の橙色バニス少量含む  
 ②-1 黒色砂質シルト 黒色砂質土 緩まり強い 粘性やや有り  $Vd$ b層相当 白色バニス中量、橙色バニス少量含む  
 ②-2 黒褐色砂質シルト 黑色砂質土 緩まり強い 粘性やや有り  $Vd$ b層相当 白色・橙色バニス少量含む ②-1相当と比較し、色調は明るい  
 ③-1 黒褐色砂質シルト 黑色砂質土 緩まり強い 粘性やや有り  $Vd$ b層主体に双層を中量含む 白色・橙色バニス少量含む  
 ③-2 暗褐色粘質土 黄褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性強い  $Xf$ 層に黒色砂質シルトを少量含む  
 ④-2 桃色粘質土 黄褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性強い  $Xf$ 層に黒色砂質シルトを少量 岩化物を微量含む

第199図 重複遺構22

である可能性を考慮し連穴土坑として取り扱った。遺構内遺物は確認できなかった。

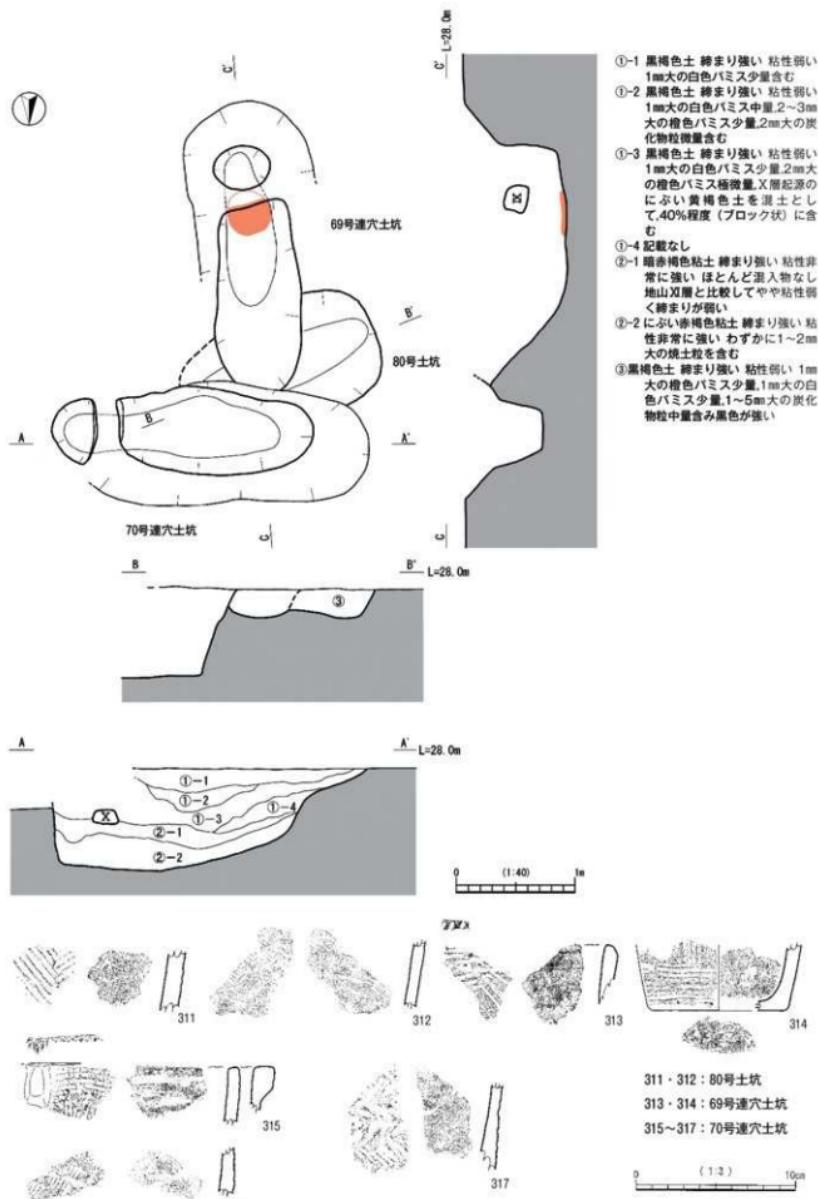
#### 重複遺構40（第211図）

C-38区で検出され、142号土坑は $Vd$ b層、104号連穴土坑はX層で検出した。104号連穴土坑の真上に142号土坑が掘り込まれ、ブリッジをわずかに切る。104号連穴土坑のブリッジにはIX層が残存する。遺構内遺物は確認できなかった。

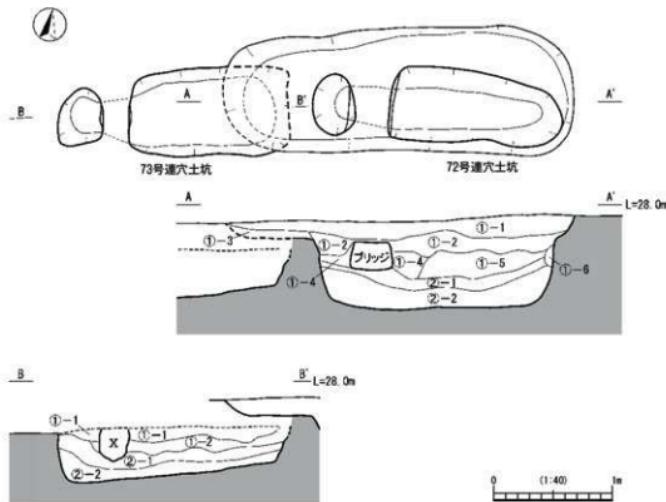
#### 重複遺構41（第213図）

C-38区X層で検出した。102号連穴土坑・103号連穴土坑はいずれも焼土が残存するが、102号連穴土坑はブリッジが残存しない。22号堅穴建物跡の床面直下からは、焼土が残存する土坑2基（146号土坑・141号土坑）が検出されたが、22号堅穴建物跡に伴うものではないと考えられる。22号堅穴建物跡の北側の埋土が大きく沈んでお

り（断面I-I'），直下にある146号土坑の影響を受けていると考えられる。141号土坑は、検出位置から102号連穴土坑に伴うもう一つの從穴部である可能性も考慮されたが、146号土坑も含め機能は不明である。遺構内遺物と判断したものは、22号堅穴建物跡から土器19点と石器1点、102号連穴土坑から土器1点であり、そのうち22号堅穴建物跡から土器13点、102号連穴土坑から土器1点を図化した。329は口唇部が平坦でキザミが施され、口縁部には端部からキザミが2段接して施される。前面は脣部で左上がりのケズリ痕が顕著で、口縁部付近では横方向へと変化する。粘土がマーブル状を呈する特徴がある。330は2段目のキザミ日の施設方向が途中で変化している。331のキザミは1段で、縦長の擦り切り穿孔が穿たれる。332は横位の貝殻条痕文で、内面には縦方向のケズリ痕が残る。333は緩やかな波状口縁を呈する。明瞭な角部は形成されていない。口唇部は貝殻刺突文が施される。口縁部は、縦位の貝殻刺突文が施され、脣部

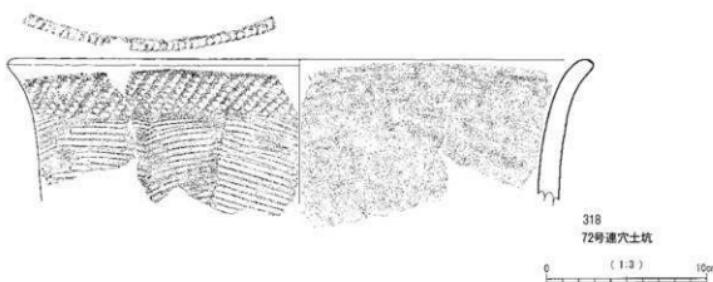


第200図 重複遺構23・出土遺物

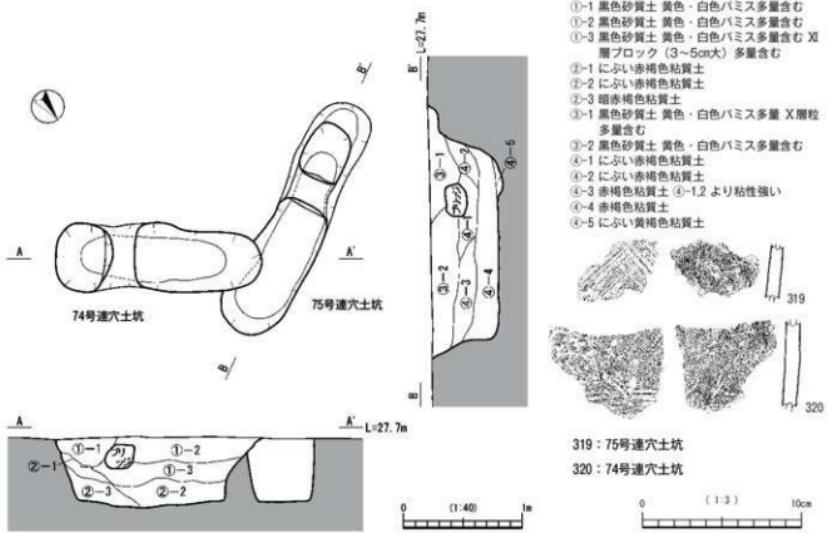


#### 72号連穴土坑

- ①-1 黒褐色砂質シルト Ⅵa層類似 緩まりやや強い 粘性やや弱い 3mmの大黄色バミス中量, 1mmの大白色バミス少量含む
  - ①-2 黒褐色砂質シルト Ⅵa層類似 緩まりやや強い 粘性やや弱い 3mmの大黄色バミス多量, 1mmの大白色バミス多量含む
  - ①-3 雜褐色砂質シルト Ⅵa層類似 緩まりやや強い 粘性やや弱い 3mmの大黄色バミス中量, 1mmの大白色バミス少量含む
  - ①-4 黒褐色砂質シルト Ⅵa層類似 緩まりやや強い 粘性有り 3mmの大黄色バミス中量, 1mmの大白色バミス少量, Ⅶ層をブロック状に微量含む
  - ①-5 暗褐色砂質シルト Ⅵa層類似 緩まりやや弱い 粘性やや弱い 3mmの大黄色バミス多量, 1mmの大白色バミス中量, X層を少量含む
  - ①-6 黄褐色砂質シルト X層類似 緩まり有り 粘性やや弱い Ⅷa層を後量含む
  - ②-1 暗褐色粘質土 双層類似 緩まりやや弱い 粘性やや弱い Ⅷa層をブロック状に中量含む
  - ②-2 暗褐色粘質土 XI層類似 緩まりやや弱い 粘性やや強い 収斂より緩まりと粘性が弱い
- 73号連穴土坑
- ①-1 黒褐色砂質シルト 黒色砂質土 緩まり強い 粘性やや弱い 黄褐色バミスを多量, 白色バミスを少量含む
  - ①-2 黑褐色砂質シルト 黑色砂質土 緩まり有り 粘性有り XI層中量, 黄褐色バミス少量, 燐土, 白色バミスを微量含む
  - ②-1 にべい(黄褐色粘質土 黄褐色粘質土 緩まり弱い 粘性有り) XI層主体に, 黑褐色砂質シルトを少量, 硫化物を微量含む
  - ②-2 暗褐色粘質土 黄褐色粘質土 緩まり弱い 粘性有り XI層主体に, 黑褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む



第201図 重複造構24・出土遺物



第202図 重複構造25・出土遺物

は横位の貝殻条痕文である。この条痕文の上には逆V字状に短い貝殻条痕文が施文され、これが縦位に連続して1つの縦位文様となる。この縦位文様は、波頂部と運動し、波頂部間にても同様の文様を施文する。底部接地面には編み物状痕が残る。内面は、底部から胴部にかけて縦位に下から上へとケズリ痕が顕著で、胴部上位で斜めになる。さらに、口縁部内面では横位となり、口縁部の波状に合わせた調整痕が確認できる。底部外端は貝殻条痕文を施文した後にケズリとナゲが施されている。334と335は横位の貝殻条痕文が施文される。339は横位条痕文の上に斜位の貝殻条痕文が重なる。340は木口状の調整痕が残る。

#### 重複構造42（第216図）

C - 38区X層で検出した。106号連穴土坑、147号、148号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、106号連穴土坑が最も新しいと判断した。106号連穴土坑は、ブリッジが確認できなかったが焼土が残存しており、148号土坑及び147号土坑の床面以下まで深く切るよう構築される。148号土坑北側にはくびれが確認されたが、規模が小さく土坑として取り扱った。遺構内遺物は確認できなかった。

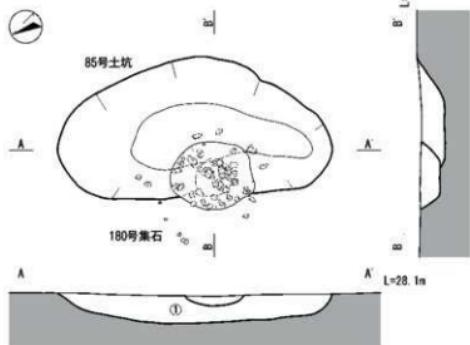
#### 重複構造43（第217図）

C - D - 37 - 38区X層で検出した。土坑及び連穴土坑が計7基重複している。84号・85号・108号連穴土坑はいずれもブリッジは残存していないが、床面に焼土が残存するため連穴土坑として取り扱った。85号連穴土坑には、焼土がまばらに残存する範囲とほぼ全面赤色に変化している範囲が見られ、床面が西側に向かって傾斜する。108号連穴土坑は2か所で焼土が見られ、構築し直しもしくは拡張して利用した可能性がある。122号土坑は円形プラン、その他の遺構はすべて梢円形プランを呈する。遺構内遺物は確認できなかった。

#### 重複構造44（第218図）

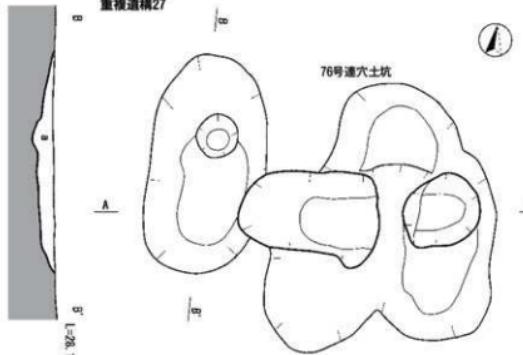
D - 38区X層で検出した。110号連穴土坑、153号・154号土坑が重複しており、110号連穴土坑が最も新しく154号土坑が最も古ないと判断した。110号連穴土坑は、ブリッジは残存していないが焼土が残存するため、連穴土坑として取り扱った。153号土坑は大型の円形を呈するが、他の遺構と比べ掘り込みは浅い。遺構内遺物と判断したものは、110号連穴土坑から土器1点、154号土坑から土器2点であり、そのうち110号連穴土坑から土器1点、154号土坑から土器1点を図化した。343は太めの貝殻条痕文が横位に施文される。内面調整は縦方向のケズリで

重複遺構26



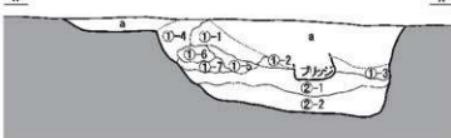
① 黒色土 粘性弱い 繋まり強い 1mm大の白色バミス少量、1~2mm大の黄色・橙色バミスを極少量含む 粒径極微細

重複遺構27

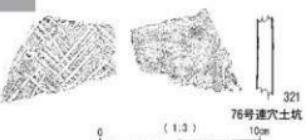


- a 黒褐色土 繋まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス少量、2~5mm大の黄色・橙色バミス中量含む
- ①-1 暗褐色土 繋まり強い 粘性無し 1mm大の白色バミス少量、2~3mm大の橙色バミス中量含む
- ①-2 暗褐色土 (50%) と暗赤褐色粘土 (50%) の混土 繋まり強い 粘性やや有り
- ①-3 色調土質とも①-2と同じ
- ①-4 橙色土 繋まり強い 粘性無し 1mm大の白色バミス少量含む ほぼX層
- ①-5 暗褐色土 繋まり強い 粘性やや有り 白色バミスをあまり含まず 2~5mm大の橙色バミスを中量含む
- ①-6 暗褐色土 (70%) と褐色土 (30%)との混土 わずかに2mm大の黄色バミスを含む 繋まり強い 粘性やや有り
- ①-7 暗褐色土 繋まり強い 粘性やや強い 2~3mm大の橙色バミスを微量含む
- ②-1 にぶい赤褐色粘土 繋まり有り 粘性強い X層と比較してやや色調暗く、繋まり弱い
- ②-2 にぶい赤褐色粘土 繋まり有り 粘性強い ほぼ②-1層と同じ 比較してやや色暗く、繋まり弱い

A L=28. 1m



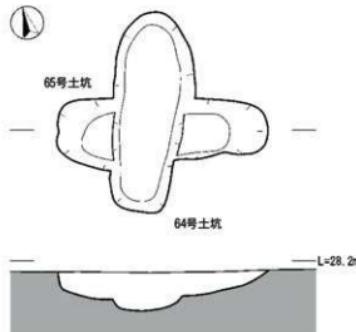
遺構 0 (1:40) 1m



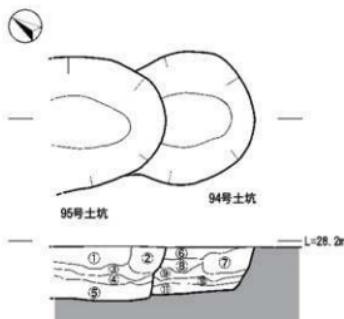
76号通穴土坑

第203図 重複遺構26, 27・重複遺構27出土遺物

重複遺構28



重複遺構29



① 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量, 2mm大の黄色バミス中量含む

② 暗褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 1~2mm大の黄色バミス少量含む, 黄褐色土を斑状に含んでいる

③ 暗褐色土 (2層) と暗赤褐色土 (4層)との混土 締まり有り 粘性やや有り 暗赤褐色が1~2cm大のブロック状で混じる

④ 暗赤褐色粘土 (X線顕微鏡) 締まり有り 粘性やや強め 2mm大の赤色壤土粒と1mm大の炭化物粒を極少量含む

⑤ 暗赤褐色粘土 (X線顕微鏡) 締まり有り 粘性強い 双層と比較して色調暗く、粘性が強い

⑥ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量, 2mm大の黄色バミス中量含む

⑦ 暗褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 1~2mm大の黄色バミス少量含む, 黄褐色土が1~2cm大のブロック状で混じる

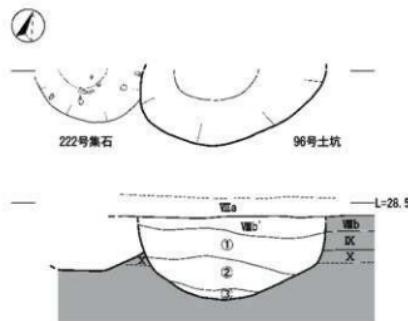
⑧ 黑褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量, 2mm大の黄色バミス少量含む ⑨ 層b面に類似するが、黄色バミスの量がやや少ない

⑩ 暗褐色土 (8層) と暗赤褐色粘土 (並層)との混土 締まり有り 粘性やや有り 暗赤褐色土が1~1.5cm大のブロック状で混じる

⑪ 暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強め 2mm大の炭化物粒を極微量含む

⑫ 暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性強い ⑩層より色調暗く、やや粘性が強い

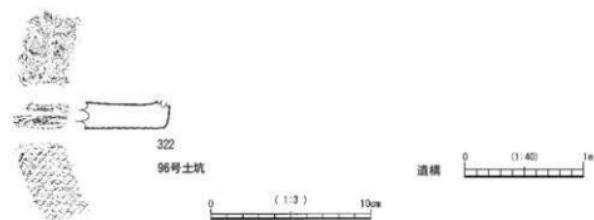
重複遺構30



① 黒褐色土 (8層) と暗赤褐色粘土 (並層)との混土 締まり有り 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス中量, 2~5mm大の黄色バミス、橙色バミス多量, 1~2mm大の炭化物粒微量含む

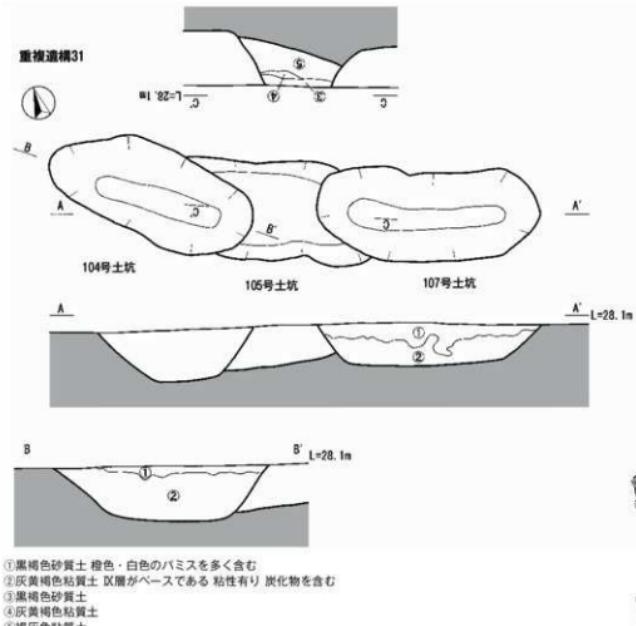
② 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス少量, 2~4mm大の黄色バミス、橙色バミス中量, 1~2mm大の炭化物粒極微量含む

③ 暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強め 1mm大の白色バミス微量, 1~2cm大の黒色土 (2層) をブロック状に含む

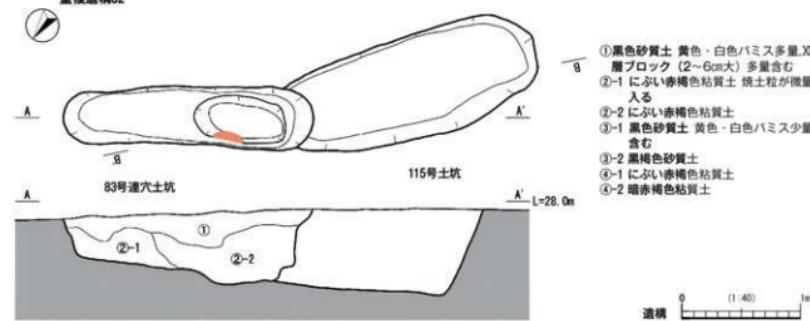


第204図 重複遺構28, 29, 30・重複遺構30出土遺物

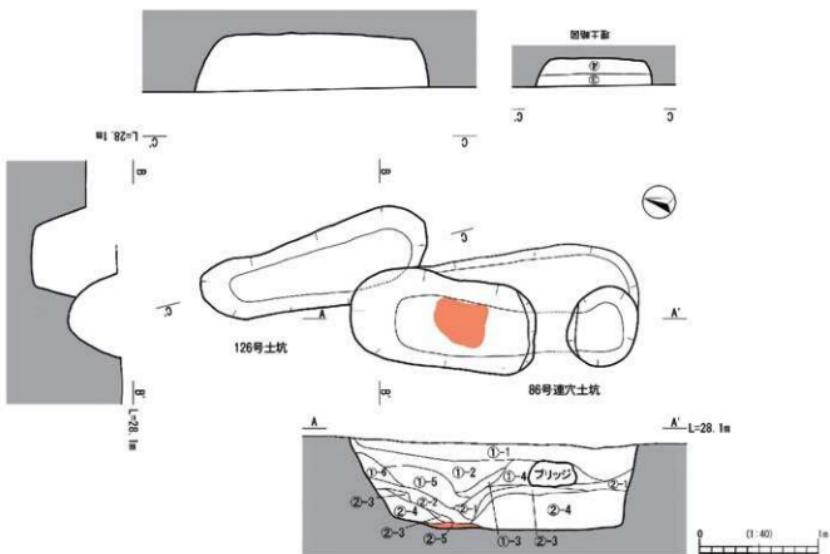
重複遺構31



重複遺構32



第205図 重複遺構31, 32・重複遺構31出土遺物



- ①-1 黒褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Ⅵa層類似 3mm大の黄色バミス少量、1mm大の白色バミス多量含む  
 ①-2 黒褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Ⅵa層類似 3mm大の黄色バミス中量、1mm大の白色バミス中量含む  
 ①-3 黒褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Ⅵa層類似 3mm大の黄色バミス微量、1mm大の白色バミス中量含む  
 ①-4 黒褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Ⅵa層類似 3mm大の黄色バミス中量、1mm大の白色バミス中量、X層が多量に混ざる  
 ①-5 黒褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Ⅵa層類似 3mm大の黄色バミス多量、1mm大の白色バミス中量、X層が少量混ざる  
 ①-6 黄褐色砂質シルト 細まりやや強い 粘性やや弱い Ⅵa層類似 3mm大の黄色バミス多量、1mm大の白色バミス中量、X層が多量混ざる  
 ②-1 黄褐色粘質土 細まりやや弱い 粘性やや強い Ⅺ層類似 Ⅵa層中混ざる  
 ②-2 黄褐色粘質土 細まりやや弱い 粘性やや強い Ⅺ層類似 Ⅵa層中混ざる  
 ②-3 黄褐色粘質土 細まりやや弱い 粘性やや強い Ⅺ層類似 Ⅺ層より細まりと粘性が弱い ②-3より若干暗い  
 ②-4 黄褐色粘質土 細まりやや弱い 粘性やや強い Ⅺ層類似 Ⅺ層より細まりと粘性が弱い ②-3より若干暗い  
 ②-5 黄褐色粘質土 細まりやや弱い 粘性やや強い Ⅺ層類似 1~10mm大の赤褐色の焼土を多量含む  
 ③ 黑褐色砂質シルト 細まりやや有り 粘性やや有り Ⅻ層と黄褐色バミスを少量、白色バミスを微量含む  
 ④ 黄褐色粘質土 細まりやや有り 粘性有り Ⅻ層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミス炭化物を微量含む

第206図 重複遺構3

ある。344は口縁部が平坦でキザミが施される。口縁部には1段のキザミが施され。胴部は横位の貝殻条痕文である。

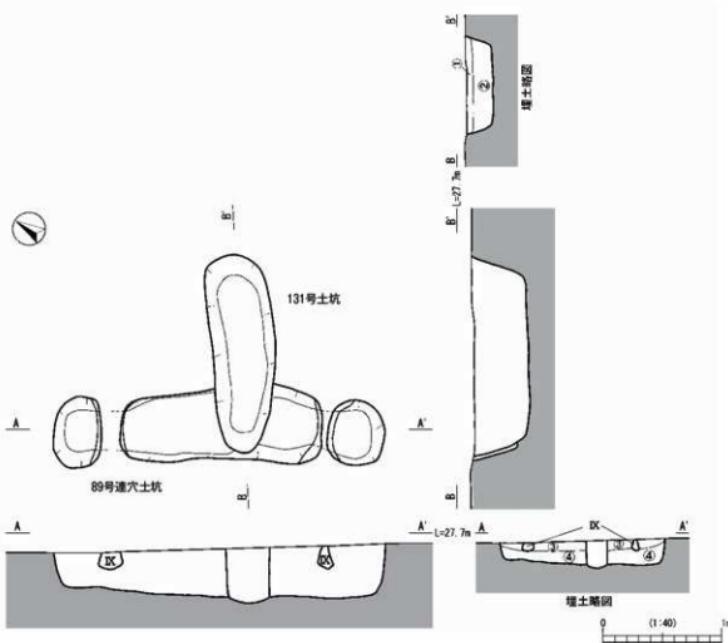
#### 重複遺構45（第219図）

D-38・39区X層で検出した。155号・156号・157号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、中央の156号土坑の北側を157号土坑、南側を155号土坑が切るとの判断した。156号土坑は楕円形プランでわずかに南側へ床面が傾斜している。いっぽう157号土坑と155号土坑は検出面から底面までが約50cmと深い。遺構内遺物と判

断したものは、155号土坑から土器2点、156号土坑から土器1点と石器1点であり、そのうち155号土坑土器1点、156号土坑から石器1点を図化した。346は重量のある大型円錐に磨面が観察された。

#### 重複遺構46（第220図）

D-38区X層で検出した。160号・161号土坑がほぼ直角方向に重複しており、埋土の堆積状況等から、161号土坑が新しいと判断した。いずれも楕円形プランを呈するが、160号土坑の北壁はやや広がると考えられる。遺構内遺物は確認できなかった。



- ①暗褐色砂質シルト 緋まりや有り 粘性やや有り X層と黄褐色バミスを少量含む  
 ②にふい黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り X層主體 黒褐色砂質シルトと炭化物を微量含む  
 ③黒褐色砂質シルト 緋まりや有り 白色バミス多量 X層と黄褐色バミスを少量、炭化物を微量含む  
 ④にふい黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り X層主體に白色バミス、黄褐色バミス、炭化物を微量含む

第207図 重複遺構34

#### 重複遺構47（第220図）

D-E-37・38区X層で検出した。111号・112号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、112号土坑が新しいと判断した。111号土坑の南側を112号土坑が切り、112号土坑は底部がすり鉢状を呈する。遺構内遺物と判断したものは、112号土坑から土器1点あり、図化した。

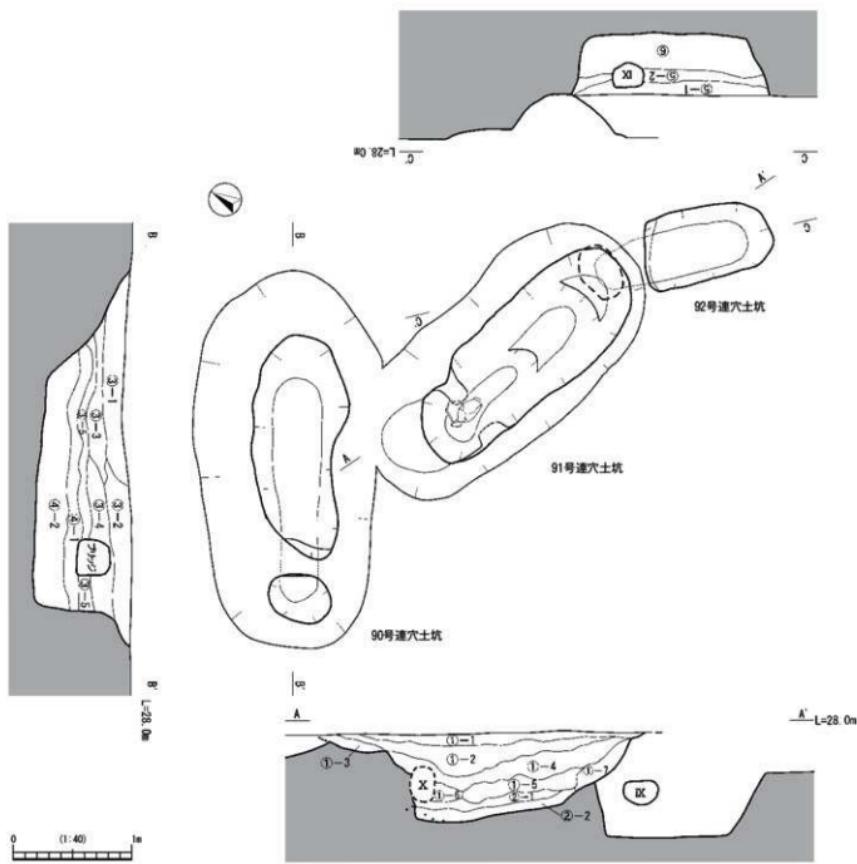
#### 重複遺構48（第221図）

E-38区X層上面で検出した。172号土坑と276号集石とが重複しているが、調査時点では重複を確認出来ず、整理作業段階で判明した。検出のレベル差は10cm弱で、276号集石の底面の一部が172号土坑の埋土をわずかに掘り込む。172号土坑からは総数で72点の標が出土しており、集石の土坑である可能性も考えられたが、土坑内の埋土

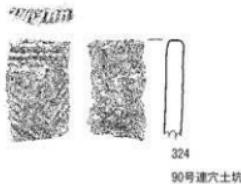
堆積状況などから両者は別の遺構であると判断した。遺構内遺物と判断したものは、172号土坑から土器6点であり、そのうち土器1点を図化した。348の口縁部にはロッキング状にキザミが施され、口縁部には横位の貝殻刺突文がめぐる。

#### 重複遺構49（第221図）

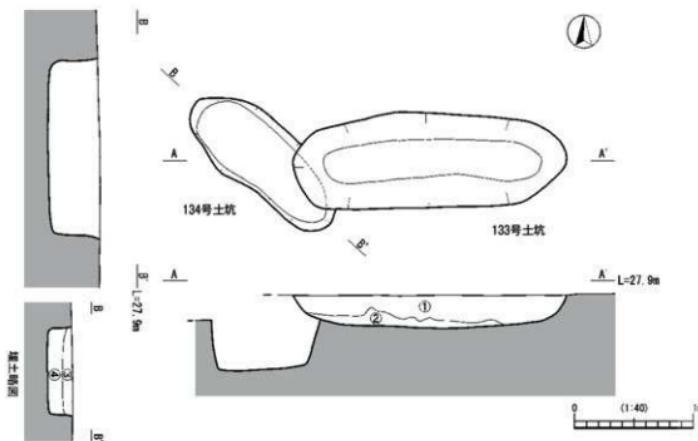
E-38区X層上面で検出した。170号・171号土坑が重複しており、171号土坑が170号土坑の東端を切る。両者は検出面から床面までが10cm程度と浅く、171号土坑が170号土坑よりわずかに深い。遺構内遺物と判断したものは、171号土坑から土器2点であり、全て図化した。349は口縁部外端にキザミが施され、口縁部には斜位にキザミが施されている。350は横位の貝殻条痕文に流水



第208図 重複遭構35



99号連穴土坑



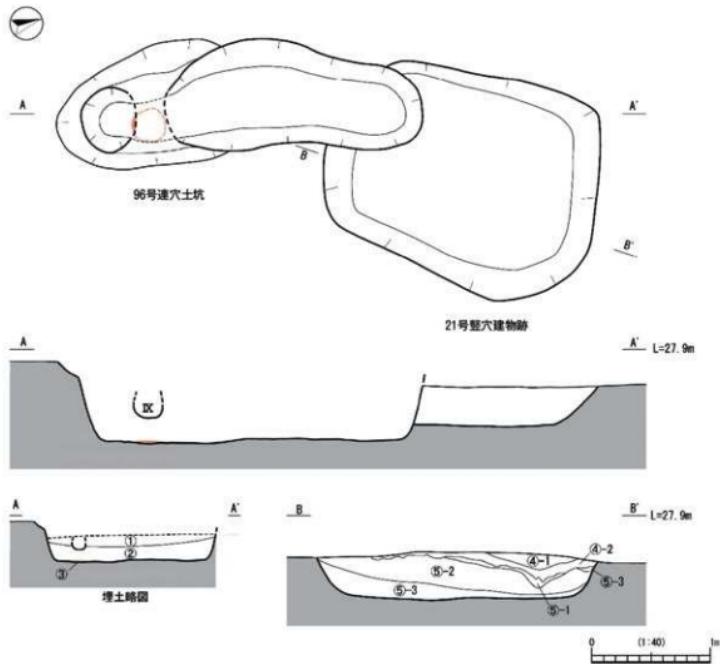
- ① 黒褐色砂質土 白色バミス多く含む 締まっている
- ② 灰黄色砂質土 ①層に对層の茶褐色粘質土混じる
- ③ 灰褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 对層、黄橙色バミス、白色バミスを少量含む
- ④ 暗色粘質土 締まりやや有り 粘性強い 对層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミス、炭化物を微量含む



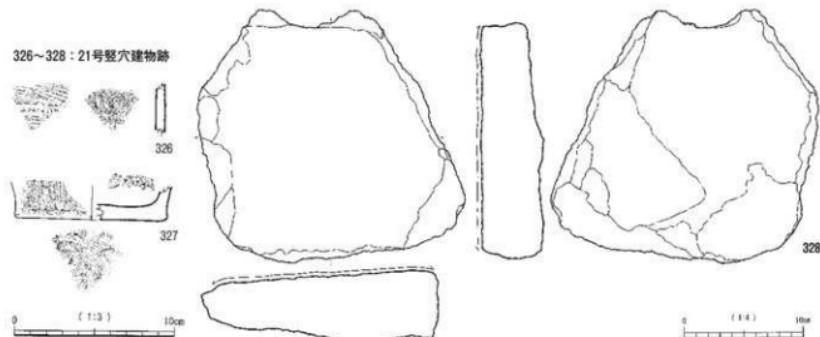
133号土坑

遺物 0 (1:3) 10cm

第209図 重複遺構37・重複遺構35、37出土遺物

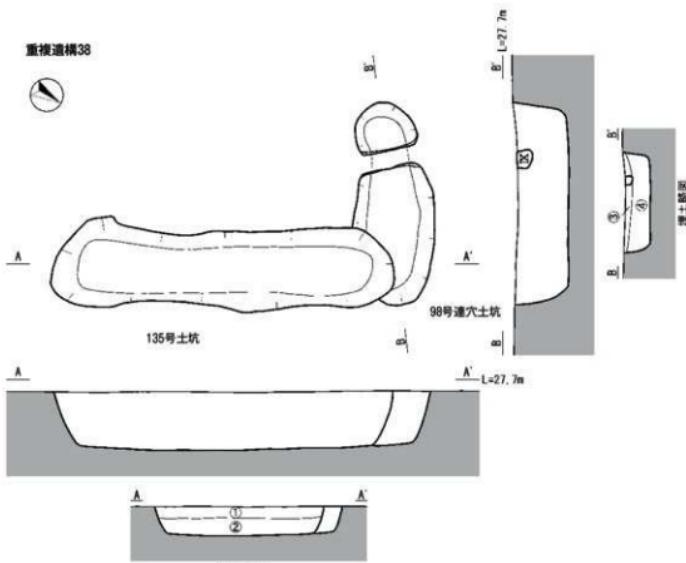


- ① 黄褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 邪層と 黄褐色バミスを少量、白色バミスを微量含む
- ② にふい 黄褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性有り 邪層主体に黄褐色バミスと白色バミスを微量含む
- ③ 黄褐色粘質土 緩まり弱い 粘性やや有り 煙土をブロック状に少層含む 燐燒部
- ④-1 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 黄褐色バミス多量、白色バミス少量含む
- ④-2 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 邪層中量、黄褐色バミス少量、白色バミス微量含む
- ⑤-1 にふい 黄褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性有り 邪層主体に黑褐色砂質シルトを少量、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑤-2 にふい 黄褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性有り 邪層主体に黑褐色砂質シルトを少量、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑤-3 にふい 黄褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性強い 邪層主体に黄褐色バミスと白色バミスを微量含む



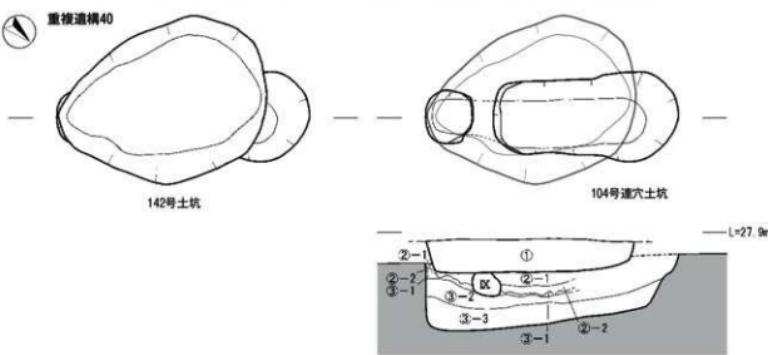
第210図 重複遺構36・出土遺物

重複構造38



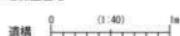
- ① 黒褐色砂質シルト 締まり有り 黏性やや有り ②層と黄褐色バミスを少量、白色バミスを微量含む
- ② 棕褐色粘質土 締まりやや有り 黏性強い ③層主体に黒褐色砂質シルトと黄褐色バミスを微量含む
- ③ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 黏性やや有り ④層と白色バミス少量、黄褐色バミスと炭化物を微量含む
- ④ にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 黏性有り ⑤層主体に黒褐色砂質シルト、白色バミス、炭化物を微量含む

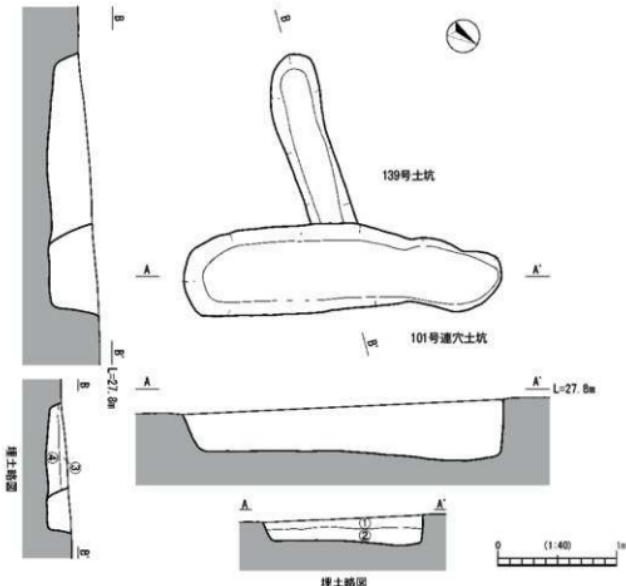
重複構造40



- ① 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 黏性やや弱い ①a層類似 3mm大の黄色バミス多量 1mm大の白色バミス多量含む
- ②-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 黏性やや有り 黄褐色バミス、白色バミスを少量、炭化物を微量含む
- ②-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 黏性やや有り ②層中量、黄褐色バミス、白色バミス少量、炭化物微量含む
- ③-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 黏性有り 双層主体に黒褐色砂質シルト、白色バミスを微量含む
- ③-2 底黄褐色粘質土 締まりやや有り 黏性有り ③層主体に黄褐色バミス、白色バミスを微量含む
- ③-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 黏性有り ④層主体に2~3cmの焼土ブロックと白色バミスを微量含む

第211図 重複構造38, 40





- ① 黒褐色砂質シルト 緩まりや有り 粘性やや有り X層を少量 黄褐色バミスと白色バミスを少量含む  
 ② にぶい黄褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性有り X層主体に 黒褐色砂質シルトと炭化物を微量含む  
 ③ 黒褐色土 緩まりや有り 粘性やや有り X層少量 橙色バミスと炭化物を微量含む  
 ④ にぶい黄褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性強い X層主体に 白色バミスと炭化物を微量含む

第212図 重複遺構39

状の貝殻文が重なる。

坑から土器1点、176号土坑から土器1点を図化した。

#### 重複遺構50（第222図）

E - 38区X層で検出した。173号・174号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、173号土坑が174号土坑の東端をわずかに切ると判断した。遺構内遺物と判断したもののは、174号土坑から土器1点であり、図化した。

#### 重複遺構51（第223図）

E - F - 38区X層で検出した。計7基の土坑及び集石が切り合いながら南北に広がる。埋土の堆積状況等から、集石が土坑を切ると判断した。また、土坑では180号土坑もしくは176号土坑が最も新しいと考えられるが、両遺構の新旧関係は不明である。180号土坑は床面から段を持って立ち上がり、深さが約60cmと他の土坑に比べ深い。遺構内遺物と判断したものは、180号土坑から土器3点、176号土坑から土器2点であり、そのうち180号土

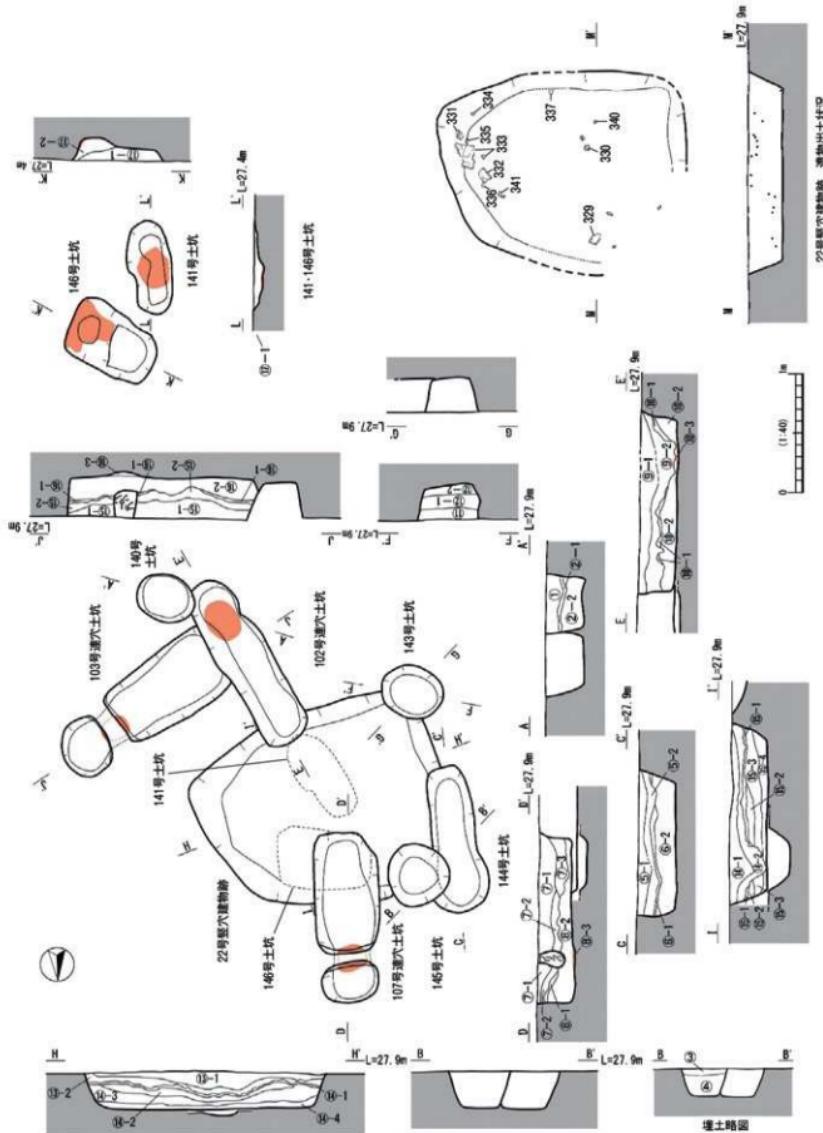
#### 重複遺構52（第222図）

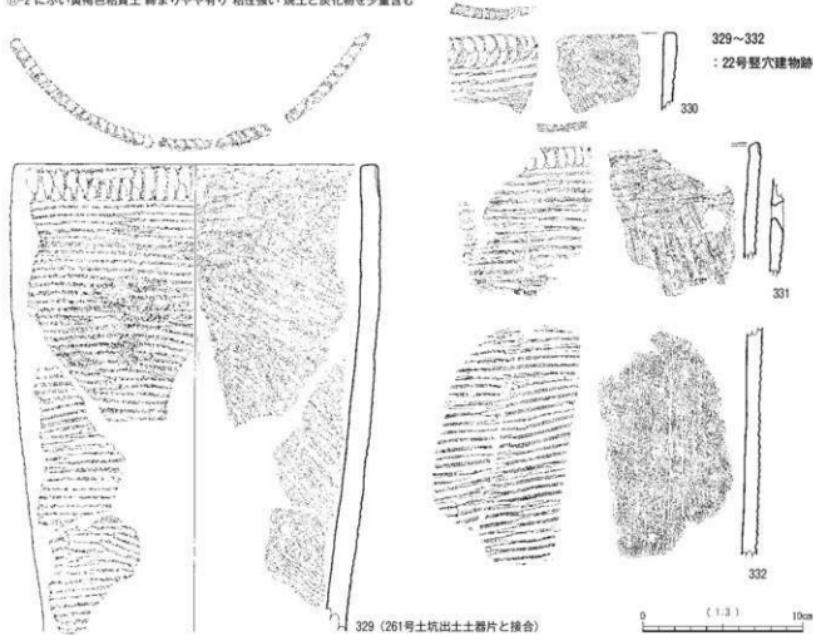
F - 37 - 38区X層で検出した。189号・190号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、190号土坑が新しいと判断した。190号土坑は梢円形プランを呈し、床面がやや不安定である。189号土坑の埋土上部では礫が数点出土している。遺構内遺物と判断したものは、190号土坑から土器1点であり、図化した。

#### 重複遺構53（第224図）

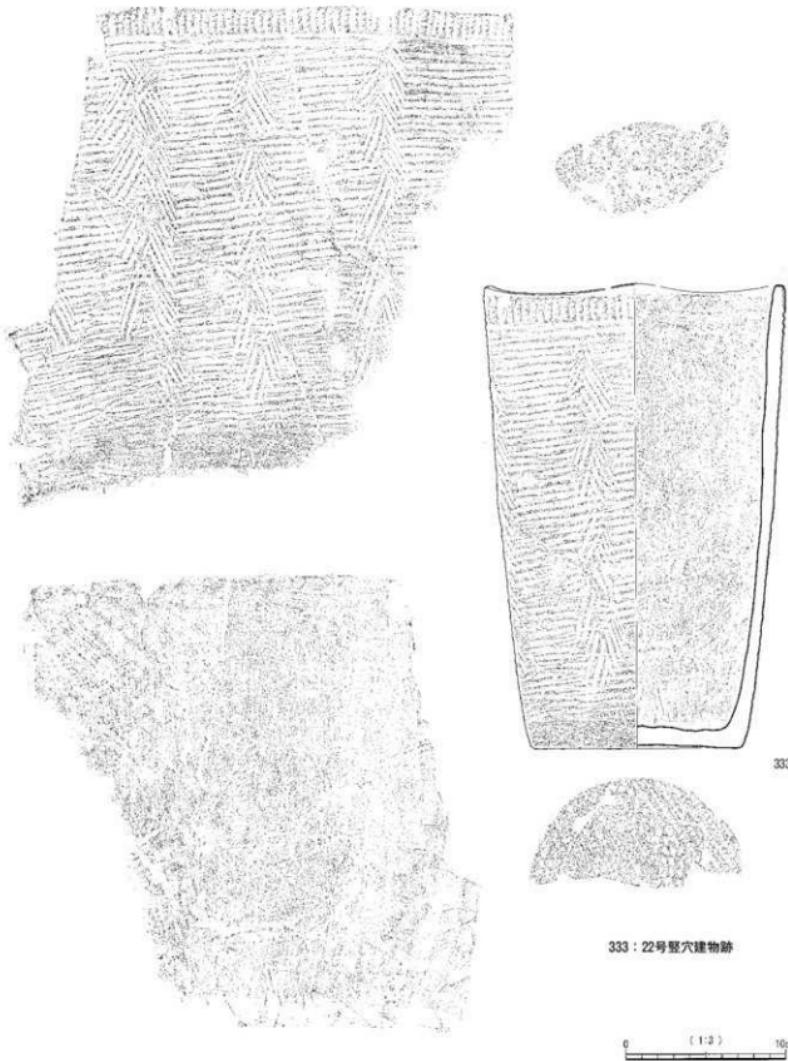
F - 38区で検出され、195号土坑はX層、286号集石はVII b層で検出された。埋土の堆積状況等から、286号集石が195号土坑の南端を切ると判断した。195号土坑は梢円形プランを呈し、床面がやや不安定である。遺構内遺物は確認できなかった。

第213图 重複遺構41

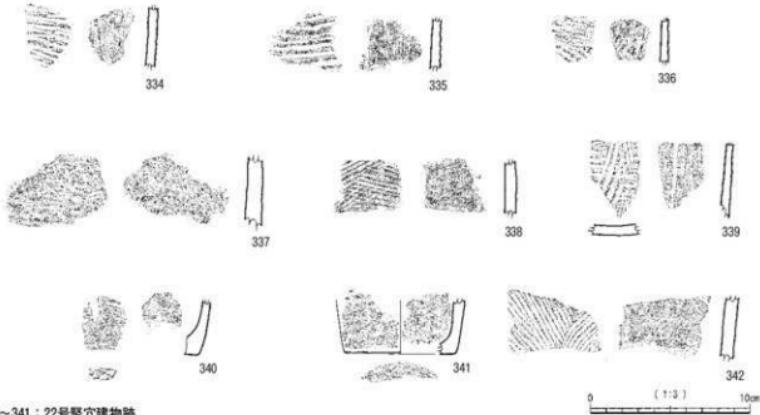




第214図 重複遺構41出土遺物①



第215図 重複遺構41出土遺物②



334~341 : 22号竪穴建物跡

342 : 102号竪穴土坑

①黒褐色砂質シルト 緋まり有り  
粘性やや有り X層 黄褐色  
バニス、白色バニスを少量含む

②にぶい黄褐色粘質土 緋まり  
やや有り 粘性有り X層 主体  
に黒褐色砂質シルトと白色バ  
ニスを少量、黄褐色バニスと  
炭化物を微量含む

③焼土範囲

④黒褐色砂質シルト 緋まり有  
り 粘性やや有り X層 黄褐色  
バニス、白色バニスを少量含む

⑤-1 にぶい黄褐色粘質土 緋ま  
りやや有り 粘性有り X層 主  
体に黄褐色バニス、白  
色バニスを微量含む

⑤-2 灰黄褐色粘質土 緋まりや  
や有り 粘性有り X層 主体  
に白色バニスを少量、黄褐  
色バニスを微量含む

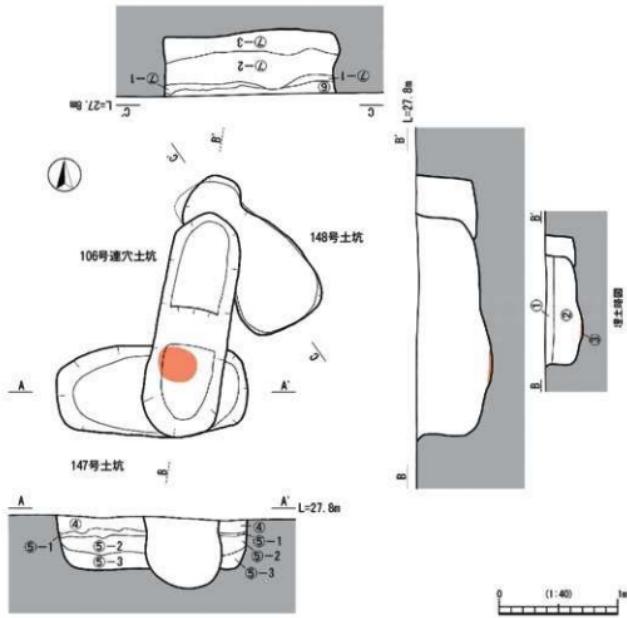
⑤-3 暗褐色粘質土 緋まりやや  
有り 粘性有り X層 主体  
に黄褐色バニス、白色バニ  
スを微量含む

⑥黒褐色砂質シルト 緋まり有  
り 粘性やや有り X層 主  
体に黒褐色砂質シルトを少  
量、黄褐色バニス、炭化物を  
微量含む

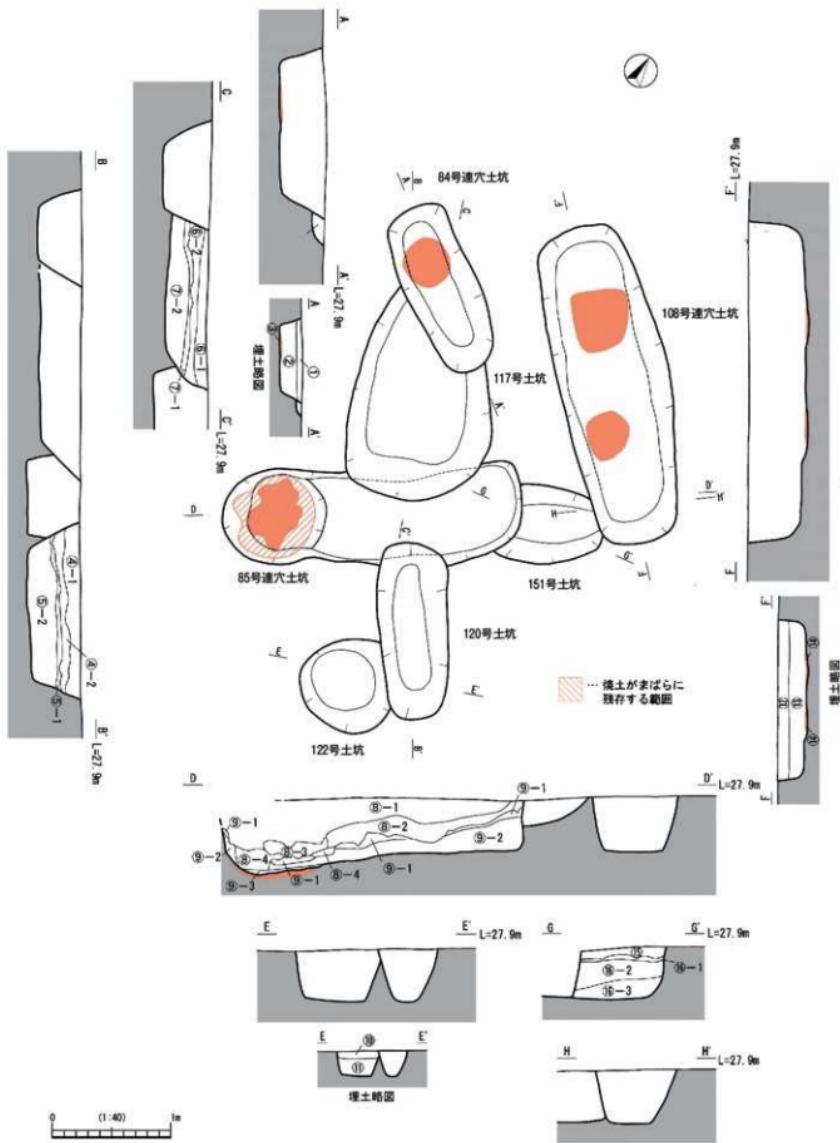
⑦-1 にぶい黄褐色粘質土 緋ま  
りやや有り 粘性有り X層 主  
体に黒褐色砂質シルトを少  
量、黄褐色バニス、白色バ  
ニス、炭化物を微量含む

⑦-2 灰黄褐色粘質土 緋まりや  
や有り 粘性有り X層 主体  
に黄褐色バニス、白色バ  
ニス、炭化物を微量含む

⑦-3 にぶい黄褐色粘質土 緋ま  
りやや有り 粘性有り X層 主  
体に黄褐色バニス、白  
色バニスを微量含む



第216図 重複遺構41出土遺物③・重複遺構42



第217図 重複遺構43

- ① 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ を少量、黄褐色バミス、白色バミス、炭化物を微量含む  
 ② にいし 黃褐色粘土質土 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 主体に、黄褐色バミス、焼土、炭化物を微量含む  
 ③ 白色粘土質土 締まりやや有り 粘性やや有り 燃土をブロック状に、炭化物を少量含む  
 ④ 1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 白色バミスを少量、黄褐色バミス、炭化物を微量含む  
 ④ 2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 多量、白色バミス少量、黄褐色バミスを微量含む  
 ⑤ 1 にいし 黄褐色粘土質土 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 主体に、白色バミスと炭化物を微量含む  
 ⑤ 2 黑褐色粘土質土 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 主体に白色バミスを微量含む  
 ⑥ 1 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 少量、黄褐色バミス、白色バミスを微量含む  
 ⑥ 2 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 少量、黄褐色バミス、白色バミスを微量含む  
 ⑦ にいし 黄褐色粘土質土 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 主体に白色バミスと炭化物を微量含む  
 ⑦ 1 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 少量、炭化物を微量含む  
 ⑦ 2 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 少量、白色バミスと炭化物を微量含む  
 ⑧ 3 黄褐色色 茂摩火山灰土 締まり有り 粘性弱  
 ⑨ 4 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 中量、黄褐色バミス、白色バミス、焼土、炭化物を微量含む  
 ⑨ 1 にいし 黄褐色粘土質土 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む  
 ⑩ 2 黑褐色粘土質土 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 主体に、焼土を少量と炭化物を微量含む  
 ⑪ 3 塗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り  $\text{X層}$ 白色バミスを少量、黄褐色バミス微量含む  
 ⑫ 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 白色バミスを微量含む  
 ⑬ 黄褐色粘土質土 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 白色バミスを微量含む  
 ⑭ 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り  $\text{X層}$ 中量、白褐色バミスと白色バミス微量含む  
 ⑮ にいし 黄褐色砂質シルト 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 主体に黒褐色砂質シルトと焼土を微量含む  
 ⑯ 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 少量、黄褐色バミスと白色バミス微量含む  
 ⑰ 2 黑褐色砂質シルト 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 少量、白褐色バミスと白色バミス微量含む  
 ⑱ 3 にいし 黄褐色粘土質土 締まりやや有り 粘性有り  $\text{X層}$ 主体に、黄褐色バミスと白色バミス微量含む

#### 重複遺構54（第224図）

G -38区で検出され、196号土坑はX層、288号集石はIX層で検出された。埋土の堆積状況等から、288号集石が196号土坑の東側を切ると判断した。288号集石は196号土坑よりわずかに上面で検出できた。一連の遺構である可能性も考えられたが、196号土坑の埋土には288号集石と比べて炭化物等が少なかったため、重複遺構として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、196号土坑から土器1点であり、図化した。

#### 重複遺構55（第225図）

F -38区で検出され、192号土坑、283号・299号・300号集石はⅢb層、191号・193号土坑はX層で検出した。土坑と集石が重複しており、土坑は南北に、集石は東西に広がる。遺構内遺物は確認できなかった。

#### 重複遺構56（第226図）

F -39区X層で検出した。204号・205号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、205号土坑が204号土坑の西側を切ると判断した。いずれも楕円形プランを呈する。205号土坑の床面は安定しない。遺構内遺物と判断したものは、205号土坑から土器2点であり、これらを図化した。357は口唇部が平坦でキザミが施され、口縁部にはキザミが2段施されている。器面には離れた位置で補修孔が2カ所確認できる。いずれも綫長の擦り切り穿孔と思われる。

#### 重複遺構57（第227図）

E・F -39区X層で検出した。土坑4基と集石1基が

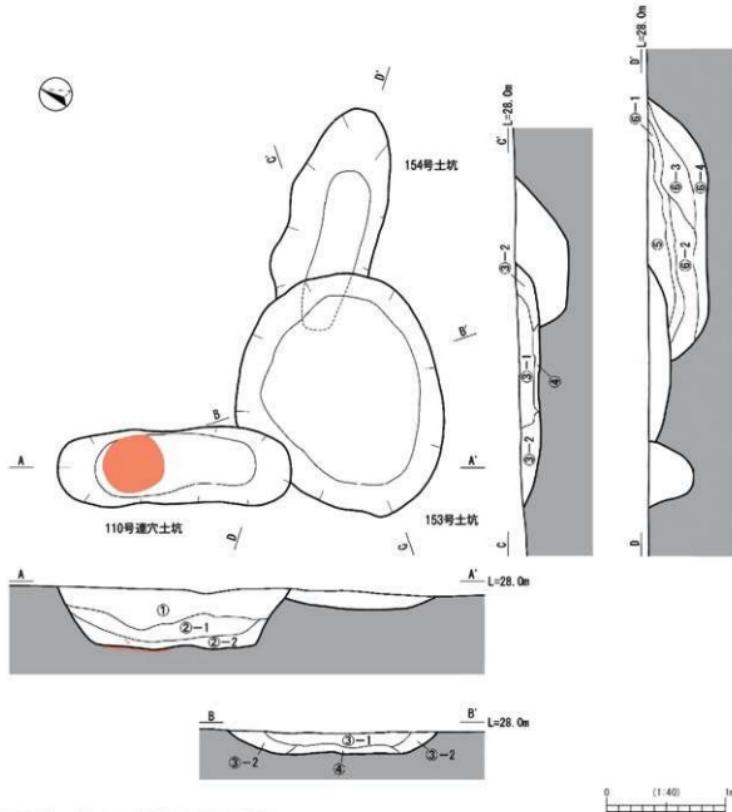
重複しており、305号集石及び211号土坑にかけ噴砂が見られる。209号・211号土坑は発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元したものである。209号土坑は円形プラン、211号・212号土坑は楕円形プランを呈し、210号土坑は東側が極端にすぼまるため不定形プランとした。また、211号土坑の南東には215号土坑が隣接しており、噴砂は215号土坑にも広がる。遺構内遺物は確認できなかつた。

#### 重複遺構58（第227図）

E -39区X層で検出した。214号土坑、307号・308号集石が重複している。214号土坑の北側掘り込み内を308号集石に、南側を307号集石に切られている。308号集石と214号土坑の重複は整理作業で把握及び復元し、307号集石との関係は発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元したものである。214号土坑は略円形プランで、床から壁面の立ち上がりは緩やかである。埋土や形状が、29号堅穴建物跡や28号堅穴建物跡、33号土坑に類似する。遺構内遺物と判断したものは、214号土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。

#### 重複遺構59（第228図）

E -39区X層で検出した。218号・219号・220号・221号土坑が南北に広がって重複しており、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から、219号土坑と221号土坑が新しいと判断したが、両土坑の新旧関係は不明である。遺構内遺物と判断したものは、221号土坑から土器2点であり、全て図化した。



- ① 黒色砂質土 黄色・白色バニス少量含む炭化物粒少量含む
- ②-1 赤褐色粘質土
- ②-2 にぶい赤褐色粘質土 烧土粒少量含む
- ③-1 黒色砂質土 黄色・白色バニス多量含む
- ③-2 黒色砂質土 黄色・白色バニス多量含む炭化物粒少量含む
- ④ 明赤褐色粘質土
- ⑤ 黑色砂質土 黄色・白色バニス多量含む
- ⑥-1 にぶい赤褐色粘質土
- ⑥-2 赤褐色粘質土
- ⑥-3 極暗赤褐色土
- ⑥-4 暗赤褐色粘質土



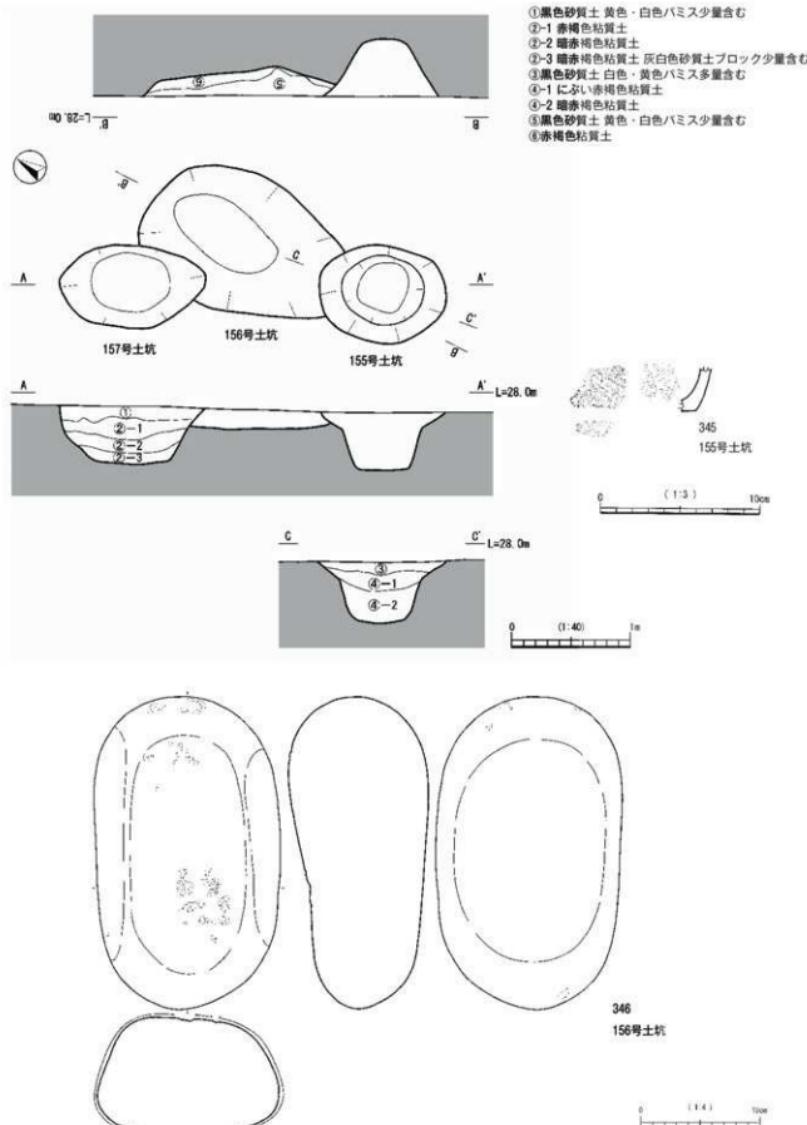
343 110号連穴土坑



344  
154号土坑

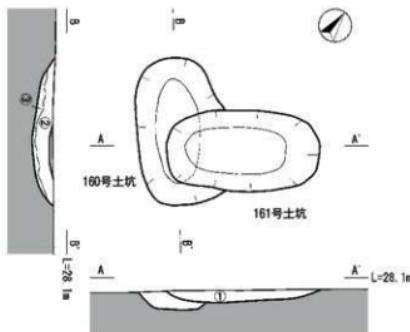
遺物 0 (1:3) 10cm

第218図 重複遺構44・出土遺物



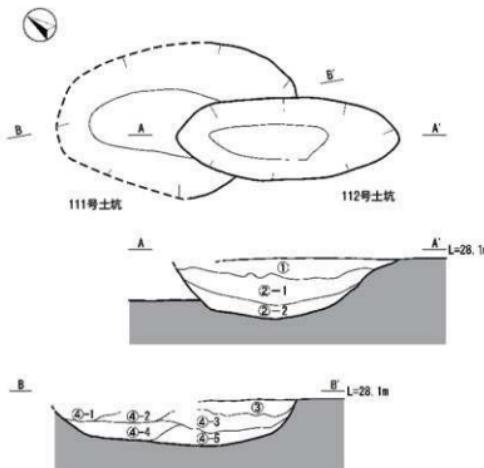
第219図 重複構造45・出土遺物

重複遺構46



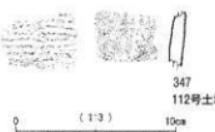
- ① 黒色砂質土 黄色・白色バニス多量含む
- ② 黒色砂質土 黄色・白色バニス多量含む
- ③ 赤褐色粘質土

重複遺構47



- ① 黒色砂質土 黄色・白色バニス微量含む
- ②-1 赤褐色粘質土
- ②-2 赤褐色粘質土 灰色砂質土ブロック多量含む
- ③ 黒色砂質土 黄色・白色バニス多量含む
- ④-1 赤褐色粘質土
- ④-2 赤褐色粘質土 黑色砂質土少量含む
- ④-3 赤褐色粘質土 黑色砂質土多量含む
- ④-4 にぶい赤褐色粘質土
- ④-5 にぶい赤褐色粘質土

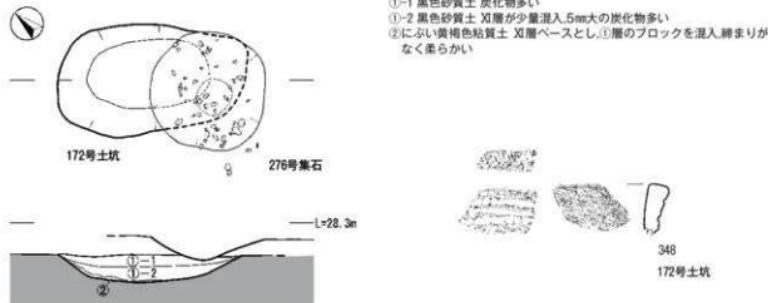
遺構 0 (1:40) 1m



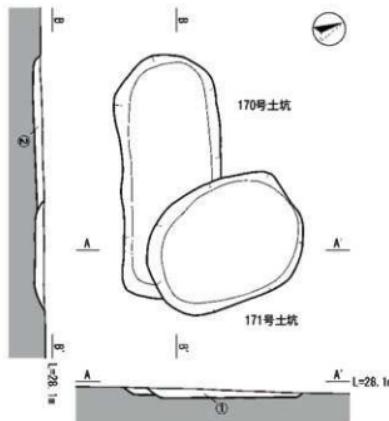
347  
112号土坑

第220図 重複遺構46、47・重複遺構47出土遺物

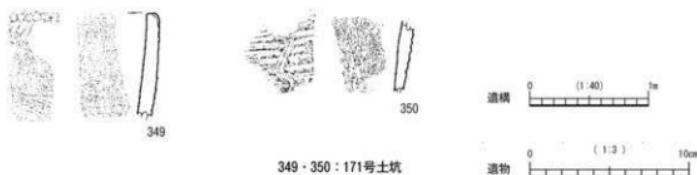
重複遺構48



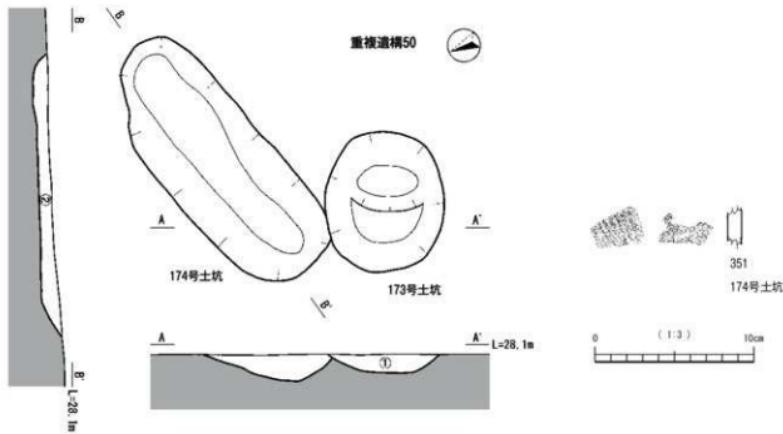
重複遺構49



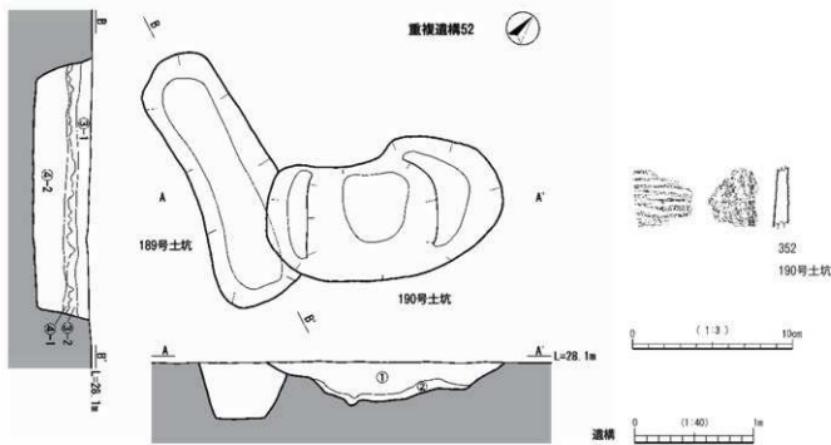
① 黒褐色砂質土 白色バミス多く含む  
② 黒色砂質土 緒まりやや強い粘性やや弱い 1~3mm大の黄色バミス微量, 1mm以下白色バミス中量, ブロック状に XI層含む



第221図 重複遺構48, 49・出土遺物

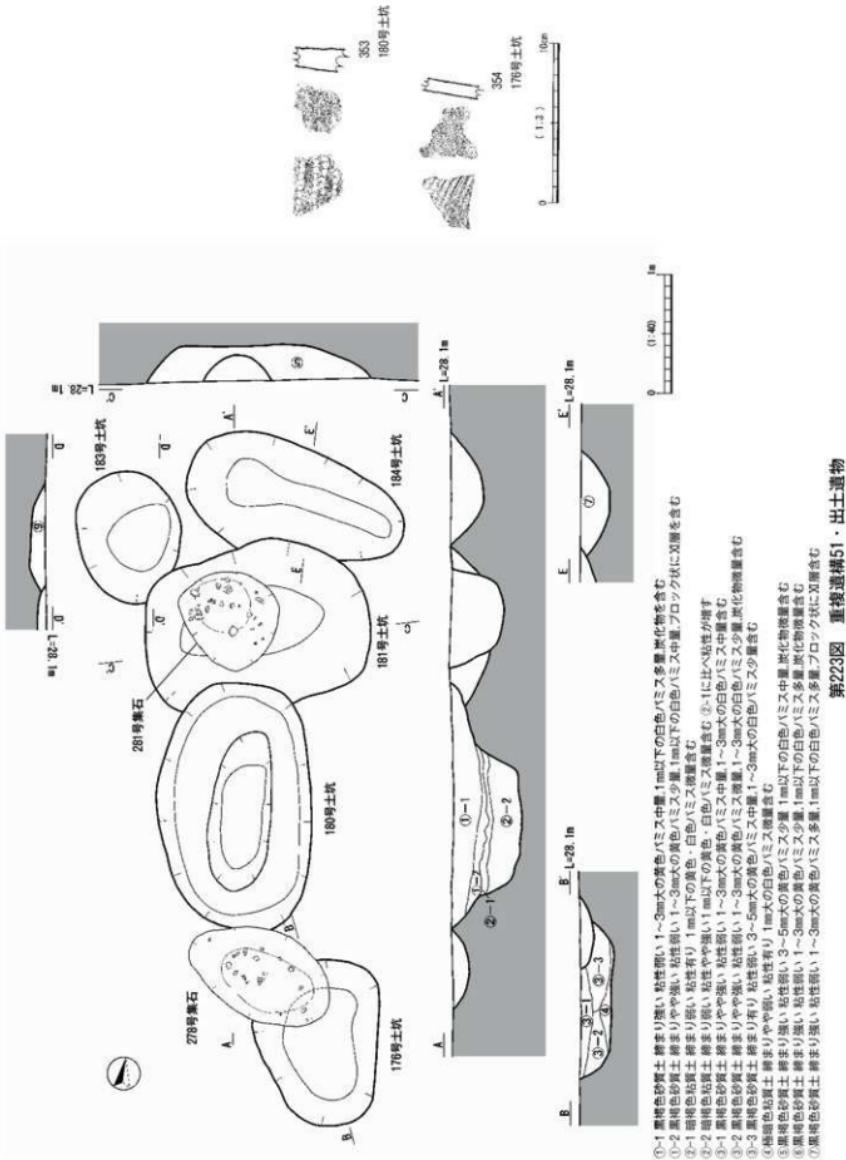


- ① 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量、1mm以下の白色バミス中量含む
- ② 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量、1mm以下の白色バミス中量 炭化物微量含む

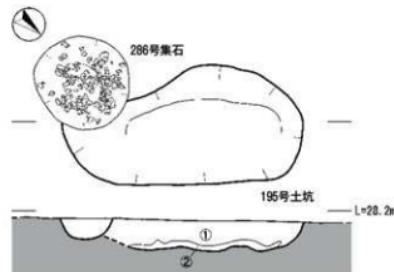


- ① 黒褐色砂質土 白色・黄色バミス多量に含む
- ② にふく黄褐色粘質土 ①層がわずかに混在
- ③-1 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量、5cmの礫、黄褐色バミス、炭化物を微量含む
- ③-2 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り ④層中量、白色バミス少量、黄褐色バミス、炭化物を微量含む
- ④-1 にふく黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り ④層主体に白色バミスと炭化物を微量含む
- ④-2 灰黄褐色粘質土 緋まりやや有り ④層主体に、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む

第222図 重複遺構50, 52・出土遺物



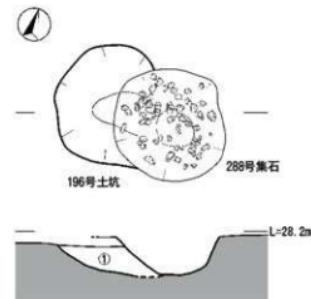
### 重複遺構53



①黒褐色砂質土 白色・黄色バミス多量に含む  
②黒褐色砂質土 黄褐色粘質土のブロック混じり

遺構 0 (1:40) 1m

### 重複遺構54



①黒褐色砂質土 緊まり強い 粘性弱い 1~3mm大の白色バミス多量、炭化物微量含む

196号土坑  
355  
0 (1:3) 1m

第224図 重複遺構53, 54・重複遺構54出土遺物

### 重複遺構60（第229図）

E・E-39区X層で検出した。224号土坑と317号集石とが重複している。317号集石が224号土坑の東端を切る。224号土坑は浅い楕円形プランで、埋土は單一層であった。遺構内遺物は確認できなかった。

### 重複遺構61（第229図）

D・E-39区X層で検出した。226号・227号土坑が重複している。227号土坑は、226号土坑を直角方向に切り、検出面から床面までが約70cmと深い。遺構内遺物と判断したものは、227号土坑から土器2点であり、全て圓化した。361は均一な器壁で横位の山形押型文が施される。部分的に無文帯を形成しているが、ナデにより無文となっている可能性がある。

### 重複遺構62（第230図）

D-39区X層で検出した。23号堅穴建物跡と331号土坑とが重複している。331号土坑が23号堅穴建物跡の南東端を切る。23号堅穴建物跡は隅丸方形プランで検出面から床面までが約20cm程度で、床面は平坦で、焼土や柱穴等の付属施設に關係するものは確認出来なかった。331号土坑は楕円形プランで單一埋土であった。遺構内遺物と判断したものは、23号堅穴建物跡から土器7点であり、そのうち土器5点を圓化した。364は、やや粗めの貝殻条痕文である。366は胎土に雲母を含む。

### 重複遺構63（第231図）

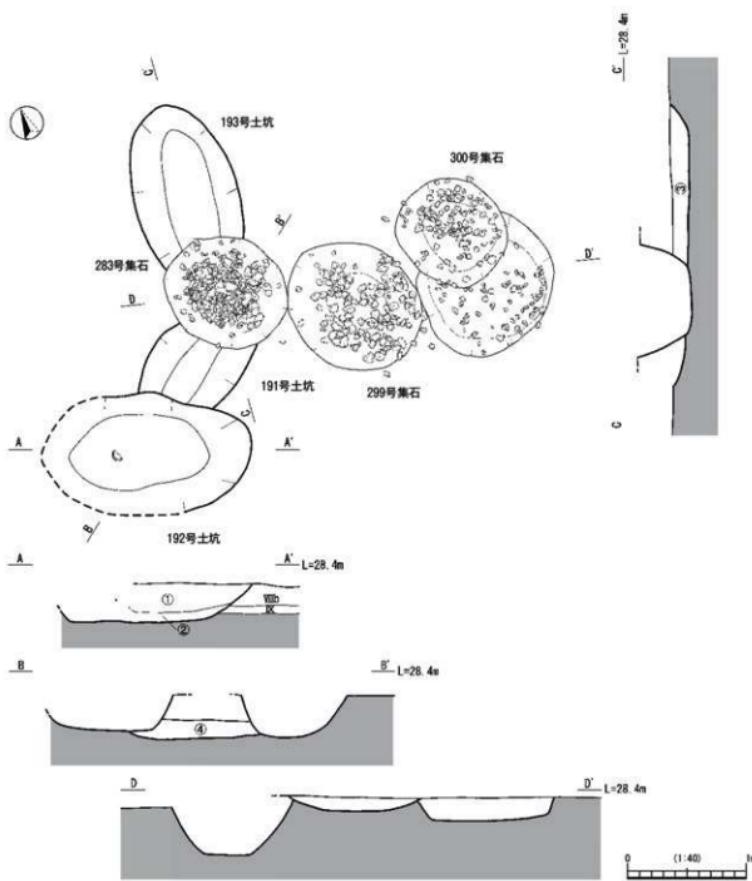
D-39区X層で検出した。231号土坑と327号集石が重複している。231号土坑が327号集石の東側を切る。231号土坑は検出面から底面までが約70cmと深い。当初は231号土坑の北東部分に色調の違う箇所があり、遺構の切り合いを想定して調査したが、遺構では無いことが確認され、最終的に長軸が約190cm、短軸が約100cmの大型の楕円形プランと判断した。遺構内遺物は確認できなかった。

### 重複遺構64（第231図）

D-39区X層で検出した。232号・233号土坑が重複している。いずれも楕円形プランの土坑で、232号土坑が233号土坑を直角方向に切る。232号土坑は検出面から底面までが約60cmと深い。西側が若干ぼまる印象を受け、速穴土坑のブリッジが消失したものである可能性も考えられたが、床面からは焼土や炭化物等は確認出来なかつたため、土坑として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、232号土坑から土器2点、233号土坑から土器1点であり、そのうち232号土坑から土器1点、233号土坑から土器1点を圓化した。368は口縁部が平坦でキザミが施され、口縁部には1段のキザミが施される。胴部は横位の貝殻条痕文で、内面はケズリの後ナデが施される。

### 重複遺構65（第232図）

D-39・40区のX層で検出した。235号・236号土坑、



- ① 黒褐色砂質土 緋まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量、1mm以下の白色バミス中量含む
- ② 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量、1mm以下の白色バミス微量含む
- ③ 黒褐色砂質土 緋まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量、1mm以下の白色バミス中量、ブロック状に疊層含む、炭化物微量含む
- ④ 黒褐色砂質土 緋まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量、1mm以下の白色バミス多量、炭化物微量含む

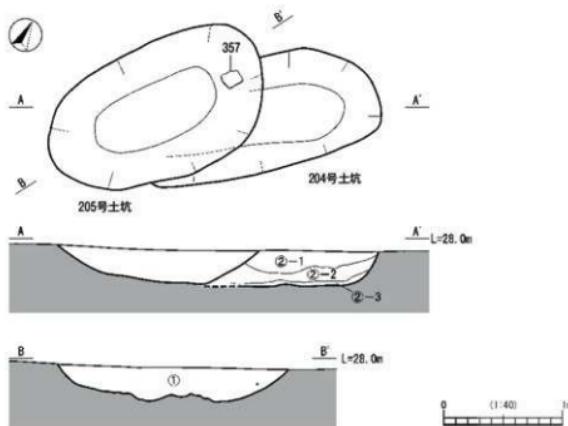
第225図 重複遺構55

334号集石が東西に広がりながら重複しており、埋土の堆積状況等から、334号集石が最も新しいと判断した。334号集石が236号土坑の東壁を、235号・236号土坑の東壁をわずかに切る。遺構内遺物と判断したものは、235号土坑から石器1点であり、固化した。370は石斧の基

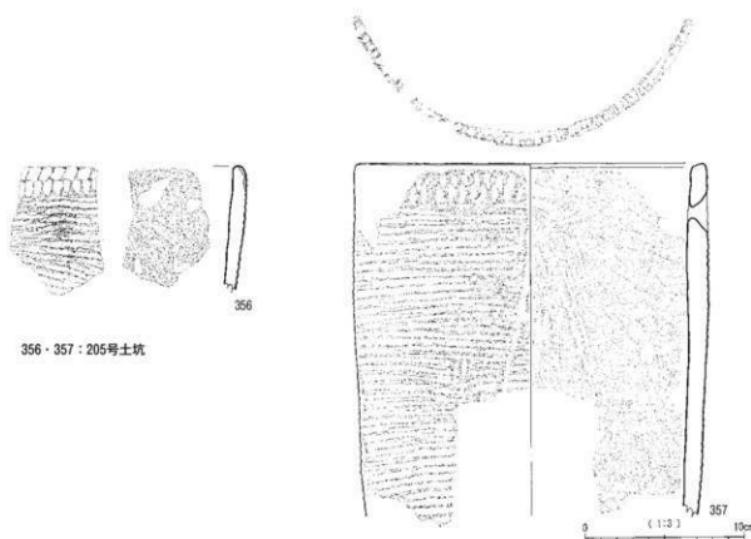
部で、稜の摩滅が比較的顕著である。

#### 重複遺構66（第233図）

D-39区X層で検出した。112号連穴土坑と237号土坑がほぼ直角方向に重複している。237号土坑は焼土や炭



- ① 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性弱い 3~5mm大の黄色バミス少量、1mm以下の白色バミス中量含む  
 ②-1 黒色土 緋まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量、2~3mm大の橙色バミス多量含む  
 ②-2 黒色土 緋まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量、2~3mm大の橙色バミス少量含む、②-1と土質同じ、バミス含有量のみ減る  
 ②-3 黒色土と橙色粘土の混合土 緋まりやや強い 粘性やや硬い バミス含有量多い

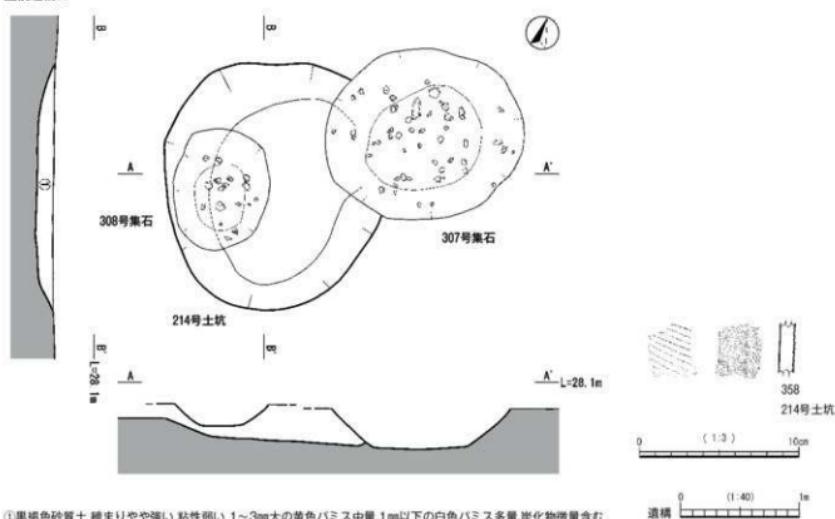


第226図 重複遺構56・出土遺物

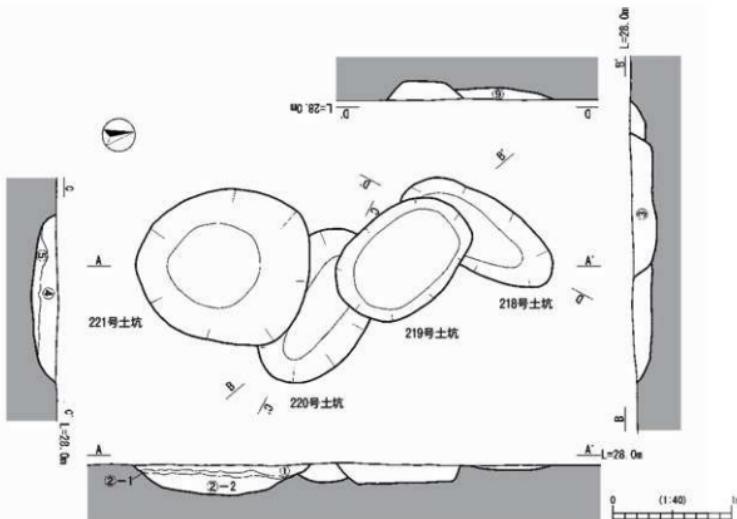
重複遺構57



重複遺構58



第227図 重複遺構57, 58・重複遺構58出土遺物



- ① 黒褐色砂質土 緩まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量、1mm以下の白色バミス中量、炭化物微量含む
- ②-1 黒褐色粘質土 緩まり有り 粘性やや強い 1mm以下の白色バミス微量含む
- ②-2 黒褐色粘質土 緩まりやや弱い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量、1mm以下の白色バミス少量含む ②-1 に比べ粘性が増す
- ③ 黒褐色砂質土 白色・黄色バミス多く含む 炭化物含む
- ④ 黒褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性弱い 1mm大の黄色バミス中量、1mm以下の白色バミス中量、炭化物微量含む
- ⑤ 黑褐色粘質土 緩まりやや弱い 粘性弱い 1mm以下の黄色バミス微量、1mm以下の白色バミス中量含む
- ⑥ 黑褐色砂質土 緩まり強い 粘性弱い 1mm大の黄色バミス少量、1mm以下の白色バミス中量、炭化物微量含む



第228図 重複遺構59・出土遺物

化物等が確認出来なかつたため土坑に分類したが、床面がやや傾斜している点や切り合つ112号連穴土坑と類似するプランであり、切られた部分に焼土や炭化物が広がっていた可能性も否定できない。一方の112号連穴土坑は、検出面から底面までが約50cmと深く、北側に焼土が認められたことから連穴土坑として取り扱つた。明確なブリッジは残存せず、埋土中にわずかにその可能性のあるもの（①-3）が確認された。遺構内遺物と判断したもののは、112号連穴土坑から土器2点であり、全て図化した。

#### 重複遺構67（第233図）

C-39区X層で検出した。241号・246号土坑が重複し

ており、埋土の堆積状況等から、241号土坑が新しいと判断した。遺構内遺物は確認されなかつた。

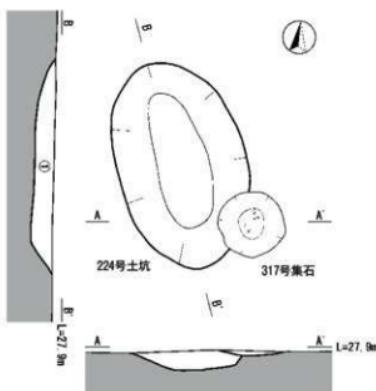
#### 重複遺構68（第234図）

C-39区X層で検出した。242号～245号土坑が重複しておつり、埋土の堆積状況等から、244号土坑が243号土坑・245号土坑の東端を切り、243号土坑が242号土坑の東端を切ると判断した。遺構内遺物と判断したものは、243号土坑から土器1点であり、図化した。

#### 重複遺構69（第235図）

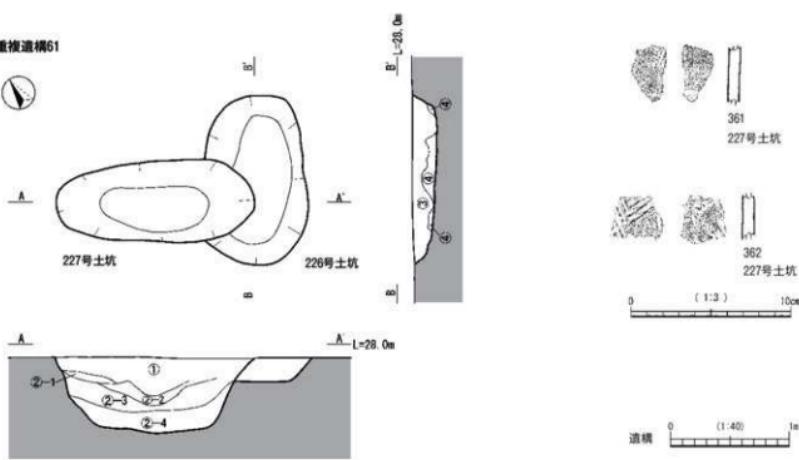
C-39区X層で検出した。113号連穴土坑と248号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、113号連穴土

重複遺構60



①黒褐色砂質土 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量、1mm以下の白色バミス多量含む

重複遺構61



①黒色砂質土 黄色・白色バミス多量含む 錫多量含む

②-1 にふい赤褐色粘質土 黑色砂質土少量含む

②-2 にふい赤褐色粘質土 黑色砂質土少量含む、炭化物粒少量含む

②-3 にふい赤褐色粘質土

②-4 にふい赤褐色粘質土

③黑色砂質土 黄色・白色バミス多量含む

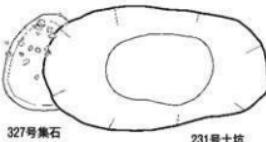
④にふい赤褐色粘質土

第229図 重複遺構60, 61・重複遺構61出土遺物



第230図 重複遺構62・出土遺物

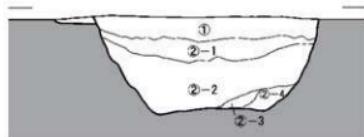
重複遺構63



327号集石

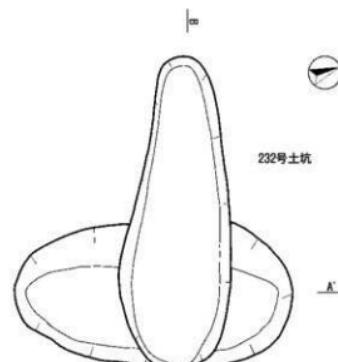
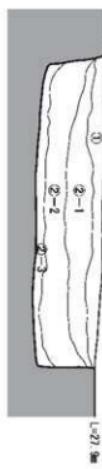
231号土坑

L=27.9m



- ① 黒色砂質土 黄色・白色バニス少量含む
- ②-1 明赤褐色粘質土
- ②-2 赤褐色粘質土
- ②-3 暗赤褐色粘質土
- ②-4 ふい黄褐色粘質土 灰白色砂質土粒多く含む

重複遺構64



232号土坑

233号土坑

- ① 黒色砂質土 黄色・白色バニス微量含む
- ②-1 赤褐色粘質土
- ②-2 明赤褐色粘質土
- ②-3 明黃褐色粘質土 灰白色砂質土多量含む
- ③ 黒色砂質土 黄色・白色バニス多量含む
- ④ 赤褐色粘質土



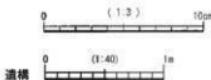
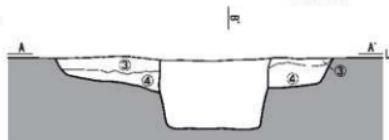
368

233号土坑

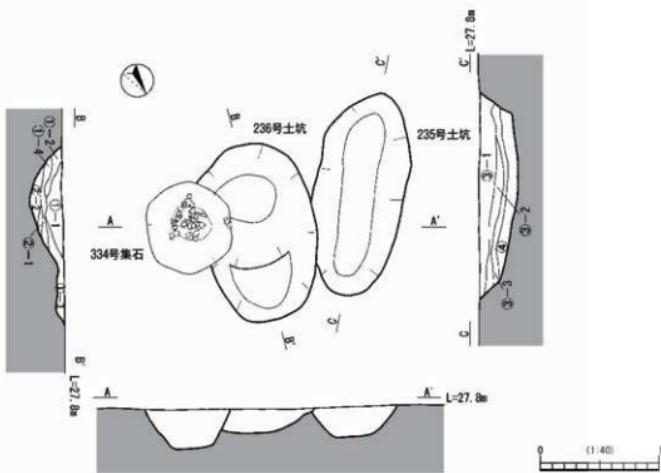


369

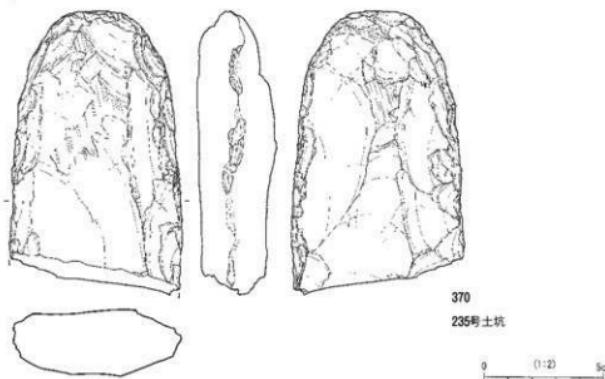
232号土坑



第231図 重複遺構63、64・重複遺構64出土遺物

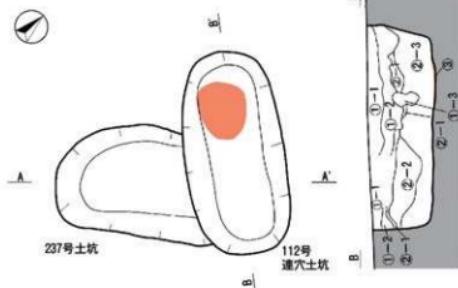


- ①-1 黒褐色砂質シルト 繊まりやや弱い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス少量、1mmの大の白色バミス多量、炭化物少量含む  
 ①-2 暗褐色砂質シルト 繊まりやや強い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス少量、1mmの大の白色バミス中量、X層微量含む  
 ①-3 暗褐色砂質シルト 繊まりやや弱い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス少量  
 ①-4 暗褐色砂質シルト 繊まりやや弱い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス微量、1mmの大の棕色バミス微量、X層微量含む  
 ②-1 赤褐色粘質土 繊まりやや弱い 粘性やや弱い X層類似 1mmの大の白色粒子微量、1mmの大の棕色バミス微量含む  
 ②-2 暗赤褐色粘質土 繊まりやや弱い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 1mmの大の白色粒子微量、赤褐色土（X層）少量含む  
 ③-1 黒褐色砂質シルト 繊まりやや弱い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス中量、1mmの大の白色バミス少量、5~10mmの大の輕石を含む  
 ③-2 暗褐色砂質シルト 繊まりやや弱い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス中量、1mmの大の白色バミス少量含む  
 ④-1 暗褐色砂質シルト 繊まりやや弱い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス微量、X層中量含む  
 ④-2 赤褐色粘質土 繊まりやや弱い 粘性やや弱い  $V_{fa}$ 層類似 1mmの大の白色バミス微量、黒褐色土（ $V_{fa}$ 層）少量含む

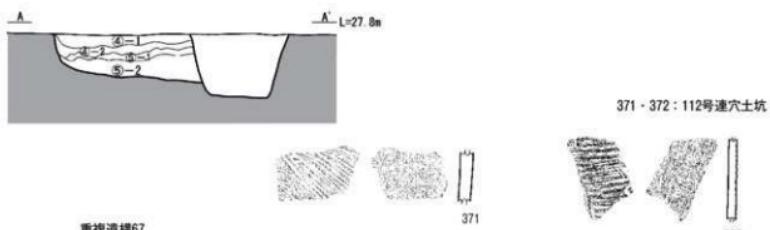


第232図 重複遺構65・出土遺物

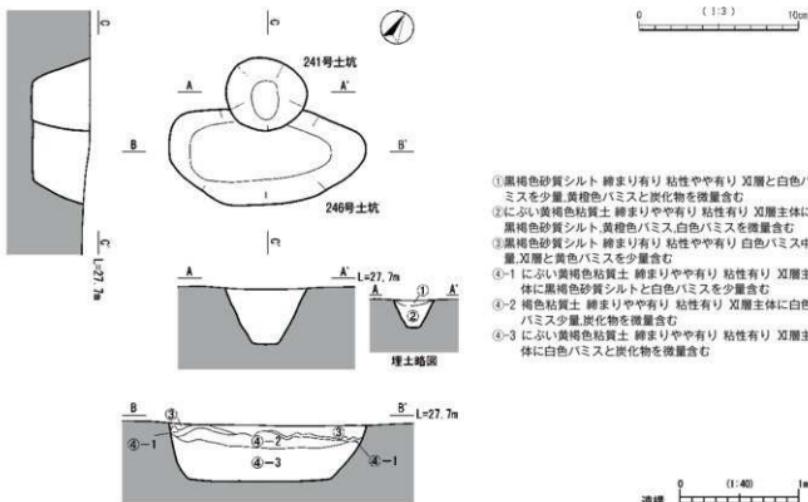
### 重複遺構66



- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量 黄褐色バミスを少量 5cmの礫を微量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層 黄褐色バミス 白色バミスを少量 塩化物を微量含む
- ①-3 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量 黄褐色バミス 白色バミスを微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質土と白色バミスを微量含む
- ②-2 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に 黑褐色砂質土を少量 白色バミス微量含む
- ②-3 黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に 黑褐色砂質土 白色バミス微量含む
- ③ にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性やや有り 燃土がブロック状に残存し 塩化物を微量含む
- ④-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス少量 XI層 黄褐色バミス 塩化物を微量含む
- ④-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス XI層少量 黄褐色バミス 塩化物を微量含む
- ⑤-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に 黄褐色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑤-2 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に 黑褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む

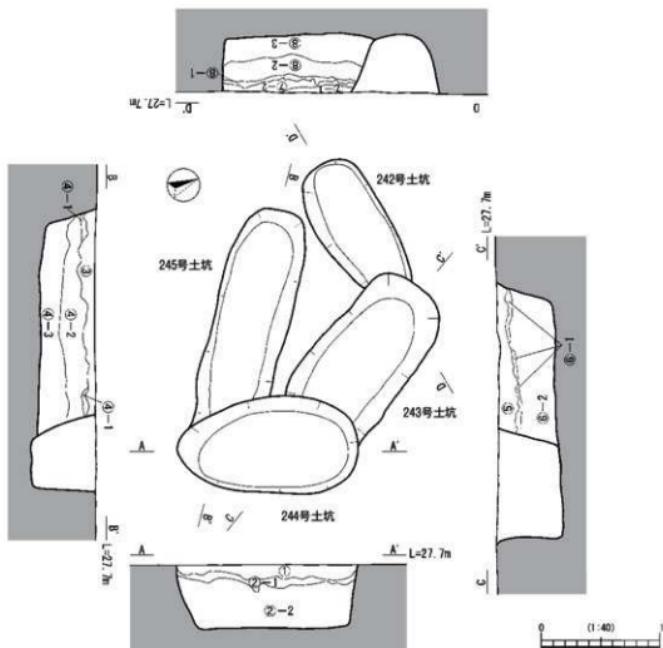


### 重複遺構67

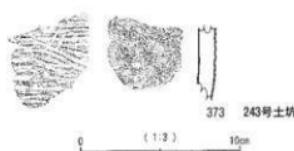


- ① 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量 黄褐色バミスと炭化物を微量含む
- ② にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に 黑褐色砂質シルト 黄褐色バミスを微量含む
- ③ 黑褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量 XI層と白色バミスを少量含む
- ④-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に 黑褐色砂質シルトと白色バミスを少量含む
- ④-2 黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に 白色バミス少量 塩化物を微量含む
- ④-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に 白色バミスと炭化物を微量含む

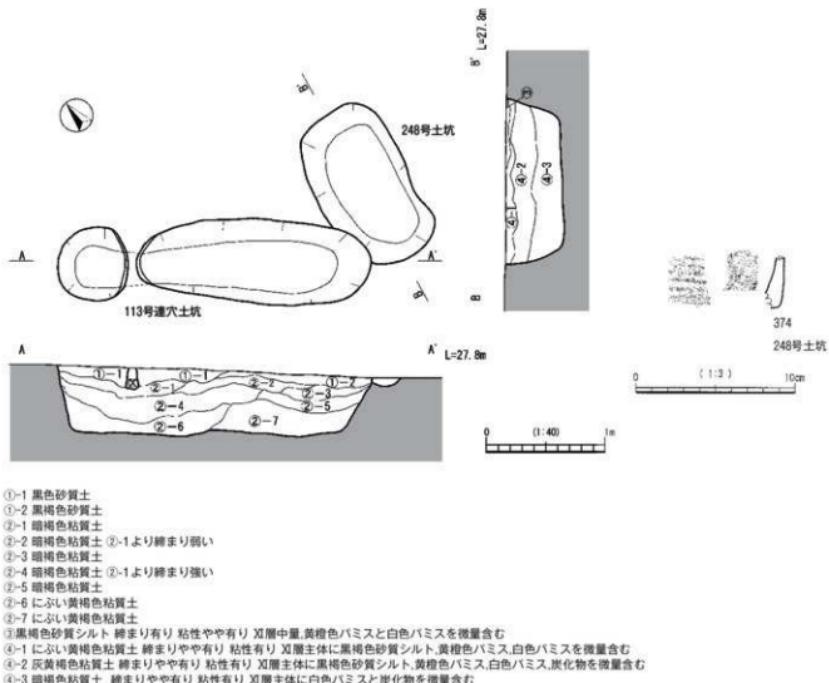
第233図 重複遺構66, 67・重複遺構66出土遺物



- ① 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り 邑層と白色バニスを少量、黄橙色バニスと炭化物を微量含む  
 ②-1 に少い 黒褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 邑層主体に黒褐色砂質シルト少量、黄橙色バニスと白色バニスを微量含む  
 ②-2 灰黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 邑層主体に黒褐色砂質シルト少量、黄橙色バニスと白色バニス、炭化物を微量含む  
 ③ 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性ややや有り 粘性有り 邑層と白色バニスを少量、黄橙色バニスを微量含む  
 ④-1 に少い 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 邑層主体に白色バニスを微量含む  
 ④-2 灰黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 邑層主体に黒褐色砂質シルトと白色バニスを微量含む  
 ④-3 に少い 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 邑層主体に白色バニスと炭化物を微量含む  
 ⑤ 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り 邑層と白色バニスを少量、黄橙色バニスと炭化物を微量含む  
 ⑥-1 に少い 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 邑層主体に黒褐色砂質シルトと白色バニスを微量含む  
 ⑥-2 灰黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 邑層主体に黒褐色砂質シルトと白色バニスを微量含む  
 ⑦-1 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性ややや有り 白色バニス中量、黄橙色バニスと炭化物を微量含む  
 ⑦-2 黒褐色砂質シルト 緋まりやや有り 粘性やや有り 白色バニス少量、黄橙色バニスを微量含む  
 ⑧-1 に少い 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 黑褐色砂質シルト、黄橙色バニス、白色バニスを微量含む  
 ⑧-2 灰黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 黄橙色バニスと白色バニスを微量含む  
 ⑨-3 暗褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性強い 黄褐色バニスと白色バニス、炭化物を微量含む



第234図 重複遺構68・出土遺物



第235図 重複構造69・出土遺物

坑が新しいと判断した。113号連穴土坑のブリッジにはIX層が残存しており、主穴部西壁が248号土坑の東端をわずかに切る。遺構内遺物と判断したものは、248号土坑から土器1点であり、図化した。

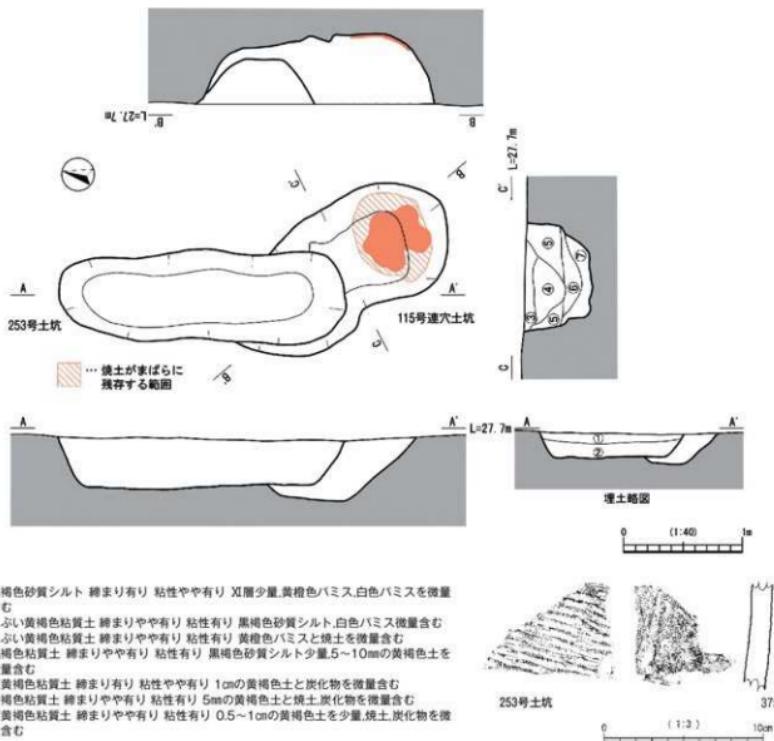
から土器1点を図化した。

#### 重複構造71（第237図）

C-39区で検出された。253号土坑はX層、115号連穴土坑はXI層で検出した。埋土の堆積状況等から、253号土坑が新しいと判断した。253号土坑は、精円形プランを呈し床面が傾斜することから連穴土坑の可能性も考えられたが、焼土やブリッジ等の痕跡が無かったことから土坑として取り扱った。115号連穴土坑の南側床面から壁面への立ち上がり部分にかけて、焼土がまばらに残存する範囲とほぼ全面赤色に変化している範囲が見られた。遺構内遺物と判断したものは、253号土坑から土器5点、115号連穴土坑から土器2点であり、そのうち253号土坑

#### 重複構造70（第236図）

C-39区で検出された。253号土坑はX層、115号連穴土坑はXI層で検出した。埋土の堆積状況等から、253号土坑が新しいと判断した。253号土坑は、精円形プランを呈し床面が傾斜することから連穴土坑の可能性も考えられたが、焼土やブリッジ等の痕跡が無かったことから土坑として取り扱った。115号連穴土坑の南側床面から壁面への立ち上がり部分にかけて、焼土がまばらに残存する範囲とほぼ全面赤色に変化している範囲が見られた。遺構内遺物と判断したものは、253号土坑から土器5点、115号連穴土坑から土器2点であり、そのうち253号土坑



- ① 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り R層少量、黄褐色バミス、白色バミスを微量含む  
 ② にいひ 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 黒褐色砂質シルト、白色バミス微量含む  
 ③ にいひ 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 黄褐色バミスと焼土を微量含む  
 ④ 黑褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 黑褐色砂質シルト少量、5~10mmの黄褐色土を微量含む  
 ⑤ 黄褐色粘質土 緋まり有り 粘性やや有り 1cmの黄褐色土と炭化物を微量含む  
 ⑥ 黑褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 5mmの黄褐色土と焼土、炭化物を微量含む  
 ⑦ 灰黒褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 0.5~1cmの黄褐色土を少量、焼土、炭化物を微量含む

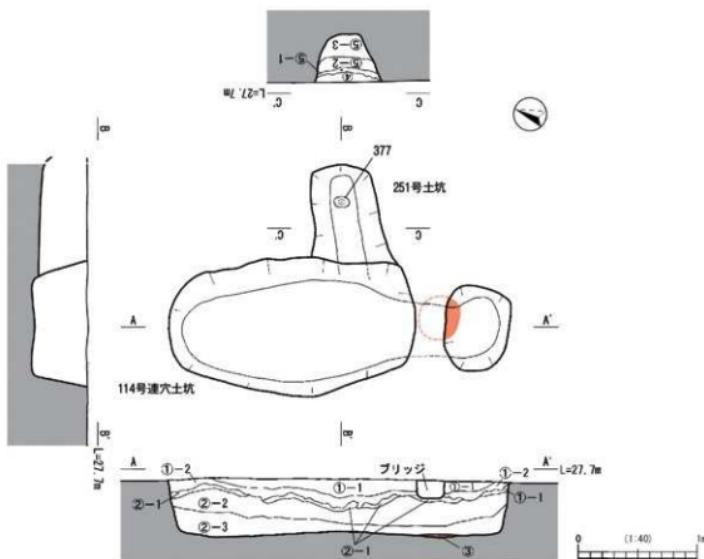
第236図 重複遺構70・出土遺物

#### 重複遺構72（第238図）

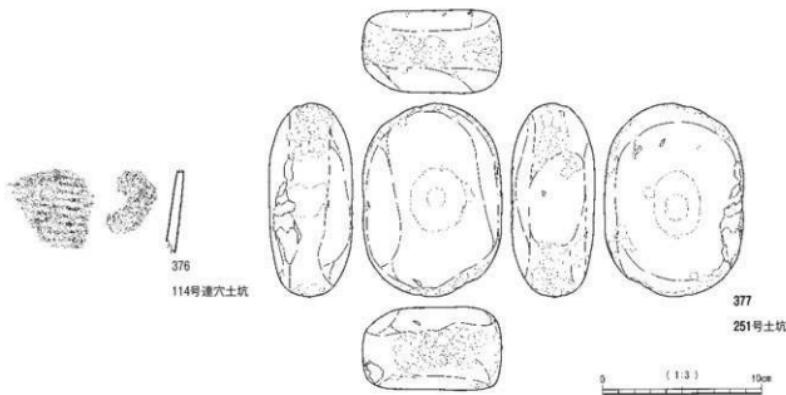
C-39区X層で検出した。256号土坑、116号・117号連穴土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、256号土坑と117号連穴土坑がそれぞれ116号連穴土坑の南端を切ると判断した。117号連穴土坑・116号連穴土坑には焼土が残存する。256号土坑は、楕円形プランを呈し床面が傾斜することから連穴土坑の可能性も考えられたが、焼土やブリッジ等の痕跡が無かったことから土坑として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、256号土坑から土器1点、117号連穴土坑から土器5点、116号連穴土坑から土器2点であり、そのうち256号土坑から土器1点、117号連穴土坑から土器1点、116号連穴土坑から土器1点を固化した。378は口縁部にキザギが2段設され、継長の補修孔が残る。

#### 重複遺構73（第239図）

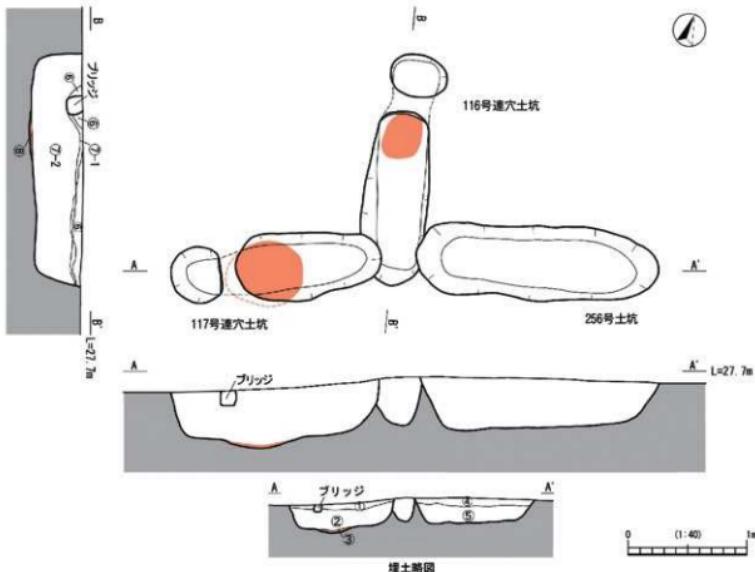
B・C-39区X層で検出した。257号・259号土坑が重複している。検出時において重複関係は不明瞭であったが、最終的に257号土坑が259号土坑の西半分を切ることがわかった。257号土坑は長楕円形プランで、連穴土坑の可能性も考えられたが、床面から焼土や炭化物等が確認されず、ブリッジ等の痕跡もはっきりとしなかつたため土坑として取り扱った。ただし、床面がわずかに北側へ傾斜する。259号土坑はプランの半分を切られており、全体の形状はわからないが、床面の深さは两者ともに近い。遺構内遺物と判断したものは、257号土坑から土器1点であり、固化した。



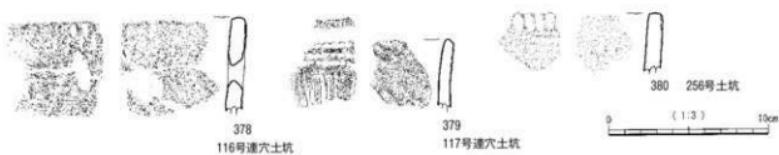
- ①-1 黒褐色砂質シルト 緩まり有り 黏性やや有り 白色バミス中量 黄褐色バミス微量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 緩まり有り 黏性やや有り 壊壊、白色バミス少量 黄褐色バミス微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 緩まりややや有り 黏性有り 双層主体に 黑褐色砂質シルト少量 黄褐色バミス、白色バミス微量含む
- ②-2 にぶい黄褐色粘質土 緩まりややや有り 黏性有り 双層主体に 黄褐色バミス、白色バミス、炭化物を微量含む
- ②-3 棕褐色粘質土 緩まりやや有り 黏性有り 双層主体に 黄褐色バミスを微量含む
- ③ 棕褐色粘質土 緩まりやや有り 黏性有り 双層主体に 黄褐色バミスを微量含む
- ④ 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 黏性有り 双層主体に 壊壊と炭化物を微量含む
- ⑤-1 にぶい黄褐色粘質土 緩まりややや有り 黏性有り 双層主体に 黑褐色砂質シルト、黄褐色バミス、白色バミス微量含む
- ⑤-2 灰褐色粘質土 緩まりやや有り 黏性あり 双層主体に 白色バミスを微量含む
- ⑤-3 棕褐色粘質土 緩まりやや有り 黏性有り 双層主体に 白色バミスを微量含む



第237図 重複遺構71・出土遺物



- ① 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量、黄橙色バミス少量含む
- ② にふい 黃褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質土と白色バミス、炭化物、焼土微量含む
- ③ にふい 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 烧土がブロック状に残存、炭化物も微量含む
- ④ 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り 黄橙色バミス中量、XI層と白色バミスを少量含む
- ⑤ にふい 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り XI層主体 黑褐色砂質シルトと黄橙色バミス 炭化物を微量含む
- ⑥ 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量含む
- (7)-1 にふい 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- (7)-2 灰褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性強い XI層主体に黒褐色砂質シルト、白色バミス、焼土、炭化物を微量含む
- (8) にふい 黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 烧土がブロック状に残存、炭化物を微量含む



第238図 重複遺構72・出土遺物

#### 重複遺構74（第239図）

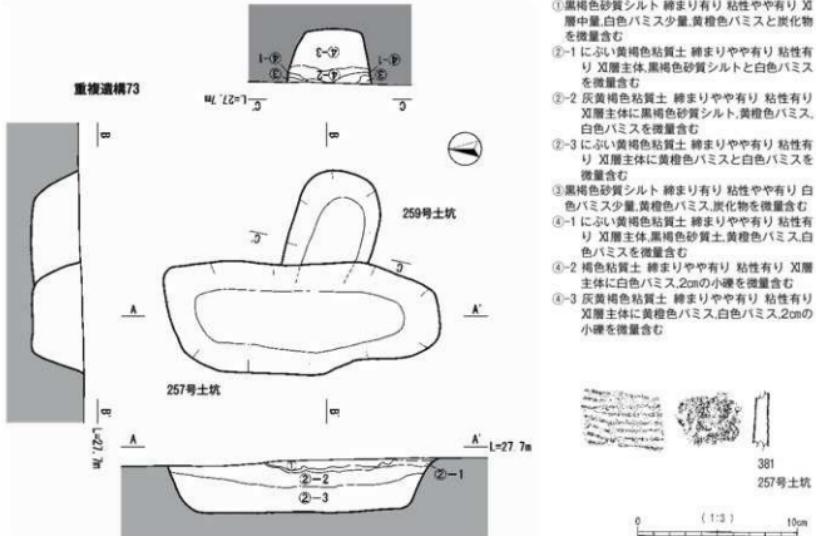
B-39区X層で検出した。261号・262号土坑が重複している。262号土坑が261号土坑に切られているが、床面は262号土坑が深い。両者ともに楕円形プランで、床面は262号土坑がわずかに南側へ傾斜している。調査は新旧関係をつかんだ後、261号土坑を完掘したために埋土情報は模式的に図示した。遺構内遺物と判断したものは261号土坑から土器1点で、22号堅穴建物跡（重複遺構

41）の329と接合した。

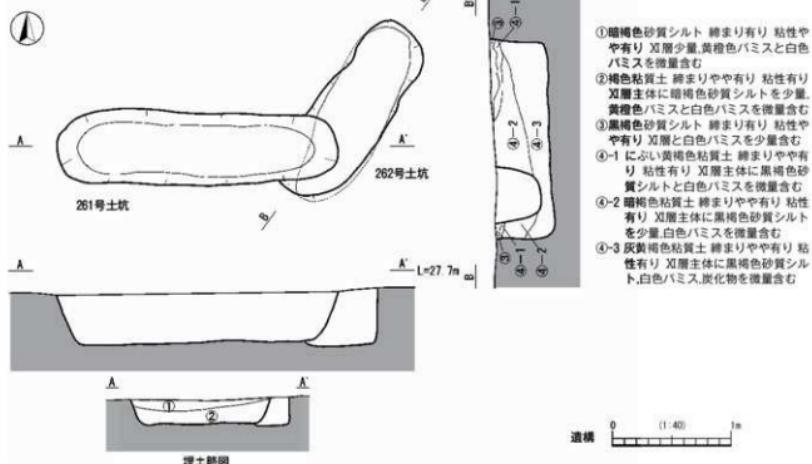
#### 重複遺構75（第240図）

B-39区X層で検出した。堅穴建物跡・土坑・連穴土坑が計9基重複している。主に、土坑及び連穴土坑が24号堅穴建物跡の四隅を切るように構築される。24号堅穴建物跡は隅丸方形を呈すると考えられ、床面付近からは小環が出土している。遺構内遺物と判断したものは、24

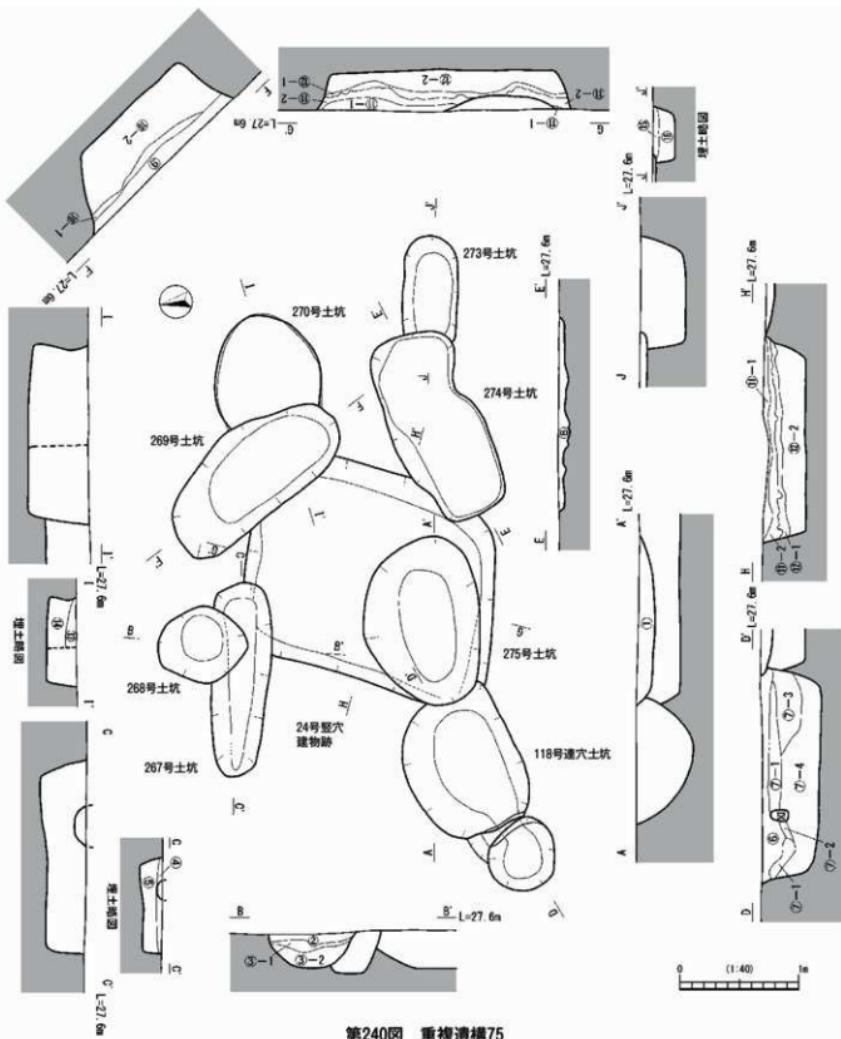
重複遺構73



重複遺構74



第239図 重複遺構73, 74・重複遺構73出土遺物

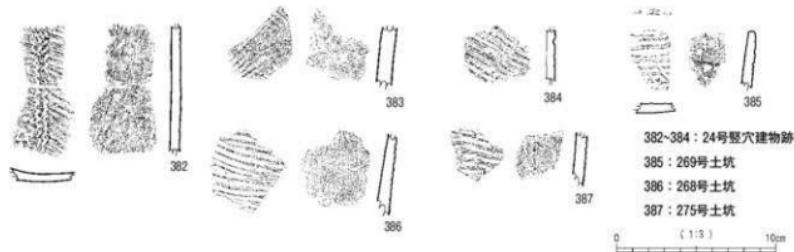


第240図 重複遺構75

号竪穴建物跡から土器 5 点、275号土坑から土器 2 点、118号連穴土坑から土器 1 点、268号土坑から土器 2 点、269号土坑から土器 3 点であり、そのうち24号竪穴建物跡から土器 3 点、275号土坑から土器 1 点、268号土坑か

ら土器 1 点、269号土坑から土器 1 点を図化した。382は斜位の貝殻条痕文に貝殻刺突文が重なる。横断面の形状から角筒土器と思われる。384は斜位の貝殻条痕文に短い横位の貝殻刺突文を重ねる。

- ① 黒褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 黄褐色バミス多量、白色バミスを少量含む  
 ② 黒褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 収斂性少、黄褐色バミス、白色バミスを微量含む  
 ③ ~1 に於く 黃褐色粘質土 X層主体に黒褐色砂質シルト、白色バミスを微量含む  
 ④ ~2 灰黃褐色粘質土 X層主体に 黑褐色砂質シルト、白色バミスを微量含む  
 ⑤ 黒褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 収斂性少、黄褐色バミス、白色バミス、炭化物を微量含む  
 ⑥ 黑褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性有り 収斂性少、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む  
 ⑦ 黑褐色砂質シルト 緩まりやや有り 粘性有り 収斂性少、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む  
 ⑧ ~2 に於く 黃褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性有り 収斂性少、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む  
 ⑨ ~3 に於く 黃褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性有り 収斂性少、黄褐色砂質シルトを少量、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む  
 ⑩ ~4 黑褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性強い 収斂性少、黄褐色砂質シルト、黄褐色バミス、白色バミスを微量含む  
 ⑪ 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 収斂性少、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む  
 ⑫ 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 収斂性少、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む  
 ⑬ 黑褐色砂質シルト 緩まりやや有り 収斂性少、黄褐色バミスと白色バミスを微量含む  
 ⑭ ~1 に於く 黃褐色粘質土 緩まりやや有り 収斂性少、黄褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む  
 ⑮ ~2 黑褐色粘質土 緩まりやや有り 粘性強い 収斂性少、黑褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む  
 ⑯ ~1 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 収斂性少、黄褐色バミス微量含む  
 ⑰ ~2 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性やや有り 収斂性少、白色バミス少量、黄褐色バミス微量含む  
 ⑱ ~1 に於く 黃褐色粘質土 緩まりやや有り 収斂性少、黄褐色砂質シルトを少量、白色バミス、炭化物を微量含む  
 ⑲ ~2 灰黃褐色粘質土 緩まりやや有り 収斂性少、黄褐色バミス微量含む  
 ⑳ 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性有り 収斂性少、黄褐色バミス、炭化物を微量含む  
 ㉑ 黑褐色粘質土 緩まりやや有り 収斂性少、白バミス中量、黄褐色バミス、炭化物を微量含む  
 ㉒ 黑褐色砂質シルト 緩まり有り 粘性有り 収斂性少、黄褐色バミス、白色バミス、炭化物を微量含む



第241図 重複遺構75出土遺物

#### 重複遺構76（第242図）

A・B-39区で検出した。当初、X層上面で276号土坑南端と277号土坑北端とが重複していることを確認したが、調査区域であったため、再度抵抗してプランの全体像の把握に努めた。その結果、277号土坑の南側はⅧb層において上面を捉え、土坑外側に掘り込みを確認することが出来た。このことから、277号土坑は連穴土坑の可能性も視野に調査を進めたが、断定するには至らなかった。遺構内遺物と判断したものは、276号土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。

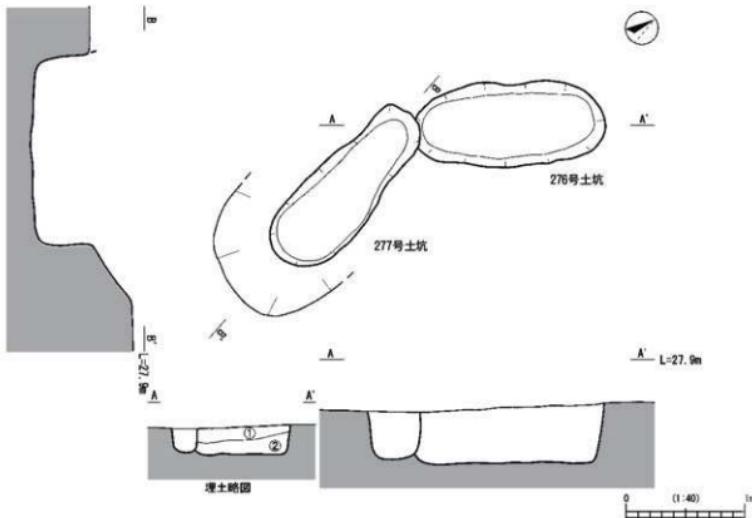
#### 重複遺構77（第245図）

A・B-39・40区X層で検出した。279号・280号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、280号土坑が279号土坑の東端を切ると判断した。280号土坑は検出面から床面までが約50cmと深く、埋土中位から比較的大きめの土器片が出土している。遺構内遺物と判断したものは、280号土坑から土器14点であり、そのうち土器7点を図化した。392は口縁部が平坦でキザミを施す。口縁

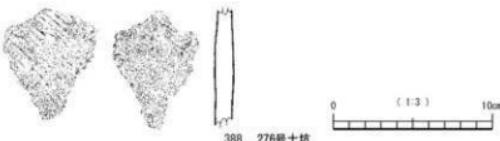
部にもキザミが施され脇部は横位の貝殻条痕文が施される。395は、口縁部に横位の貝殻刺突文が3条めぐり、脇部は綾衫条痕文が施される。

#### 重複遺構78（第243図）

B-39・40区X層で検出された。連穴土坑1基、土坑7基、集石1基が重複しており、発掘調査段階の位置情報元に整理作業で復元した。円形プランの小型の土坑が精円形プランの土坑に切られる傾向にある。121号連穴土坑は焼土や炭化物等は確認されなかつたが、わずかにブリッジの痕跡が残存するため連穴土坑として取り扱った。286号土坑は部分的に深く掘り下げられているが、その用途は不明である。281号土坑、284号土坑の埋土中からは礫が出土した。遺構内遺物と判断したものは、287号土坑から土器1点、286号土坑から土器1点、285号土坑から土器1点、288号土坑から土器3点であり、そのうち287号土坑から土器1点、285号土坑から土器1点、288号土坑から土器1点を図化した。390と391は角筒土器である。



①暗褐色砂質シルト 細まり有り 黏性やや有り 白色バミス多量、黄褐色バミス少量含む  
 ②にふい黄褐色粘質土 細まりやや有り 黏性有り XI層主体に黄褐色バミスと白色バミス少量含む



第242図 重複造構76・出土遺物

#### 重複造構79（第246図）

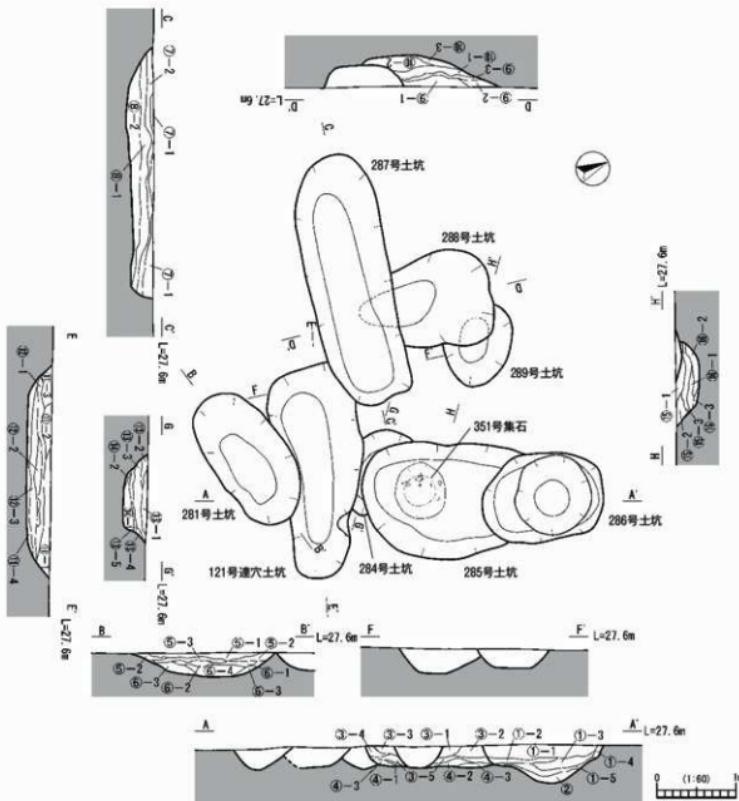
B - 40区 X層で検出した。291号・292号土坑、355号集石が重複している。291号土坑が292号土坑南側を浅く切り、291号土坑の東側を355号集石が切る。造構内遺物と判断したものは、292号土坑から土器1点であり、図化した。

#### 重複造構80（第248図）

B - 40区 X層で検出した。295号土坑と358号集石とが重複している。埋土の堆積状況等から、295号土坑の南端が358号集石に切られた。また、中世の堀跡の底面が一部埋土を切っている状況も認められた。床面は、東側長軸方向に緩やかに傾斜しているが、一様で無く安定していない。造構内遺物は確認できなかった。

#### 重複造構81（第247図）

B - C - 40区 X層で検出した。300号～303号土坑が重複しており、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土や重複の状況から301号土坑が古く、これを300号土坑と302号土坑が切り、302号土坑は303号土坑に切られるという新旧関係が見られた。301号土坑は梢円形プランで、床面は緩やかに北側へ傾斜する。梢円形プランの土坑は連穴土坑の形状に類似するが、ブリッジやその痕跡、焼土や炭化物等の集中が見られなかつたため、いずれも土坑として取り扱った。造構内遺物と判断したものは、300号土坑から土器2点、301号土坑から土器1点であり、そのうち300号土坑から土器1点、301号土坑から土器1点を図化した。



第243図 重複遺構78

#### 重複遺構82（第249図）

C-40区X層で検出した。305号土坑と361号集石が重複しており、埋土の堆積状況等から、361号集石が305号土坑の西壁を切ると判断した。遺構内遺物は確認できなかった。

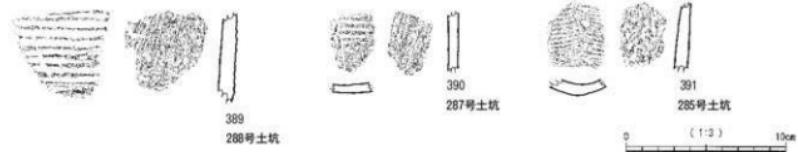
#### 重複遺構83（第249図）

C-40区X層で検出した。308号土坑と309号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、309号土坑が308号土坑の北西側を切ると判断した。309号土坑の埋土中からは繭が数点出土し、308号土坑の埋土上部からは土器

が出土している。遺構内遺物と判断したものは、309号土坑から土器1点、308号土坑から土器1点であり、そのうち309号土坑から土器1点、308号土坑から土器1点を図化した。

#### 重複遺構84（第250図）

C-40区X層で検出した。310号土坑と365号集石とが重複している。埋土の堆積状況等から、365号集石が310号土坑の南半分を切ると判断し、365号集石は310号土坑のプランには収まる。埋土状況とわずかに深い掘り込み状況から別遺構の重複として記録した。遺構内遺物は



第244回 重複遺構78出土遺物

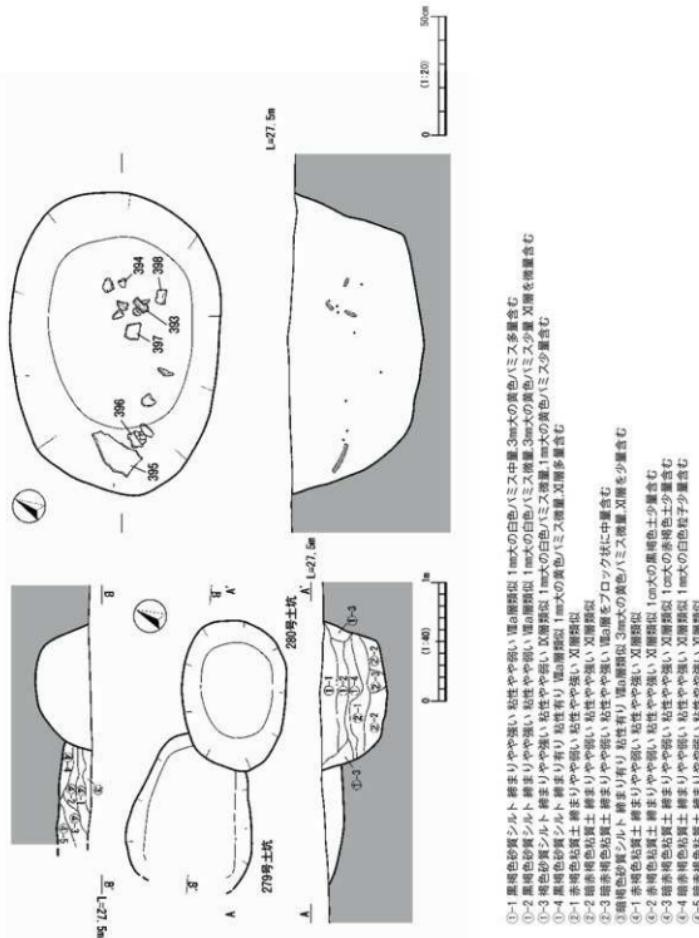
確認できなかった。

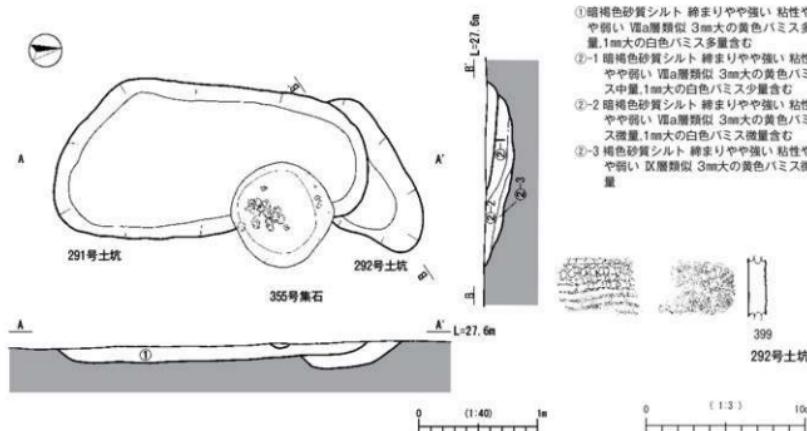
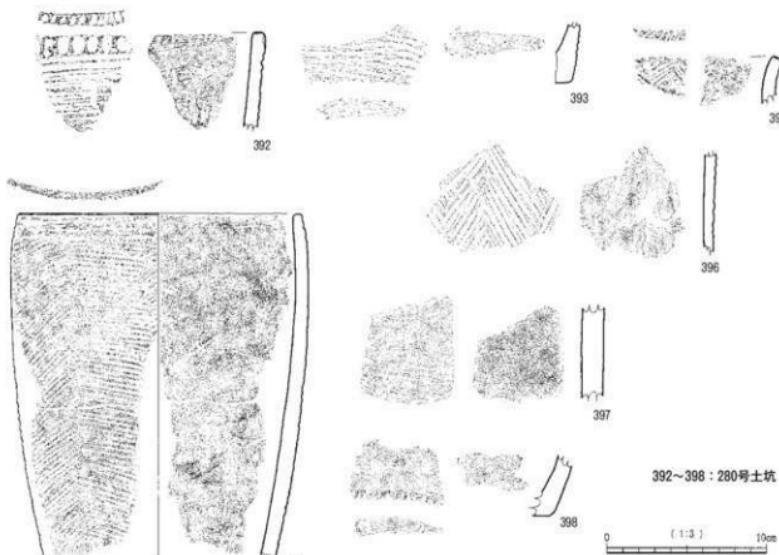
### 重複遺構85（第250図）

C-40区X層で検出した。313号・314号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、313号土坑の北端が314

号土坑に切られると判断した。両者ともに、埋土は重層的である。遺構内遺物と判断したものは、314号土坑から土器1点であり、図化した。404は脇部に太い貝殻条痕文が施され、底部接地面には幅み物圧痕が残る。

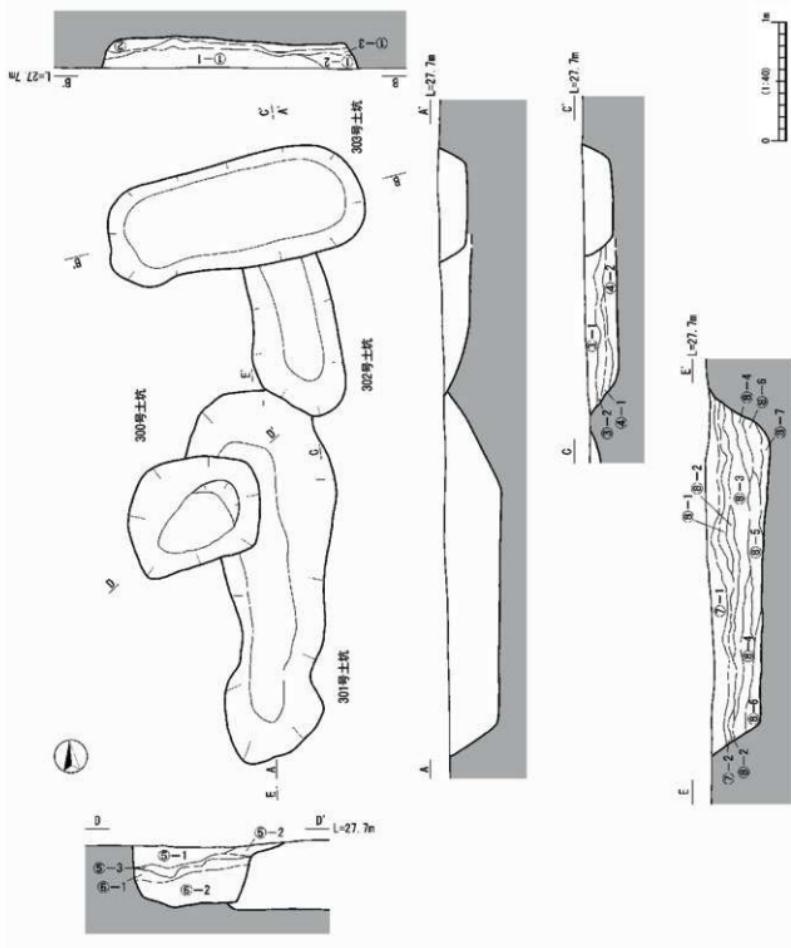
第245図 重機道構77・280号土坑遺物出土状況



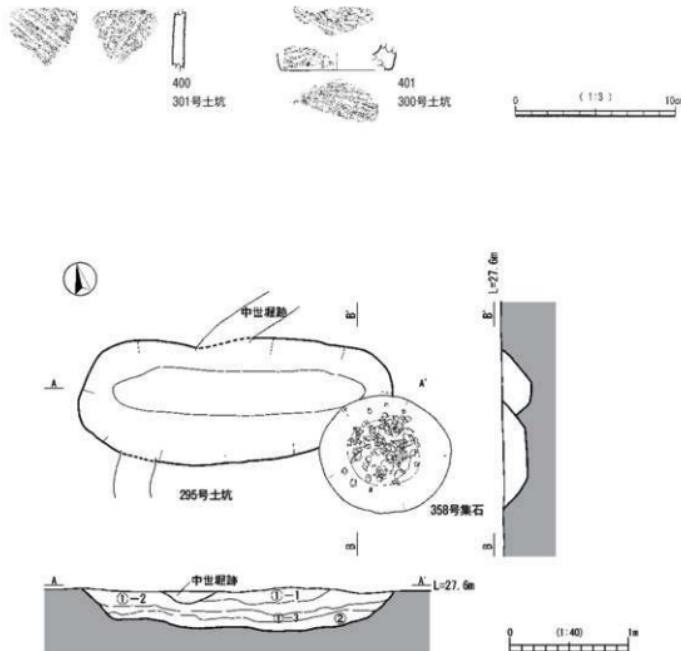


第246図 重複遺構79・重複遺構77, 79出土遺物

第247図 重機道橋81



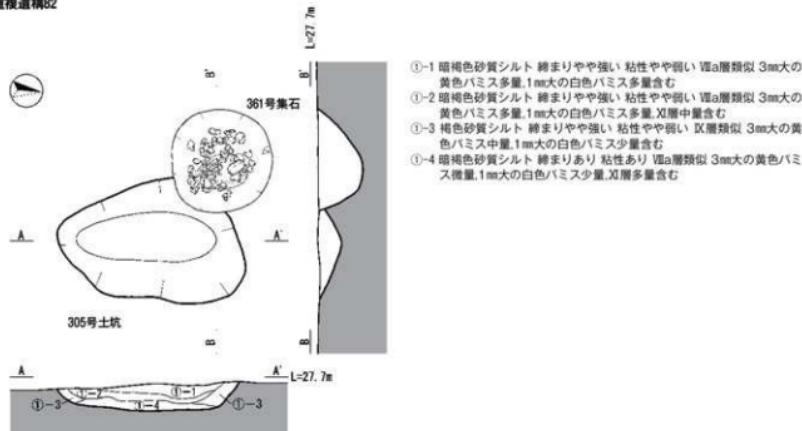
- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス多量, 1mmの大白色バミス多量含む  
 ② 黒褐色砂質シルト 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス中量, 1mmの大白色バミス少量含む  
 ③-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス微量, 1mmの大白色バミス微量,  $\text{X}$ 層中量含む  
 ④ 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い  $\text{XII}$ 層類似  
 ⑤-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス少量, 1mmの大白色バミス中量含む  
 ⑥-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 1mmの大白色粒子微量含む  
 ⑦-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス中量, 1mmの大白色バミス中量含む  
 ⑧-2 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 1mmの大白色粒子微量含む  
 ⑨-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや弱い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス微量含む  
 ⑩-6 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{XII}$ 層類似  
 ⑪-2 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{XII}$ 層類似  
 ⑫-4 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3~5mmの大黄色バミス中量, 1mmの大白色バミス中量,  $\text{X}$ 層少量含む  
 ⑬-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス少量, 1mmの大白色バミス微量,  $\text{XII}$ 層中量含む  
 ⑭-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 1mmの大白色粒子微量, 黑褐色土微量含む  
 ⑮-2 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 1mmの大白色粒子微量, 明赤褐色土少量含む  
 ⑯-3 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 1~3mmの大白色粒子少量含む  
 ⑰-4 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 赤褐色土少量含む  
 ⑱-5 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 1mmの大白色粒子微量含む  
 ⑲-6 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似  
 ⑳-7 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{V}a$ 層類似 黑褐色土微量含む



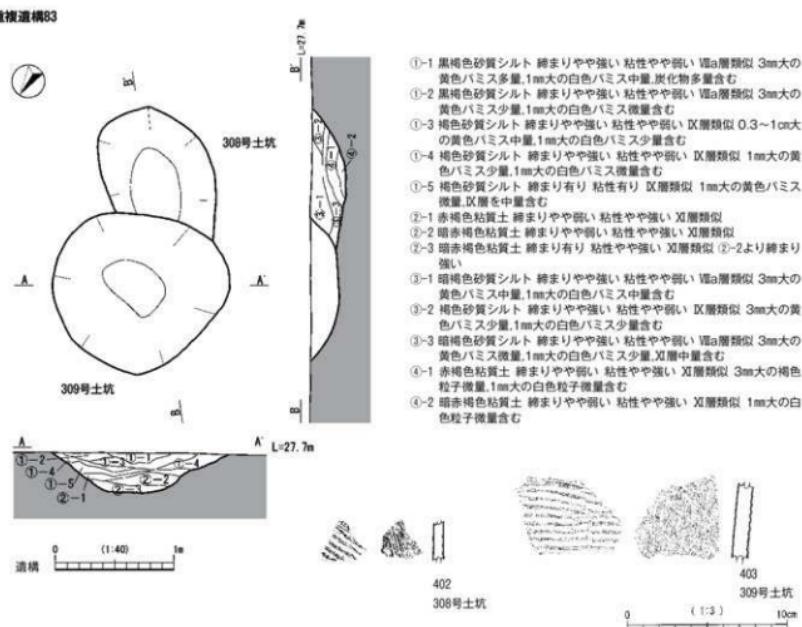
- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス中量, 1mmの大白色バミス多量含む  
 ② 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス多量, 1mmの大白色バミス微量含む  
 ③ 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い  $\text{V}a$ 層類似 3mmの大黄色バミス微量, 1mmの大白色バミス少量,  $\text{X}$ 層を中量含む  
 ④ 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強め  $\text{XII}$ 層類似

第248図 重複遺構80・重複遺構81出土遺物

重複遺構82



重複遺構83



第249図 重複遺構82, 83・重複遺構83出土遺物

重複遺構84



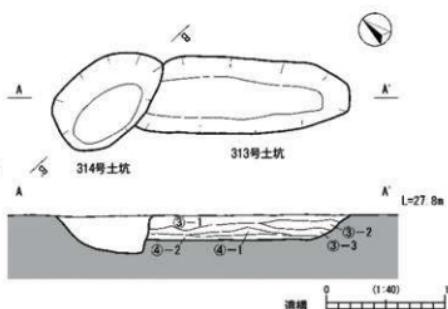
- ①-1 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Ⅴa層類似 3mm大の黄色バニス中量, 1mm大の白色バニス少量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Ⅴa層類似 3mm大の黄色バニス微量, 1mm大の白色バニス少量含む
- ①-3 棕褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バニス少量, 1mm大の白色バニス少量, X層多量含む
- ①-4 暗褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Ⅴa層類似 3mm大の黄色バニス微量, 1mm大の白色バニス微量, XI層多量含む

310号土坑



313号土坑

重複遺構85



- ①-1 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Ⅴa層類似 3mm大の黄色バニス中量, 1mm大の白色バニス少量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Ⅴa層類似 3mm大の黄色バニス少量, 1mm大の白色バニス少量含む
- ①-3 棕褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Ⅴa層類似 3mm大の黄色バニス少量, 1mm大の白色バニス微量含む
- ①-4 記載なし
- ②-1 赤褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-2 暗赤褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ③-1 暗褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Ⅴa層類似 3mm大の黄色バニス少量, 1mm大の白色バニス中量含む
- ③-2 棕褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い 1mm大の白色粒子微量, 黑褐色土微量含む
- ③-3 暗褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Ⅴa層類似 3mm大の黄色バニス微量, 1mm大の白色バニス少量, XI層中量含む
- ④-1 赤褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量, 黑褐色土微量含む
- ④-2 暗赤褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや弱い XI層類似 1mm大の白色粒子少量, 赤褐色土微量含む



404

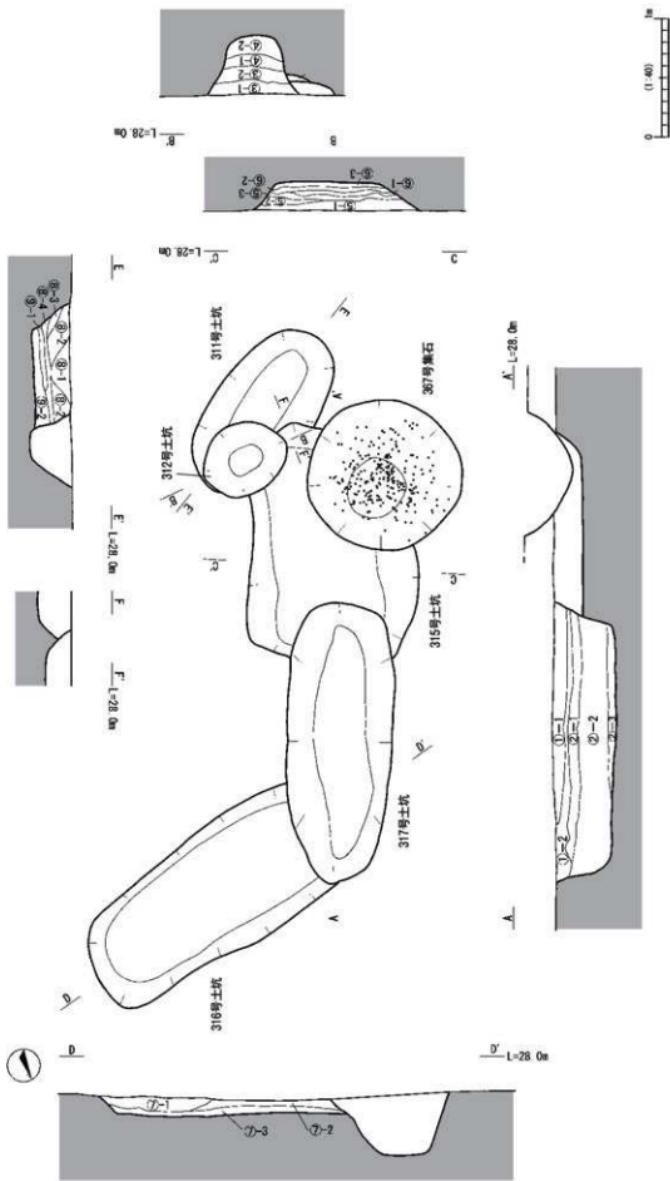
314号土坑



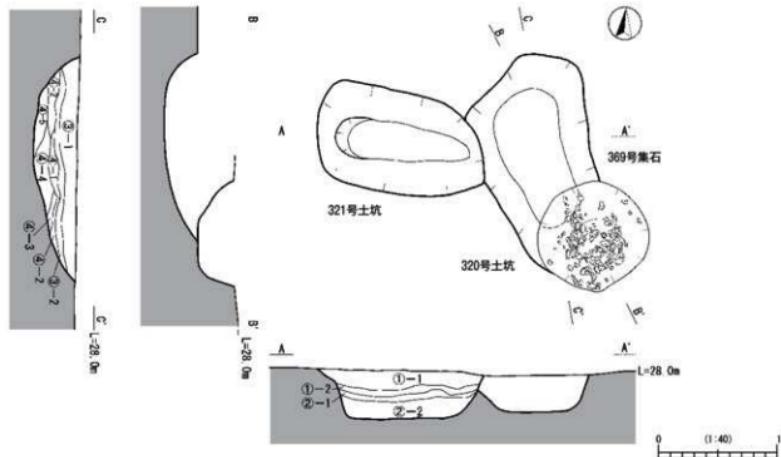
0 (1:3) 10cm

第250図 重複遺構84・85・重複遺構85出土遺物

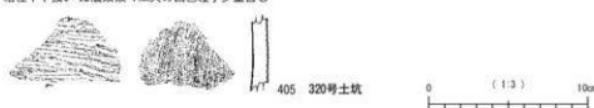
第251図 重複遺構B6



- ①-1 暗褐色砂質シルト 緒まりやや強い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス少量、1mmの大の白色バミス中量含む  
 ①-2 暗褐色砂質シルト 緒まりやや強い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス少量、1mmの大の白色バミス中量含む  
 ②-1 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや強い  $II$ 層類似  
 ②-2 暗褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや強い  $II$ 層類似  
 ③-1 黄褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 1~3mmの大の黄色バミス多量、1mmの大の白色バミス中量含む  
 ③-2 黄褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス中量、1mmの大の白色バミス少量含む  
 ④-1 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似  
 ④-2 暗赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似  
 ⑤-1 黑褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス中量、1mmの大の白色バミス中量含む  
 ⑤-2 黑褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス少量、 $II$ 層を微量含む  
 ⑤-3 黑褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス微量、1mmの大の白色バミス微量、 $II$ 層を多量含む  
 ⑥-1 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似 1mmの大の白色粒子少量、橙色粒子微量含む  
 ⑥-2 黑褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 1mmの大の白色粒子微量、赤褐色土( $II$ 層)を微量含む  
 ⑦-1 暗褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス多量、1mmの大の白色バミス多量含む  
 ⑦-2 黑褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス少量、1mmの大の白色バミス中量、 $II$ 層微量含む  
 ⑦-3 黑褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス微量、1mmの大の白色バミス中量、5~10mmの大の輕石微量含む  
 ⑧-1 黑褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス中量、1mmの大の白色バミス微量含む  
 ⑧-2 黑褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス中量、1mmの大の白色バミス少量含む  
 ⑨-1 暗褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 1mmの大の白色粒子微量含む  
 ⑨-2 暗褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス微量、 $II$ 層中量含む  
 ⑩-1 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似 1mmの大の白色粒子微量含む  
 ⑩-2 暗赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似 1mmの大の白色粒子少量含む

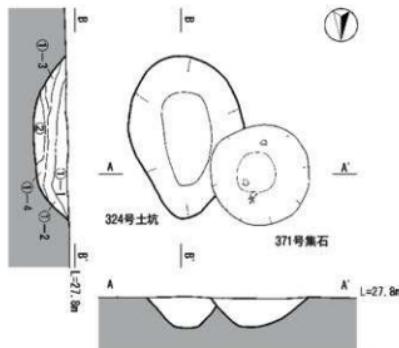


- ①-1 黑褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 1mmの大の白色バミス多量、3mmの大の黄色バミス多量を含む  
 ①-2 暗褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 1mmの大の白色バミス中量、3mmの大の黄色バミス微量を含む  
 ②-1 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似  
 ②-2 暗褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似  
 ③-1 黑褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $V_{6a}$ 層類似 1mmの大の白色バミス多量、3~5mmの大の黄色バミス多量含む  
 ③-2 黑褐色砂質シルト 緒まりや有り 黏性有り  $V_{6a}$ 層類似 3mmの大の黄色バミス微量、 $II$ 層微量含む  
 ④-1 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似 1mmの大の白色粒子少量、黒褐色土少量含む  
 ④-2 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似 1mmの大の白色粒子少量含む  
 ④-3 暗褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似 1mmの大の白色粒子微量、黒褐色土少量含む  
 ④-4 暗褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似 1~3mmの大の白色粒子微量、1~3mmの大の褐色粒子少量含む  
 ④-5 暗赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 黏性やや弱い  $II$ 層類似 1mmの大の白色粒子少量含む

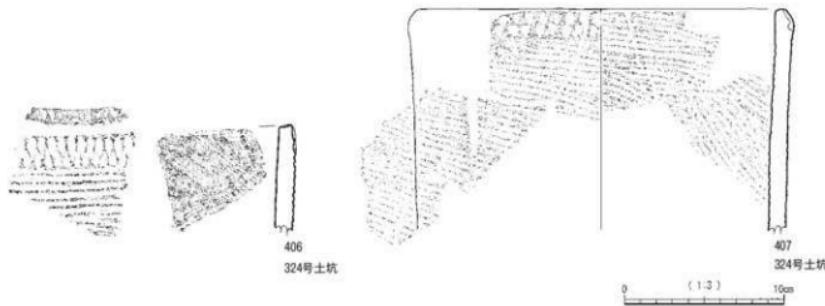


第252図 重複構造87・出土遺物

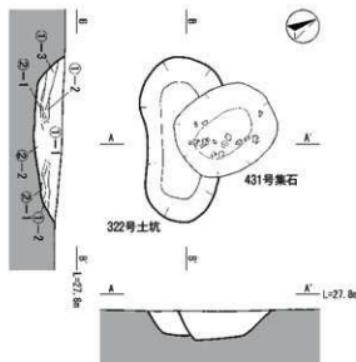
重複構造88



- ①-1 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Vla層類似 3mm大の黄色バミス中量, 1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Vla層類似 3mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス中量含む
- ①-3 黄褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い XI層類似 3mm大の黄色バミス微量, 1mm大の白色バミス微量X層中量含む
- ①-4 暗褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性有り Vla層類似 3mm大の黄色バミス微量, 1mm大の白色バミス微量XI層多量含む
- ② 暗赤褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量, 赤褐色土(X層)微量含む



重複構造89

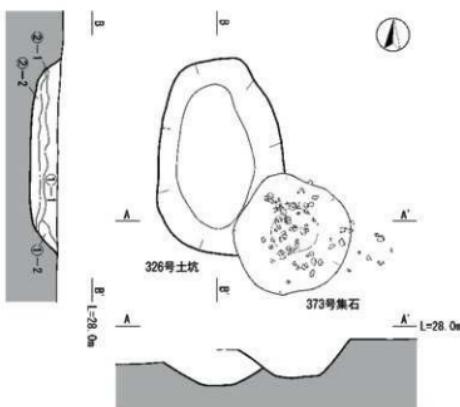


- ①-1 暗褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Vla層類似 3mm大の黄色バミス中量, 1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い Vla層類似 1mm大の白色バミス少量, XI層少量含む
- ①-3 暗褐色砂質シルト 緋まりやや有り 粘性有り Vla層類似 3mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス少量, XI層多量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の橙色粒子微量含む
- ②-2 暗赤褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量

遺構 0 (1:40) 1m

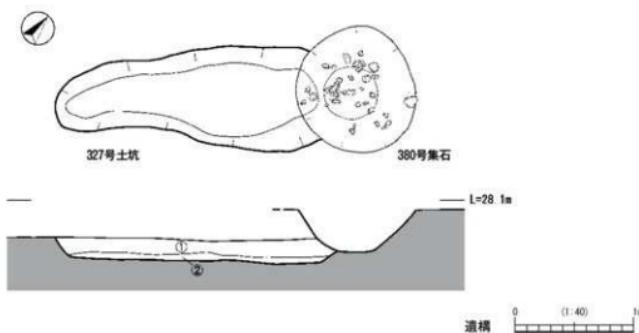
第253図 重複構造88, 89・重複構造88出土遺物

重複遺構90



- ①-1 暗褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VVa層類似 3mm大の黄色バミス中量、1mm大の白色バミス少量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い XV層類似 3mm大の黄色バミス微量、X層中量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 緒まり有り 粘性有り XII層類似 3mm大の黄色バミス微量、VWa層をブロック状に少量含む
- ②-2 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の黒褐色土少量含む

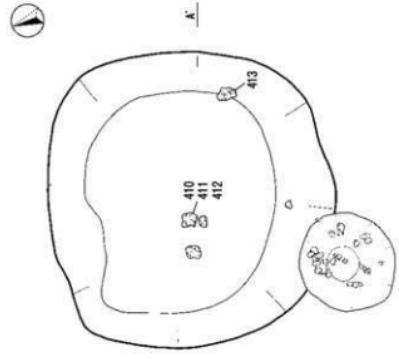
重複遺構91



- ① 暗褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミス中量、1mm大の白色バミス少量、X層少量含む
- ② 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強い 1mm大の白色粒子微量、黒褐色土微量含む



第254図 重複遺構90、91・重複遺構91出土遺物



A

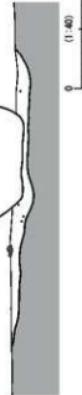
409~413

333号土坑



410

K' L=28.1m



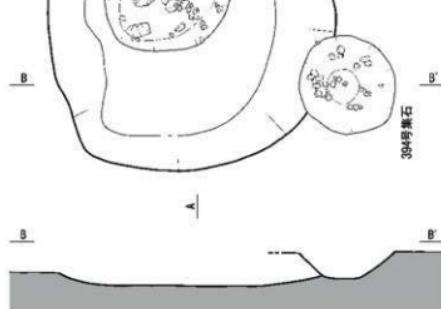
411



413

(1-13)

10cm



A

333号土坑



409

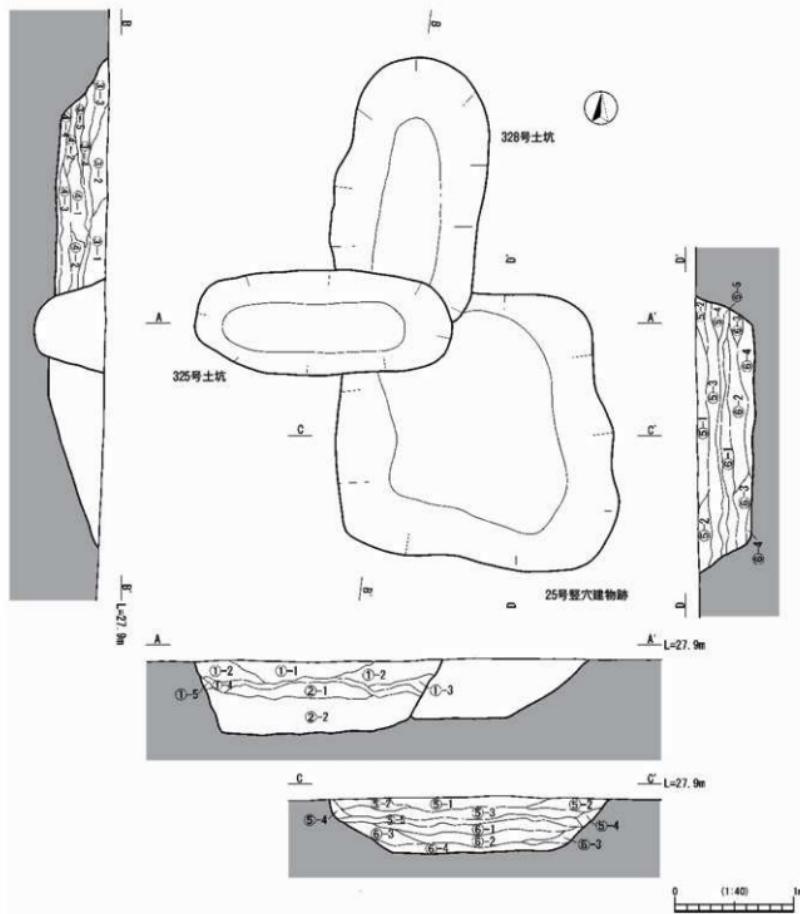
K' L=28.1m



①黒褐色砂質土綿まり有り白色ハミス少量、黄色ハミス多く含む

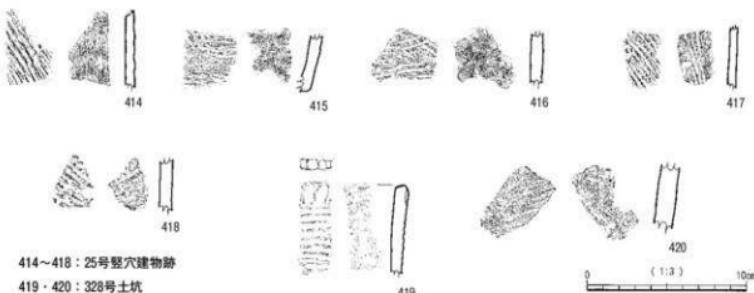


第255図 重複遺構93・出土遺物

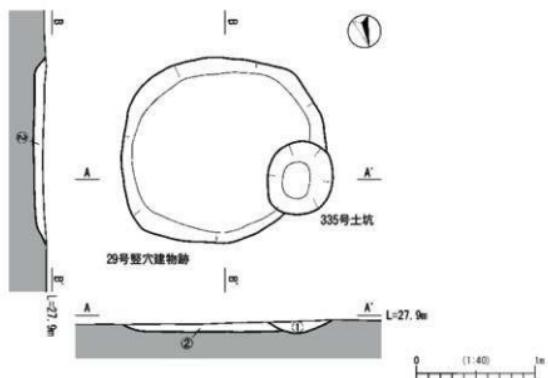


第256図 重複遺構92

- ①-1 黒褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス多量、1mmの大白色バミス中量含む  
 ①-2 褐褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス中量、1mmの大白色バミス少量含む  
 ①-3 黄褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mmの大黄色バミス少量、1mmの大白色バミス中量含む  
 ①-4 褐褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス微量、IX層中量含む  
 ①-5 記述なし
- ②-1 褐褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似  
 ②-2 褐褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ③-1 黑褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス多量、1mmの大白色バミス多量含む  
 ③-2 黑褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス少量、1mmの大白色バミス中量含む  
 ③-3 褐褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス微量、1mmの大白色バミス少量含む、X層(褐色土)少量含む  
 ③-4 褐褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス少量、1mmの大白色バミス少量含む XI層少量含む  
 ③-5 褐褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 粘性有り VIa層類似 3mmの大黄色バミス微量、X層微量含む  
 ④-1 褐褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mmの大白色粒子少量含む  
 ④-2 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 ④-1をブロック状に少量含む  
 ④-3 褐褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強め 明黄色褐色粒子少量含む  
 ④-4 褐褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強め ④-3より緒まりが強く  
 ⑤-1 黑褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス多量、1mmの大白色バミス多量含む  
 ⑤-2 黑褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス多量、1mmの大白色バミス多量、X層少量含む  
 ⑤-3 褐褐色砂質シルト 緒まりやや強い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス中量、1mmの大白色バミス中量、X層微量含む  
 ⑤-4 黄褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 粘性やや弱い IX層類似 3mmの大黄色バミス少量、1mmの大白色バミス微量、X層多量含む  
 ⑤-5 褐褐色砂質シルト 緒まりやや弱い 粘性やや弱い VIa層類似 3mmの大黄色バミス微量、X層中量含む
- ⑥-1 赤褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mmの大白色粒子少量含む  
 ⑥-2 褐褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強め VIa層類似 1mmの大白色粒子少量、赤褐色土微量含む  
 ⑥-3 褐褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強め XI層類似 1mmの大白色粒子中量含む  
 ⑥-4 褐褐色粘質土 緒まりやや弱い 粘性やや強め XI層類似 1mmの大白色粒子微量含む

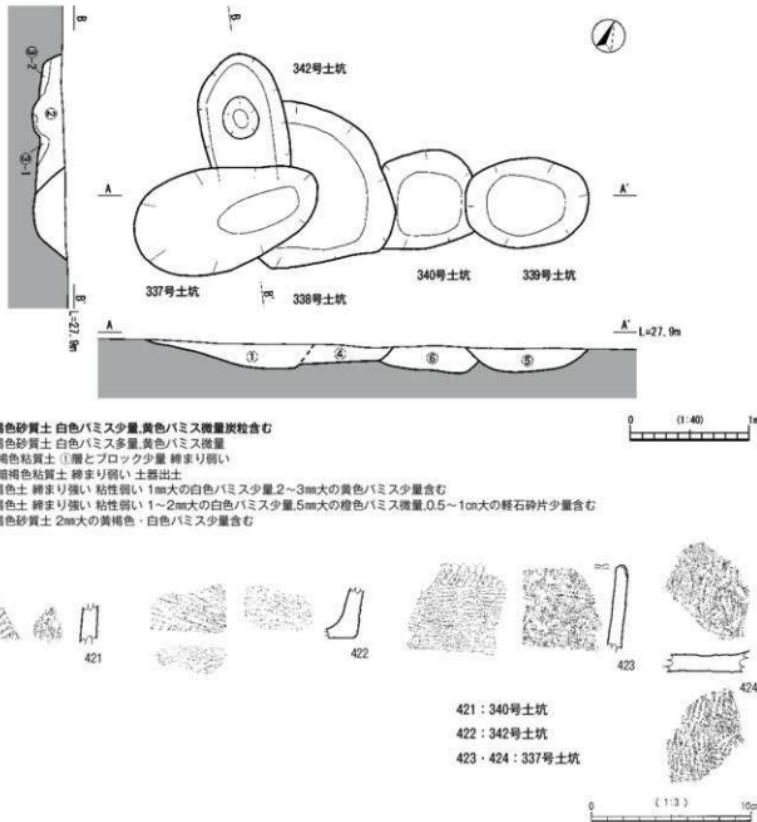


414～418 : 25号竪穴建物跡  
 419・420 : 328号土坑



①黒褐色土 黄色バミス微量  
 ②黒色砂質土 白色バミス少量、黄色バミス微量 緒まり有り

第257図 重複遺構94・重複遺構92出土遺物



第258図 重複遺構95・出土遺物

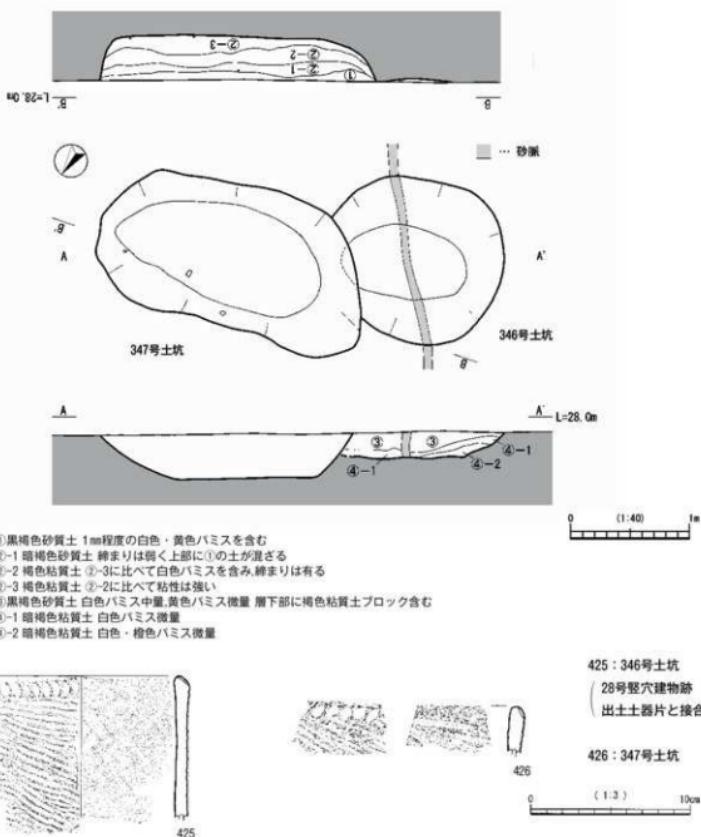
#### 重複遺構86（第251図）

C - 40・41区から検出され、土坑5基、集石1基が南北に広がりながら重複している。367号集石はⅧb層、その他の土坑はX層で検出した。埋土の堆積状況等から、367号集石が最も新しく、土坑では317号土坑や312号土坑が新しいと判断したが、この土坑2基の新旧関係を検討することは困難であった。312号土坑は円形を呈する小型の土坑で、検出面から底面までは約50cmと深い。315号土坑は他の土坑の重複により平面形がすべて観察できず、不定形プランとした。また、この重複遺構内で検出面から床面までが最も浅い。遺構内遺物は確認で

きなかった。

#### 重複遺構87（第252図）

C・D - 40区で検出され、320号・321号土坑はX層、369号集石はⅨ層で検出した。埋土の堆積状況等から、369号集石は320号土坑の南端を、321号土坑は320号土坑の西側を切ると判断した。遺構内遺物と判断したものは、320号土坑から土器2点であり、そのうち土器1点を図化した。



第259図 重複造構96・出土遺物

#### 重複造構88（第253図）

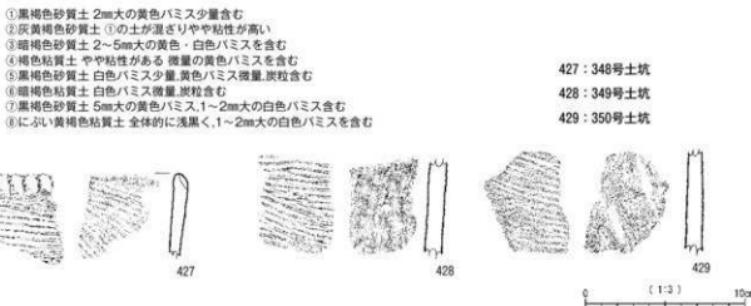
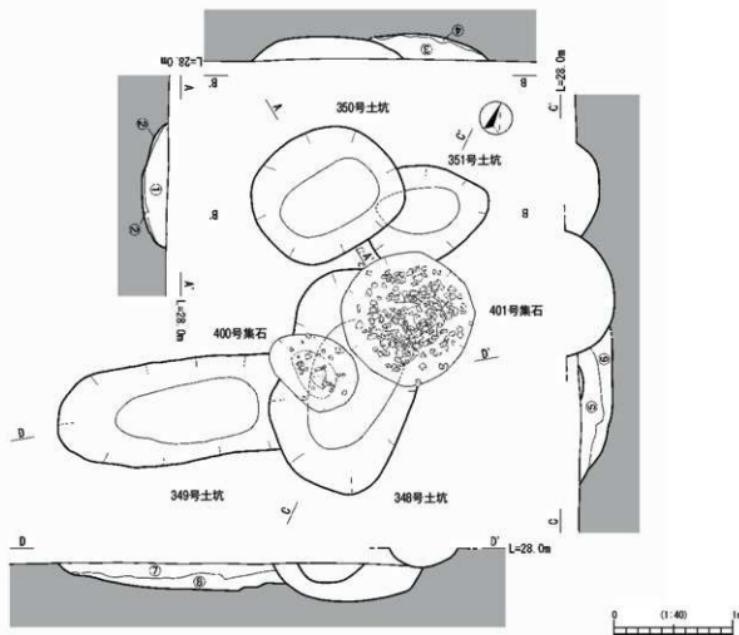
D-40区X層で検出した。324号土坑と371号集石とが重複している。埋土の堆積状況等から、371号集石が新しいと判断した。371号集石は集石とするには構成礫が少なく疑問も残るが、上部が掘削されたものとの発掘調査段階の所見に基づいて集石として報告している。造構内遺物と判断したものは、324号土坑から土器2点であり、全て陶化した。407は口縁部にキザミが2段施され、胴部は内外面共に貝殻条痕文が残る。

#### 重複造構89（第253図）

D-40・41区X層で検出した。322号土坑と431号集石とが重複しており、埋土の堆積状況等から、431号集石が322号土坑の北側を切ると判断した。最終的な床面は、431号集石の方が深い。造構内遺物は確認できなかった。

#### 重複造構90（第254図）

D-40区で検出され、326号土坑はX層、373号集石はVII b層で検出した。373号集石が326号土坑の南東端を切る。373号集石のほうが若干上位で検出された。造構内



第260図 重複構造97・出土遺物

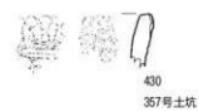
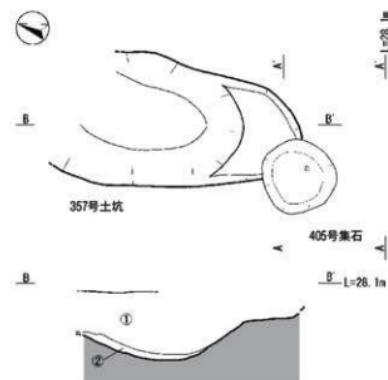
遺物は確認できなかった。

#### 重複構造91（第254図）

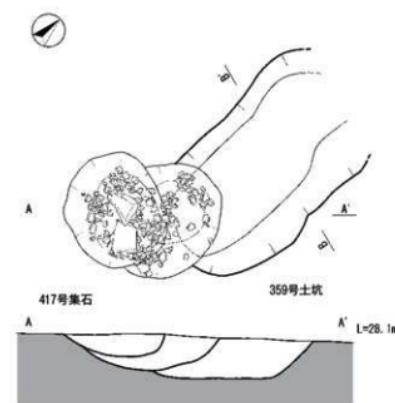
D-40区で検出した。327号土坑と380号集石とが重複

している。両者は検出面に差があり、380号集石がⅩ層中に、327号土坑がX層正面で検出された。すなわち、当初は380号集石が単独で確認され、その後の掘り下げによって327号土坑のプランが確認され、長軸側での切

重複遺構98



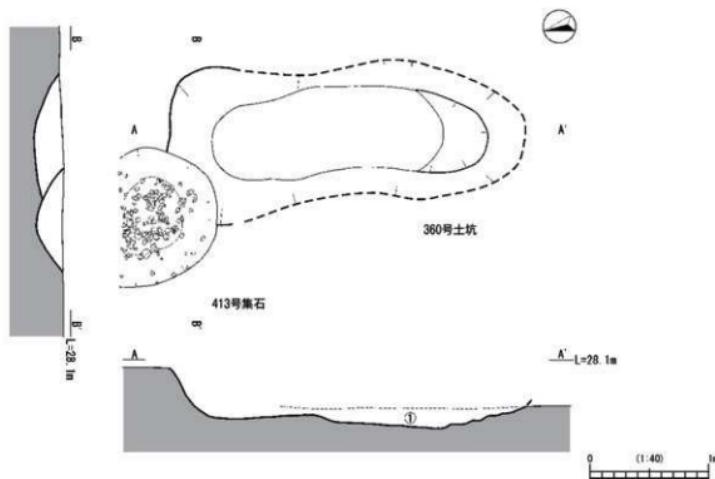
重複遺構99



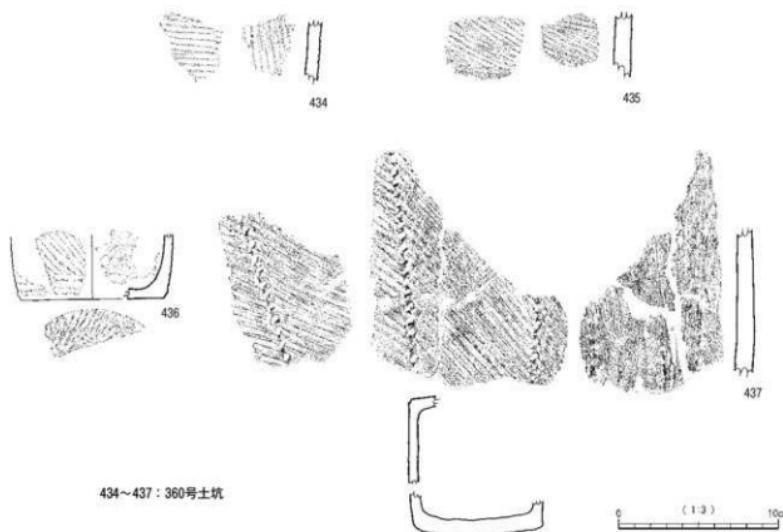
遺構 0 (1:40) 1m

遺物 0 (1:3) 10cm

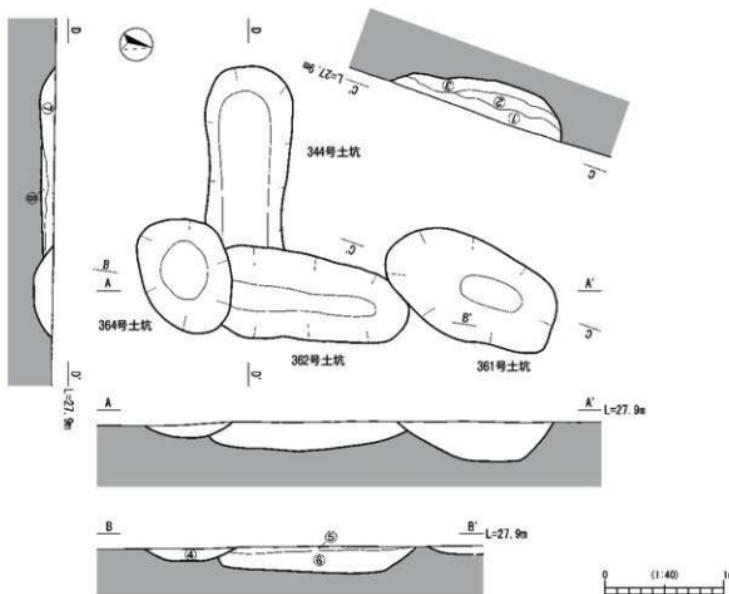
第261図 重複遺構98, 99・出土遺物



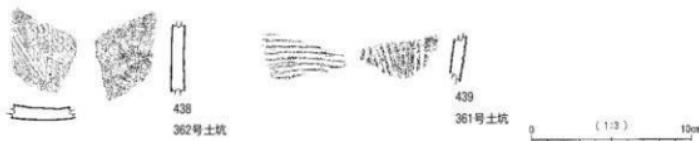
①暗褐色砂質土 2mm大の黄色バミスが点在し、全体的に白色バミスを含む



第262図 重複遺構100・出土遺物



- ①黒褐色土 緋まり強い 黏性やや有り 3~5cm大の暗赤褐色粘土ブロックを30%含む 黒褐色土中に2mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の橙色バミス少量, 5mm大の炭化物粒微量含む  
 ②暗赤褐色粘土 緋まり有り 黏性やや強い 5mm大の炭化物粒微量, 2mm大の赤色焼土粒微量含む 对層と色調異なり、立ち上がり明確  
 ③暗赤褐色粘土 緋まりやや強い 黏性やや強め 含有物量②と同じ  
 ④黒褐色砂質土 白色バミス少量、黄色バミス微量、炭粒微量  
 ⑤黒褐色土 緋まり強い 黏性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の橙色バミス中量含む  
 ⑥暗赤褐色粘土 緋まりやや強い 黏性強い 1mm大の白色バミス微量, 5mm大の炭化物粒微量含む  
 ⑦暗褐色砂質土 1~2mm大の白色バミス, 0.5~1cm大の黄色バミスを少量含む ⑧の暗褐色土が混ざる  
 ⑧暗褐色砂質土 深黒くやや粘性があるが、緋まりがない

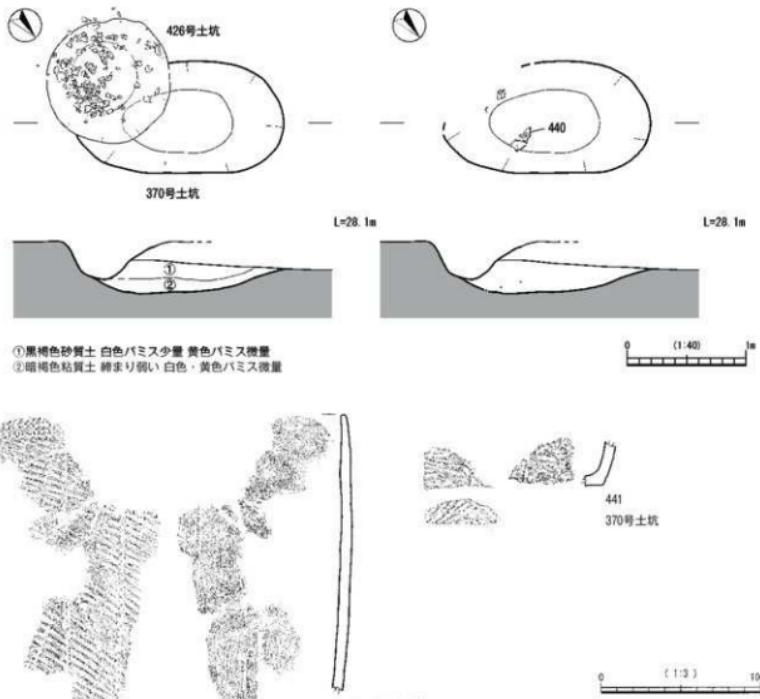


第263図 重複遺構101・出土遺物

り合いが判明した。両者のレベル差は10cm程度である。  
 327号土坑はやや大きめの楕円形プランで、床面は比較的平坦である。遺構内遺物と判断したものは327号土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。

#### 重複遺構92（第256図）

D-40区X層で検出した。25号堅穴建物跡、325号、328号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、325号土坑が最も新しいと判断した。325号・328号土坑はいずれも25号堅穴建物跡の北側角を切る。325号土坑は検出面から床面までが約64cmであり、この重複遺構の中で



第264図 重複構造102・出土遺物

は最も深い。遺構内遺物と判断したものは、25号竪穴建物跡から土器11点、328号土坑から土器3点であり、そのうち25号竪穴建物跡から土器5点、328号土坑から土器2点が図化された。

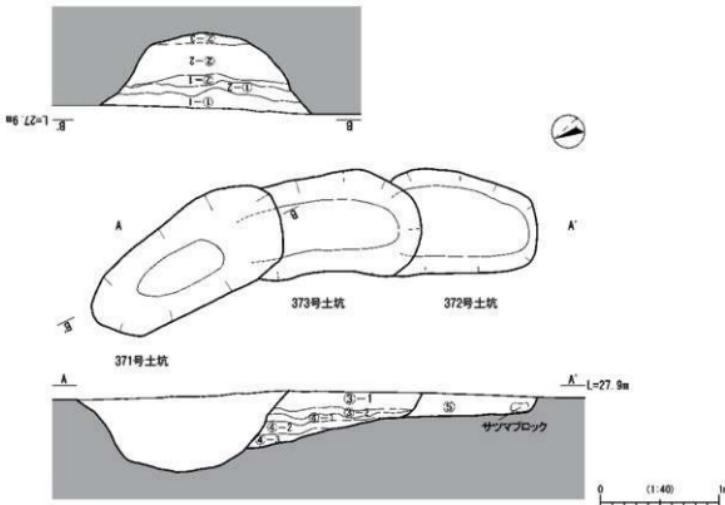
#### 重複構造93（第255図）

E-40区で検出され、333号土坑はX層、396号集石及び394号集石はⅤb層で検出した。333号土坑が396号集石と394号集石とに切られているが、集石同士の新旧関係は不明である。なお、333号土坑は発掘調査段階で重複の確認は出来ず、整理作業段階で判明したものである。このため、333号土坑を切り込む396号集石及び394号集石の掘り込みは、整理作業時点での合成図である。333号土坑は略円形ないし隅丸方形状のプランを呈し、中央部がやや不安定な床面から緩やかに壁面が立ち上がる。

遺構内遺物と判断したものは、333号土坑から土器15点であり、そのうち土器5点を図化した。410と411は口縁部が外反して肥厚する。文様は、口縁部に小波状の条痕を横位に施文しその下に斜位の貝殻刺突文を施す。412は410・411の同一個体と思われる。小波状の横位貝殻条痕の間に羽状貝殻刺突文を施し、これらが横縞状に連続する。413は太くやや間延びした横位の山形押型文が施されている。

#### 重複構造94（第257図）

E-40区X層で検出した。335号土坑と29号竪穴建物跡とが重複している。29号竪穴建物跡は隣接する28号竪穴建物跡と333号土坑に類似し、略円形で長軸が約160cm程度ある。竪穴となる可能性も考えられたが、小規模であるため土坑として取り扱った。床面は平坦で壁面は緩



- ①-1 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い 面a層類似 3mm大の黄色バミス中量、1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 緋まりやや強い 粘性やや弱い 面a層類似 3mm大の黄色バミス少量、1mm大の白色バミス微量 XI層中量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XII層類似
- ②-2 黒褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XII層類似
- ②-3 黄褐色粘質土 緋まりやや弱い 粘性やや強い XII層類似
- ③-1 黒褐色砂質土 2m大の黄色バミスを含む 緋まりが強い
- ③-2 黑褐色砂質土 ④の土が混ざるバミスは少ない
- ④-1 にれい 黄褐色砂質土 やや柔らかく 砂質ではあるが粘性は強い
- ④-2 黄褐色粘質土 ④-1に比べて柔らかく 粘性は高い
- ④-3 黄褐色粘質土 ④-2に比べて粘性が強い
- ⑤ 黒褐色砂質土 ⑥-1に比べてバミスが少ない



第265図 重複遺構103・出土遺物

やかに立ち上がる。なお、335号土坑が29号竪穴建物跡を切る。遺構内遺物は確認できなかった。

#### 重複遺構95（第258図）

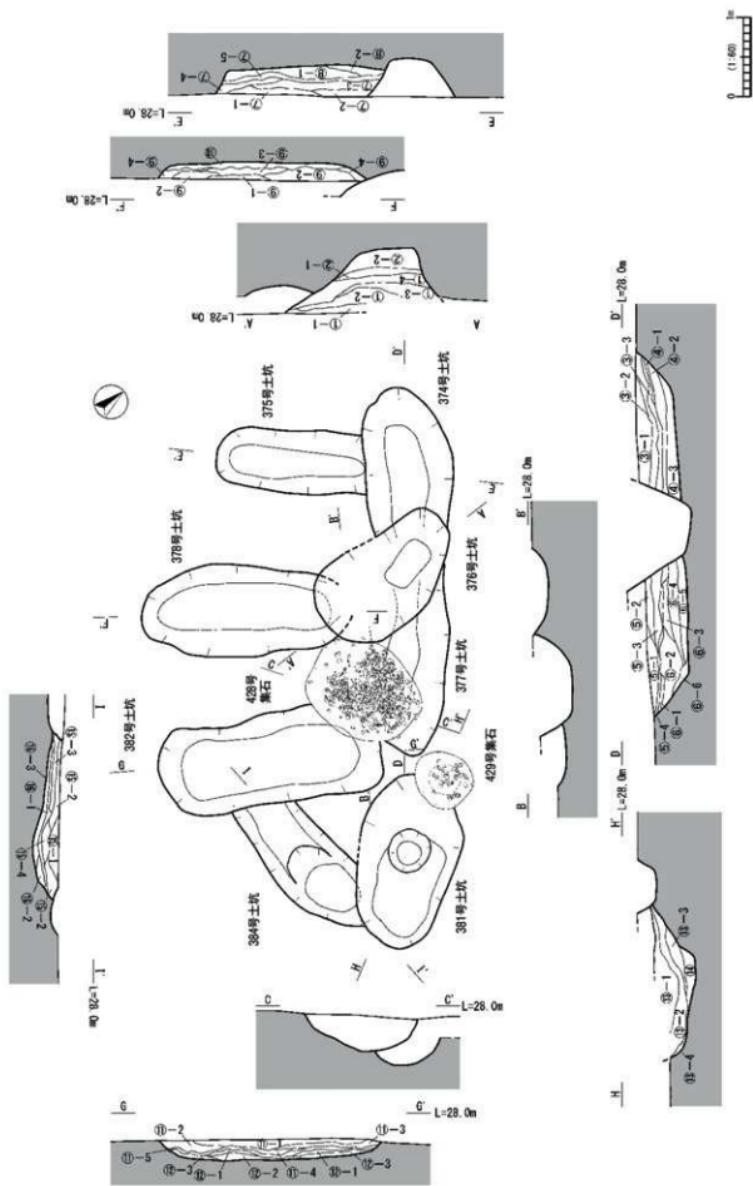
E-40・41区X層で検出した。土坑5基が東西に広がりながら重複しており、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から337号土坑が最も新しいと判断した。342号土坑は部分的にやや深く掘り下げられているが、その用途は不明である。遺構

内遺物と判断したものは、337号土坑から土器2点、342号土坑から土器1点、340号土坑から土器1点であり、全て図化した。423は口唇部上端にキザミが施されて小波状を呈する。口縁部外端に斜位の貝殻突文が施され、脇部は横位の貝殻条痕文である。

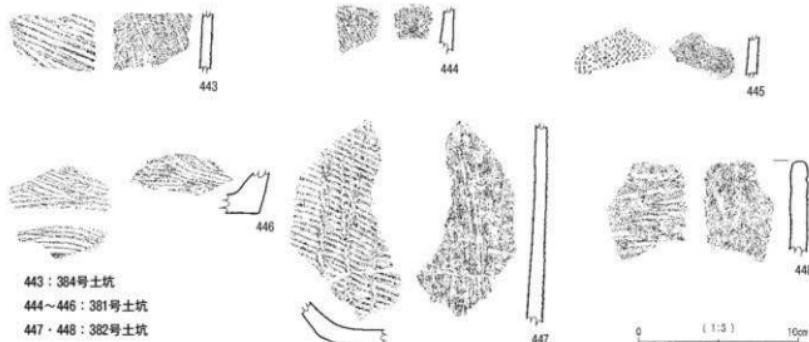
#### 重複遺構96（第259図）

E-40区X層で検出した。346号・347号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、347号土坑が346号土坑

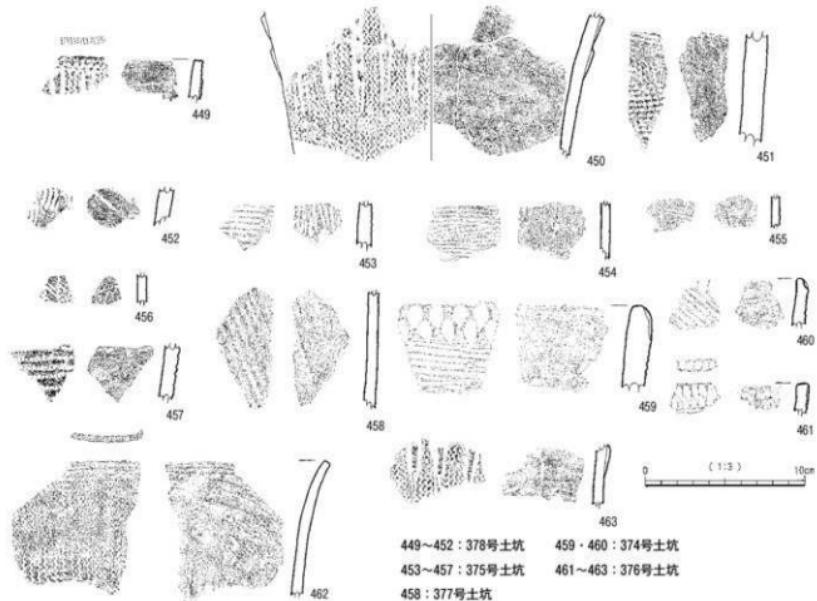
第266図 重複遺構104



- ①-1 黒褐色土 細粒より強い 粘性弱い 1mmの白色バース微量、2mmの橙色バニス微量含む  
 ①-2 黒褐色土 細粒より強い 粘性弱い 1mmの白色バース微量、2~4mmの大の橙色バニス中量含む  
 ①-3 黒褐色土 細粒より強い 粘性弱い 1mmの白色バニス多量、2~4mmの大の橙色バニス中量、2~4mmの大の炭化物少量含む  
 ①-4 黒褐色土 細粒より強い 粘性弱い 1mmの白色バニス少量、2mmの大の橙色バニス中量含む  
 ②-1 磷赤褐色粘土 細粒より強い 粘性弱い 1mmの白色バニス微量、5mm大黄褐色ロームブロック微量含む  
 ②-2 灰褐色粘土 細粒より強い 粘性弱い 1mmの白色バニス微量含む  
 ③-1 黒褐色砂質シルト 細粒よりやや強い 粘性やや弱い V6a層類似 3~5mmの大の黄色バニス多量、1mmの大の白色バニス多量含む  
 ③-2 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや強い 粘性やや弱い V6a層類似 3~5mmの大の黄色バニス中量、1mmの大の白色バニス少量、X層微量含む  
 ③-3 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや強い 粘性弱い 3mmの大の黄色バニス微量、X層微量含む  
 ④-1 赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや強い X層類似 黑褐色土(Ⅵa層) 微量含む  
 ④-2 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや強い X層類似 1mmの大の白色粒子少量、1mmの大の白色粒子微量含む  
 ④-3 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 1mmの大の白色粒子微量含む  
 ⑤-1 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや強い 粘性やや弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス多量、1mmの大の白色バニス多量含む  
 ⑤-2 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや強い 粘性やや弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス中量、1mmの大の白色バニス多量含む  
 ⑤-3 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや強い 粘性弱い 3mmの大の黄色バニス微量、1mmの大の白色バニス微量、X層微量含む  
 ⑤-4 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス微量、X層微量含む  
 ⑥-1 赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや強い X層類似 黑褐色土(Ⅵa層) 微量含む  
 ⑥-2 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや強い X層類似 1mmの大の白色粒子少量、1mmの大の白色粒子微量含む  
 ⑥-3 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや弱い V6a層類似 1mmの大の白色粒子少量、赤褐色土(Ⅵa層) 中量含む  
 ⑥-4 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 1mmの大の白色粒子少量含む  
 ⑥-5 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや強い X層類似 1mmの大の白色粒子少量含む  
 ⑥-6 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや強い X層類似  
 ⑦-1 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性やや弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス多量、1mmの大の白色バニス多量含む  
 ⑦-2 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス中量、1mmの大の白色バニス中量含む  
 ⑦-3 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性やや弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス中量、1mmの大の白色バニス中量、X層微量含む  
 ⑦-4 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性やや弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス少量、1mmの大の白色バニス中量、X層中量含む  
 ⑦-5 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス少量、1mmの大の白色粒子少量、赤褐色土(Ⅵa層) 少量含む  
 ⑧-1 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや強い X層類似 1~3mmの大の白色粒子少量、赤褐色土(Ⅵa層) 少量含む  
 ⑧-2 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性やや強い X層類似 1mmの大の白色粒子微量含む  
 ⑨-1 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性やや弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス少量、1mmの大の白色バニス微量含む  
 ⑨-2 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス少量、1mmの大の白色バニス多量含む  
 ⑨-3 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス少量、1mmの大の白色バニス微量含む  
 ⑩-1 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス微量、X層微量含む  
 ⑩-2 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス微量、X層微量含む  
 ⑪-1 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3~5mmの大の黄色バニス中量、5mmの大の橙色バニス微量、1mmの大の白色バニス微量含む  
 ⑪-2 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス多量、1mmの大の白色バニス多量含む  
 ⑪-3 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス微量含む  
 ⑫-1 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス微量、X層微量含む  
 ⑫-2 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス微量、X層微量含む  
 ⑫-3 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス微量含む  
 ⑬-1 黑褐色土 細粒より強い 粘性弱い 1~2mmの大の白色バニス微量、2~5mmの大の橙色バニス少量、5mmの大の炭化物少量含む  
 ⑬-2 黑褐色土 細粒より強い 粘性弱い 1~2mmの大の白色バニス少量、2~5mmの大の黄色・橙色バニス多量、0.5~2cmの大の炭化物多量含む  
 ⑭-1 黑褐色土 細粒より強い 粘性弱い 1mmの大の白色バニス微量、黄色・橙色バニスは一切含まず  
 ⑯-1 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い 廉化物粒が透溝に色強  
 ⑯-2 黑褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス少量、1mmの大の白色バニス中量含む  
 ⑯-3 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス少量、1mmの大の白色バニス少量含む  
 ⑯-4 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス微量、X層微量含む  
 ⑯-5 磷褐色砂質シルト 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 3mmの大の黄色バニス少量、1mmの大の白色バニス中量含む  
 ⑯-6 黑褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 1mmの大の白色粒子少量含む  
 ⑯-7 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 1mmの大の白色粒子少量含む  
 ⑯-8 磷赤褐色粘土質土 細粒よりやや弱い 粘性弱い V6a層類似 1mmの大の白色粒子微量含む



第267図 重複遺構104出土遺物①



第268図 重複構造104号土坑遺物②

の東壁を切ると判断した。347号土坑は埋土中及び床面付近から礫や土器が出土している。また、346号土坑は噴砂によって一部搅乱を受けている。遺構内遺物と判断したものは、347号土坑から土器7点、346号土坑から土器2点であり、そのうち347号土坑から土器1点、346号土坑から土器1点を図化した。

#### 重複構造97（第260図）

E・F-40区で検出され、401号集石はⅧb層、それ以外の遺構はX層で検出され、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。土坑4基と集石2基が重複しており、集石2基が主に348号土坑を切る。350号土坑は隅丸方形を呈し、その他の土坑はおよそ梢円形プランを呈する。348号土坑の埋土⑤・⑥の境目付近からは礫が出土している。遺構内遺物と判断したものは、349号土坑から土器1点、348号土坑から土器2点、350号土坑から土器2点であり、そのうち349号土坑から土器1点、348号土坑から土器1点、350号土坑から土器1点を図化した。

#### 重複構造98（第261図）

F-40・41区X層で検出した。357号土坑と405号集石とが重複している。405号集石が357号土坑の南端を切る。357号土坑は、梢円形プランで、南側に検出面から浅い掘り込みを有して北側が深くなる。この2段掘りについては、北側が調査区外へと延びているため全体の形状は判断できなかったが、調査区境付近で床面が浅く立ち上がるため、連穴土坑や落とし穴などとは異なると判断できる。遺構内遺物と判断したものは、357号土坑から土器3点であり、そのうち土器2点を図化した。

#### 重複構造99（第261図）

F-41区で検出され、359号土坑はIX層上面からX層にかけて、417号集石はⅧb層で検出した。発掘調査時は集石を先に確認し、これらを調査した後に359号土坑を確認した。359号土坑は調査区境へと東側の短軸が延びており全体形状は不明であるが、およそ梢円形プランを呈すると思われる。遺構内遺物と判断したものは、

359号土坑から土器2点であり、全て図化した。

#### 重複遺構100（第262図）

E・F-41区で検出され、360号土坑はX層、413号集石はⅤb層で検出した。ただし、360号土坑の北側はⅤb層で検出している。埋土の堆積状況等から413号集石が新しいと判断した。調査区境で南側部分が検出されたため、可能な限り拡張して全体形狀の把握に努めた。その結果、北側では検出面（Ⅴb層）から床面まで約40cmの深さがあることがわかったが、南側の大部分はX層上面での検出であったために、検出面から床面までが10cm程度と浅い。また、360号土坑の埋土中からは3~5cm大の凝灰岩破碎礫が出土している。遺構内遺物と判断したものは、360号土坑から土器6点であり、そのうち土器4点を図化した。437は、角筒形を呈する。斜位の貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を重ねる。この貝殻刺突文は脛部下半には及ばない。角部には短い貝殻刺突文が施される。

#### 重複遺構101（第263図）

E・F-40・41区X層で検出した。344号・361号・362号・364号土坑の4基の土坑が重複している。364号土坑は略円形プランであるが他の土坑は横円形プランを呈する。344号土坑が古く、これを362号土坑が切り、さらに、364号土坑と361号土坑が切る。361号土坑は北側へ床面が若干傾斜しているが、床面等には焼土や炭化物等が見られなかったため、土坑として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、361号土坑から土器1点、362号土坑から土器4点であり、そのうち361号土坑から土器1点、362号土坑から土器1点を図化した。

#### 重複遺構102（第264図）

E-41区で検出され、370号土坑はX層、426号集石はⅤa層で検出した。埋土の堆積状況等から、426号集石が370号土坑の南側を切ると判断した。370号土坑は横円形プランで上下2層の埋土を有する。壁面の立ち上がりは緩やかで、床面よりやや上位に土器片が出土している。遺構内遺物と判断したものは、370号土坑から土器16点であり、そのうち土器2点を図化した。440は口縁部に擬位の貝殻刺突文を施し、脛部は斜位の貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を重ねる。

#### 重複遺構103（第265図）

D-40・41区X層で検出した。371号~373号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、371号土坑が373号土坑を切り、373号土坑が372号土坑を切ると判断した。373号土坑の床面は北側へ大きく傾斜しており、連穴土坑の特徴を有するが、從穴部が想定される部分を371号

土坑に切られているために断定できず、焼土や炭化物等の集中も確認できなかった。372号土坑の南端には蘿摩火山灰が見られたが、出土位置や土坑の規模等からブリッジとは考えにくい。371号土坑は横円形プランで、検出面から床面までが60cm以上と深い。遺構内遺物と判断したものは、371号土坑から土器1点であり、図化した。

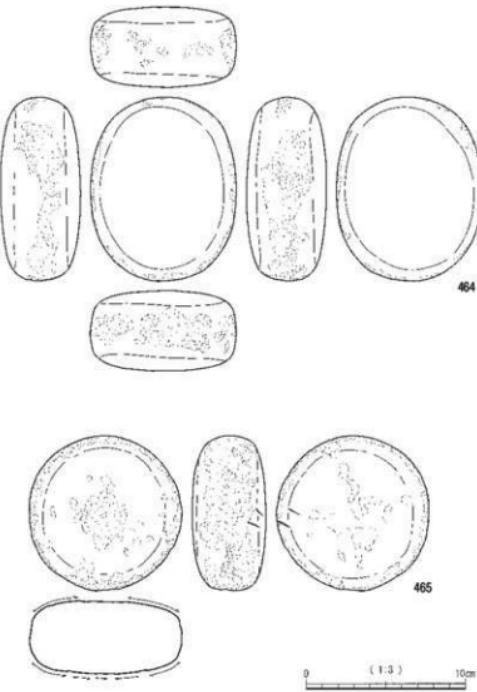
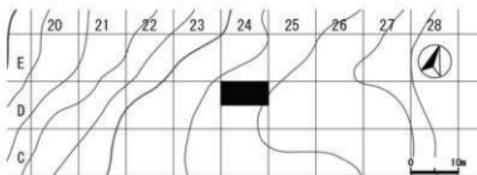
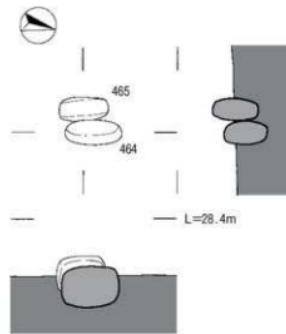
#### 重複遺構104（第266図）

D-40・41区で検出され、集石と376号・381号土坑はⅤb層、その他の土坑はX層で検出した。土坑8基と集石2基が重複しており、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から、集石2基が最も新しいと判断した。土坑は全て横円形プランで、381号土坑は部分的に深く掘るがその用途は不明である。また、376号土坑は埋土上部から、381号土坑は埋土中から礫が出土している。377号土坑と374号土坑は、調査当時は同一遺構の可能性も考えられたが、埋土の堆積状況が異なること、中央を376号土坑に切られて新旧關係の検討が困難であること等から、それぞれ別の土坑として取り扱った。383号土坑は埋土中から礫が多数出土し、集石の土坑である可能性も考えられたが、埋土堆積状況等から土坑であると判断した。遺構内遺物と判断したものは、376号土坑から土器5点、381号土坑から土器4点、378号土坑から土器7点、382号土坑から土器5点と石器1点、377号土坑から土器3点、384号土坑から土器2点、374号土坑から土器3点、375号土坑から土器5点であり、そのうち376号土坑から土器3点、381号土坑から土器3点、378号土坑から土器4点、382号土坑から土器2点、377号土坑から土器1点、384号土坑から土器1点、374号土坑から土器2点、375号土坑から土器5点を図化した。450は逆三角形状のクサビが2段貼付され、脣部は密接した貝殻刺突文が施される。327の口脣部は平坦でキザミが施される。口縁部は貝殻刺突文が横位に3条めぐる。脣部は、ナデ調整が行われた後に密接した縦位の貝殻刺突文が施される。

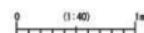
## 7 その他の遺構

### ①集積

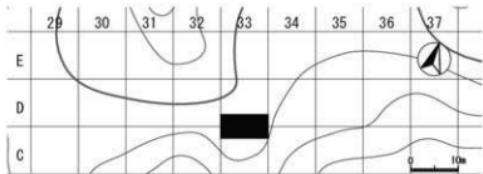
E - 32・33区Ⅷb層で検出された。2点の磨石が立位で検出されたが、掘り込み等を確認することは出来なかった。類別できる土器等を含まないことから、詳細な時期については不明である。464は、やや六面体磨石に近い。465は、円形を呈する。側面部と表面中央に敲打痕が残る。



①暗褐色土 締まりやや弱い粘性やや強いⅦ層  
と刃削の混土層、中心部に刃削が集中する13  
号土机の4に比べてⅩ層が多くなる5mm大  
の黄色バミスを少量、1mm大の白色バミスを多  
量に含む



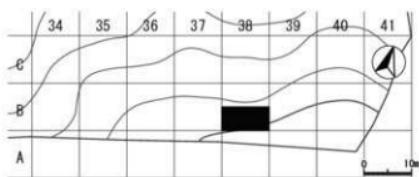
第269図 集積、1号ビット、集積出土遺物



L=28.1m



- ① 黒色砂質土 白色バミス多量、X層ブロック多量、炭化物粒少量含む
- ② 紅赤褐色粘質土 黒色砂質土粒少量含む



50号ビット



L=27.6m



- ①-1 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り 黄褐色バミス少量、白色バミスを微量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 緋まり有り 粘性やや有り X層少量、黄褐色バミス・白色バミスを微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 緋まりやや有り 粘性有り 電離主体に白色バミスと炭化物を微量含む
- ②-2 灰黄褐色粘質土 緋まりや有り 粘性有り？ 電離主体に白色バミスと炭化物を微量含む

0 (1:40) 1#

第270図 41号、50号ビット

## ②ビット

### 1号ビット（第269図）

D-24区X層上面で検出した。長軸56cm、短軸44cmを測り。南壁が底面から垂直に立ち上がる。13号土坑に隣接し、約1.2m南東には8号落とし穴が検出されている。炭化物・焼土・遺物の出土は確認されなかった。

### 41号ビット（第270図）

C-D-33区X層で検出した。43号透穴土坑の西側に位置する。長軸40cm、短軸30cmを測る。炭化物・焼土・遺物の出土は確認されなかった。

### 50号ビット（第270図）

B-38区X層で検出した。西側に連穴土坑、南側に集石が多く見られる。長軸41cm、短軸38cmを測る。炭化物・焼土・遺物の出土は確認されなかった。

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（48）  
東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

## 春日堀遺跡2（縄文時代早期編） 第2分冊

発行年月 2022年3月

編集・発行 鹿児島県教育委員会  
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター  
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号  
TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576

印 刷 株式会社 トライ社  
〒892-0834 鹿児島市南林寺町12-6  
TEL 099-226-0815 FAX 099-225-7933

